

福祉センター別館建設工事（建築主体）

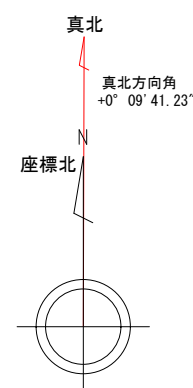
(意匠図)

(構造図)

図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称
A-01	建築工事特記仕様書7-1	A-19	Y4X2断面詳細図	A-37	ガイト`ステップ`詳細図	S-01	構造特記仕様書.1	S-19	梁伏図
A-02	建築工事特記仕様書7-2	A-20	接続部X方向断面詳細図	A-38	ﾌﾙﾐ底詳細図	S-02	構造特記仕様書.2	S-20	部材リスト.1
A-03	建築工事特記仕様書7-3	A-21	接続部Y方向断面詳細図	A-39	部分詳細図.1	S-03	構造特記仕様書.3	S-21	部材リスト.2
A-04	建築工事特記仕様書7-4	A-22	平面詳細図	A-40	部分詳細図.2	S-04	構造特記仕様書.4	S-22	Y1.4通り軸組図
A-05	建築工事特記仕様書7-5	A-23	金属製建具表	A-41	部分詳細図.3	S-05	構造特記仕様書.5	S-23	Y2.3,X1通り軸組図
A-06	建築工事特記仕様書7-6	A-24	木製・LSD・TB：SW建具表	A-42	駐輪場詳細図	S-06	構造特記仕様書.6	S-24	X2.3通り軸組図
A-07	建築工事特記仕様書7-7	A-25	TB・LSD詳細図	A-43	外構計画図	S-07	鉄骨工作標準図	S-25	Y1.4通り鉄骨詳細図
A-08	建物概要・内外仕上表	A-26	SW詳細図	A-44	外構詳細図	S-08	ﾊｲﾍﾞｰｽ・材仕様書.1	S-26	Y2.3,X1通り鉄骨詳細図
A-09	配置図	A-27	天井伏図	A-45	雨水排水計画図	S-09	ﾊｲﾍﾞｰｽ・材仕様書.2	S-27	ﾌﾟﾛｰﾌ鉄骨詳細図
A-10	敷地面積求積図	A-28	床伏図	A-46	仮設計画図	S-10	maxﾘﾝﾌﾞﾚﾝ仕様書.1		
A-11	建物面積表	A-29	展開図.1	A-47	現況図	S-11	maxﾘﾝﾌﾞﾚﾝ仕様書.2		
A-12	各室面積表・法令ﾁｪｯｸ表	A-30	展開図.2			S-12	QLﾃﾞｯｷ仕様書		
A-13	1階平面図	A-31	展開図.3			S-13	ﾃﾞﾝｺﾑ仕様書		
A-14	屋根伏図・既設2階平面図	A-32	接続部・EXP.J詳細図			S-14	ﾎｰﾘﾝｸﾞ柱状図		
A-15	既設3階・PH,地階平面図	A-33	屋根・耐火構造詳細図			S-15	改良杭伏図		
A-16	立面図	A-34	外壁・外部建具周り詳細図			S-16	基礎伏図		
A-17	梁間方向断面詳細図	A-35	木建・額縁等詳細図			S-17	土間伏図		
A-18	Y1X3断面詳細図	A-36	木格子・ﾌﾟﾛｰﾌ手摺等詳細図			S-18	基礎詳細図		



案内図



付近見取図

特記事項	工事名	図 名	縮 尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	表紙・図面リスト 付近見取図 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小		A-00

建築工事特記仕様書

1. 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」（以下「標準仕様書」という）及び「建築工事監理指針 令和4年版」による。
2. 特記仕様書の適用方法
- （1）項目の番号に○印の付いたものを適用する。
- （2）特記事項に○印の付いたものを適用する。
- （3）項目に記載の表示番号は、標準仕様書の当該項目を示す。
- 特記事項について、（ ）は標準仕様書の記載内容を示す。

章	項 目	特 記 事 項
共通事項	1 ① 適用基準等	建築工事標準詳細図（令和４年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（以下「標準詳細図」という。） 分類番号（○－○－○）は図示する。
	2 ② 一般事項 (1.1.1)	設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の（ア）から（オ）までの順番のとおりとし、これにより難しい場合は、標準仕様書1.1.8（疑義に対する協議等）による。 （ア）質問回答書（（イ）から（オ）までに対するもの） （イ）現場説明書 （ウ）特記仕様書 （エ）図面 （オ）標準仕様書
	3 ③ 着工時の提出図書	契約書に定められたもののほか、次のものを監督職員の指示に従い着工時に提出すること。 工事用製本図面(工事用A2版)（ ）部（監督職員 部、施設管理者 部、事業課 部、その他 部） （縮小版A3版）（ 5 ）部（監督職員 部、施設管理者 部、事業課 部、その他 部） （設計事務所により押印されたものを製本すること）
	4 ④ 施工計画書・ 総合図・施工図 (1.2.2～1.2.3)	施工計画書について、工事着手に先立ち総合施工計画書を作成し、監督職員に提出すること。 工程別施工計画書については、作成が必要な工種をあらかじめ監督職員と協議し、作成し提出すること。 総合図について、建築及び別契約の関連工事と協議、調整を行い、統合した図面を作成し、監督職員に提出して承諾を受ける。なお、作成の主導は本工事で行う。 施工図について、作成が必要な工種をあらかじめ監督職員と協議する。作成した図面は監督職員の承諾を受ける。
	5 ⑤ 工期の変更に係る 資料の提出 (1.1.10)	契約書に基づく工期の変更についての発注者との協議に当たり、協議の対象となる事項について、必要とする変更日数の算定根拠、変更工程表その他の協議に必要な資料を、あらかじめ監督職員に提出する。
	6 ⑥ 埋蔵文化財その他の 物件 (1.1.12)	重機による掘削調査等について協力すること。
	7 ⑦ 電気保安技術者 (1.3.3)	配置する
	8 ⑧ 施工条件 (1.3.5)	施工日時 ・ 指定なし（「行政機関の休日に関する法律」に定める行政機関の休日は施工しない。） ・ 指定有り（ ） 工事用車両の駐車場 ④ 指定有り（図示による ） 資機材置場 ④ 指定有り（図示による ）
	9 ⑨ 安全衛生管理体制 (1.3.7)	「労働安全衛生法第30条第2項」に基づき、同条第1項に規定する安全措置を講ずべき者として指名する。
	10 ⑩ 発生材の処理等 (1.3.11)	・ 発注者（施設管理者）に引渡しを要する品目（ ） 引渡し場所（ ）、引渡し時期（ ） ④ 特別管理型産業廃棄物及び処理方法 ・ PCB（施設管理者へ引き渡し） ④ 廃石綿（ ） ・ PH12.5以上の廃アルカリ 処理方法（ 埋立処分 ） ④ 再利用、再生資源化を図るもの（「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」における特定建設資材以外のもの） ④ がれき類 ・ 汚泥 ④ 木くず ④ 廃プラスチック類 ・ ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず ・ 金属くず ・ 発生材の品目及び処理方法（ ）
	11 ⑪ 環境への配慮 (1.4.1)	「山口県グリーン購入の推進方針」及び「グリーン購入ガイド」（以下「グリーン購入」という。）に基づき、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。 使用する材料等は、設計図書で定める性能等を有するとともに、次のことを満たすものとする。 １）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリヤ樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか放散が極めて少ないもの。 ２）保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びステレンを放散させないか放散が極めて少ないもの。

1 2	建築材料等 (1. 4. 1~6)
-----	----------------------

13 技能士
(1.5.2)

14	施工の検査等 (1.5.5)
----	-------------------

15 化学物質の濃度測定
(1.5.9)

16 技術検査
(1.6.2)

17 工事写真

18 完成写真

19 完成時の提出図書等
(1. 7. 1~3)
(23. 3. 4)

- 3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか放散が極めて少ないもの。
 - 4) 塗料は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか放散が極めて少ないもの。
 - 5) 1)、3)及び4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか放散が極めて少ないもの。
- 1) 使用する材料の選定は、設計図書に指定されたもの、JIS、JAS、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」（以下「評価名簿」という）による。
- 2) 製材等、フローリング又は再生木質ボード、コンクリートに使用するせき板の材料は、グリーン購入法の基本方針の基準に従い、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁作成）に準拠した証明書等を、監督職員に提出する。
- 3) 「山口県ふるさと産業振興条例」の趣旨を踏まえ、施工する事に要する資材の調達に当たり、指定主要資材については、県内産資材（県内工場等で製造した資材）を購入するに当たり、（「入札条件及び指示事項」による）

技能士の適用は下記による。

工事種目	適用種別	工事種目	適用種別
仮設	・ とび	屋根及びとい	・ 建築板金（内外装板金作業）
鉄筋	・ 鉄筋施工	屋根及びとい	・ かわらぶき
コンクリート	・ 型枠施工 ・ コンクリート圧送施工	金属	・ 内装仕上り施工（鋼製下地工事作業）
鉄骨	・ とび	左官	・ 左官
防水	・ アスファルト防水 ・ ウレタンゴム系塗膜防水 ・ 合成ゴム系シート防水 ・ 塩化ビニル系シート防水 ・ シーリング 防水	建具	・ サッシ施工 ・ ガラス施工
石	・ 石材施工	カーテンウォール	・ カーテンウォール施工
タイル	・ タイル張り	塗装	・ 塗装（建築塗装作業）
木	・ 建築大工	内装	・ 内装仕上り施工の各仕上り工事作業 ・ プラスチック系床 ・ ボード 仕上げ ・ 表装
		植栽	・ 造園

本施工を行うもの（ ）

① 測定対象物の揮発性有機化合物の室内濃度を測定する。 （ 提出部数 1 部 ）
 ② 測定対象室及び測定箇所数
 ○ 講堂・小 （ 2 箇所 ） ○ 多目的室 （ 1 箇所 ） 給湯室 （ 1 箇所 ）
 ○ 男子トイレ （ 1 箇所 ） ○ 多機能トイレ （ 1 箇所 ）

測定方法及び測定対象化学物質

- ・ 予備濃度測定
測定方法（ ・ 検知管法 ・ ）
測定対象化学物質 ホルムアルデヒド・トルエン

(○) 濃度測定（引渡し前）

測定方法（ ）

測定に要する資機材は受注者が準備する。

学校施設の場合 ・ 厚生労働省の標準測定法 ・

学校施設以外の場合 ○ バッシブ型採取機器 ・

測定対象化学物質 ○ ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレノール、n-ヘキサン、n-オクタン、n-デカン、n-ドデカン、n-テトラリン、n-ヘキサリン、用途が学校の場合は、パラジクロロベンゼンを加えた6物質を測定

術検査に必要な資機材等は以下による。

バケツ、懐中電灯、木槌、鏡、脚立、ドライパー、チョーク、下げ張り、レベル、スコップ、ステープ (50m程度)、散水ホース、ガラス厚を測定する器具、その他監督職員が指示する資機材

記のものを監督職員に提出する。

分類・規格		撮影時期	撮影場所	部数	備考
カラー	サービス版(Ｌ版)	着工前、施工中、完成	適宜	1部	電子データ共
電子データの提出方法については「工事完成図書の電子納品要領」及び「電子納品に関する手引き【営繕系工事編】」による。					
工事写真は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック」、「営繕工事写真撮影要領（最新版）」及び「デジタル工事写真の小黑板情報電子化基準」による。					
下記のものを監督職員に提出する					
分類・規格等		撮影箇所	部数		
○	電子データ（ＣＤ－Ｒ）	箇所	1部		

写真の撮影箇所を記入すること。（電子データの写真のファイル名も同様）

電子データの提出方法については「電子納品に関する手続き【営繕系工事編】」による。

作成方法は「山口県営繕工事完成図作成要領」、「工事完成図書」の電子納品要領」による。

に記載されていない事項は、監督職員の指示による。

20	著作権
21	設備工事との取り扱い

完成図は、以下による。

表 1.7. 1

種類	記入内容
○ 配置図及び案内図	敷地及び建築物等の面積表、屋外排水系統図、外構、植栽
○ 各階平面図	室名、室面積、耐震壁
○ 各立面図	外壁仕上げ
○ 断面図	階高、天井高等を表示し、2面以上作成
○ 仕上表	屋外、屋内の仕上げ、色番号、材料名、メーカー名等
○ 施工図	
・ 施工計画書	

完成図の作成、提出

黒表紙付き A 4 版（年度、工事名、工期、施工業者名を金文字で記入）に下記図面を製本したもの。

○ 完成図（確認済証、検査済証、施工体系図、保証書（以下参照）、VOC測定結果（合格）の写し共）

作成部数；学校施設の場合 1 部、学校施設以外の場合 2 部

製本図面 A 2 版（年度、工事名、工期、施工業者名を記入）に下記図面を製本したもの。

○ 完成図 作成部数（ 2 ）部

保全に関する資料（取扱説明書、性能試験成績書、その他監督職員が指示するもの）

提出部数 ・ 1 部 ○ 2 部 ・ （ ） 部 ・ 不要

保証書 ○ 防水 保証期間（ ・ 工事引渡日の翌日から 10 年 ・ 年）

・ 住宅建設瑕疵担保責任保険契約を証する書類

保証期間（ ・ 工事引渡日から 10 年 ・ 年）

・ 新植樹木の枯保証

保証期間（引渡日から 1 年）

提出した施工図及び施工計画書の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図及び総合図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

設備工事との取り扱い	建築	電気	機械
鉄筋コンクリート壁、床及び梁等における設備（埋込盤、ブルボックス、ダクト、配管等）の仮枠、箱入れ及び貫通スリーブ	開口部補強	○	・
	電気のスリーブ等	・	○
	機械のスリーブ等	・	・
埋込型設備機器取付箇所の床、壁、天井ボード類の切込み及び地下補強	切込み及び補強	○	・
	電気墨出し	・	○
	機械墨出し	・	・
電気室、自家発電機室などの基礎及びピット（ふた含）	基礎及びピット	○	・
	電気墨出し	・	○
天井点検口		○	・
軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		・	○
機器類の吊りボルト用インサート	電気設備	・	○
	機械設備	・	・
機器類の取付け用アンカーボルト	電気設備	・	○
	機械設備	・	・
コンクリート基礎（外灯設備）		・	○
コンクリート基礎（機械設備機器類）	屋上設置	○	・
	屋内設置	・	・
	屋外設置	・	・
オイルサービスタンク防油堤		○	・
自動開閉装置を付ける防火戸の切込み、補強及びドアフェッチャー、アラーム		○	・
OAフロア・フリーアクセスフロアパネルの切込み及び補強		○	・
OAフロア・フリーアクセスフロア仕上材の切込み及び補強		・	○
外壁取付けガラリ		○	・
換気扇枠、換気扇枠用アルミパネル開口（ストッパー取付を含む）		○	・
建築工事に含む設備機器付属の制御盤及び操作盤の配管・配線	1 次側	・	○
	2 次側（盤含む）	○	・
機械設備工事に含む設備機器付属の制御盤及び操作盤の配管・配線	1 次側	・	○
	2 次側（盤含む）	○	・
機械設備制御盤から別途盤類への渡り配管・配線の接続		・	○
エアコン、空調機集中管理リモコン等の遠方操作スイッチの配管		・	○
エアコン、空調機集中管理リモコン等の遠方操作スイッチの配線		・	○
エアコン、空調機集中管理リモコン等の本体及び本体取付		・	○
エアコンの室内、室外ユニット間の渡り配線（アース共）		・	○
換気機器用スイッチ本体（全熱交換ユニット用、24時間換気用を除く）		・	○
換気機器用のスイッチの配管・配線及びスイッチ取付		・	○
機械設備工事に含む遮断弁装置の操作器及び感知器の配管・配線		・	○
機械設備工事に含む電極の配管・配線		・	・
擬音装置の埋込ボックス		・	○
電気開閉式大便器用洗浄弁の一次側電源の配管、配線		・	○
電気開閉式大便器用洗浄弁とスイッチ側の配管		・	○
電気開閉式大便器用洗浄弁とスイッチ側の配線		・	○
ガス給湯器のアース配線		・	○
屋内、屋外雨水管		○	・

特記事項	工事名	図 名	縮 尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二  武居設計事務所	建築工事特記仕様書7-1 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小		A-01

[illegible]

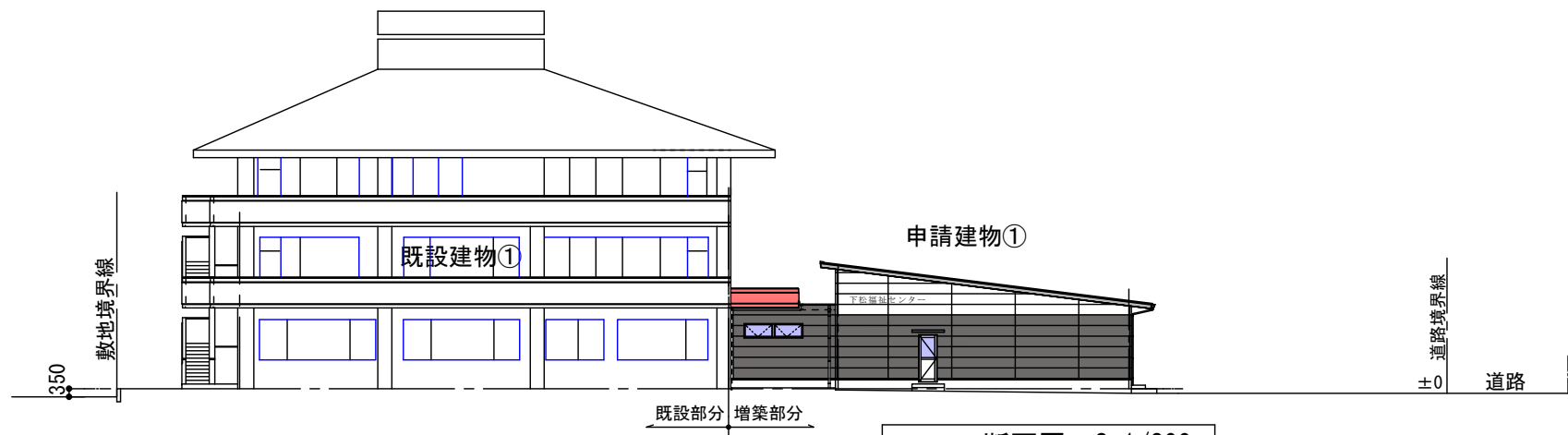
R5.04.01											
鉄骨工事	14	無筋コンクリート (6.14.1)	コンクリートの種類	設計基準強度 (Fc) (N/mm2)	スランブ (cm)	適用箇所	4	押出成形セメント板 (8.5.2～5)	屋根及び床パネル構成 種別 F種 パネル幅の最小限度 300mm () mm (300mm未満の場合) 材料 パネル材料はJIS A 5441による 表8.4.4 表8.5.1～2		
	15	コンクリート単位 水量測定	普通コンクリート	18	15 18	・街きよ、縁石、側溝類のコンクリート及びこれらの基礎コンクリート ・間知石積みの基礎及び裏込めコンクリート ・捨てコンクリート ・機械室等で用いる配管埋設用コンクリート ・防水層の保護コンクリート			種類 使用箇所 表面形状 厚さ(mm) ・外壁 フラットパネル 50 60 デザインパネル 50 60 ・間仕切壁 フラットパネル 50 60 デザインパネル 50 60		
	7	1鉄骨製作工場 (7.1.3～4) 2施工管理技術者 (1.3.2)(7.1.4) 3鋼材 (7.2.1)	「レディーミクストコンクリートの品質確保について」(平成15年11月10日付け国営建第95号)及び「「レディーミクストコンクリートの品質確保について」の運用について」(平成15年11月10日付け国営技第71号)に基づき実施する。 なお、測定方法は「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」による。 測定の対象は、延床面積1,500㎡以上の新築工事とする。						製造所:評価名簿による 外壁パネル工法 種別 A種 B種 標準仕様書8.5.3(3)以外の目地及び隙間の処理 製造所の仕様による パネル幅の最小限度 300mm () mm (300mm未満の場合) パネル相互の目地幅 長辺 mm(10mm以上) 短辺 mm(15mm以上) 出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅 15mm(シーリング材を充填) 間仕切壁パネル工法 種別 B種 C種 標準仕様書8.5.3(3)以外の目地及び隙間の処理 製造所の仕様による パネル幅の最小限度 300mm () mm (300mm未満の場合) パネル相互の目地幅 長辺 mm(10mm以上) 短辺 mm(15mm以上) 出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅 15mm(シーリング材を充填) 溝掘り及び開口部の処置 パネル欠き込み 行う パネルの開口の限度 () 行わない		
	4	高力ボルト (7.2.2) (7.3.2)	主な鋼材の品質、種類の記号等は次による。材質、形状及び寸法は図示による。表7.2.1						防水層の地下 含水率8%以下 屋根保護防水断熱工法の断熱材 厚さ 25mm 50mm 屋根露出防水断熱工法の断熱材 厚さ 25mm 50mm 保護層等の材料 成形伸縮目地材(製造所:評価名簿による) 防水層の種類 表9.2.1 表9.2.3～9		
	5	普通ボルト (7.2.3)(7.3.2) (7.3.8)	ねじの呼び 構造図による 緑端距離、ボルト間隔、ゲージ等 構造図による ボルト及びナットの材料等 表7.2.3による ねじの呼び 構造図による 緑端距離、ボルト間隔、ゲージ等 構造図による 母屋又は胴縁の取付に使用するボルトの孔径 ねじの呼び径+1.0mm 構造図による 構造用アンカーボルト(JIS B 1220) ABR400(C3) ABR490 SS400(間柱) 建方用アンカーボルト(JIS G 3101) SS400 公差域クラス及び仕上げの程度 表7.2.3による 緑端距離、ボルト間隔、ゲージ等 構造図による 表7.2.4による 種類、ねじの呼び等 構造図による						工法 防水層の種類 施工箇所 備考 屋根保護防水 ・密着工法 A-1 A-2 A-3 ・密着断熱工法 AI-1 AI-2 AI-3 ・絶縁工法 B-1 B-2 ・絶縁断熱工法 BI-1 BI-2 仕上塗料 ・絶縁断熱工法 DI-1 DI-2 種類 ・密着工法 E-1 E-2 保護層 あり なし		
	7	溶接材料(7.2.5)	材質、形状及び寸法 構造図による						脱気装置 脱気装置の種類は主材料製造所の仕様による 脱気装置の数量・位置は図示による 保護層等の施工 平場の保護コンクリート 厚さ () 立上り部の保護、屋上排水溝の設置は、図示による 屋根露出防水断熱工法の断熱材 厚さ 25mm 50mm 防水層の種類 表9.3.1～3		
	8	ターンバックル (7.2.6)	呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 D16 D19 D22						工法 防水層の種類 施工箇所 備考 屋根露出防水 ・密着工法 AS-T1 AS-T2 ・絶縁工法 AS-T3 AS-T4 AS-J1 ・絶縁断熱工法 ASI-T1 ASI-J1 種類		
	9	床構造用の デッキプレート (7.2.7)	材料 1モルタル 2無収縮モルタル(製造所:評価名簿による) 表7.2.5 工法の種別 A種 B種 表7.10.2 厚さ ()						脱気装置 脱気装置の種類は主材料製造所の仕様による 脱気装置の数量・位置は図示による 屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿層 設ける(主材料製造所の仕様による) 設けない		
	10	スタッド (7.2.8)	12材料試験等 (7.2.10) 13仮組 (7.3.10) 14摩擦面の性能及び処理 (7.4.2) 15溶接の準備(7.6.4) 16溶接施工 (7.6.7)								
	特記事項								工事名 福祉センター別館建設工事(建築主体)	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 建築工事特記仕様書7-3 縮尺 作成日 図面番号 A-03

特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図 名 建築工事特記仕様書7-4	縮 尺	作成日	図面番号 A-04
				A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小		

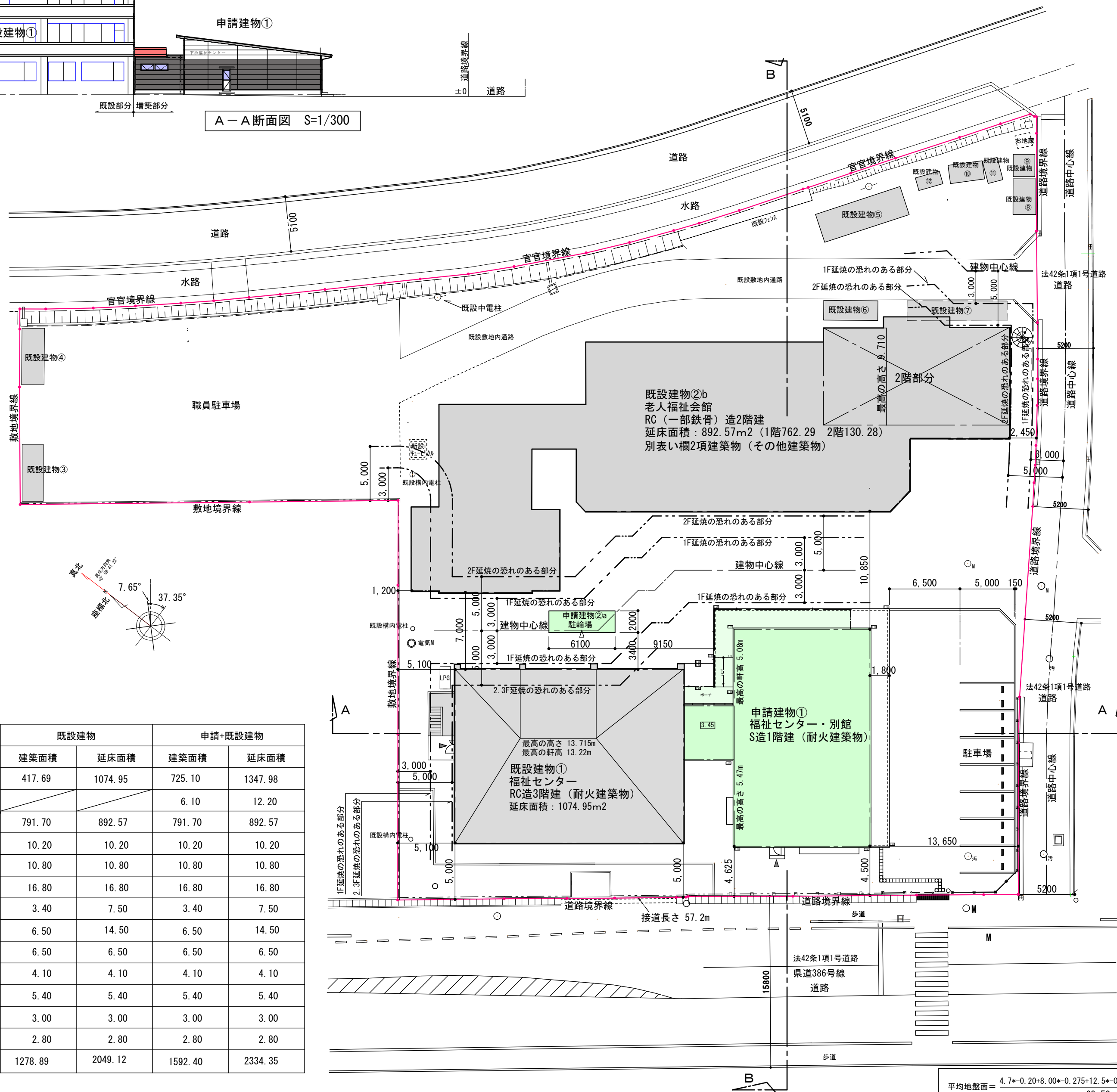
R5.04.01																		
左官工事	15	1	モルタル塗り (15.3.2.5)	材料 ・ 吸水調整材(製造所：評価名簿による) 表15.3.2 ・ 防水剤(製造所：評価名簿による) ・ 既製目地材の適用及び形状は図示による 工法 床の目地 ・ 設ける 目地割り ・ 2㎡程度、最大目地間隔3m程度 ・ 3.6m程度の割付け間隔 目地の種類 ・ 押し目地 ・ 設けない ・ 薄付け仕上塗材 表15.6.1	3	鋼製軽量建具 (16.5.2～4)	図示による	材料 ○ 図示による 形状及び仕上げ フラッシュ戸 表16.7.6 空気穴を2箇所以上に設けること 表面板の厚さ 普通合板 ・ 2.5mm以上 ・ 天然木化粧合板 ・ 3.2mm以上 ・ 特殊加工化粧合板 ・ 2.4mm以上 かまち戸、ふすま、戸ぶすま、紙張り障子の見込み寸法 図示による 工法 引き戸の召し合せかまち(・いんろう付き ・) 取合い ・ 標準詳細図4- - による ・ 図示による 材質、形状及び寸法 ○ 図示による 評価名簿によるもの シリンダー箱錠、シリンダー本締り錠 ドアクローザー (・ バラレル型 ・) ヒンジクローザー (・ 丁番形 ・ 持出し吊り込み型 ・ 中心吊り込み型 ・) フロアヒンジ (・ 中心吊り込み(両自由) ・) ○ マスターキー ○ 有(3)組 ・ 無 形式及び機構 種類 図示による 安全装置の設置箇所 ・ 図示による 防火又は、防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付とし、連動制御盤及び煙感知器は別途とする。 耐風圧強度(管理用シャッター、外壁用防火シャッター) 図示による 開閉機能による種類 ・ 上部電動式(手動併用) ・ 上部手動式 表16.11.1 危害防止装置 標準仕様書16.11.2(4)の9による シャッターケース(防火・防煙以外) 設ける ・ 設けない 材料(製造所：評価名簿による) スラット及びシャッターケース用鋼板 種類() めっきの付着量 ・ Z12又はF12を満足するもの ・	10	付属電気設備	ガラス留め材	建具の種類	材種					
											鋼製	・ シーリング材	・					
											アルミニウム製	・ シーリング材	・ ガスケット(・ グレイジングチャンネル形 ・)					
											ステンレス製	・ シーリング材	・					
											木製	・ シーリング材						
											上記建具のFIXの場合	・ シーリング材						
											防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による。 電動シャッター、自動扉の施工範囲は下記による。 制御盤以降の2次側は本工事とする。 防煙シャッターの連動制御盤及び煙感知器は本工事に含まない。							
											塗装工事	18	1	素地ごしらえ (18.2.2～7)	○ 木部 表18.2.1	○ 不透明塗料塗り (・ A種 ・ B種) ○ 透明塗料塗り (・ A種 ○ B種) ○ 鉄鋼面 表18.2.2	種別 (・ A種 ・ B種 ○ C種) 耐候性塗料塗り(DP)の場合 種別 B種	
															・ 亜鉛めっき鋼面 表18.2.3	鋼製建具等 種別 (・ A種 ・ B種) 鋼製建具等以外 種別 (・ A種 ・ B種)	・ モルタル面及びせっこうプラスター面 表18.2.4	種別 (・ A種 ・ B種)
															○ コンクリート面(耐候性塗料塗り(DP)の場合は除く)、ALCパネル面 表18.2.5	種別 (・ A種 ○ B種)	・ 押出成形セメント板面、コンクリート板面(耐候性塗料塗り(DP)の場合) 表18.2.6	種別 (・ A種 ・ B種)
・ せっこうボード面及びその他ボード面 表18.2.7	目地 ・ 継目処理工法 (・ A種 ・ B種) ・ その他 (・ A種 ・ B種)																	
下地面等 工程の種別 塗料の種別																		
○ 鉄鋼面	見え掛け部分 ・ A種 ・ B種 見え隠れ部分 ・ A種 ○ B種	SOPの場合 A種 DPの場合 1回目C種 2、3回目D種 EP-Gの場合 ・ A種 ・ B種																
・ 亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等 ・ A種 ・ B種 鋼製建具等以外 ・ A種 ・ B種	SOPの場合 ・ A種 ・ B種 DPの場合 B種 EP-Gの場合 C種																
(表18.4.1～表18.12.1)																		
塗装 適用箇所 種別 塗料の種類																		
・ 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外 木部屋内 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ―	・ 1種 ・ 2種 ・ 1種 ・ 2種 ・ 1種 ・ 2種 ―															
・ クリヤラッカー塗り(CL)		・ A種 ・ B種	・ 透明 ・ 不透明															
・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		・ A種 ・ B種	―															
・ 耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面 コンクリート面及び押出成形セメント板面	― ― ・ A種 ・ B種 ・ C種	上塗り等級()級 上塗り等級()級 上塗り等級()級															
・ つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート面等 屋内の木部 屋内の鉄鋼面 屋内の亜鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種 ― ・ A種 ・ B種 ―	― ― ― ―															
・ 合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		・ A種 ・ B種	―															
○ ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		・ A種 ○ B種	・ 透明 ・ 不透明															
○ スティン塗り		・ ビンタイン塗り ○ オイルスティン塗り(OS)	―															
○ 木材保護塗料塗り(WP)		・ A種 ○ B種	―															
特記事項										工事名 福祉センター別館建設工事(建築主体)	図名 建築工事特記仕様書7-5	縮尺 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小	作成日	図面番号 A-05				
										武居設計事務所	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二							

排水工事	14点検口	・ 屋上 材種 ・ ステンレス製 寸法(mm) ・ 径550 ・ 径600 ・ 500×500 錠 ・ 有 ・ 無 ○ 天井 材種 ○ アルミニウム製 寸法(mm) ○ 450×450 ・ 600×600	用途区分 ○ 一般形 ○ 外枠・内枠とも額縁タイプ ・ 外枠額縁・内枠目地タイプ ・ 外枠目地・内枠額縁タイプ ・ 外枠・内枠とも目地タイプ ・ 密閉形 ・ 内枠のみ額縁タイプ	製造所：評価名簿による 錠 ・ 有 ・ 無 ・ 床 材種 ・ アルミニウム製 寸法(mm) ・ 450×450 ・ 600×600 ・ ステンレス製 寸法(mm) () ・ 鋼製 寸法(mm) () 用途区分 ・ 一般形 ・ 密閉型 ・ 結露防止形 使用箇所による区分 ・ 屋内外用 ・ 屋内用 仕上げ材による区分 ・ 貼物用 ・ 充填用 ・ 貼物・充填用 目地形状による区分 ・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 黄銅製 錠 ・ 有 ・ 無 製造所：評価名簿による	材質 黒御影石（文字彫込共）（施工箇所：） 寸法 H=100×W=300×t=30	15完成年月版	排水工事	1一般事項	屋外排水の系統図、勾配、配管の出入高さ等は図示によるが、施工図にて検討し、監督職員に提出すること		
								2屋外雨水排水 (21.2.1～3)	排水管用材料等表21.2.1		
									材料の規格名称規格番号種類、記号呼び径		
								・ 遠心力鉄筋コンクリート管	JIS A 5372	・ A型 ・ B型 ・ NB型 ・ NC型	
								○ 硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741	・ VP ○ VU	
								管きよの勾配は図示なき限り1/100以上とする。 土かぶりは図示なき限り600mm以上とする。 排水樹の種類 ○ プレキャスト製品 ・ 現場打ちコンクリート ・ 浸透樹 ・) ・ 標準詳細図(・ 9 - -) ・ 図示による ○ 雨水排水用塩ビ小径マ 樹の泥だめは図示なき限り150mm以上とする。 樹ふたの種類 (適用荷重：宅地内車道用) ○ 鋳鉄製 製造所：評価名簿による ・ 鋼製 ・ ステンレス製 ○ コンクリート製			
								試験 配管埋戻しに先立ち漏れがないことを確認すること。 さらに、全ての系統完了後、通水試験を行うこと。 ・ 満水試験の実施 ・ 注水試験（浸透樹）の実施			
								グレーチング			
								材質用途適用荷重メインバーピッチ備考			
								○ 鋳鉄製宅地内雨水排水			
・ 鋼製											
・ ステンレス製											
・											
舗装工事	3街きよ、縁石及び側溝 (21.3.1～2)	埋め戻し及び建設発生土の処理は「3. 土工事」による。 硬質ポリ塩化ビニル管継手 ・ 接着剤 ・ ゴム輪 ・ 材料等(・ プレキャスト製品 ・ 現場打ちコンクリート ・) 縁石 (・ 標準詳細図9 - - による ・ 図示による) 側溝 (・ 標準詳細図9 - - による ・ 図示による) 側溝ふた (・ プレキャスト製品 ・ 現場打ちコンクリート ・ グレーチング) 埋め戻し及び建設発生土の処理は「3. 土工事」による。	舗装の仕上高さ、横断勾配等は図示によるが、施工図にて検討し、監督職員に提出すること。 横断勾配は原則2%以上とする。 材料等 透水性舗装に用いるフィルター層 ・ 設ける(図示による) ・ 設けない 路床安定処理 ・ 行う (・ 添加材による安定処理 ・ 置換) ・ 行わない ・ 添加材料 (・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメント ・ フライアッシュセメント ・ 生石灰 ・ 消石灰) 添加量：kg/m3	22路床 (22.2.2～5)	舗装工事	1一般事項	舗装の仕上高さ、横断勾配等は図示によるが、施工図にて検討し、監督職員に提出すること。				
						2路床 (22.2.2～5)	横断勾配は原則2%以上とする。 材料等 透水性舗装に用いるフィルター層 ・ 設ける(図示による) ・ 設けない 路床安定処理 ・ 行う (・ 添加材による安定処理 ・ 置換) ・ 行わない ・ 添加材料 (・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメント ・ フライアッシュセメント ・ 生石灰 ・ 消石灰) 添加量：kg/m3				
						3路壁 (22.3.2～5)	試験 六価クロム溶出試験 ・ 行う(配合設計段階 検体 施工後 検体) ・ 行わない 路床土の支持力比(CBR)試験(JIS A 1211による) ・ 行う(目標CBR：) ・ 行わない 路床締固め度の試験 ・ 行う(・ 3ヶ所 ・) ・ 行わない 現場CBR試験 ・ 行う(目標CBR：) ・ 行わない 砂の粒度試験 ・ 行う ・ 行わない 路床仕上面及び高さの測定は500㎡ごと及びその端数につき1箇所 材料等 路盤の構成 ・ 標準詳細図9- - による ○ 図示による 路盤の厚さ() 試験 路盤厚さ：500㎡ごと及びその端数につき1箇所 締固め試験：1000㎡以下3箇所、1000㎡以上はさらに1000㎡ごと及びその端数につき1箇所加算する。 材料等 舗装 構成 ・ 標準詳細図9- - による ○ 図示による 厚さ() 加熱アスファルト混合物等の種類表22.4.4 ・ 密粒度7スファルト混合物(13) ・ 細粒度7スファルト混合物(13)				
							4アスファルト舗装 (22.4.2～6)	試験 平坦ん性 ・ 通行の支障となる水たまりを生じない程度とし、散水の上、目視確認 アスファルトコアの採取切取試験 ・ 行う ・ 行わない 供試体は2000㎡以下ごとに3個及びその端数ごとに1個採取すること。 採取位置は監督職員との協議による。 締固め度は、現場密度が基準密度(3個の平均値)の94%以上とする。 アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない 材料等 舗装 構成 ・ 標準詳細図9- - による ・ 図示による 厚さ ・ 70mm(歩行者用通路) ・			
							5コンクリート舗装 (22.5.2～6)	試験 平坦ん性 ・ 通行の支障となる水たまりを生じない程度とし、散水の上、目視確認 コンクリート版の厚さの試験 ・ 行う ・ 行わない 測定箇所数は500㎡ごと及びその端数につき1箇所 舗装の構成 ・ 標準詳細図9- - による ○ 図示による 種類、配合、施工、試験等は図示による。 舗装 構成 ・ 標準詳細図9- - による ・ 図示による 種類、配合、施工、試験等は図示による。			
							6カラー舗装 (22.6.2～6)	材料等 ・ コンクリート平板 ・ インターロッキングブロック 舗装の構成 ・ 標準詳細図9- - による ・ 図示による 種類、寸法、舗装の構成等は図示による。			
							7透水性アスファルト舗装 (22.7.2～6)	舗装 構成 ・ 標準詳細図9- - による ・ 図示による 種類、配合、施工、試験等は図示による。			
							8ブロック系舗装 (22.8.2～3)	材料等 ・ コンクリート平板 ・ インターロッキングブロック 舗装の構成 ・ 標準詳細図9- - による ・ 図示による 種類、寸法、舗装の構成等は図示による。			
							9砂利敷き (22.9.2)	種別 ○ A種(通路) ・ B種(建物周囲その他) ・ 図示表22.9.1			
							10既存舗装面との取合い部の処理 区画線	既存舗装小口面の処理方法、舗装の構成、不陸調整等は図示による。			
舗装工事	11	路面表示用塗料(JIS K 5665(路面表示用塗料)による) ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 施工方法 ○ 溶融式 ・ ベイント式(・ 溶剤型 ・ 水性型) 幅 ・ 100 ・ 150 色、形状等は図示による ・ 標準詳細図(9- -) ○ 図示 ・ ベイント 取付位置、固定方法は図示による。 切断作業時に発生する排水を回収し、産業廃棄物として適正に処理すること。 回収した排水を現場から搬出する場合は、搬出時点で排水のpHを測定し、その結果を写真等に記録すること。 この際、pHが12.5以上の場合には特別管理型産業廃棄物となることに留意すること。 pHの測定方法(・ 携帯式簡易測定器 ・) 処理施設、処理方法、運搬方法等は任意とするが、産業廃棄物の種類・取扱いについては山口県環境生活部及び下関市環境部(下関市内のみ)の取扱いに準ずること。 監督職員へマニフェストを提示する際、併せてpHの測定結果の提示を行うこと。									
		12車止め									
		13舗装版切断									

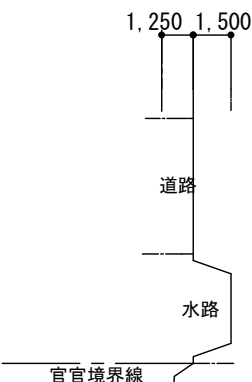
※ 設計概要				※建物概要(福祉センター)						※外構工事			※関係法令						
工事名称		福祉センター別館建設工事（建築主体）		前面道路巾		15.8m		工事種別		増築(構造別棟)			駐輪場(申請建物)		7㎡屋根(サイクル・リフト同等品) W6104×D2000×H2000		・建築基準法		
建築主 住所・氏名		山口県下松市大手町3丁目3-3 下松市長 國井 益雄		接道長さ		57.2m		構造・用途		既設鉄筋コンクリ造3階建、増築部鉄骨造1階建（耐火建築物） 建物用途 福祉センター（増築部：老人福祉センター）					建築面積： 6.10㎡ 延床面積：12.20㎡		・消防法 防火対象物（6）項ハ		
建設地住所		山口県下松市西市2丁目10番16号（住居表示）		建ぺい率（指定）		60%（角地70%）		建築面積		既設建物： 417.69㎡ + 増築建物：307.41㎡ = 合計建築面積： 725.10㎡ （申請建物）			外構工事		外構図面による		・省エネ適判		
建設地名地番		山口県下松市西市2丁目 611-6, 616-18, 616-19, 617-2, 616-22		容積率（指定）		200%		延床面積		既設建物：1074.95㎡ + 増築建物：273.03㎡ = 合計延床面積：1347.98㎡ （申請建物）			解体工事		解体図面による		・福祉のまちづくり条例		
敷地面積		4331.18 ㎡		敷地内建築面積		725.10 ㎡ + 6.10 ㎡ + 861.20㎡ = 1592.40 ㎡ 福祉センター 駐輪場 敷地内その他 敷地内 計		最高の高さ		15.42m（既設部分）		5.47m（増築部分）							
用途地域		準工業地域 防火指定 指定なし（法第22条区域）		敷地内延床面積		1,347.98 ㎡ + 12.20 ㎡ + 974.17㎡ = 2334.35 ㎡ 福祉センター 駐輪場 敷地内その他 敷地内 計		最高の軒高		10.82m（既設部分）		5.08m（増築部分）							
※ 外部仕上表																			
部 位		仕 上				部 位		仕 上				部 位		仕 上					
屋 根		ｶｰSGL鋼板 t=0.5 嵌合立平葺(クイックーフ) ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ t=4敷込 改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 下地ｾﾝﾁｭｰﾘｰ耐火野地板 t=18(30分耐火構造・FP030RF-1763-2(1))				外 壁（上部）		防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ16mm(ﾌﾗｯﾄ版工場塗装仕上、ｺｺ張り)（鉄骨金具止め）、 防湿ﾌｨﾙﾐ0.15mm張り 強化石膏ボード15mm 2枚張り 外壁（非耐力壁・1時間）耐火構造FP060NE-0271(2)) 外壁（梁・1時間）耐火構造FP060BM-0693(2)) 外壁（柱・1時間）耐火構造FP060CN-0945(2))				車イス・身障者用駐車場 ﾎｰﾅｰ・ﾌﾞﾛｰﾅ屋根		ｶｰSGL鋼板 t=0.5 嵌合立平葺(クイックーフ) ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ t=4敷込 改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 下地ｾﾝﾁｭｰﾘｰ耐火野地板 t=18 軒樋：塩ビｶｰ(ﾎﾞｷｽ ﾐ90同等品) 軒樋：Y60H(ﾎﾞｷｽ同等品)					
片流れ水上押え		ｶｰSGL鋼板 t=0.5 加工				外 壁（下部）		防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ16mm(木目版工場塗装仕上、ｺｺ張り)（鉄骨金具止め）、 防湿ﾌｨﾙﾐ0.15mm張り 強化石膏ボード15mm 2枚張り 外壁（非耐力壁・1時間）耐火構造FP060NE-0271(2)) 外壁（梁・1時間）耐火構造FP060BM-0693(2)) 外壁（柱・1時間）耐火構造FP060CN-0945(2))				ﾎｰﾅｰ壁		300角ﾀｲﾙ張り（一部ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ）、ﾀｲﾙ下地ﾎﾟﾙ、下地ｺﾝｸﾘｰﾄ					
ケラバ水切		ｶｰSGL鋼板 t=0.5 加工				外 壁（下部）		防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ16mm(木目版工場塗装仕上、ｺｺ張り)（鉄骨金具止め）、 防湿ﾌｨﾙﾐ0.15mm張り 強化石膏ボード15mm 2枚張り 外壁（非耐力壁・1時間）耐火構造FP060NE-0271(2)) 外壁（梁・1時間）耐火構造FP060BM-0693(2)) 外壁（柱・1時間）耐火構造FP060CN-0945(2))				ﾎｰﾅｰ壁、外壁巾木		外壁と同					
軒先水切		ｶｰSGL鋼板 t=0.5 加工				鉄骨部耐火被覆		吹付ﾛｯｸｳｰﾙ t=25 梁・1時間 FP060BM-9408 柱・1時間 FP060CN-9460				ﾎｰﾅｰ・ﾌﾞﾛｰﾅ天井		防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ12mm(木目) LGS下地					
エブロン水切		ｶｰSGL鋼板 t=0.5 加工				外部建具		ｶｰｱﾙﾐｻｯｼｮﾝ(ﾋﾞﾙ用)				ﾎｰﾅｰ・ﾌﾞﾛｰﾅ手摺 (外壁側)		自立型ｽﾃﾝﾚｽ製手摺38.0Φ（SUS304ﾊﾞｰﾌ仕上）H=800					
破風板		防火サイディング14mm（工場塗装品）H=210				接続部陸屋根 既設ｺﾝｸﾘｰﾄ庇ｽﾗﾌﾞ		改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水(ｼﾙﾊﾞｰ仕上)、下地QLﾃﾞｯｷｺﾝｸﾘｰﾄ打ち（水勾配付）（屋根30分耐火構造） 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水(ｼﾙﾊﾞｰ仕上) に改修（既設ｺﾝｸﾘｰﾄ庇ｽﾗﾌﾞ 防水撤去の上）				車イス・身障者用駐車場 ｱﾌﾞﾛｰﾅ 床		ｶｰｱｽﾌｧﾙﾄ舗装					
鼻隠し		防火サイディング14mm（工場塗装品）H=210				同 上 ﾎｰﾌﾄﾞﾚｰﾝ		横引ﾎｰﾌﾄﾞﾚｰﾝ 呼び径65 好種 VU65 つかみ金物ｽﾃﾝﾚｽ											
軒 天		防火サイディング12mm（工場塗装品）				同 上 笠木・水切		ｽﾃﾝﾚｽ SUS304 t=0.5 加工 HL仕上											
軒 樋		ﾃﾞﾞﾞﾞﾝ軒樋 UST140(ﾎﾞｷｽ同等品) 取付金物等は専用付属品を使用すること				同 上 笠木・水切		ｽﾃﾝﾚｽ SUS304 t=0.5 加工 HL仕上(ｽｷﾞ部、ﾛｯｸｳｰﾙ詰め、外部側ｼｰﾘﾝｸﾞ)											
豎 樋		ﾃﾞﾞﾞﾞﾝ軒樋 Y60H(ﾎﾞｷｽ同等品) 取付金物等は専用付属品を使用すること				既設RC庇取合い水切		ｽﾃﾝﾚｽ SUS304 t=0.5 加工 HL仕上(ｽｷﾞ部、ﾛｯｸｳｰﾙ詰め、外部側ｼｰﾘﾝｸﾞ)											
腰水切		ｶｰSGL鋼板 t=0.4 加工				既設RC建物接続部 EXP. J (外壁)		SUS製EXP. J(ｺｰﾅｰ, 50用)（1時間耐火仕様）											
外壁巾木		ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 平均GL+H400 撥水材(ﾎﾞｷｽｶｰﾄﾞ NEO同等品吹付 ひび割れ誘発目地3m以内				講堂東側犬走り		ｶｰｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 緑石見切ﾌﾞﾛｯｸ150											
※ 内部仕上表																			
階	室 名	床		巾木	H	内 壁		天 井		廻り縁	天井高	備 考							
1	エントランス	複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地 一部ﾎﾟﾙﾐﾝｸﾞ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（準不燃） 下地PB12.5mm（一部2重張り）軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（準不燃） 下地PB12.5mm（一部2重張り）軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室内案内板 ｶﾞｲﾄﾞｽﾃｯﾌﾟ(ｽﾃﾝﾚｽ製) ｱﾙﾐ製EXP. J（内壁用ｺｰﾅｰ, 50・天井用ｺｰﾅｰ, 50） 室内表示板 室内用塩ビ被覆手摺（木目柄）34Φ 室内案内板下部木製棚(UC) 郵便受(壁埋込)							
	廊 下	複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（準不燃） 下地PB12.5mm 2重張り 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65,100下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室内用塩ビ被覆手摺（木目柄）34Φ 消火器埋込ﾎﾞｯｸｽ1ヶ所							
	講堂（大）	複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（準不燃） 下地PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 下地両面 PB12.5mm 2重張り 軽量ｽﾀｯﾄﾞ75,100@下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2700	カーテン・カーテンボックス(ｱﾙﾐ製・埋込) スクリーン（手動式）・スクリーンボックス(ｱﾙﾐ製・埋込) 室名札 ﾏﾞﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｵｰﾙ							
	講堂（小）	複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（準不燃） 下地PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 下地両面 PB12.5mm 2重張り 軽量ｽﾀｯﾄﾞ75,100@下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2700	カーテン・カーテンボックス(ｱﾙﾐ製・埋込) 室名札							
	多目的室	複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（準不燃） 下地PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 下地PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65,100下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室名札 手洗い（機器は機械工事） 化粧鏡(ﾛｰﾙｰﾅｰ付)							
	倉庫・物入	複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（不燃） 下地PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 下地PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地（一部100,75）		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室名札							
	男子WC	防汚性複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地 一部汚垂れ石張り		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側 小便器背面	化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板6mm貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板6mm貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65,100下地 腰壁 ﾘﾔﾄﾞﾛﾚﾗｳｵｰﾙ（不燃）H=1300 下地耐水合板12 2枚張り		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室名札(ﾋﾞｸﾞﾀｲﾅﾝ) 面台（小便器上）							
	女子WC	防汚性複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板6mm貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板6mm貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65,100下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室名札(ﾋﾞｸﾞﾀｲﾅﾝ) 掃除具入れ木製棚							
	多機能WC	防汚性複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板6mm貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板6mm貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	室名札(ﾋﾞｸﾞﾀｲﾅﾝ)							
	給湯室	防汚性複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄｼｰﾄ張り t=2.0 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞ下地		ソフト巾木	60	外壁側 間仕切側	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65下地 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り（不燃） 下地防水PB12.5mm 軽量ｽﾀｯﾄﾞ65,100下地		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板9mm（平板・不燃） PB12.5mm捨張り 軽量鉄骨天井下地	塩ビ	2500	ﾐﾆｷｯﾁﾝ(L=1500) 室名札							
略表示内容・塗装記号説明																			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 合板型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し素地補修		略表示内容・塗装記号説明		断熱仕様		使用材料の認定番号		その他		シーリング材の種類									
		合板 普通合板（T1）とする		部位 断熱材の種類 熱伝導率 厚さ 施工部分		材料 認定番号		シックハウス対策		使用部位		記号	主成分による区分		寸法				
ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ 国交大臣認定 準不燃・不燃		GB-R 水廻りに使用するｶｰﾄﾞは防水石膏ｶｰﾄﾞとする		屋根直下（天井）ｸﾞﾗｽｳｰﾙ密度24K 0.038 W/(m・K) 100 天井		ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ (準不燃)		内装材及び下地材の種別 建具の種別 F☆☆☆☆		外部建具周り（外壁材付属ｼｰﾘﾝｸﾞ）		変成ｼﾛｺｰﾝ（1成分形）	10×10						
UC カウン樹脂ﾌﾞﾗｽ塗		GB-F 強化石膏ボード		外壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ密度24K 0.038 W/(m・K) 100 外壁		ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ (不燃)		据付家具・各ユニット・棚類 天井裏等の材料種別 F☆☆☆☆		外部ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ（外壁材付属ｼｰﾘﾝｸﾞ）		変成ｼﾛｺｰﾝ（1成分形）	10×10						
WP 自然塗装		植物性塗料 工場塗装品とする		1階床 その他の床 押出法ﾀﾞｲﾗｸｼｵﾝﾌｫｰﾑ3種6A 0.028 W/(m・K) 30 1階土間下		化粧ﾀｲﾙｶﾙﾐ板 NM-8577(不燃)		不燃性フード		I Hからフードまでの距離80cm以上		MS-2 変成ｼﾛｺｰﾝ（2成分形）	15×10						
LGSｽﾀｯﾄﾞ		JIS型ｽﾀｯﾄﾞ 標準ﾋﾞｯﾌﾟ303@ W50, 65, 75, 100(図示) 使い分けとする		複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 東リﾏﾁｭｱNW（同等品）		ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板 NM-8599(不燃)		I H廻りの壁、不燃材仕上		水切取合 流し台周り		SR-1 シリコーン	10×7						
				防汚性複層ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0 東リ消臭NSﾄﾞﾗﾜNW（同等品）		石膏ｶｰﾄﾞ12.5 NM-8619(不燃)		※. 給水装置の構造及び材質は水道法16条の規定による				SR-1 シリコーン	5×5						
				下地補強を要する部分、手摺取付部、室内案内板壁面		Fｶﾞｰﾄﾞ6mm NM-2967(不燃)													
						ﾀﾞｲﾚｸｼｮﾝ NM-2396(不燃)													
特記事項				工事名		山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二		図 名		建物概要・外部仕上表・内部仕上表				縮 尺	作成日	図面番号			
				福祉センター別館建設工事（建築主体）		山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二				A2ﾀｲｽﾞ→100% A3ﾀｲｽﾞ→71%縮小						A-08			



A-A断面図 S=1/300



配置図 S=1/300



B-B断面図 S=1/300

建物面積表 (単位: m2)

建物番号	申請建物		既設建物		申請+既設建物	
	建物用途	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	延床面積
①	福祉センター	307.41	273.03	417.69	1074.95	725.10
②a	駐輪場	6.10	12.20			6.10
②b	老人福祉会館			791.70	892.57	791.70
③	物置			10.20	10.20	10.20
④	物置			10.80	10.80	10.80
⑤	駐輪場			16.80	16.80	16.80
⑥	駐輪場			3.40	7.50	3.40
⑦	駐輪場			6.50	14.50	6.50
⑧	物置			6.50	6.50	6.50
⑨	物置			4.10	4.10	4.10
⑩	物置			5.40	5.40	5.40
⑪	物置			3.00	3.00	3.00
⑫	物置			2.80	2.80	2.80
敷地内計		313.51	285.23	1278.89	2049.12	1592.40

特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

配置図

縮尺

S=1/300

作成日

図面番号

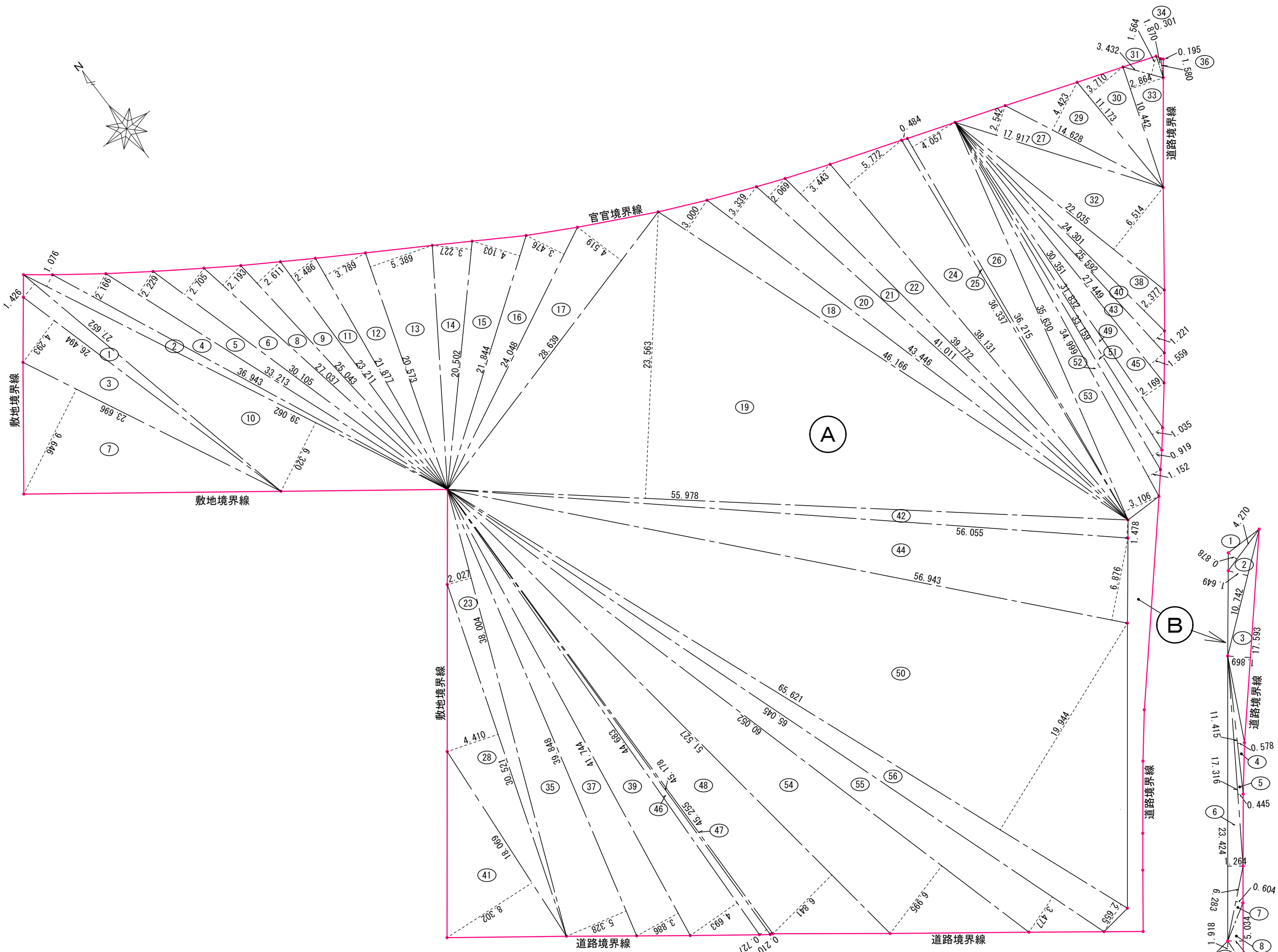
A-09

番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	27.652	1.426	39.431752	19.7158760
2	39.062	1.076	42.030712	21.0153560
3	26.494	4.293	113.738742	56.8693710
4	36.943	2.166	80.018538	40.0092690
5	33.213	2.229	74.031777	37.0158885
6	30.105	2.705	81.434025	40.7170125
7	23.696	9.646	228.571616	114.2858080
8	27.037	2.193	59.292141	29.6460705
9	25.043	2.611	65.387273	32.6936365
10	39.062	6.320	246.871840	123.4359200
11	23.211	2.486	57.702546	28.8512730
12	21.877	3.789	82.891953	41.4459765
13	20.573	5.389	110.867897	55.4339485
14	20.502	3.227	66.159954	33.0799770
15	21.844	4.103	89.625932	44.8129660
16	24.048	3.476	83.590848	41.7954240
17	28.639	4.519	129.419641	64.7098205
18	46.166	3.000	138.498000	69.2490000
19	55.978	23.563	1,319.009614	659.5048070
20	43.446	3.339	145.066194	72.5330970
21	41.011	2.069	84.851759	42.4258795
22	39.772	3.443	136.934996	68.4674980
23	38.004	2.027	77.034108	38.5170540
24	38.131	5.772	220.092132	110.0460660
25	36.337	0.484	17.587108	8.7935540
26	36.215	4.057	146.924255	73.4621275
27	17.917	2.542	45.545014	22.7725070
28	30.521	4.410	134.597610	67.2988050
29	14.628	4.423	64.699644	32.3498220
30	11.173	3.710	41.451830	20.7259150
31	3.432	1.564	5.367648	2.6838240
32	22.035	6.514	143.535990	71.7679950
33	10.442	2.864	29.905888	14.9529440
34	1.870	0.301	0.562870	0.2814350
35	39.848	5.328	212.310144	106.1550720
36	1.580	0.195	0.308100	0.1540500
37	41.744	3.886	162.217184	81.1085920
38	24.301	2.377	57.763477	28.8817385
39	44.683	4.693	209.697319	104.8486595
40	25.592	1.221	31.247832	15.6239160
41	18.069	8.302	150.008838	75.0044190
42	56.055	1.478	82.849290	41.4246450
43	27.449	1.559	42.792991	21.3964955
44	56.943	6.876	391.540068	195.7700340
45	30.351	2.169	65.831319	32.9156595
46	45.178	0.727	32.844406	16.4222030
47	45.255	0.210	9.503550	4.7517750
48	51.527	6.841	352.496207	176.2481035
49	31.832	1.035	32.946120	16.4730600
50	65.621	19.944	1,308.745224	654.3726120
51	33.159	0.919	30.473121	15.2365605
52	34.999	1.152	40.318848	20.1594240
53	35.630	3.106	110.666780	55.3333900
54	60.052	6.995	420.063740	210.0318700
55	65.045	3.477	226.161465	113.0807325
56	65.621	2.655	174.223755	87.1118775
合 計				4,273.8708125
敷 地 面 積				4,273.87 m ²

求積A

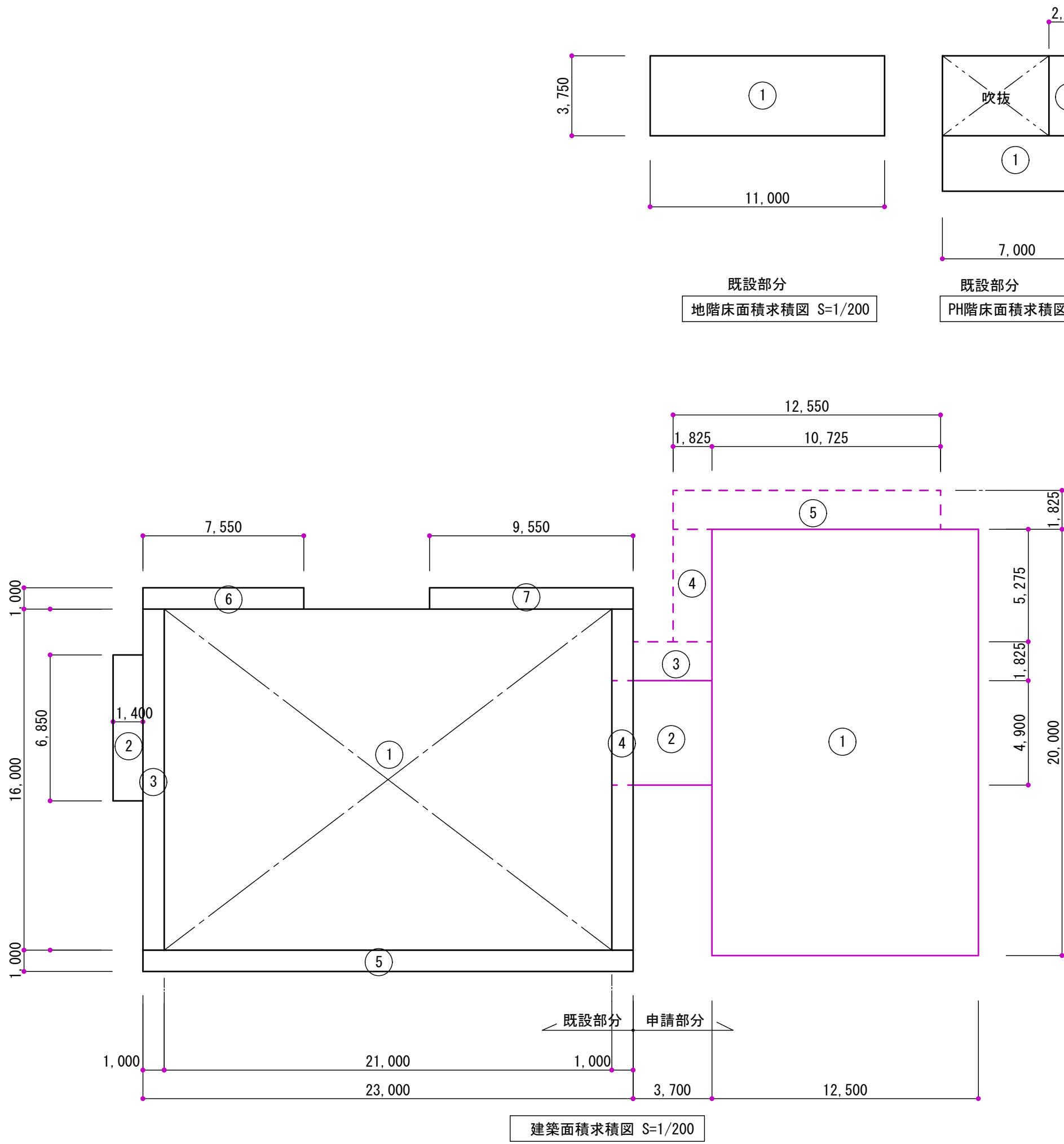
番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	4.270	0.878	3.749060	1.8745300
2	10.742	1.649	17.713558	8.8567790
3	17.593	1.869	32.881317	16.4406585
4	11.415	0.578	6.597870	3.2989350
5	17.316	0.445	7.705620	3.8528100
6	23.424	1.264	29.607936	14.8039680
7	6.283	0.604	3.794932	1.8974660
8	5.034	1.274	6.413316	3.2066580
9	3.214	1.918	6.164452	3.0822260
合 計				57.3140305
敷 地 面 積				57.31 m ²

求積B



敷地面積求積図 S=1/300

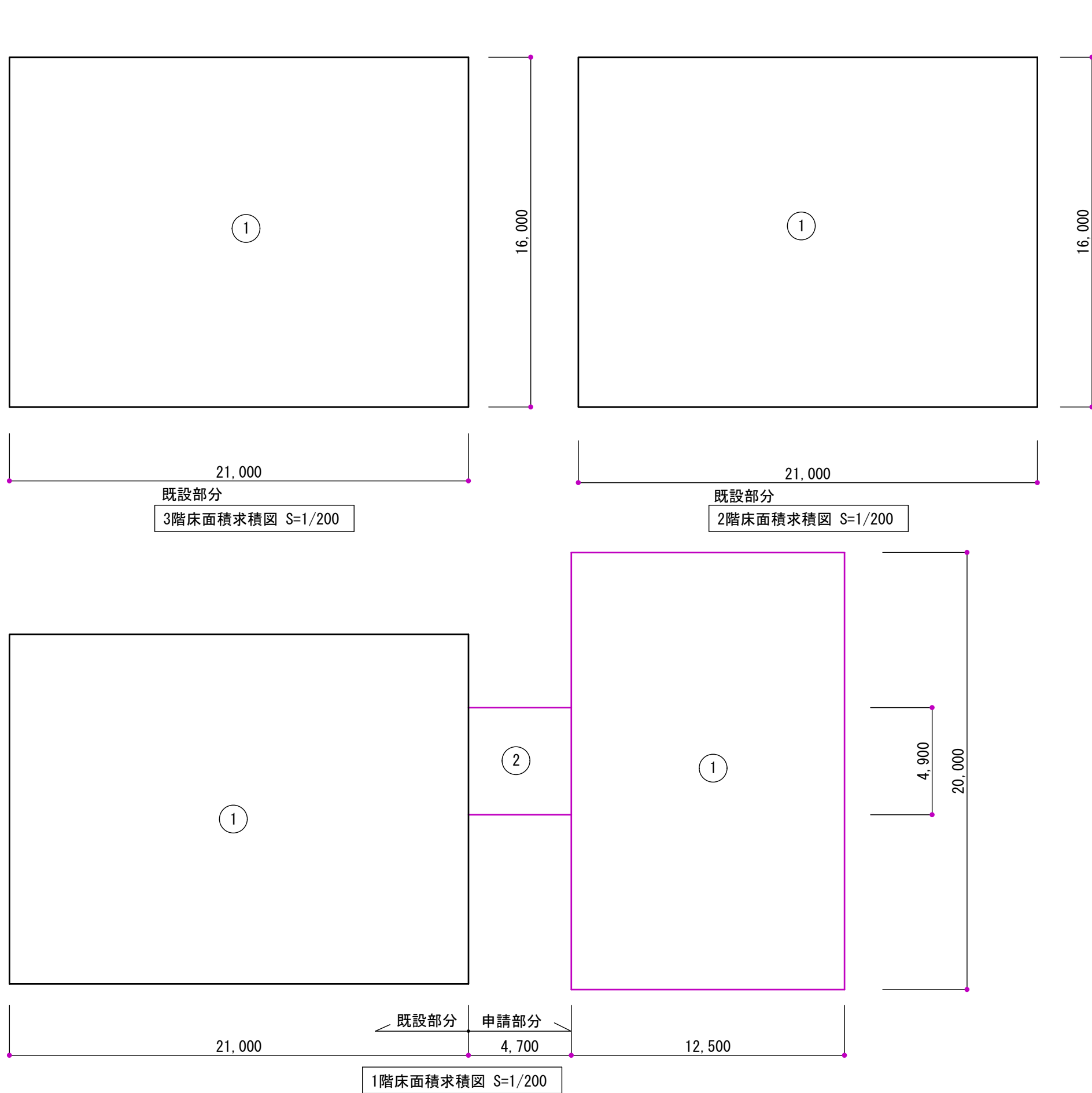
敷地面積 (A+B) = 4273.87 m² + 57.31m² =4331.18m²



建築面積算定表

	位置	申請建物			既設建物			合計
建築面積	①	12.500	20.000	250.0000	21.000	16.000	336.0000	
	②	3.700	4.900	18.1300	1.400	6.850	9.5900	
	③	3.700	1.825	6.7525	1.000	16.000	16.0000	
	④	1.825	5.275	9.6269	1.000	16.000	16.0000	
	⑤	12.550	1.825	22.9038	23.000	1.000	23.0000	
	⑥				7.550	1.000	7.5500	
	⑦				9.550	1.000	9.5500	
	計			307.4132			417.6900	
				307.41 m2			417.69 m2	725.10 m2

建築面積求積図 S=1/200



床面積算定表

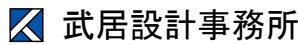
	位置	申請建物			既設建物			合計
地階床面積	①				11.000	3.750	41.2500	
	計						41.25 m2	41.25 m2
1階床面積	①	12.500	20.000	250.0000	21.000	16.000	336.0000	
	②	4.700	4.900	23.0300				
	計			273.03 m2			336.00 m2	609.03 m2
2階床面積	①				21.000	16.000	336.0000	
	計						336.00 m2	336.00 m2
3階床面積	①				21.000	16.000	336.0000	
	計						336.00 m2	336.00 m2
PH階床面積	①				7.000	2.600	18.2000	
	②				2.000	3.750	7.5000	
	計						25.70 m2	25.70 m2
	合計			273.03 m2			1,074.95m2	1,347.98m2

1階床面積求積図 S=1/200

特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）



山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

建物面積表・法令チェック表

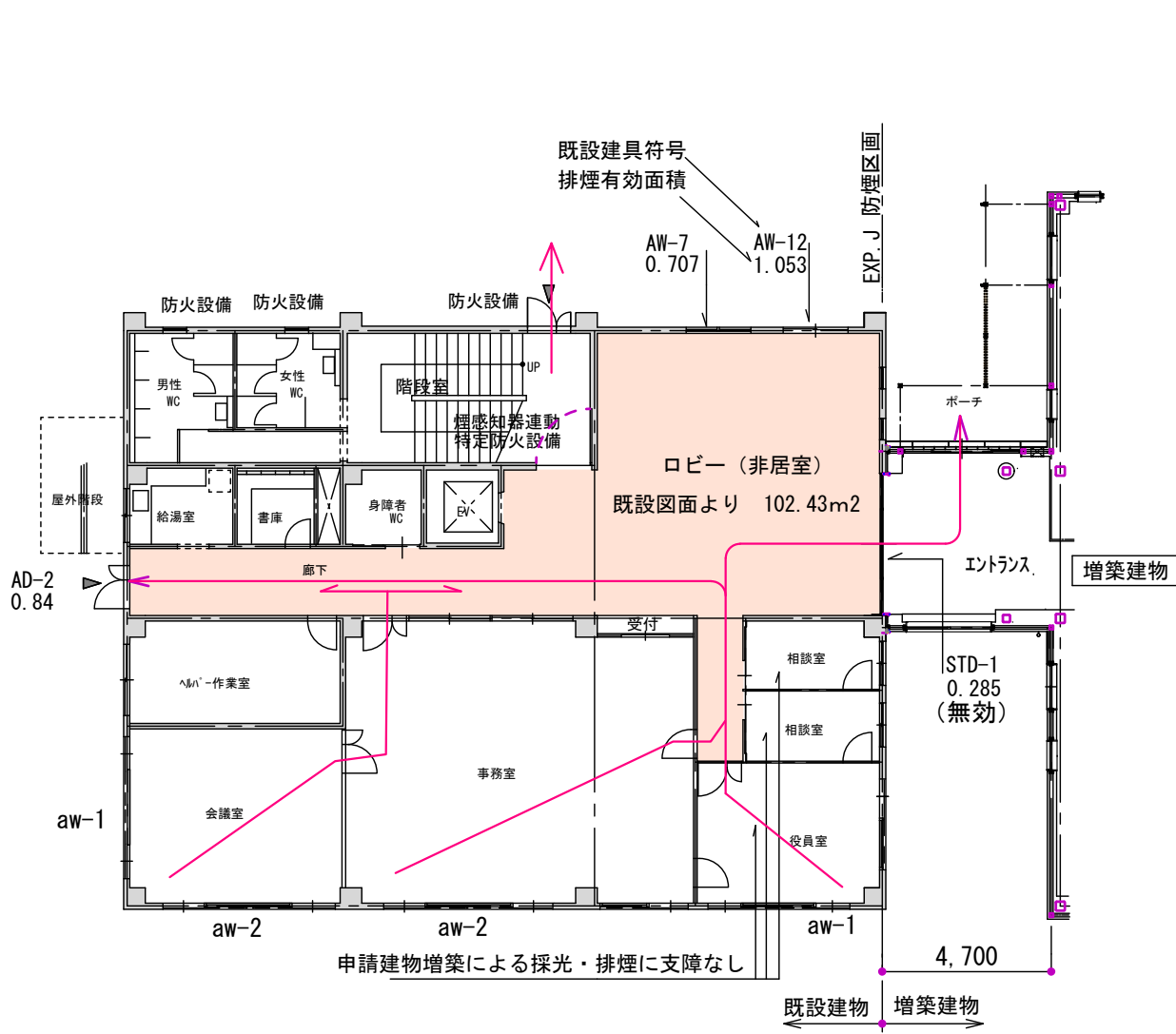
縮尺

作成日

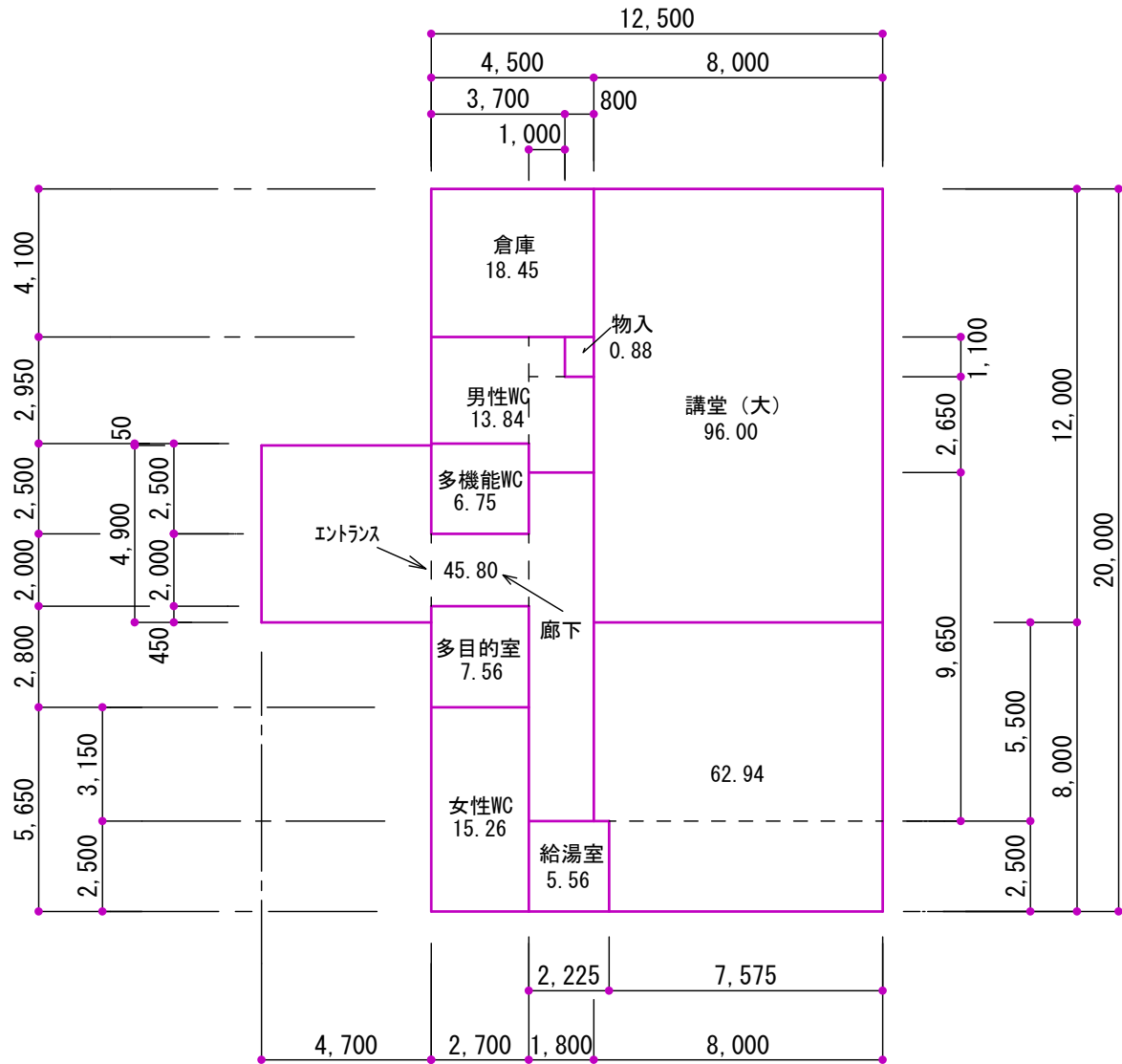
図面番号

A-11

A294x → 100% A394x → 71%縮小



既設建物法令チェック図 S=1/200



各室求積図 S=1/200

各室面積表

単位：m2

室名	計算式	床面積
講堂（大）	8.000×12.000＝	96.00
講堂（小）	8.000×5.500＋7.575×2.500＝	62.94
エントランス＋廊下	4.700×4.900＋2.700×2.000＋1.800×9.650＝	45.80
多目的室	2.700×2.800＝	7.56
倉庫	4.500×4.100＝	18.45
物入	0.800×1.100＝	0.88
給湯室	2.225×2.500＝	5.56
男性WC	2.700×2.950＋1.800×2.650＋1.000×1.100＝	13.84
女性WC	2.700×5.650＝	15.26
多機能WC	2.700×2.500＝	6.75

法令チェック表（申請部分）

室名	室面積	1/50	排煙計算	判定	1/20	採光計算	判定	1/20	換気計算	判定
講堂（大）	96.00	1.92	1.40×0.60×3＝2.52＞1.92 AW-1	OK	4.80	2.80×1.70×3＝14.30＞4.80 AW-1	OK	4.80	1.40×1.70×3＝7.14＞4.80 AW-1	OK
講堂（小）	62.94	1.26	1.70×0.60＋0.90×0.50＝1.47＞1.26 AW-2 AD-2	OK	3.15	3.40×1.70＝5.78＞3.15 AW-2	OK	3.15	1.70×1.70＋0.90×2.40＝5.05＞3.15 AW-2 AD-2	OK
多目的室	7.56	0.16	0.55×0.40＝0.22＞0.16 AW-7	OK	0.38	1.10×1.10＝1.21＞0.38 AW-7	OK	0.38	0.55×1.10＝0.60＞0.38 AW-7	OK
エントランス＋廊下	45.80	0.92	1.10×0.45×2＝0.99＞0.92 AW-3	OK						
倉庫	18.45	0.37	告示第1436号4項ニ（2）適用	OK						
物入	0.88	0.02								
給湯室	5.56	0.11	告示第1436号4項ニ（2）適用	OK						
男性WC	13.84	0.28	告示第1436号4項ニ（2）適用	OK						
女性WC	15.26	0.31	告示第1436号4項ニ（2）適用	OK						
多機能WC	6.75	0.14	告示第1436号4項ニ（2）適用	OK						

法令チェック表（既設部分）

ロビー	102.43	2.05	0.84＋0.707＋1.053＝2.60＞2.05 AD-2 AW-12 AW-12	OK	採光・換気計算は不要
-----	--------	------	--	----	------------

既設図面の建具符号と有効排煙面積
STD-1は無効

24時間換気計算表

室名	床面積 ㎡	平均天井高 h	気積 m ³	給気機による 給気量（m3）	排気機による 排気量（m3）	換気回数 判定
講堂（大）	96.00	2.70	259.20	給気口	205*4台＝820	
計			259.20		820	3.15＞0.3-OK
講堂（小）	62.94	2.70	169.94	給気口	205*3台＝615	
計			169.94		615	3.60＞0.3-OK
多目的室	7.56	2.50	18.90	給気口	70*1台＝70	
計			18.90		70	3.70＞0.3-OK

増築部分耐火認定番号一覧

部 位	時 間	仕 様	認定番号	備 考
柱	1階			
	1時間	外壁①＋柱 外壁②＋柱 柱：ロックール吹付のみ	FP060CN-0945(2) FP060CN-9460	
梁	1時間	外壁①＋梁 外壁②＋梁 梁：ロックール吹付のみ	FP060BM-0693(2) FP060BM-9408	
	非耐力壁	防火サイディング16mm 強化石膏ボード15mm 2枚張り GW t=100（密度24k）	FP060NE-0271(2)	延焼の恐れ以外の部分
屋根	30分	セメンリ-耐火野地板 t=18	FP030RF-1763-2(1)	
接続 屋根	30分	鉄網コンクリート造	平12建告1399号第5三号	

消防法：1階無窓階の計算（既設地.2.3階の計算は省略する。）

申請建物 既設建物 1階合計
1階床面積 273.03 m2 + 336.00 m2 = 609.03 m2

既設建物1F（必要） 336.00m2 / 30= 11.2 有効：3.89*1.7*2 + 5.0*1.7*2 = 30.2＞11.2 - OK
aw-1 aw-2

申請建物1F（必要） 273.03m2 / 30= 9.10 有効：2.80*1.7*3 + 3.4*1.7 + 1.80*2.4 = 24.3＞9.10 - OK
AW-1 AW-2 AD-2

特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図 名

建物面積表・法令チェック表

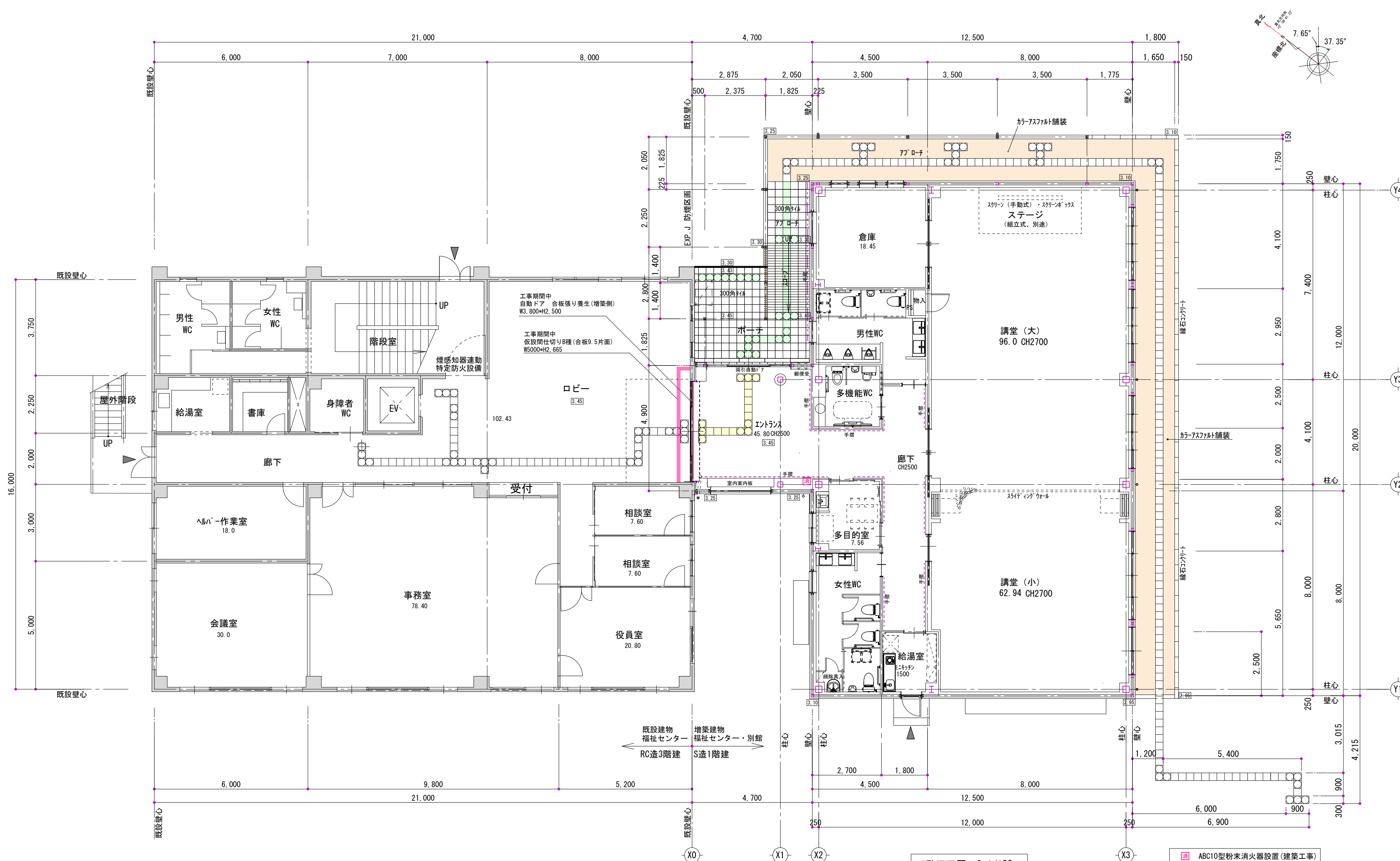
縮 尺

作成日

図面番号

A-12

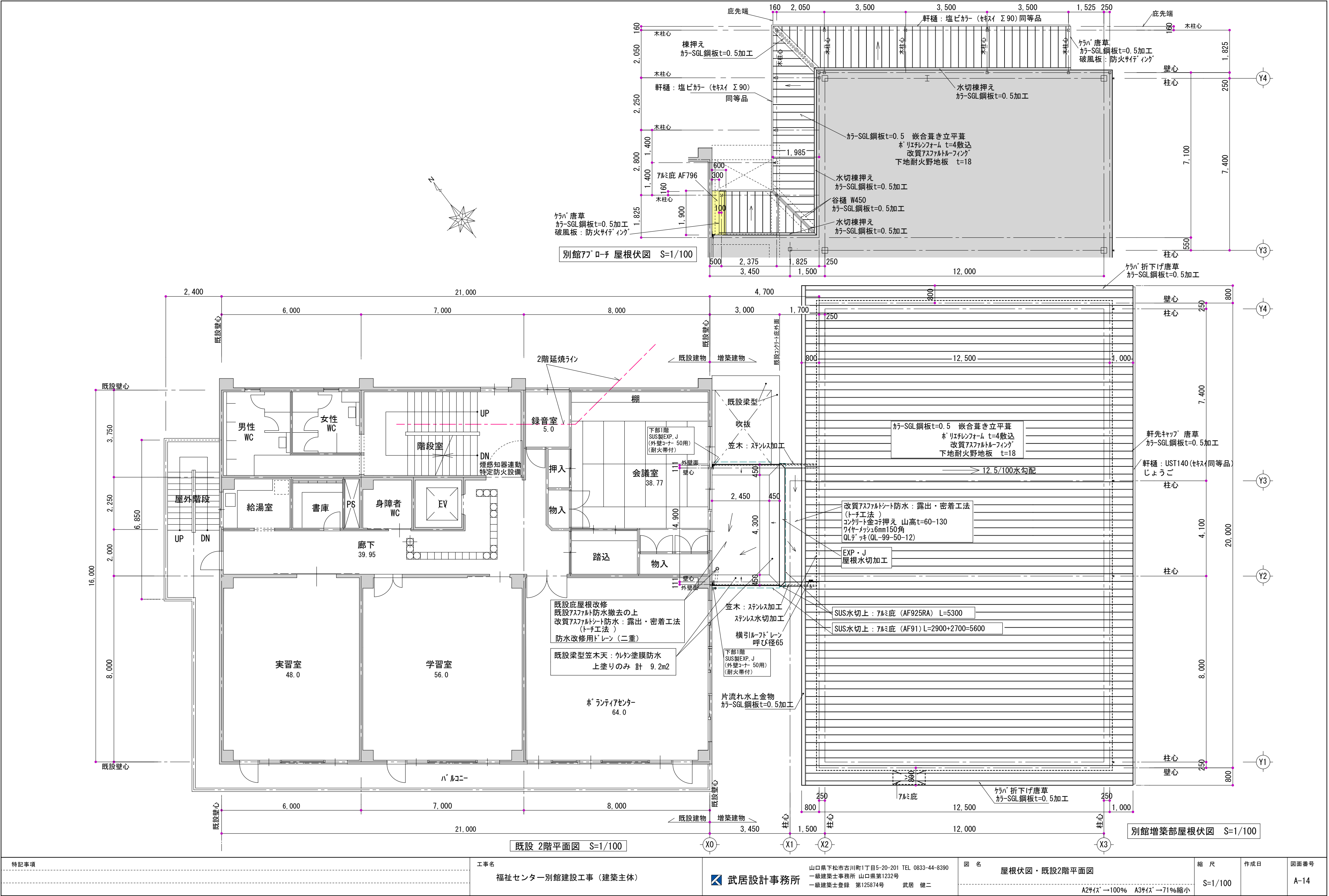
A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小

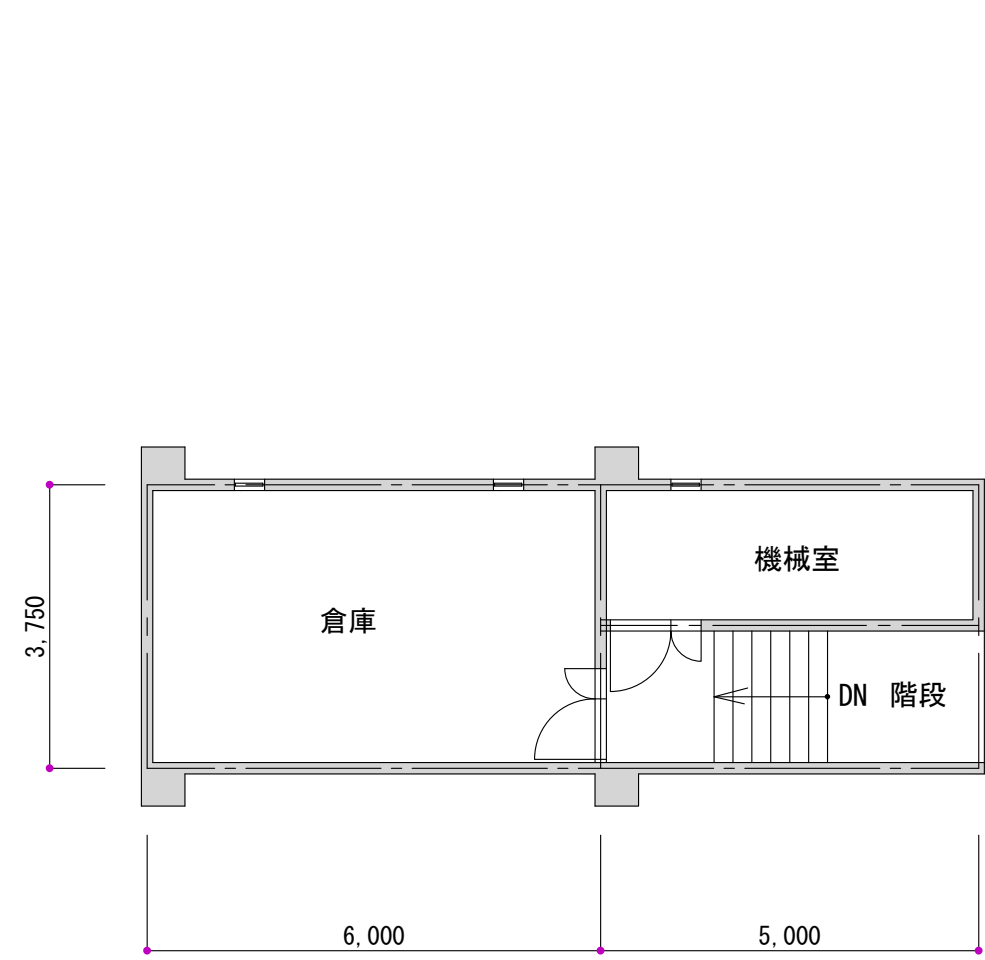


1階平面図 S=1/100

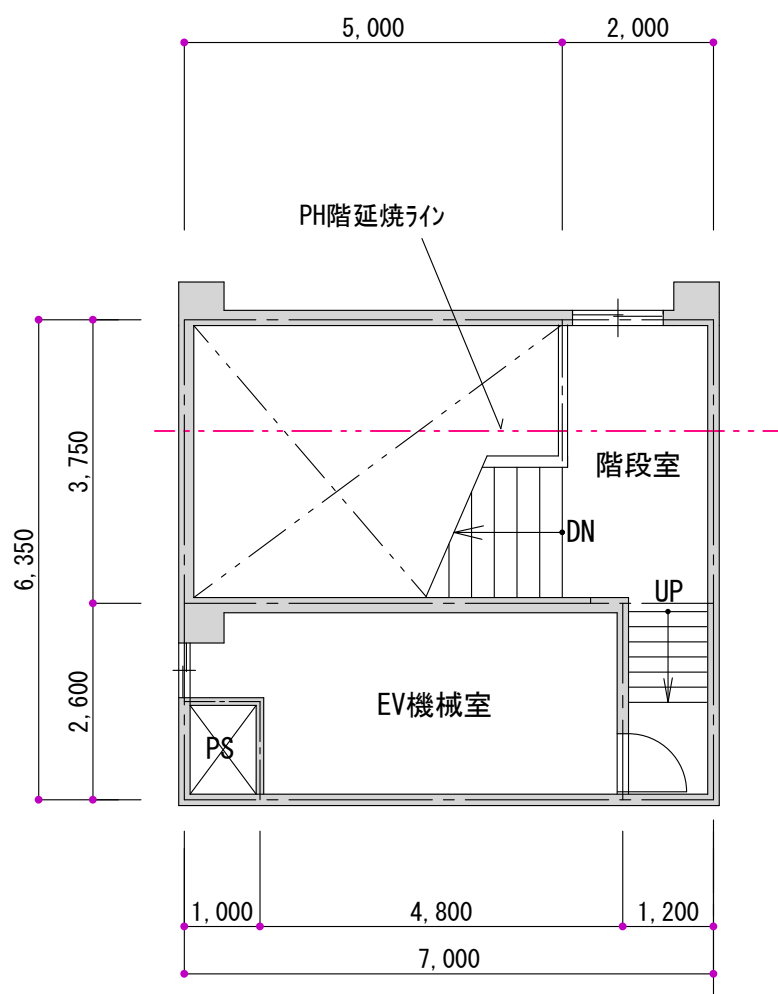
ABC10型粉末消火器設置(建築工事)

特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 1階平面図 縮尺 S=1/100 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小	作成日	図面番号 A-13
------	---------------------------	---	--	-----	--------------

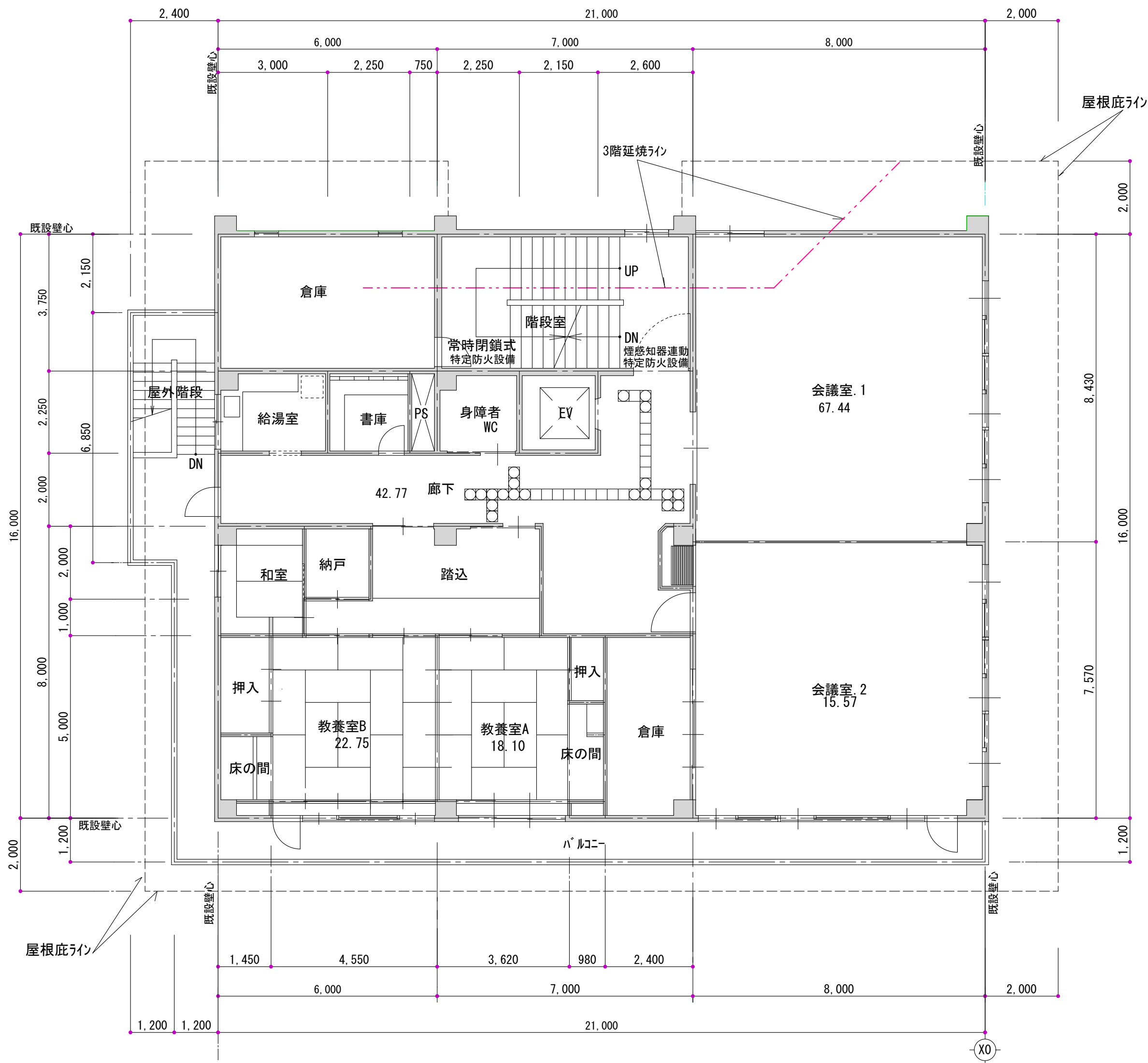




既設 地階平面図 S=1/100



既設 PH階平面図 S=1/100



既設 3階平面図 S=1/100

特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

既設 3階平面図（PH階・地階共）

縮尺

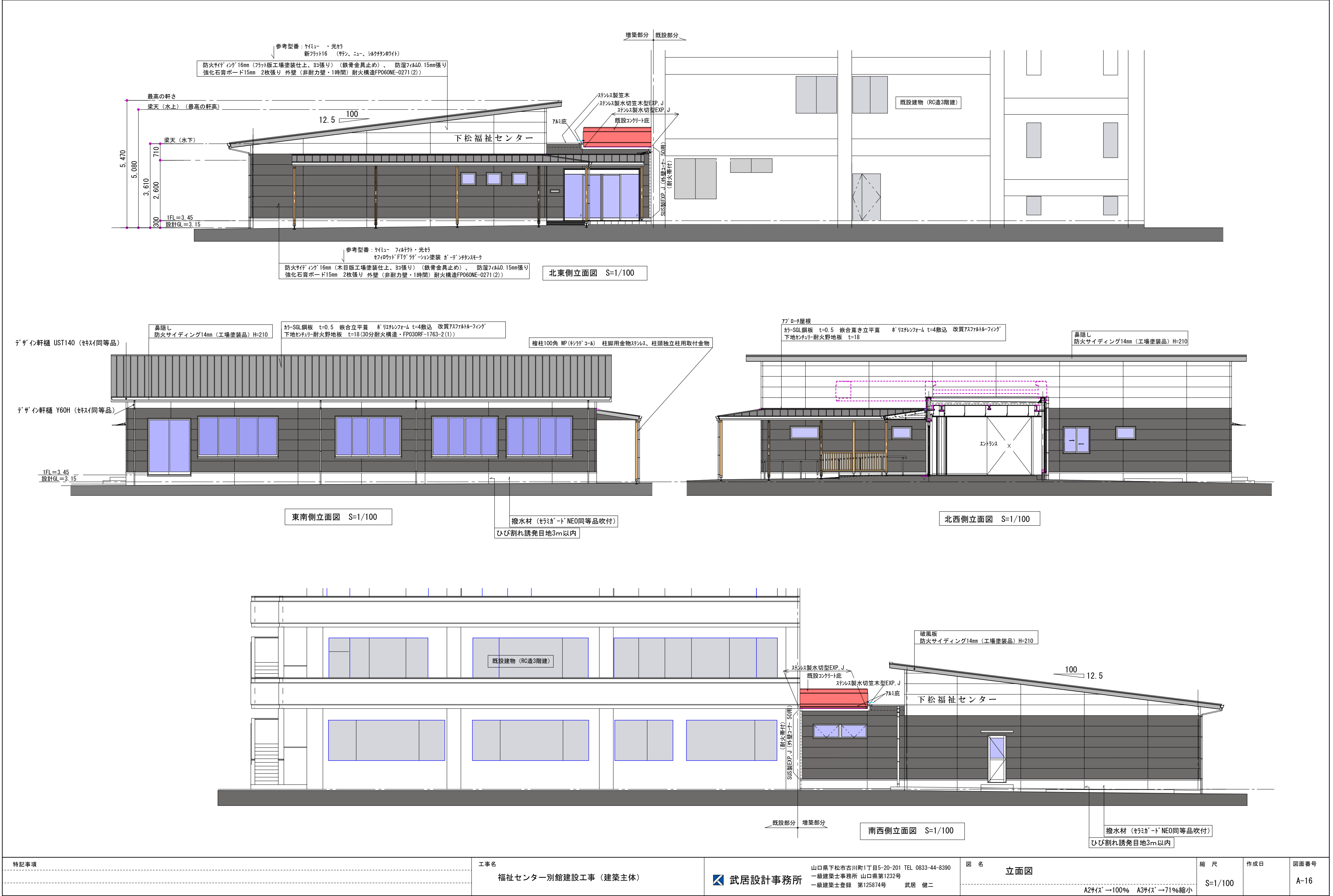
S=1/100

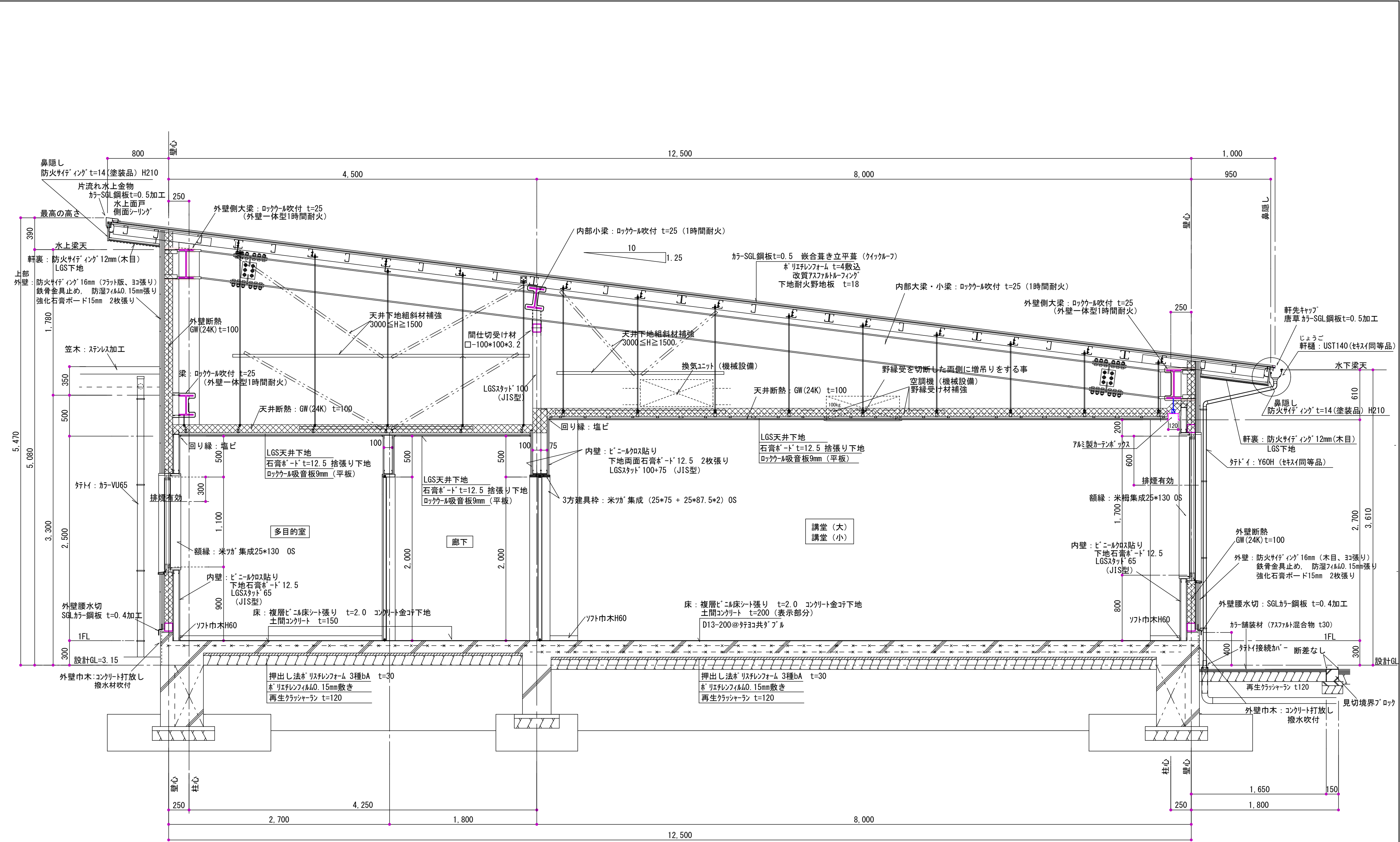
作成日

図面番号

A-15

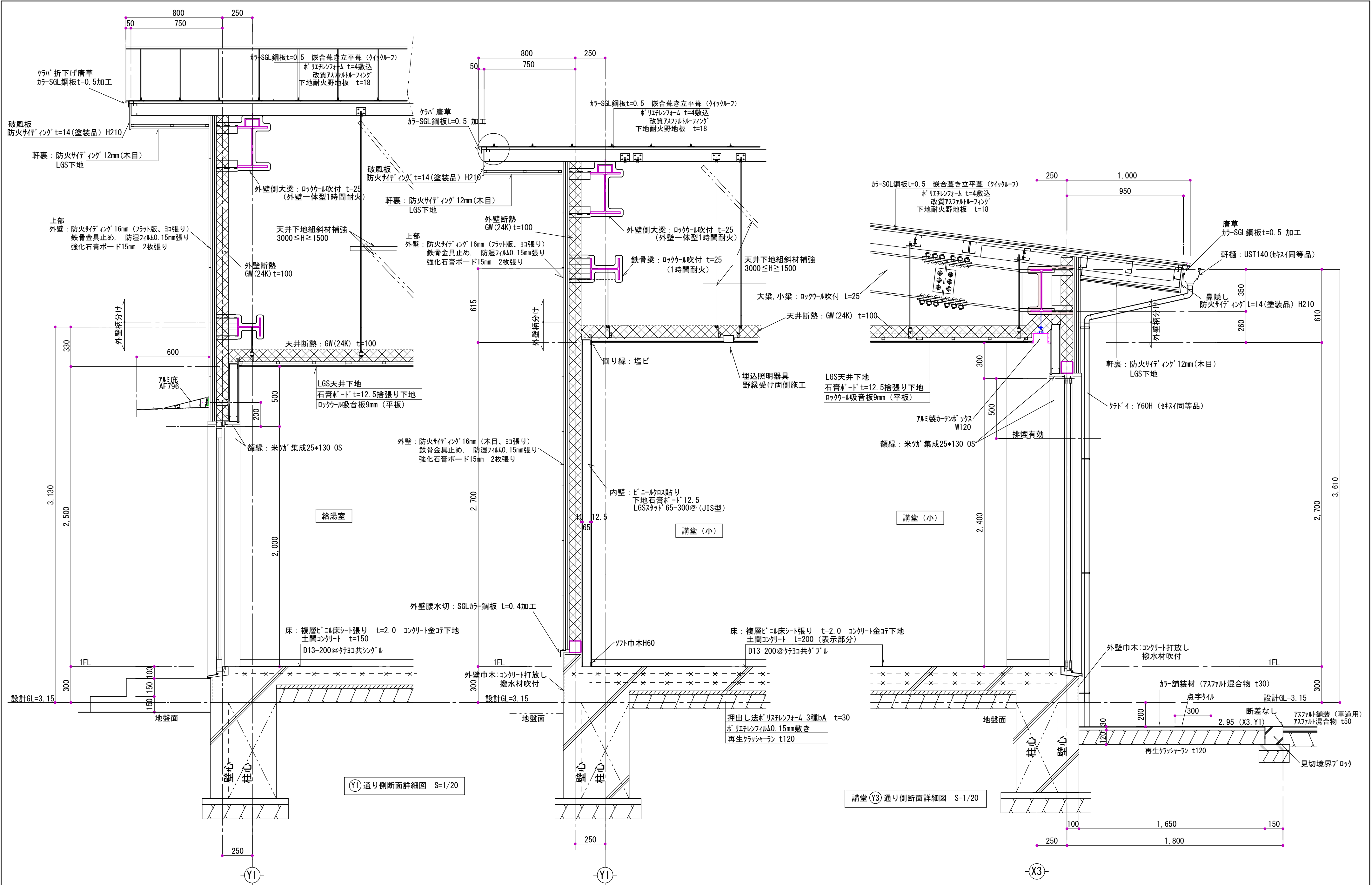
A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小



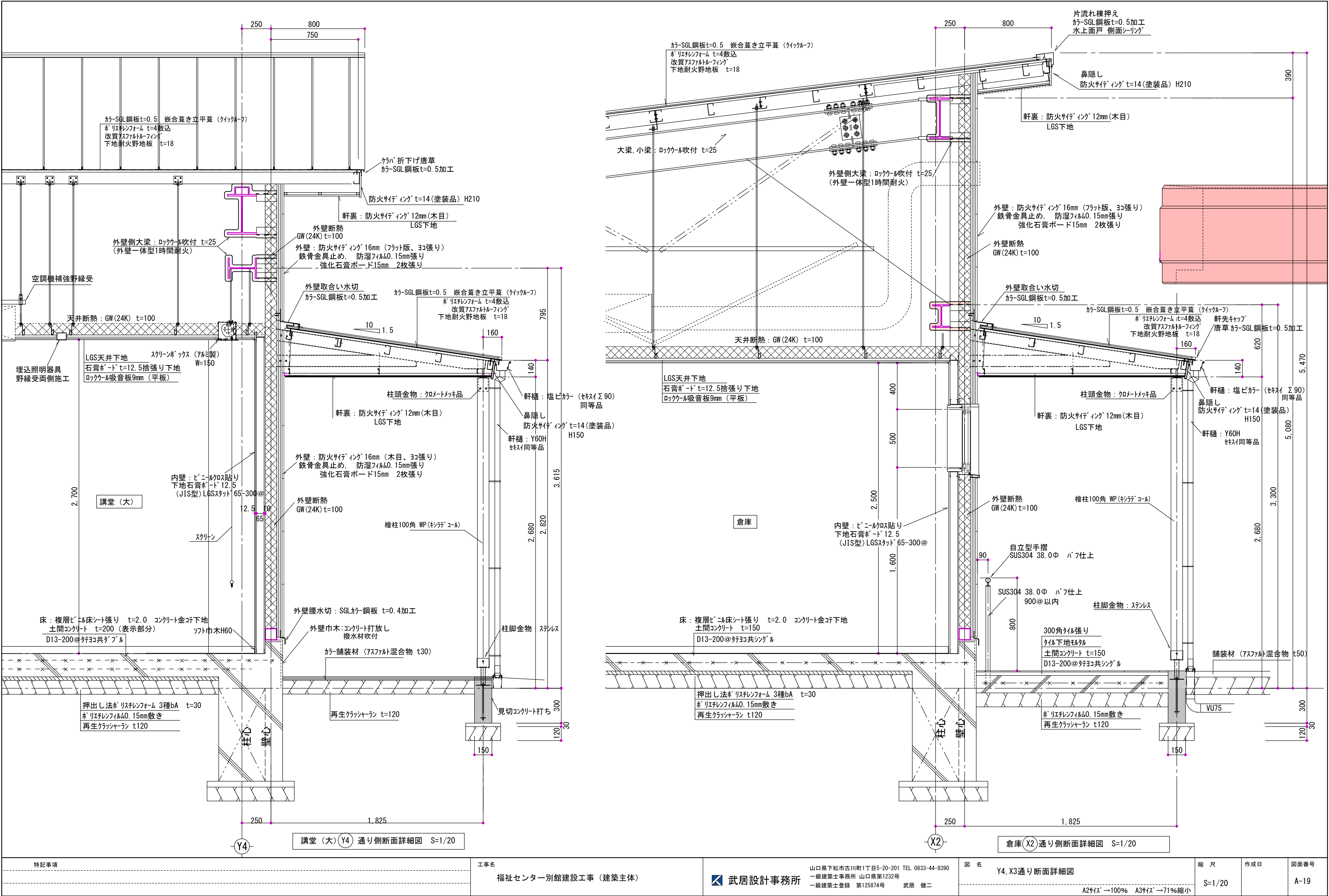


梁間方向断面詳細図 S=1/30

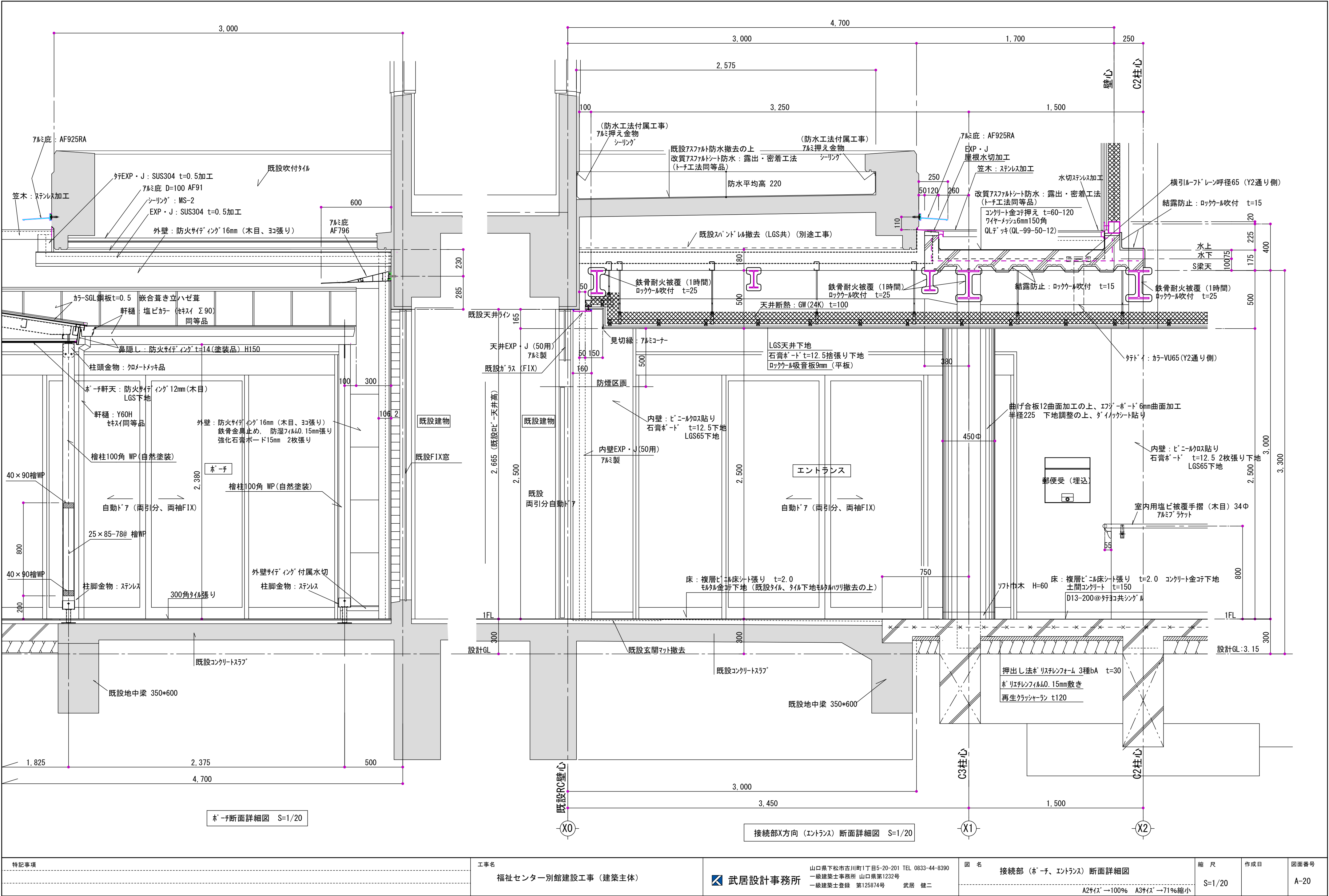
特記事項	工事名	図名	縮尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）	梁間方向断面詳細図	S=1/30		A-17
A2941x → 100% A3941x → 71%縮小					

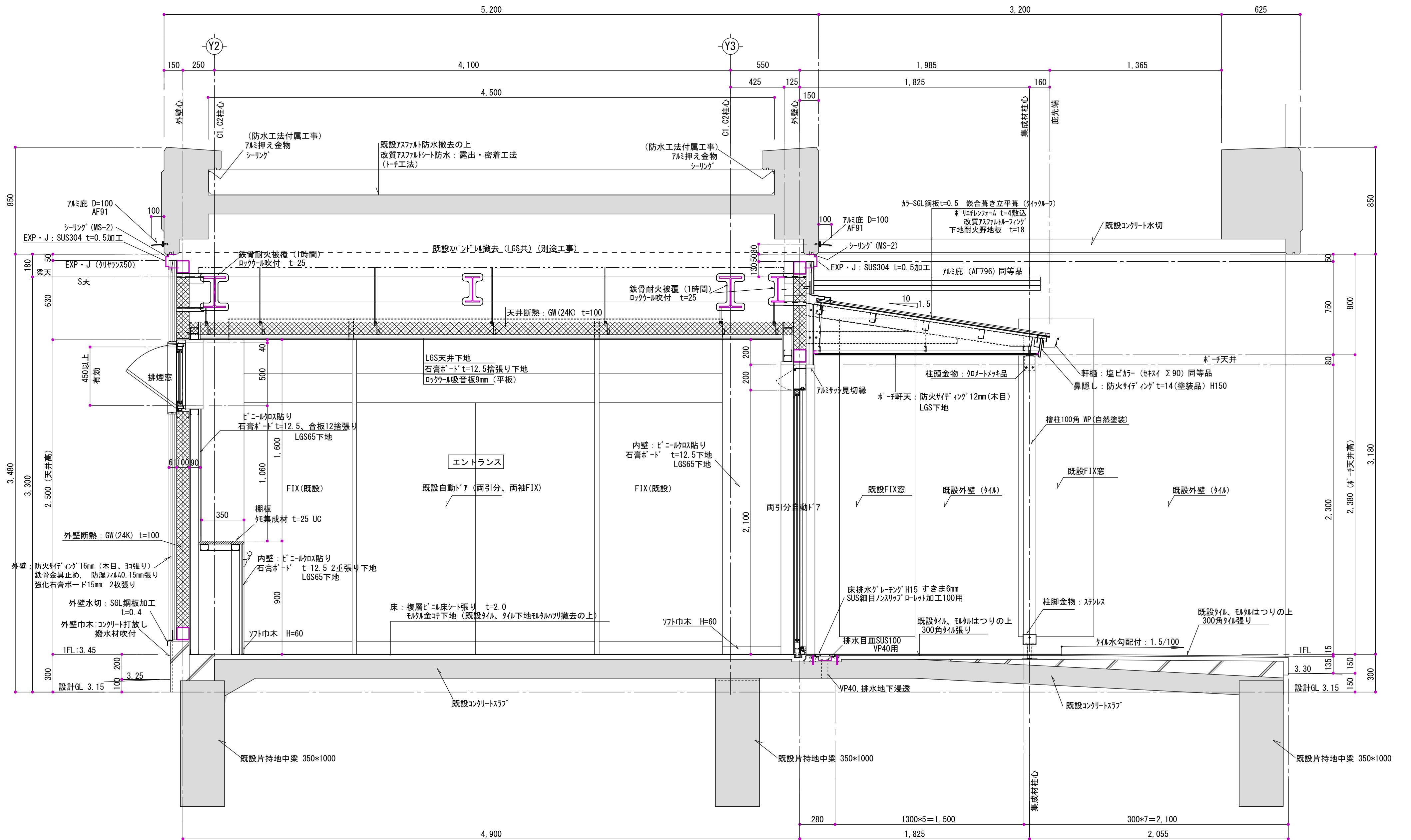


特記事項	工事名	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 武居設計事務所 山口県第1232号 建築士登録 第125874号 武居 健二	図名	縮尺	作成日	図番
	福祉センター別館建設工事（建築主体）		Y1, Y3通り断面詳細図	S=1/20		A-18



特記事項	工事名	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名	縮尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）		Y4, X3通り断面詳細図	S=1/20		A-19
			A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小			





特記事項	工事名	図 名	縮 尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）	山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	接続部Y方向（エントランス）断面詳細図 A2×1/2→100% A3×1/2→71%縮小	S=1/20	A-21

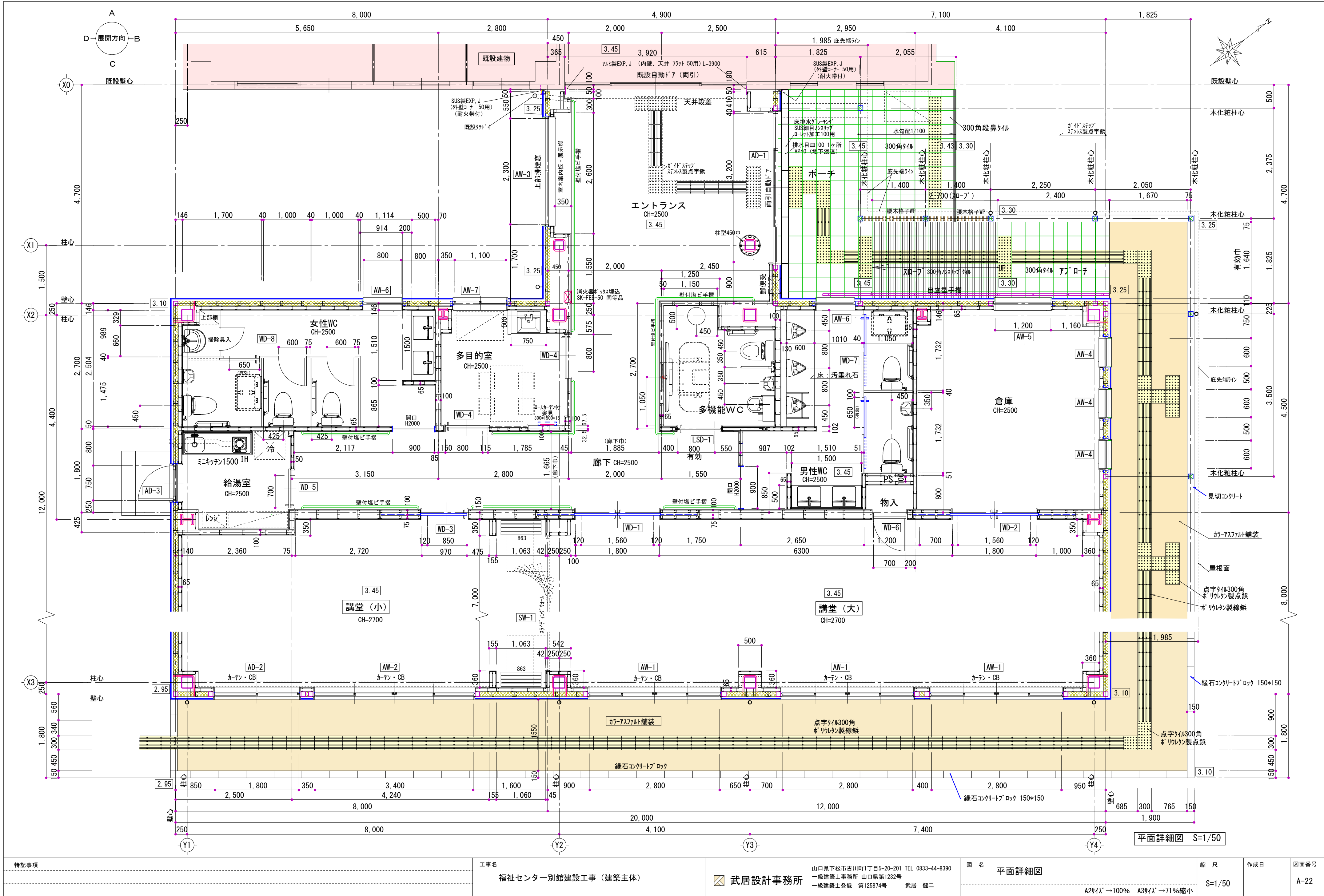
山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390

接続部Y方向（エントランス）断面詳細図

縮尺
 $S=1/20$

作成日

図面番号
A-21



特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

平面詳細図

縮尺

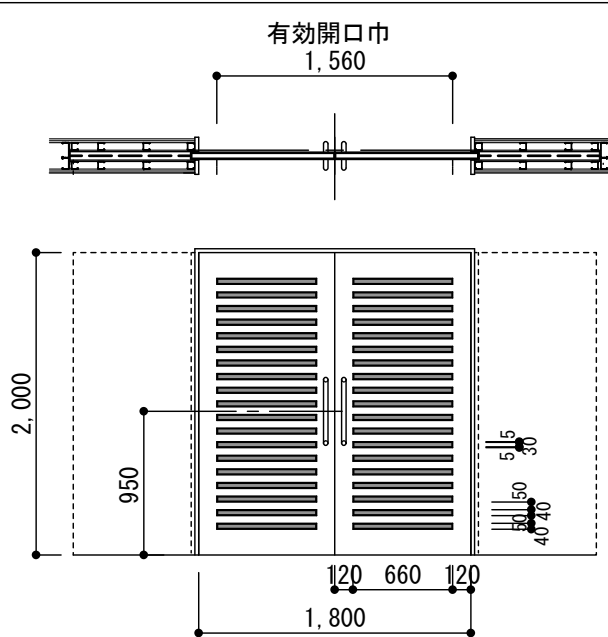
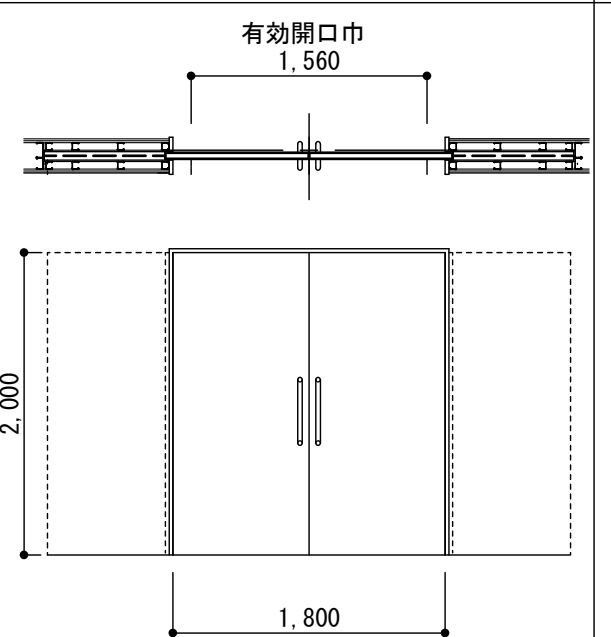
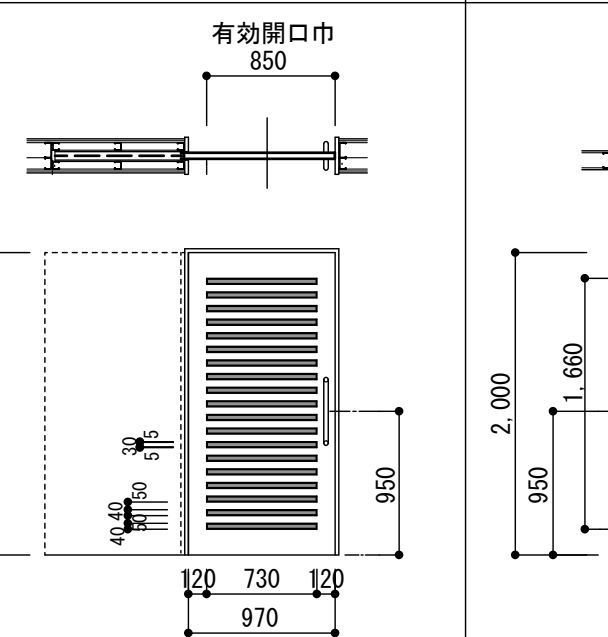
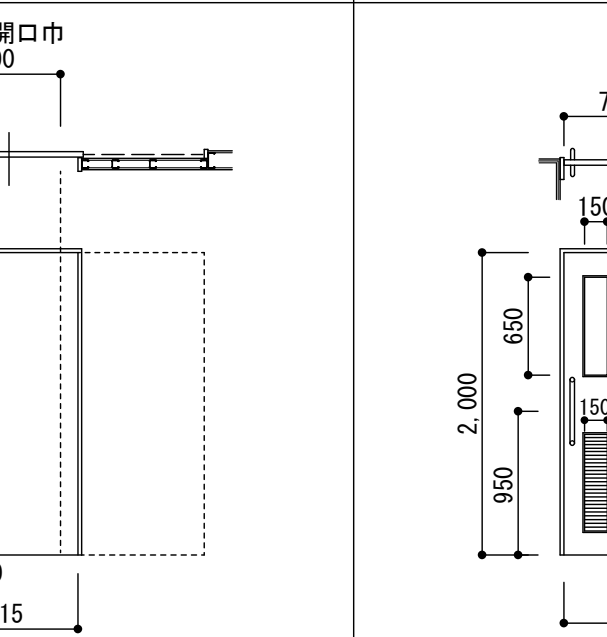
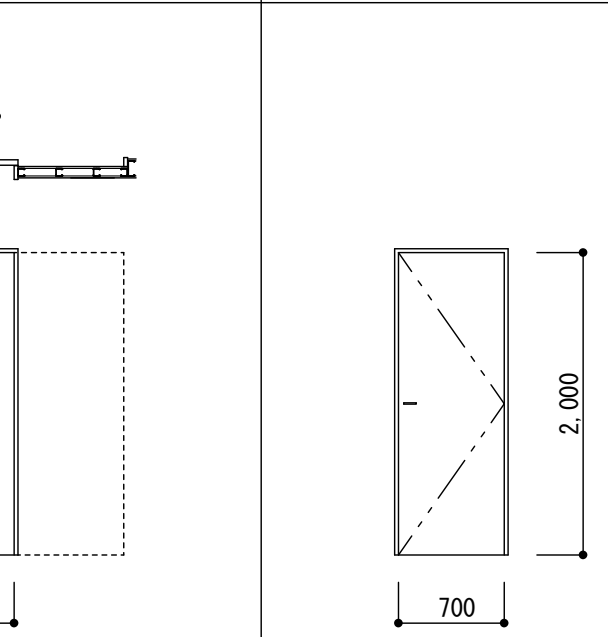
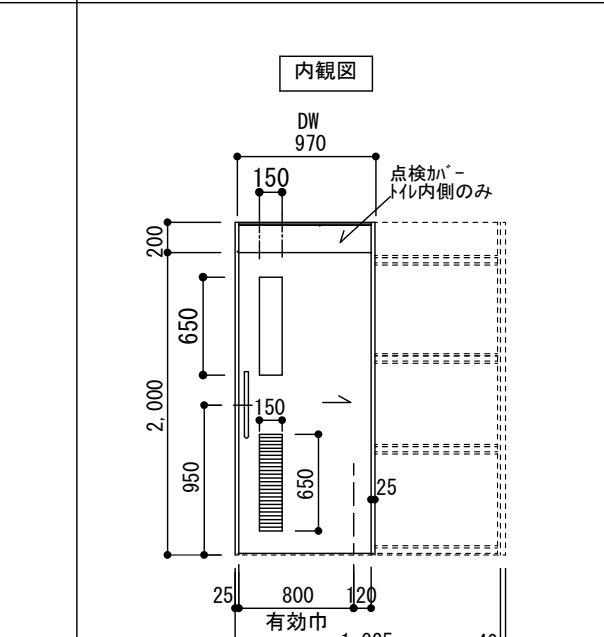
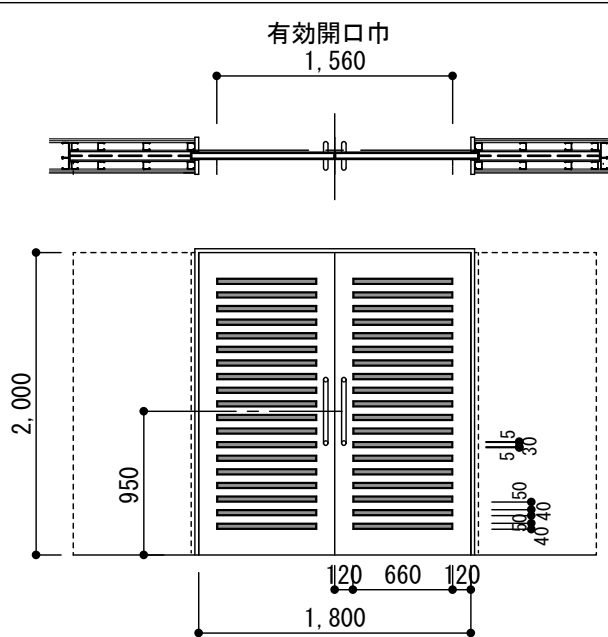
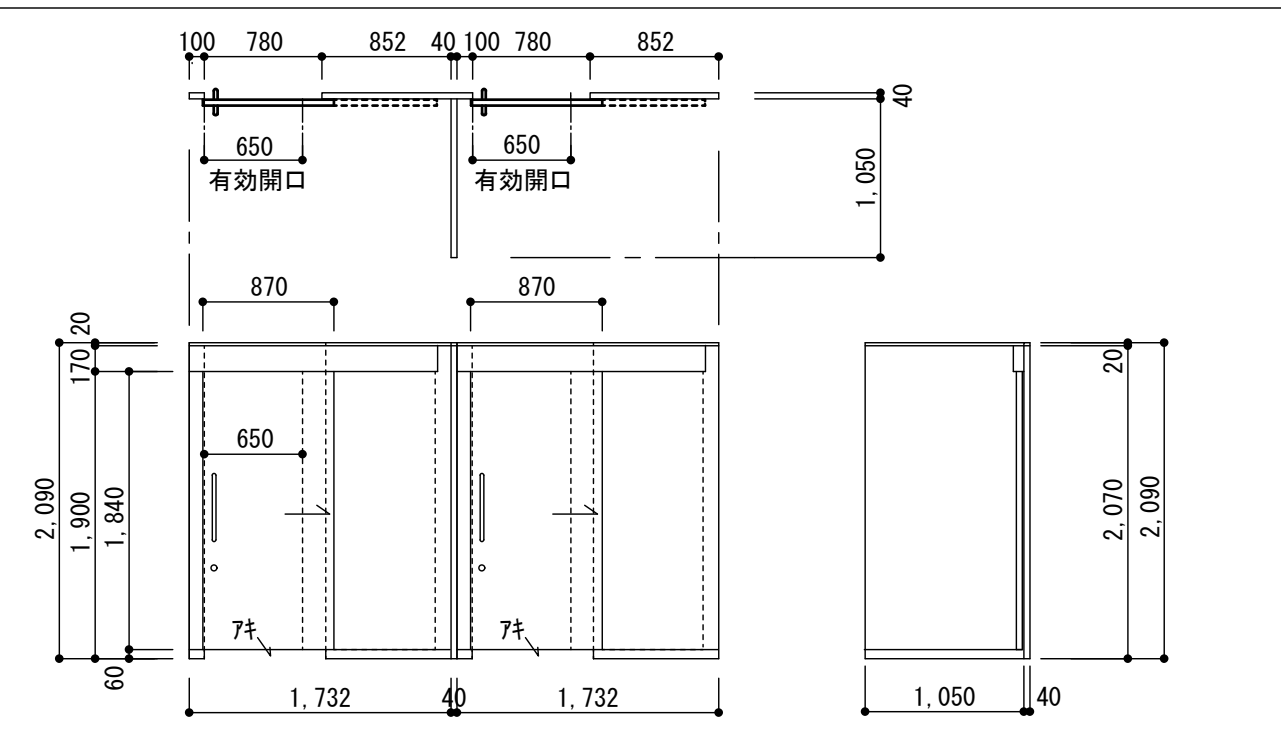
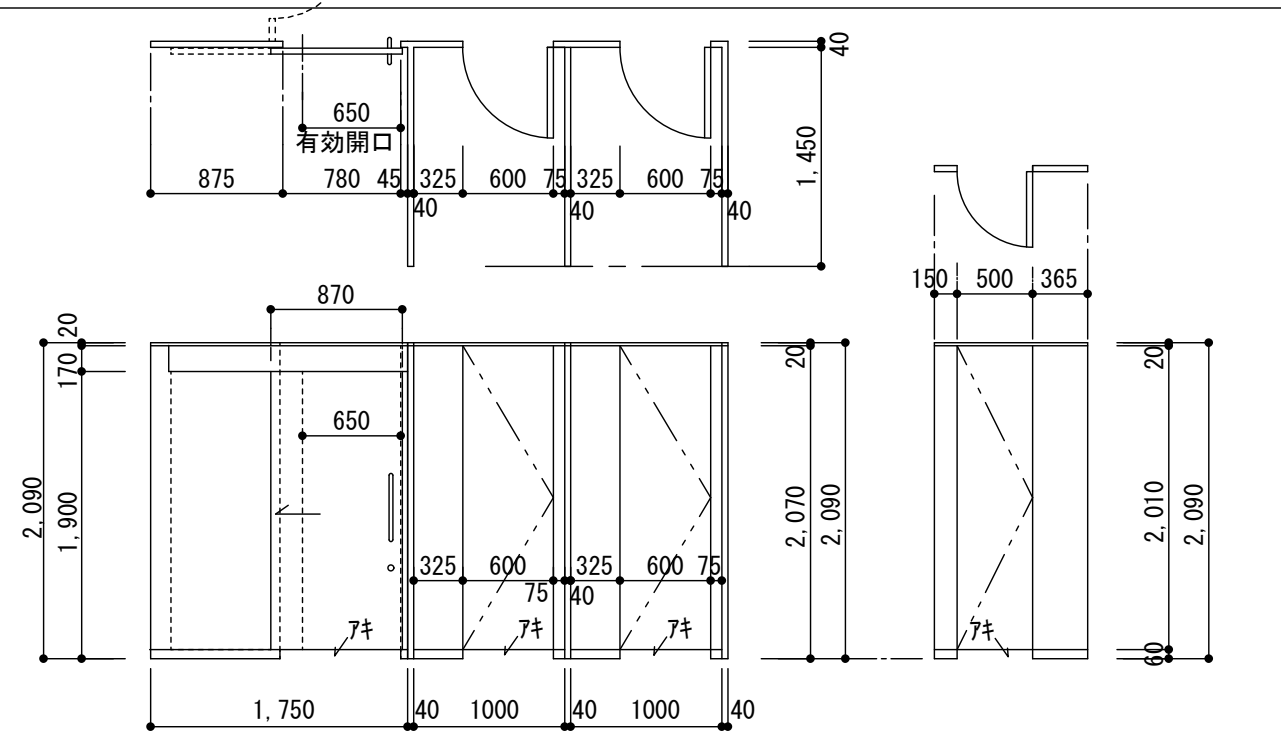
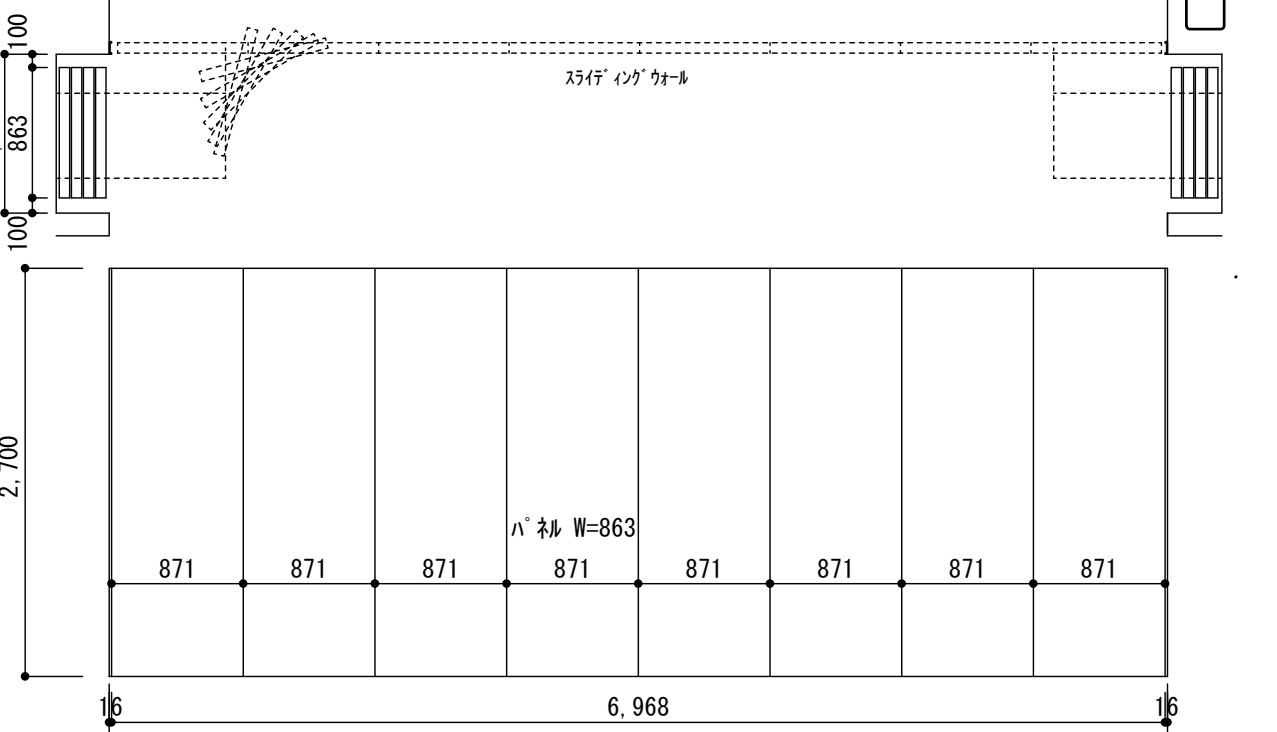
S=1/50

作成日

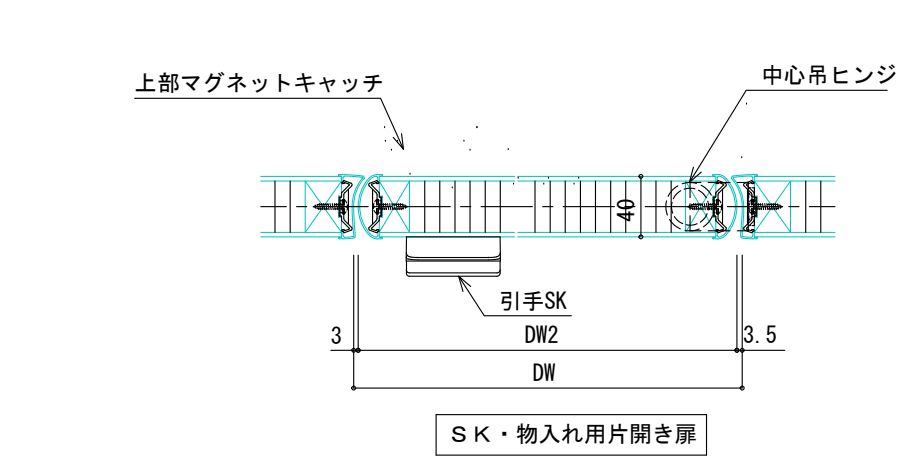
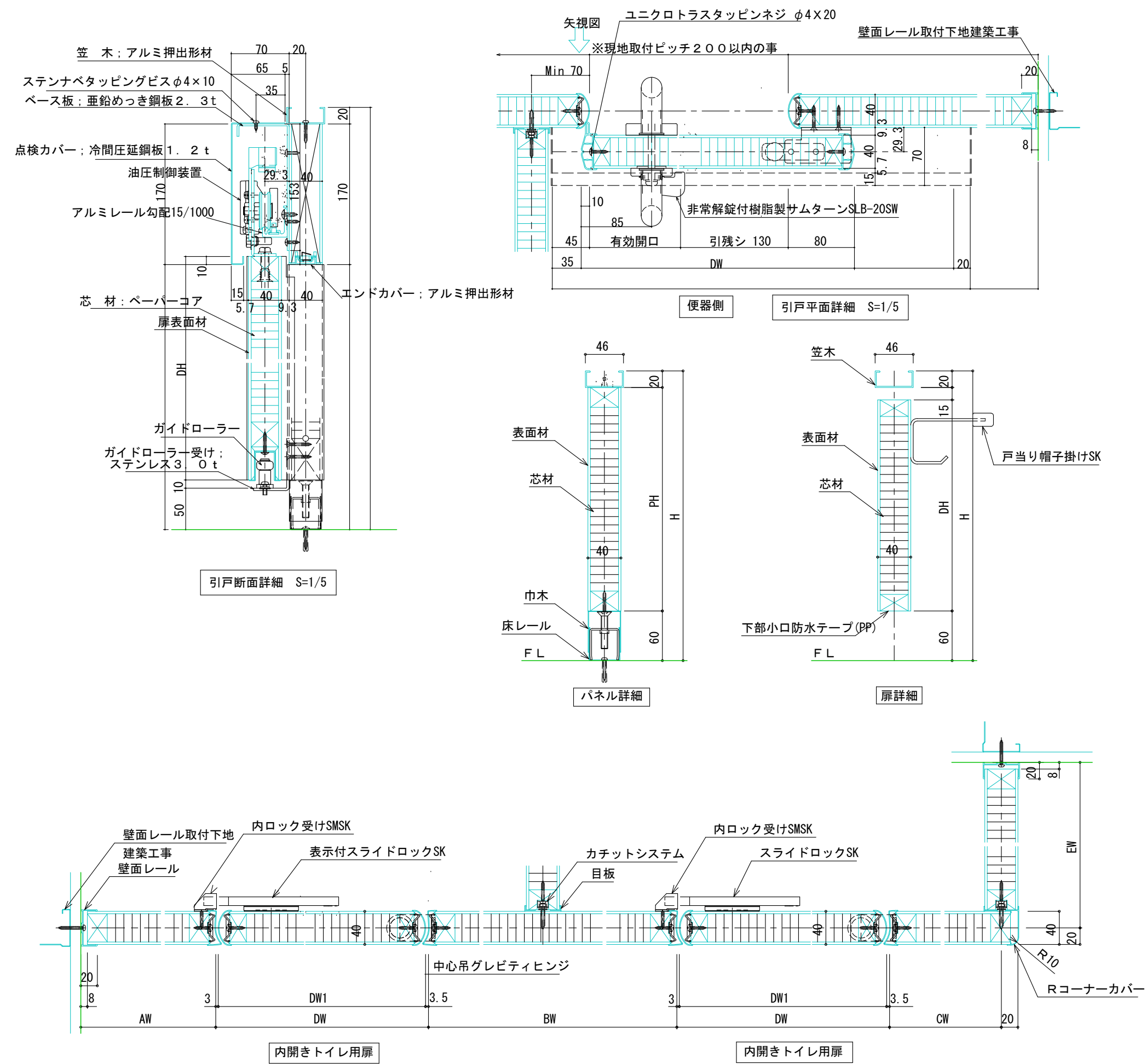
図面番号

A-22

建具記号・数量	AD1	1ヶ所	AD2	1ヶ所	AD3	1ヶ所	AW1	3ヶ所	AW2	1ヶ所	AW3	1ヶ所							
使用室	エントランス		講堂（小）		給湯室		講堂（大）		講堂（小）		エントランス								
寸法・形状																			
	材質・形式 見込		7mm製両引分自動ドア・両袖FIX 見込100		7mm製引違い戸 見込70		7mm製4枚引違い窓 見込70		7mm製4枚引違い窓 見込70		7mm製2連排煙窓 見込70								
	仕 上		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS								
	ガラス		強化ガラス 6mm		ペアガラス（t5+A12+t5 (Low-e) 遮蔽） 飛散防止フィルム貼		ペアガラス（型6+A12+t3 (Low-e) 遮蔽）・腰7mmアルミ 飛散防止フィルム貼		ペアガラス（t5+A12+t5 (Low-e) 遮蔽）		ペアガラス（型6+A12+t3 (Low-e) 遮蔽）								
	金 物		標準金物一式、 クレント、7mm製4方見切縁（下端水切加工）		標準金物一式、 シンダース錠（内側サムターン付） クレント、7mm製4方見切縁（下端水切加工）		ドアチェック・シンダース錠（内側サムターン付）・レバーハンドル ステンレス丁番・7mm製4方見切縁（下端水切加工）		標準金物一式、 クレント、7mm製4方見切縁（下端水切加工）		標準金物一式、 7mm製4方見切縁（下端水切加工）								
備 考		額縁アングル 衝突防止シール貼（両面）		額縁アングル、可動網戸（ステンレス製） 遮音（T-1）		額縁アングル		額縁アングル、可動網戸（ステンレス製） 遮音（T-1）		額縁アングル、可動網戸（ステンレス製） 遮音（T-1）		額縁アングル、排煙オペレーター装置							
建具記号・数量	AW4	3ヶ所	AW5	1ヶ所	AW6	2ヶ所	AW7	1ヶ所											
使用室	倉庫		倉庫		男性WC・女性WC		多目的室												
寸法・形状																			
	材質・形式 見込		7mm製 FIX窓 見込70		7mm製 FIX窓 見込70		7mm製 引違い窓 見込70												
	仕 上		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS		ステンスカラー 額縁：米ツガ集成 自然塗料（工場）OS												
ガラス		ペアガラス（型4+A12+t3 (Low-e) 遮蔽）		ペアガラス（型4+A12+t3 (Low-e) 遮蔽）		ペアガラス（型4+A12+t3 (Low-e) 遮蔽）		ペアガラス（型6+A12+t3 (Low-e) 遮蔽）											
金 物		標準金物一式、 7mm製4方見切縁（下端水切加工）		標準金物一式、 7mm製4方見切縁（下端水切加工）		標準金物一式、 7mm製4方見切縁（下端水切加工）		標準金物一式、 クレント・7mm製4方見切縁（下端水切加工）											
備 考		額縁アングル		額縁アングル		額縁アングル		額縁アングル											
特記事項													工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）		図 名 金属製建具表		縮 尺 S=1/50	作成日	図面番号 A-23
A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小																			

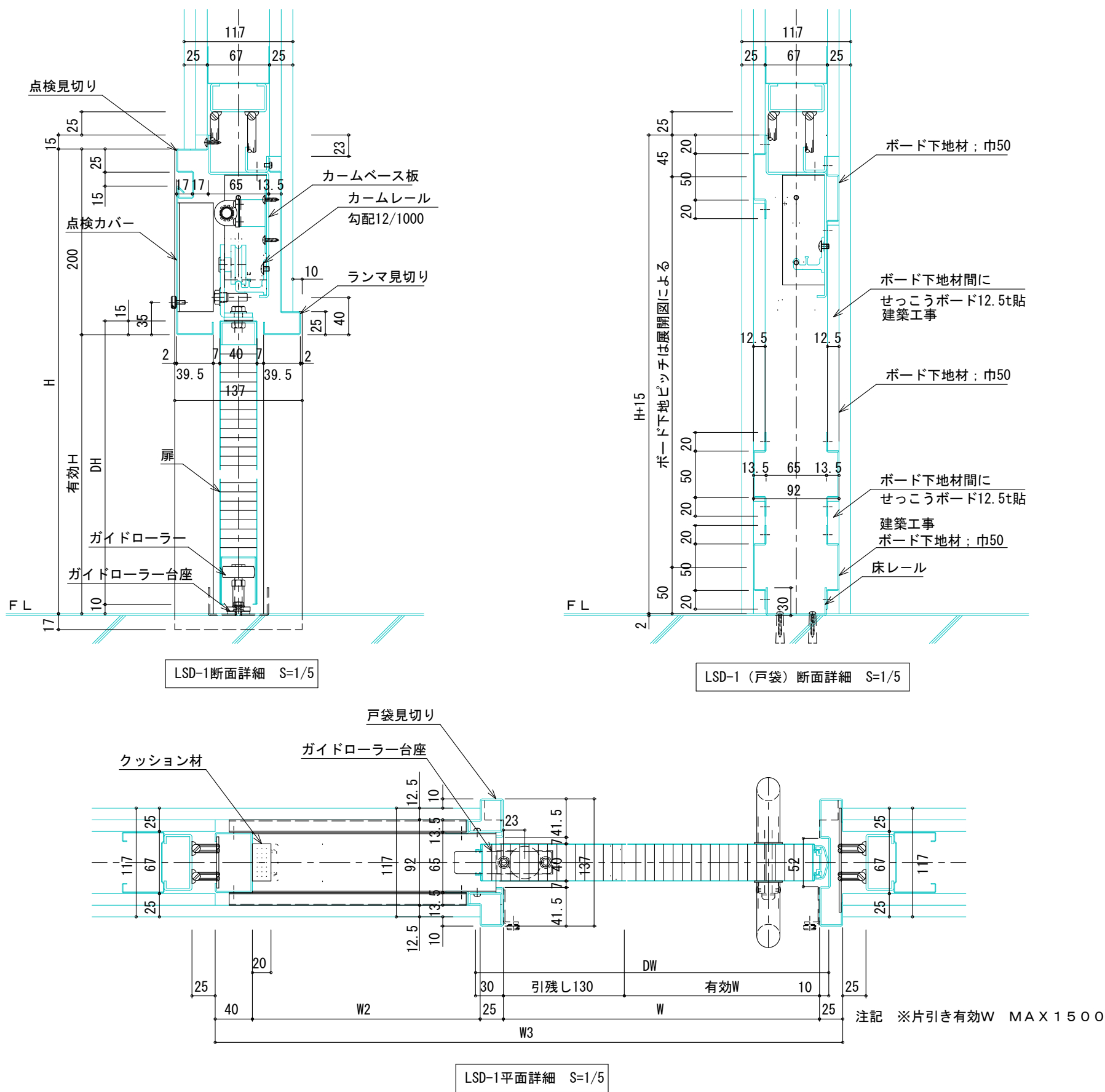
建具記号・数量	WD1	1ヶ所	WD2	1ヶ所	WD3	1ヶ所	WD4	2ヶ所	WD5	1ヶ所	WD6	1ヶ所	LSD1	1ヶ所		
使用室	講堂（大）		講堂（大）		講堂（小）		多目的室		給湯室		倉庫		多目的WC			
寸法・形状																
材質・形式 見込	化粧シート貼りフラッシュ両引分戸（戸袋付） 建具見込40		化粧シート貼りフラッシュ両引分戸（戸袋付） 建具見込40		化粧シート貼りフラッシュ片引戸（戸袋付） 建具見込40		化粧シート貼りフラッシュ片引戸 建具見込36		化粧シート貼りフラッシュ片引戸 建具見込36		化粧シート貼りフラッシュ片開戸 建具見込36		鋼製中板フラッシュ片引戸（壁内蔵） 引戸有効巾800			
仕 上	両面レフィニシート貼 合板厚2.5フラッシュ		（講堂側）Vカット貼り 合板厚2.5フラッシュ （倉庫側）Vカット貼り		両面レフィニシート貼 合板厚2.5フラッシュ		両面レフィニシート貼 合板厚2.5フラッシュ		両面レフィニシート貼 合板厚2.5フラッシュ		（講堂側）Vカット貼り 合板厚2.5フラッシュ （物入側）Vカット貼り		扉：亜鉛めっき鋼板 0.6mm〈焼付塗装〉 枠材：亜鉛めっき鋼板 1.6mm 枠見込250			
ガラス	トメイ5mm（白木枠見付5mm）				トメイ5mm（白木枠見付5mm）		スリガラス 5mm（白木枠見付5mm）		スリガラス 5mm（白木枠見付5mm）				スリガラス5mm 下部給気グリ付（有効面積打合せによる）			
金 物	上吊金物1式（戸先ソフトクロス） 戸当りストップ 引戸用ドアハンドル（ステンレス製鏡面+木目）30Φ L=450		上吊金物1式（戸先ソフトクロス） 戸当りストップ 引戸用ドアハンドル（ステンレス製鏡面+木目）30Φ L=450		上吊金物1式（戸先ソフトクロス） 引戸用ドアハンドル（ステンレス製鏡面+木目）30Φ L=450		床見切ステンレス（フラット） 上吊金物1式（戸先ソフトクロス） 引戸用ドアハンドル（ステンレス製鏡面+木目）30Φ L=450		床見切ステンレス（フラット） 上吊金物1式（戸先ソフトクロス） 引戸用ドアハンドル（ステンレス製鏡面+木目）30Φ L=450		ステンレス丁番 物入取手 マグネットキャッチ		床見切ステンレス（フラット） ドアハンドル ステンレス鏡面L=450 付属金物1式 沓摺：ステンレス 大型レバー式引戸用表示錠			
備 考	廊下側シンナー錠（内側なし） 3方枠：米ツガ集成材 自然塗装（OS）		廊下側シンナー錠（内側なし） 3方枠：米ツガ集成材 自然塗装（OS）		廊下側シンナー錠（内側なし） 3方枠：米ツガ集成材 自然塗装（OS）		廊下側シンナー錠（内側サムターン付） 3方枠：米ツガ集成材 自然塗装（OS） ソフトクロス		3方枠：米ツガ集成材 自然塗装（OS） ソフトクロス		3方枠：米ツガ集成材 自然塗装（OS）		（自閉装置：カムドア同等品）全開ストップ付			
建具記号・数量	WD7				1ヶ所	WD8				1ヶ所	SW1 講堂				1ヶ所	
使用室	男性WC					女性WC					スライディングウォール					
寸法・形状																
材質・形式 見込	トイワース 片引戸（笠木・巾木タイプ） 引戸有効巾650					トイワース2連内開戸（笠木・巾木タイプ） トイワース 片引戸（笠木・巾木タイプ） 引戸有効巾650					スライディングウォール 厚み69mm（LW-60D）（小松ウォール同等品）					
仕 上	表面材：高圧メラミン樹脂化粧板 心材：ベニヤ板 見込40 アール形状エッジ（TB-GPR同等品）					表面材：高圧メラミン樹脂化粧板 心材：ベニヤ板 見込40 アール形状エッジ（TB-GPR同等品）					亜鉛めっき鋼板 0.5mm（焼付塗装） 下張り：せっこうボード 12.5mm ガラスウール充填 召合せ：固定ゴム嵌合					
ガラス																
金 物	ステンレス鏡面ハンドルφ25 L=450 非常解錠付樹脂製サムターン ハンガードア（油圧制御式）ガイドレール：アルミ					スライドボルト：ステンレス（内開き用、表示付） グレティ化ピン（中心吊） 戸当りフック					ステンレス鏡面ハンドルφ25 L=450 非常解錠付樹脂製サムターン ハンガードア（油圧制御式）ガイドレール：アルミ 物入用取手 戸当り					
備 考	笠木：アルミ形材H20 点検カバー：焼付鋼板 巾木：ステンレスH60（アルミ形材止め）					笠木：アルミ形材H20 付属金物1式 巾木：ステンレスH60（アルミ形材止め）					点検カバー：焼付鋼板 L型手摺補強 2ヶ所					
※各建具共に製作図を作成の事。																
特記事項					工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）					図 名 木製・LSD・トイワース建具表				縮 尺 S=1/50	作成日	図面番号 A-24
					山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二					A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小						

トイレブース詳細図

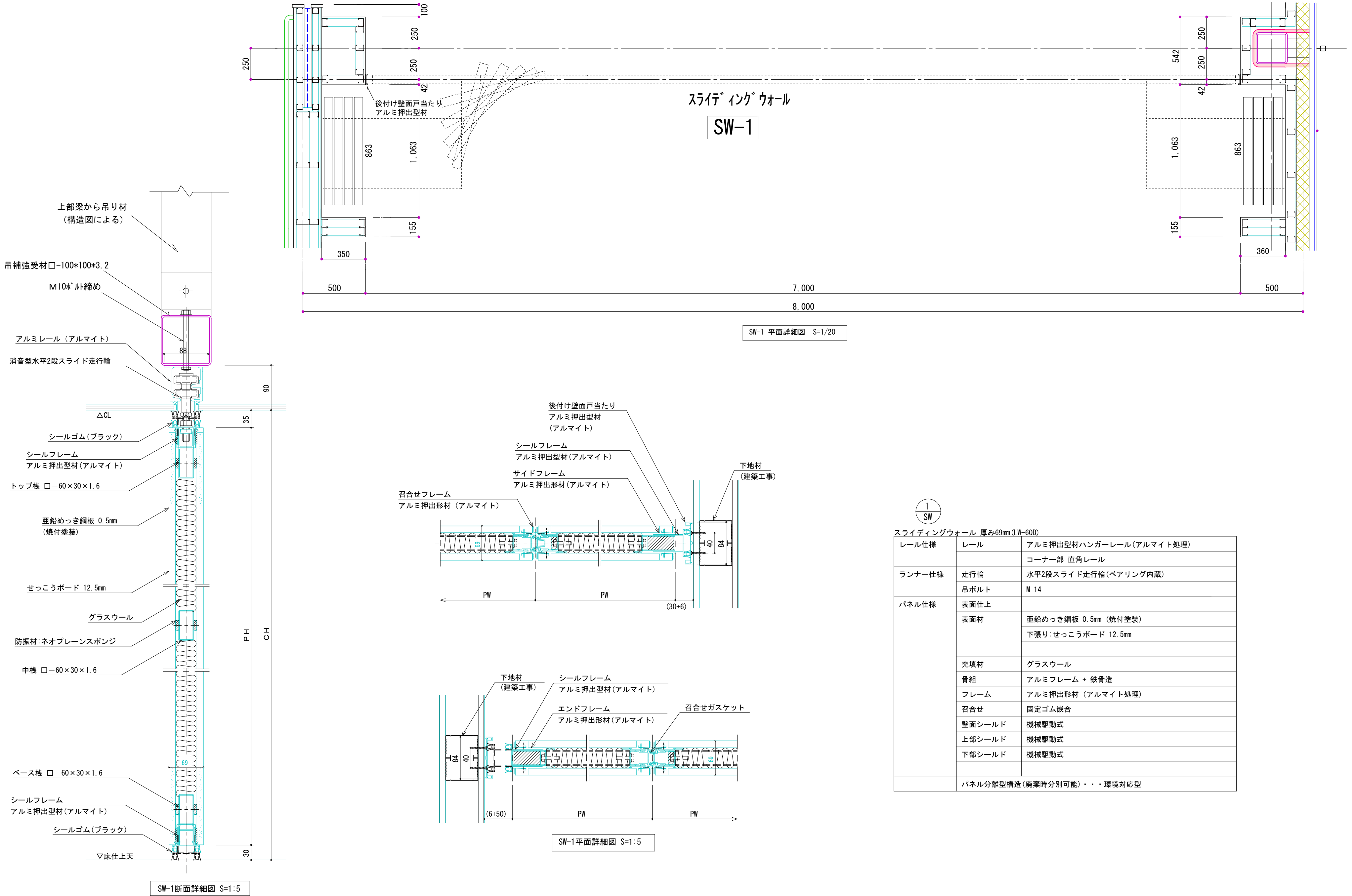


◇仕様表 (小松ウオール サニティTB-GPRタイプ同等品)		
項 目	部 材	材 料 (板厚mm)
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板 (下地: MDF)・ポリエステル樹脂化粧板
	芯 材	ペーパーコア
	目板/戸当り	アルミ押出形材 <アルマイトクリア処理仕上>
付属品	巾木/床レール	ステンレス 0.8mm <ヘアライン仕上>
	笠木	アルミ押出形材 <アルマイトクリア処理仕上>
	壁面レール/コーナーカバー	アルミ押出形材 <アルマイトクリア処理仕上>
	ヒンジ	中心吊グレティヒンジ
	ロック	スライドロックSK
その他金物	戸当り帽子掛けSK	

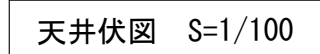
LSD-1詳細図

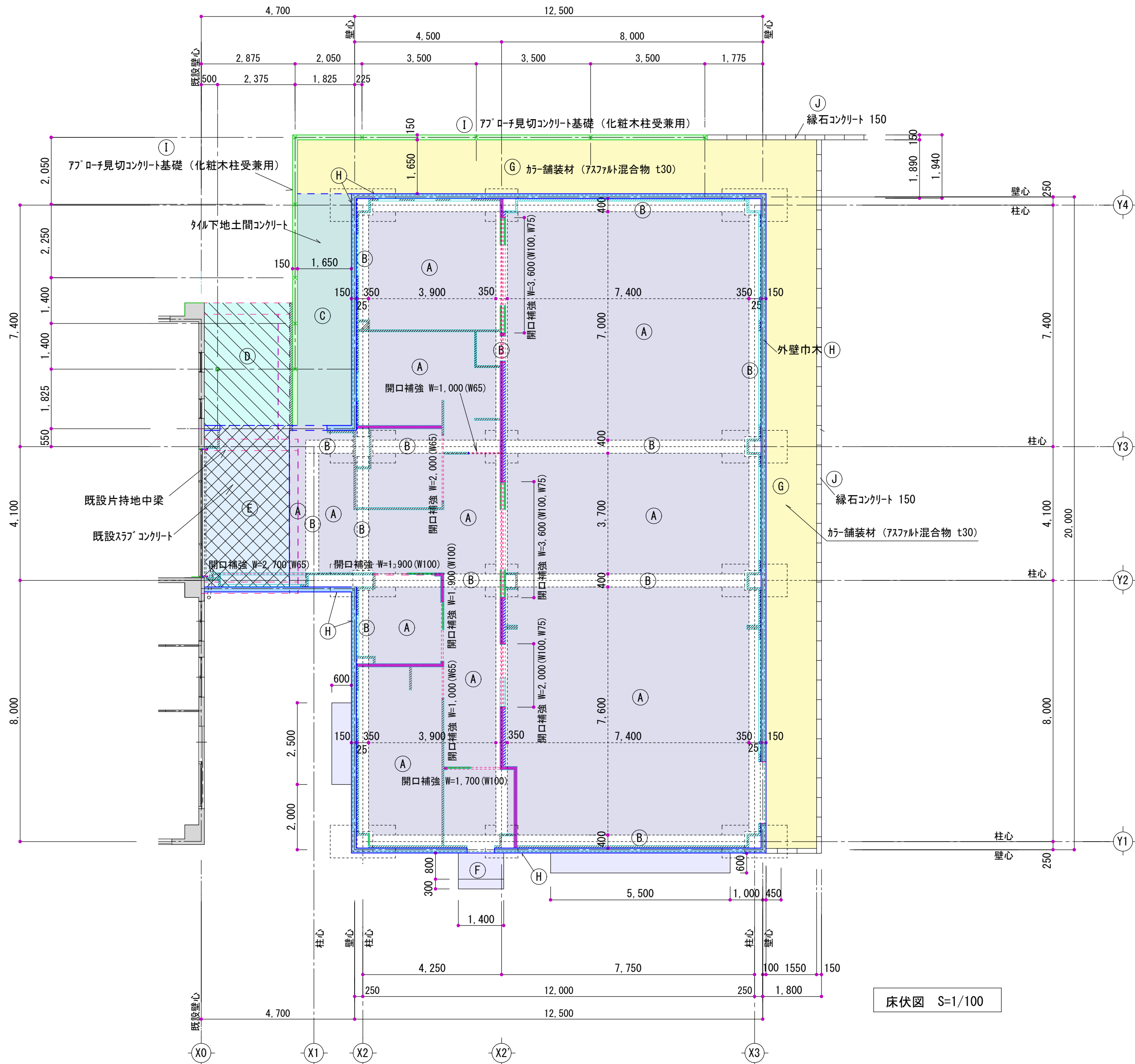


◇仕様表 (小松ウオール カームドアLGS壁内蔵タイプ同等品)		
項 目	部 材	材 料 (板厚mm)
駆動装置	駆動方式	傾斜レール 制御装置エアダンパ
	カームベース板	亜鉛めっき鋼板 2.3mm <防錆塗装仕上>
	カームレール	アルミ押出形材 <アルマイト処理仕上>
	ハンガー戸車	樹脂製戸車 ブラケットはめつき仕上
枠	先付け枠	亜鉛めっき鋼板 1.6mm <焼付塗装仕上>
	点検カバー・見切り材	亜鉛めっき鋼板 1.2mm <焼付塗装仕上>
	戸袋部ボード下地材	亜鉛めっき鋼板 1.2mm
扉	パネル表面材	亜鉛めっき鋼板 0.6mm <焼付塗装仕上>
	芯 材	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル <ブラック色>
金物	ロック	美和 POSTE錠/ゴール AD錠
	取 手	ステンレス鏡面ハンドルφ25 L=450
切窓ガラリ	切窓・ガラリ	アルミ押出形材 <焼付塗装仕上>
	ガラス押え	ポリ塩化ビニル 対応ガラス厚3~6mm<グレー色>

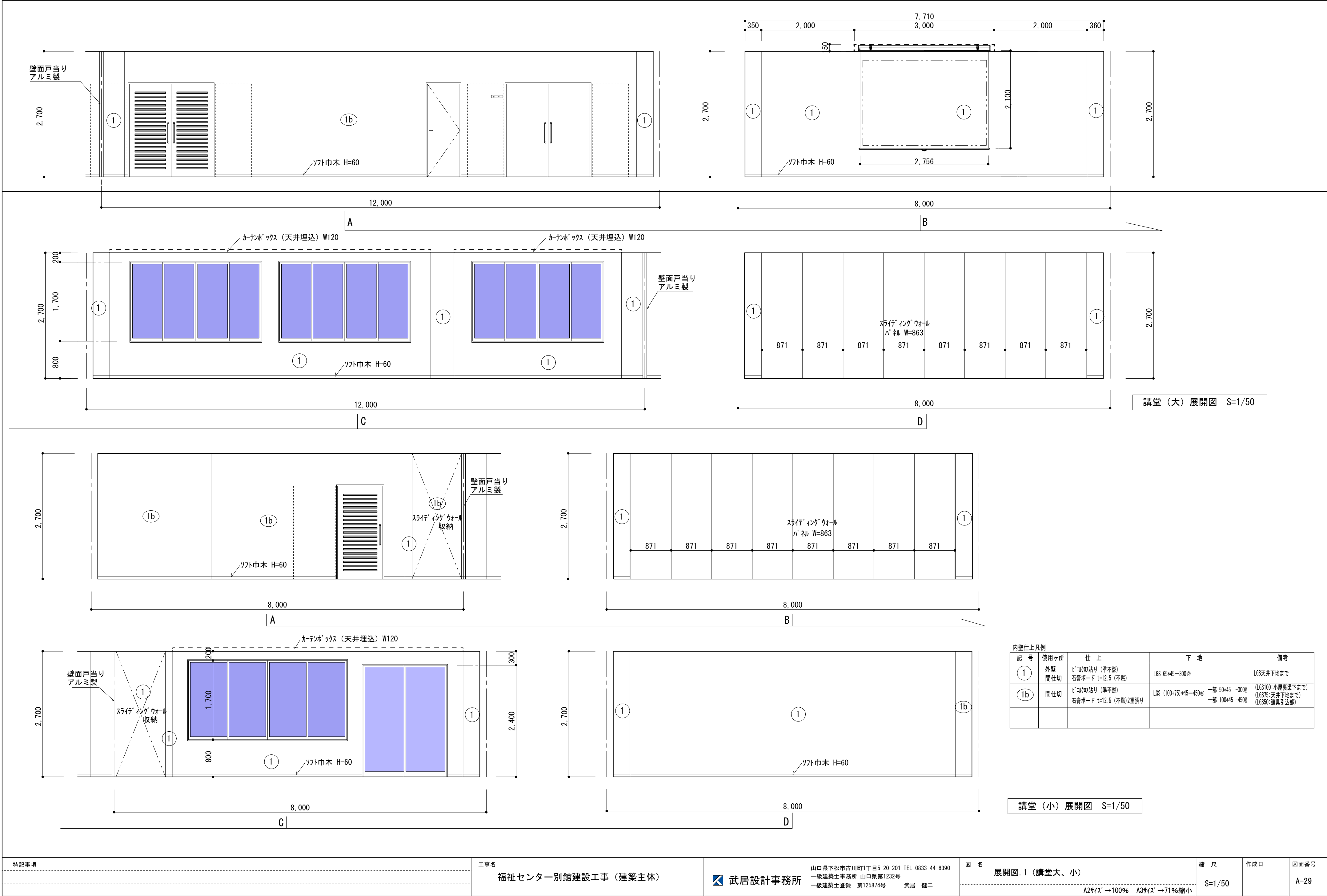


1 SW スライディングウォール 厚み69mm (LW-60D)		
レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール (アルマイト処理)
		コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	水平2段スライド走行輪 (ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M 14
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	垂鉛めっき鋼板 0.5mm (焼付塗装)
		下張り: せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール
		骨組
	フレーム	アルミ押出型材 (アルマイト処理)
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
パネル分離型構造 (廃棄時分別可能)・・・環境対応型		





凡 例	
(A)	コンクリート金切り押え 土間下 ホ' リーチン防湿シート敷込の上 押出法ホ' リスチンフォーム3種bA t30敷込
(B)	コンクリート金切り押え (梁上打増しコンクリート)
(C)	タイル下地モルタルを示す
(D)	タイル下地モルタルを示す 既設コンクリートスラブ' の上 現既設タイル及びモルタル撤去の上
(E)	モルタル金切り下地を示す 既設コンクリートスラブ' の上 現既設タイル及びモルタル撤去の上
(F)	外部犬走りを示す 撥水材塗布
(G)	カー舗装材 (アスファルト混合物 t30) 再生クワッシャーラン t=120
(H)	外壁巾木 (設計GL+400)
(I)	77° ローチ見切コンクリート基礎 (化粧木柱受兼用)
(J)	緑石コンクリート (見切) 150*150*600
	LGSスリット' W65を示す
	LGSスリット' W100を示す
	LGSスリット' W75を示す
	LGSスリット' W50を示す
	スリット' W65開口補強 C-65*30*10*2.3
	スリット' W75開口補強 C-75*30*10*2.3
	スリット' W100開口補強 C-100*30*10*2.3



特記事項

福祉センター別館建設工事 (建築主体)

工事名

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

展開図.1 (講堂大、小)

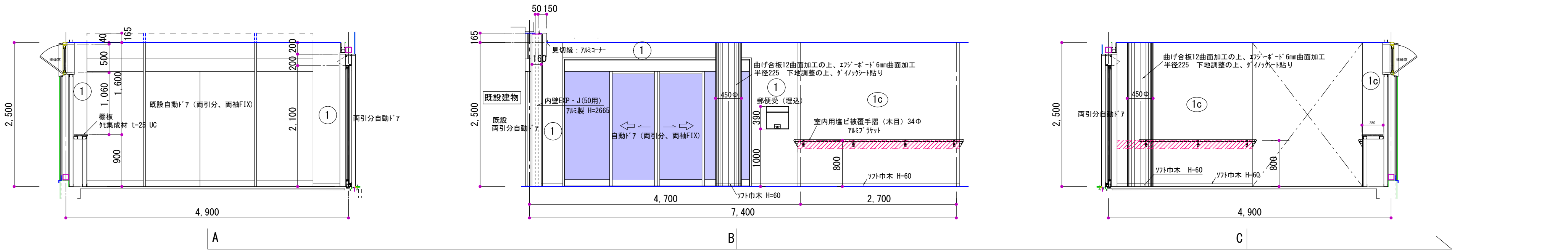
縮尺

A2サイズ →100% A3サイズ →71%縮小

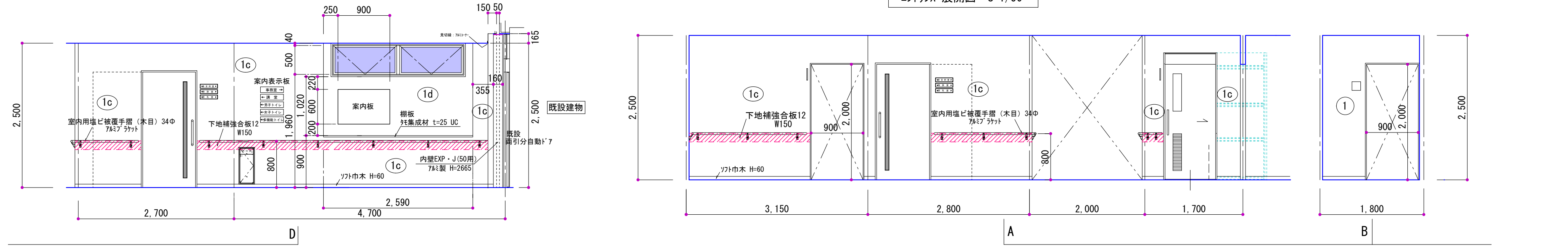
作成日

図面番号

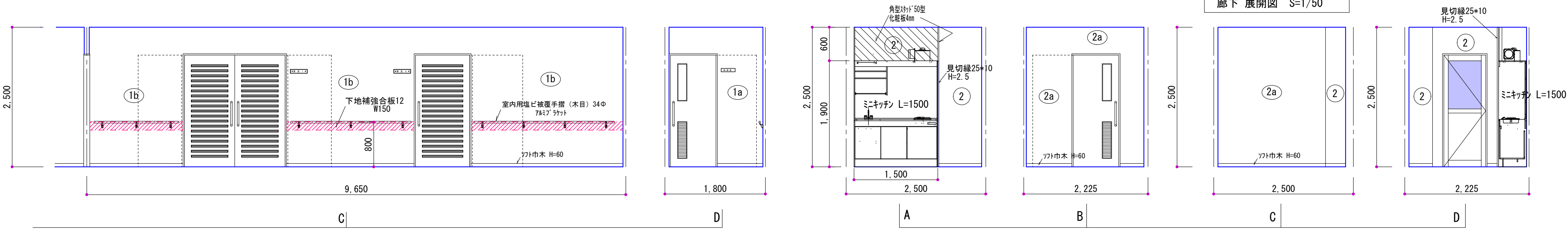
A-29



エントランス 展開図 S=1/50

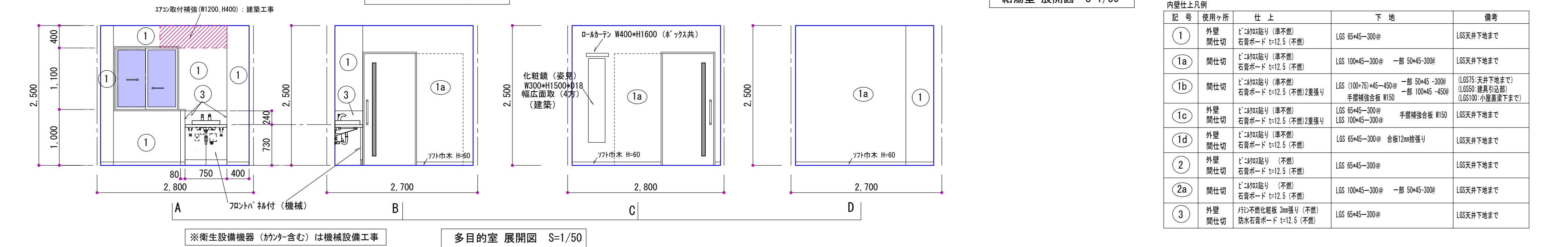


廊下 展開図 S=1/50



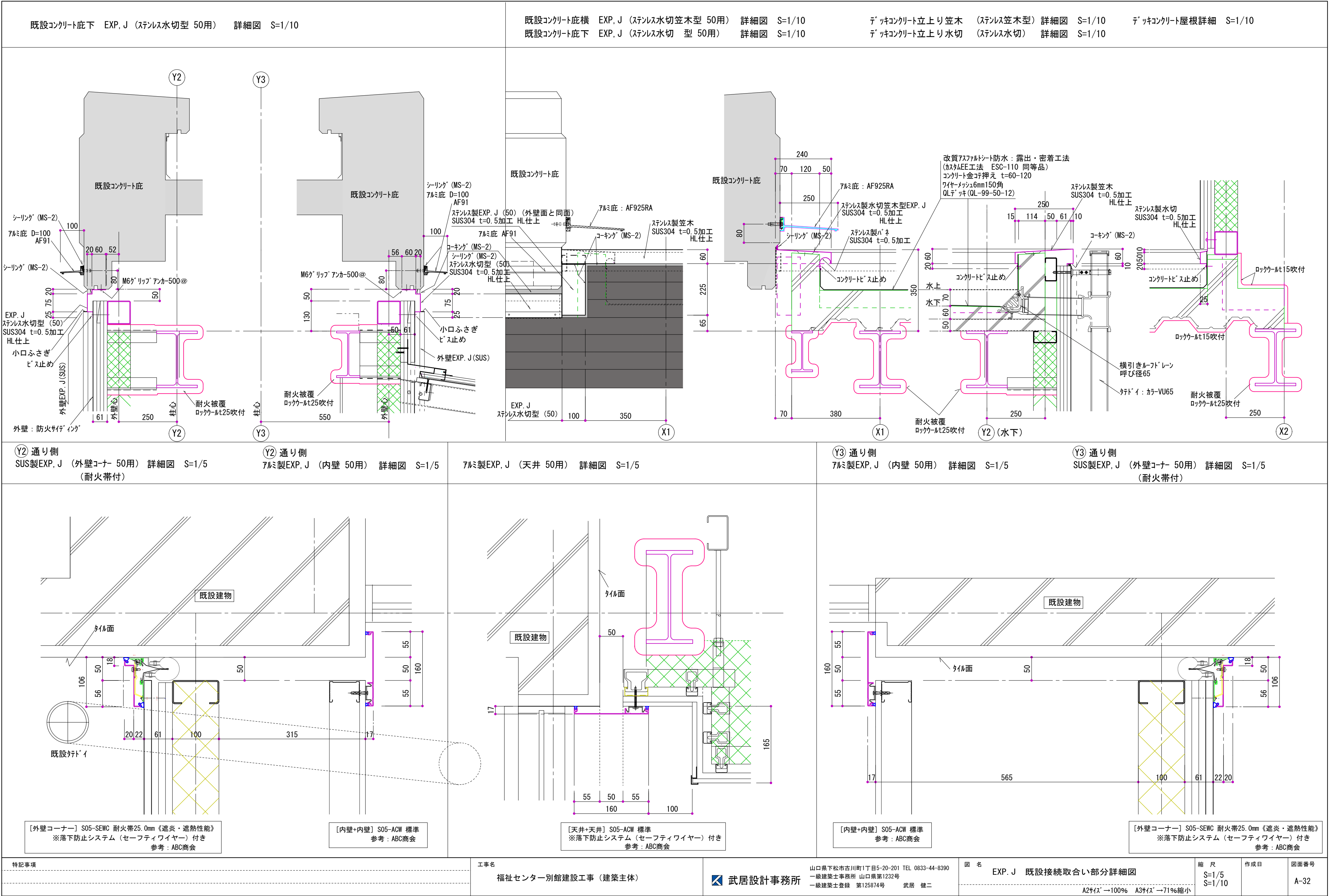
廊下 展開図 S=1/50

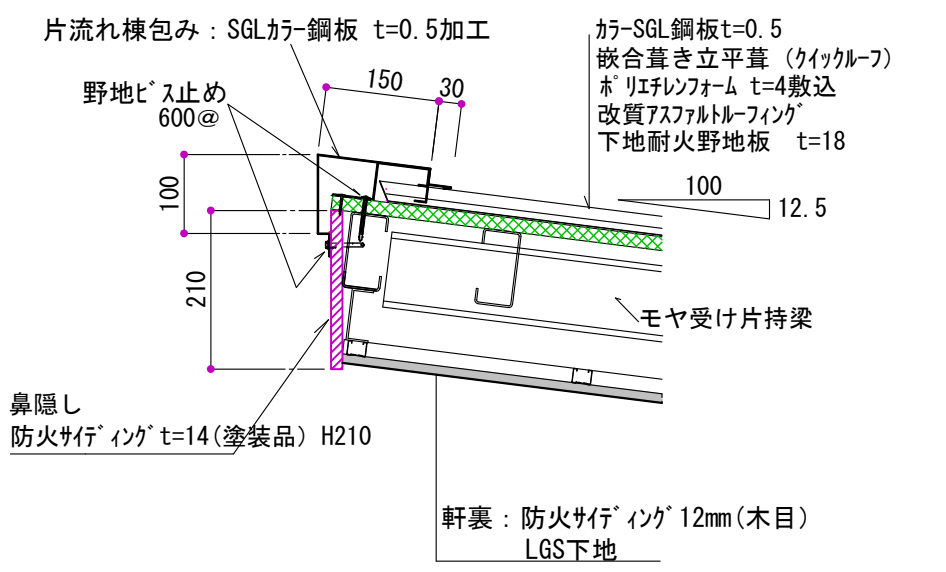
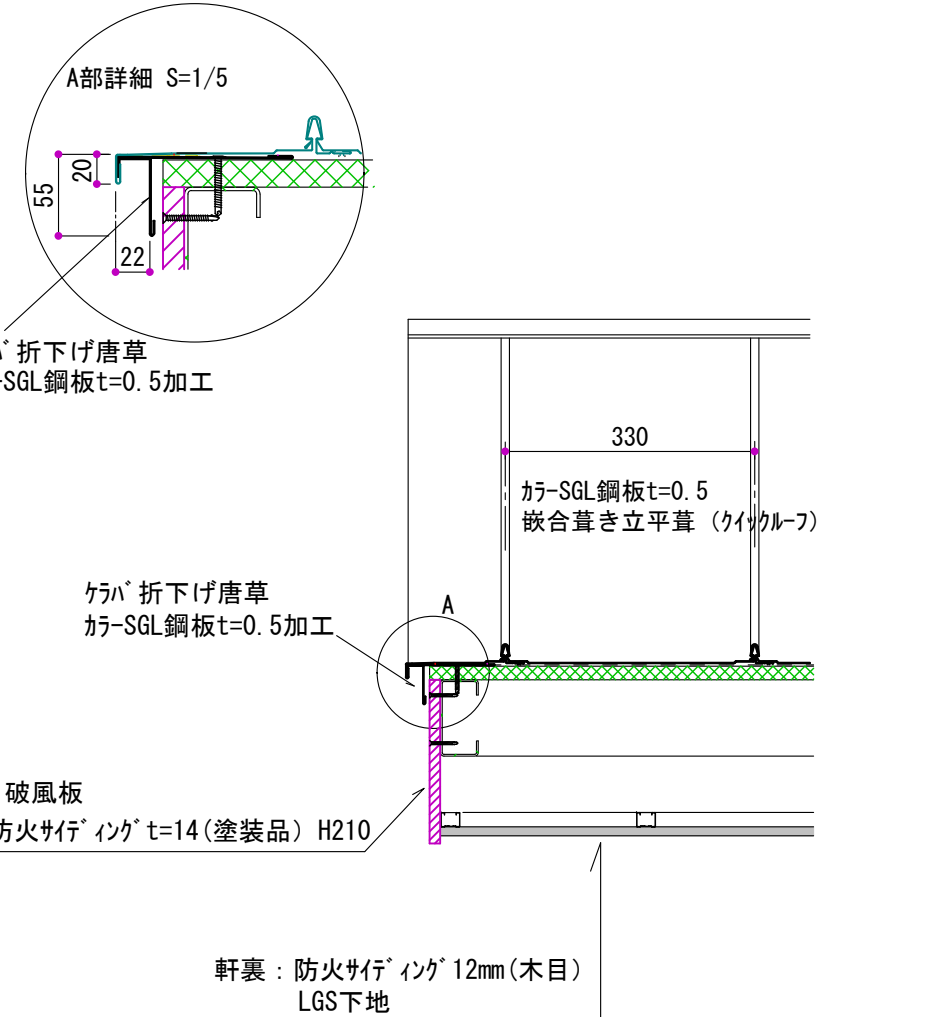
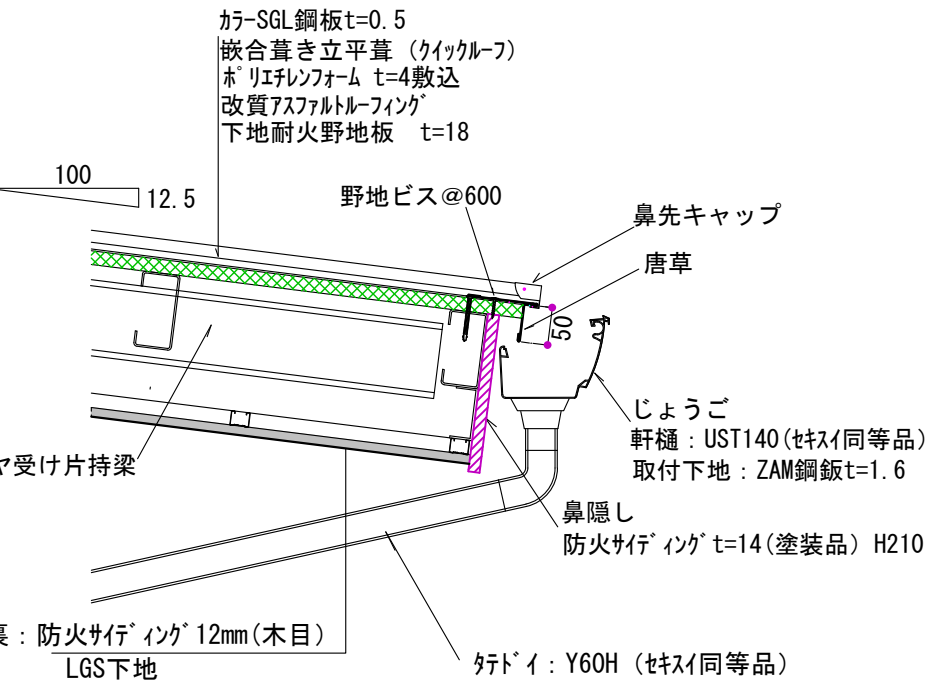
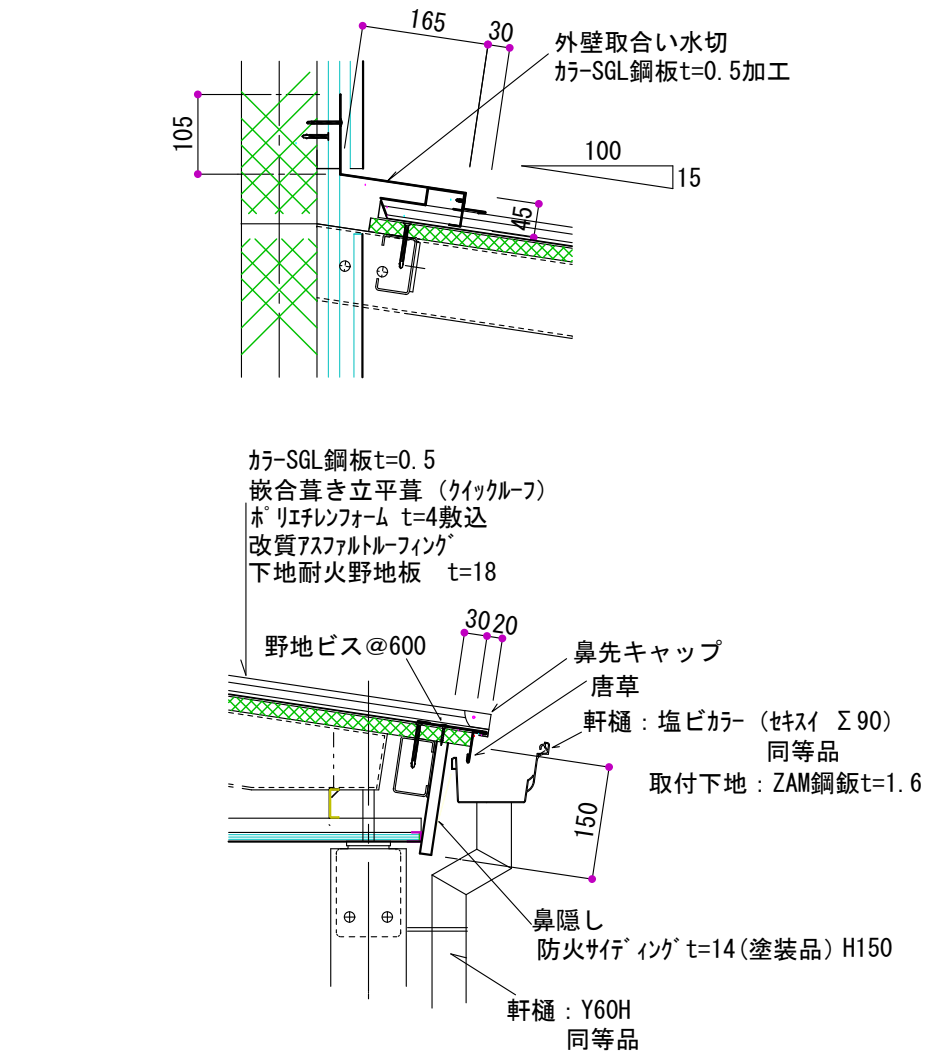
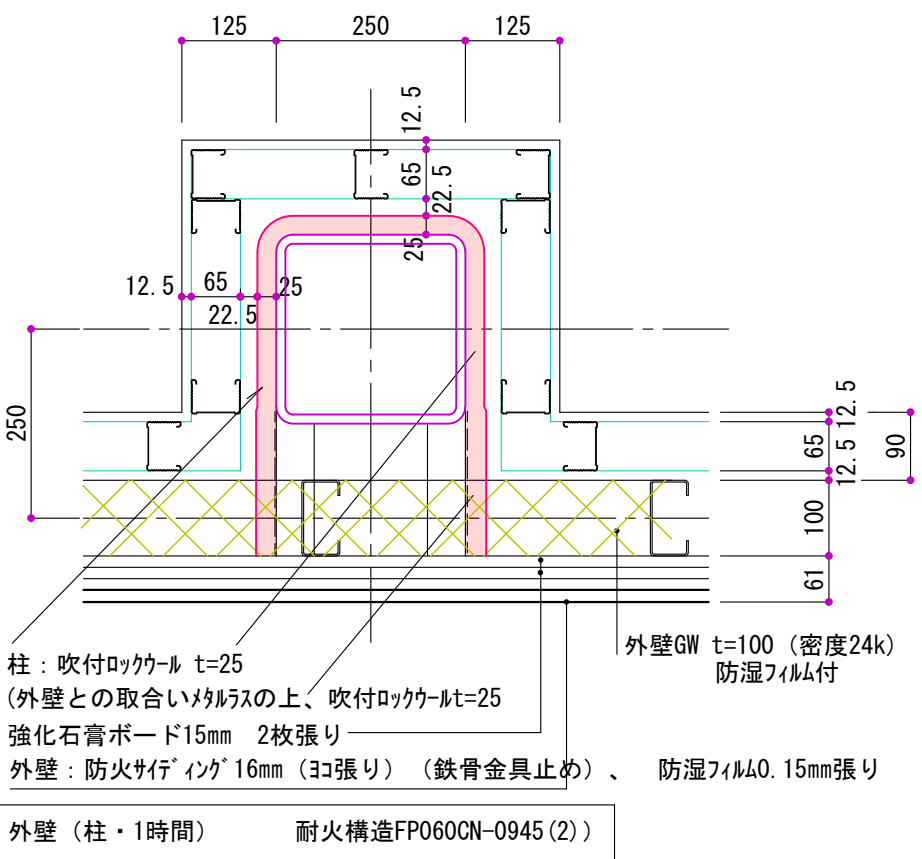
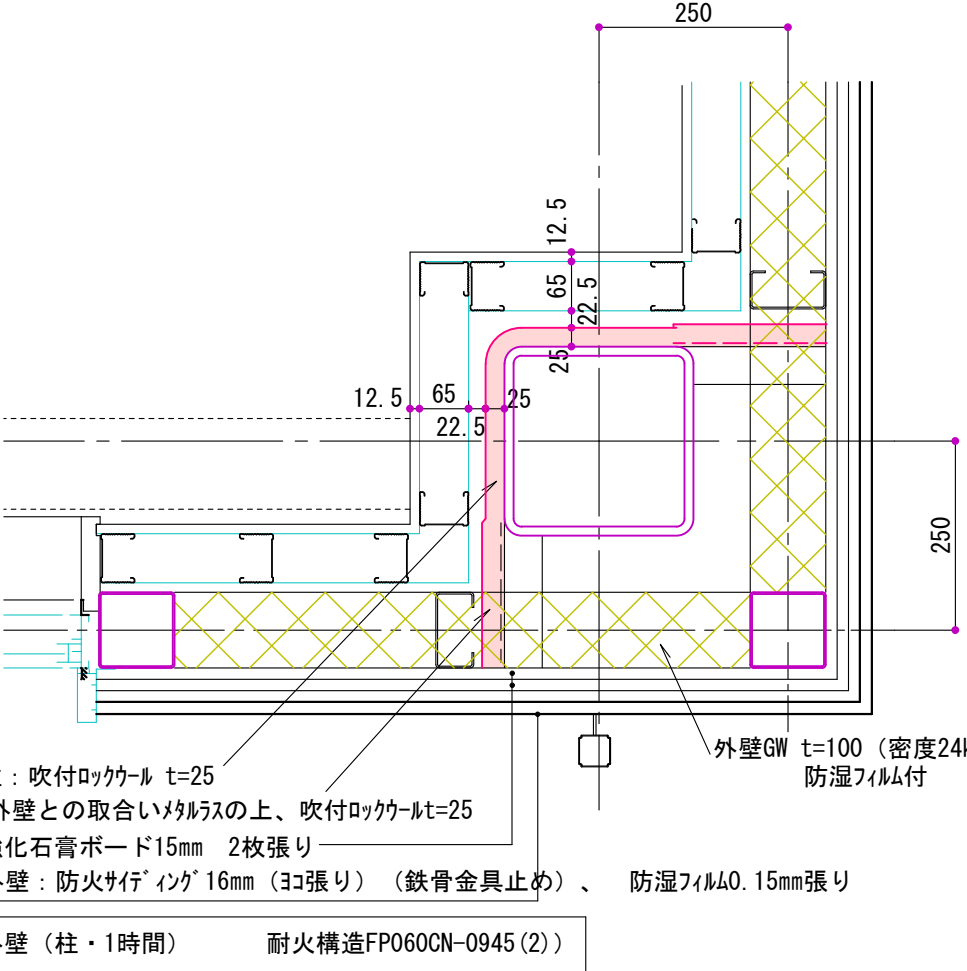
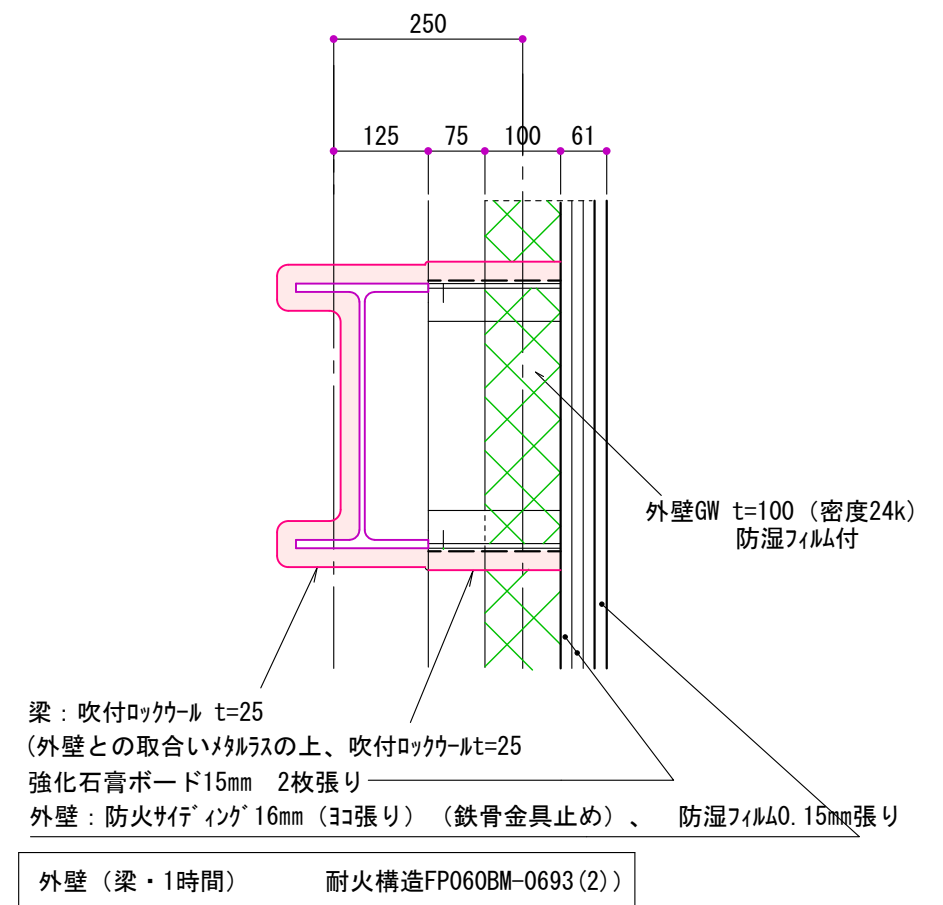
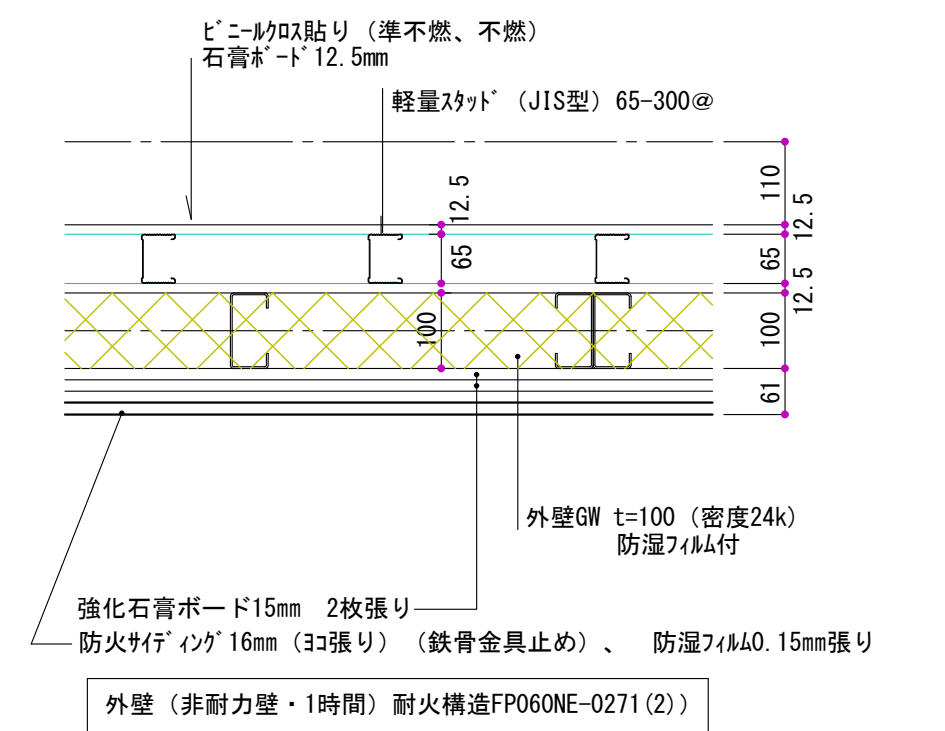
給湯室 展開図 S=1/50

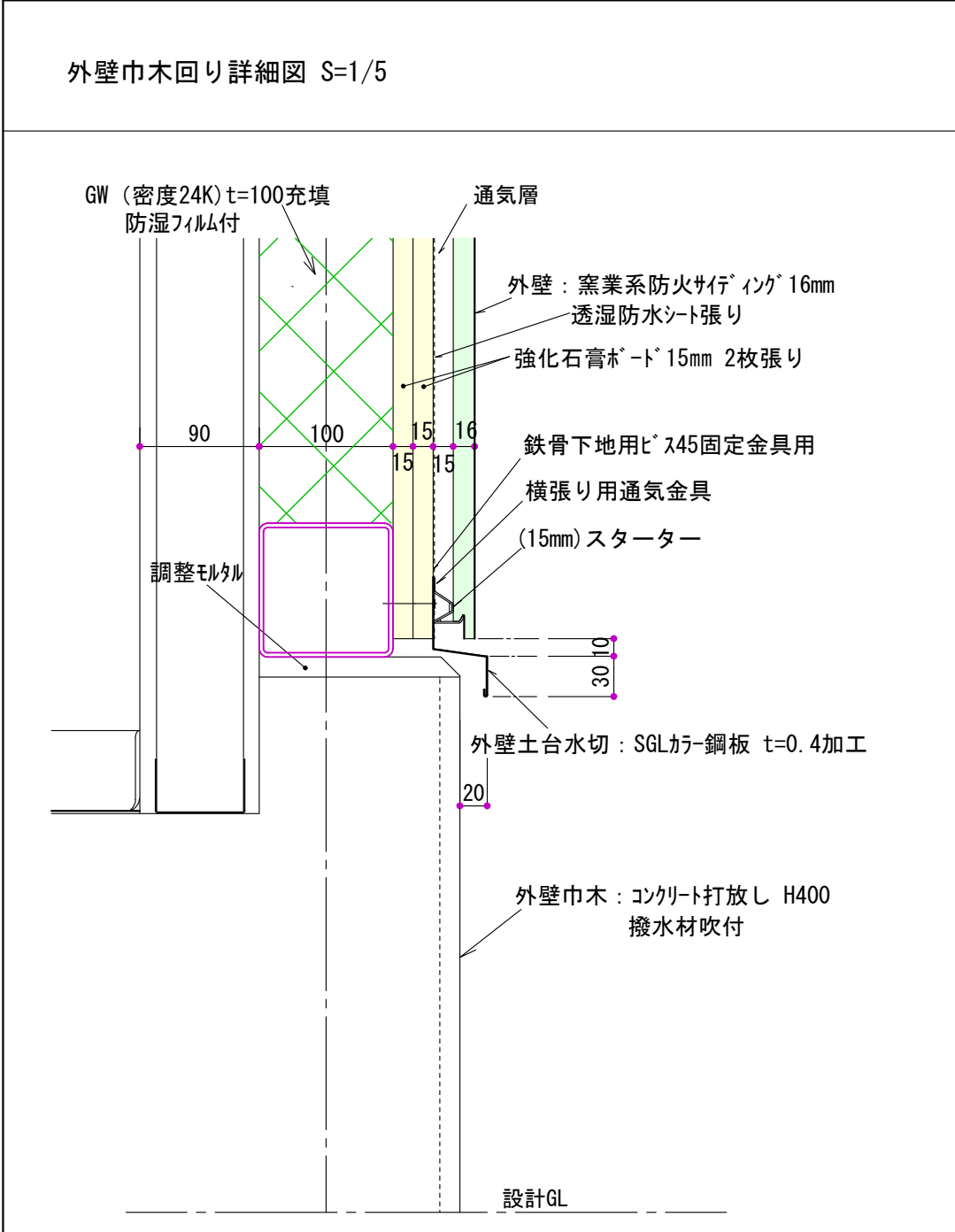
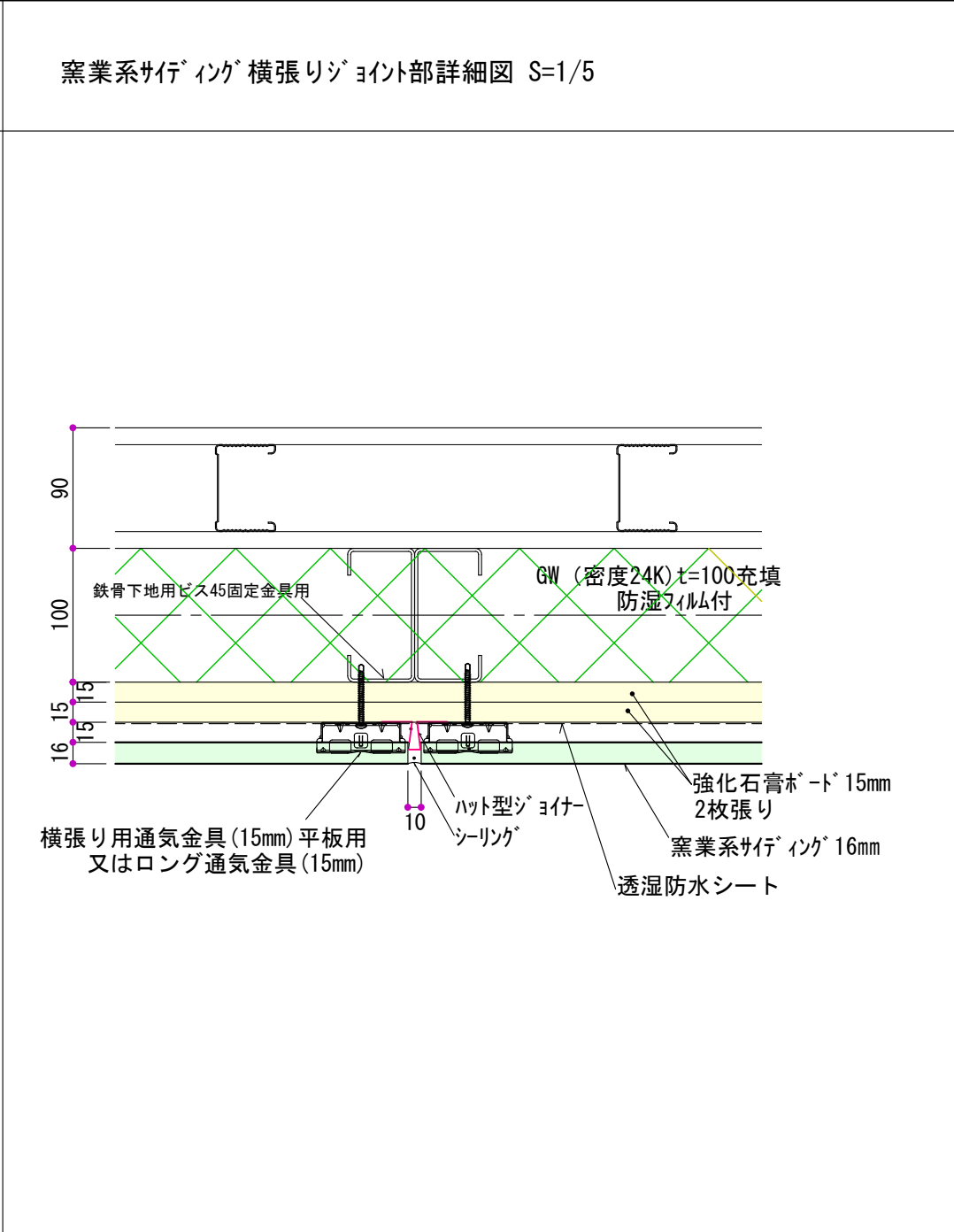
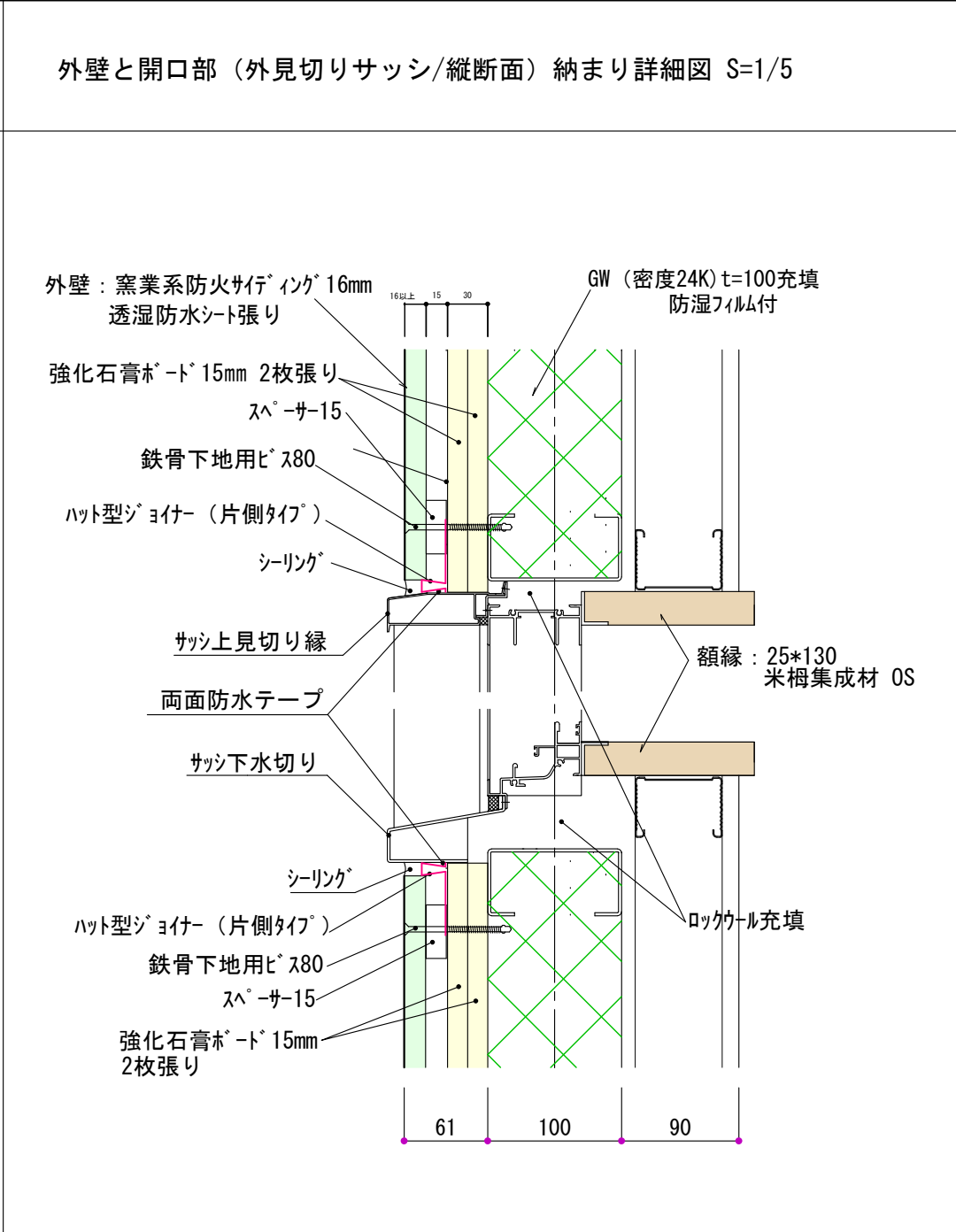
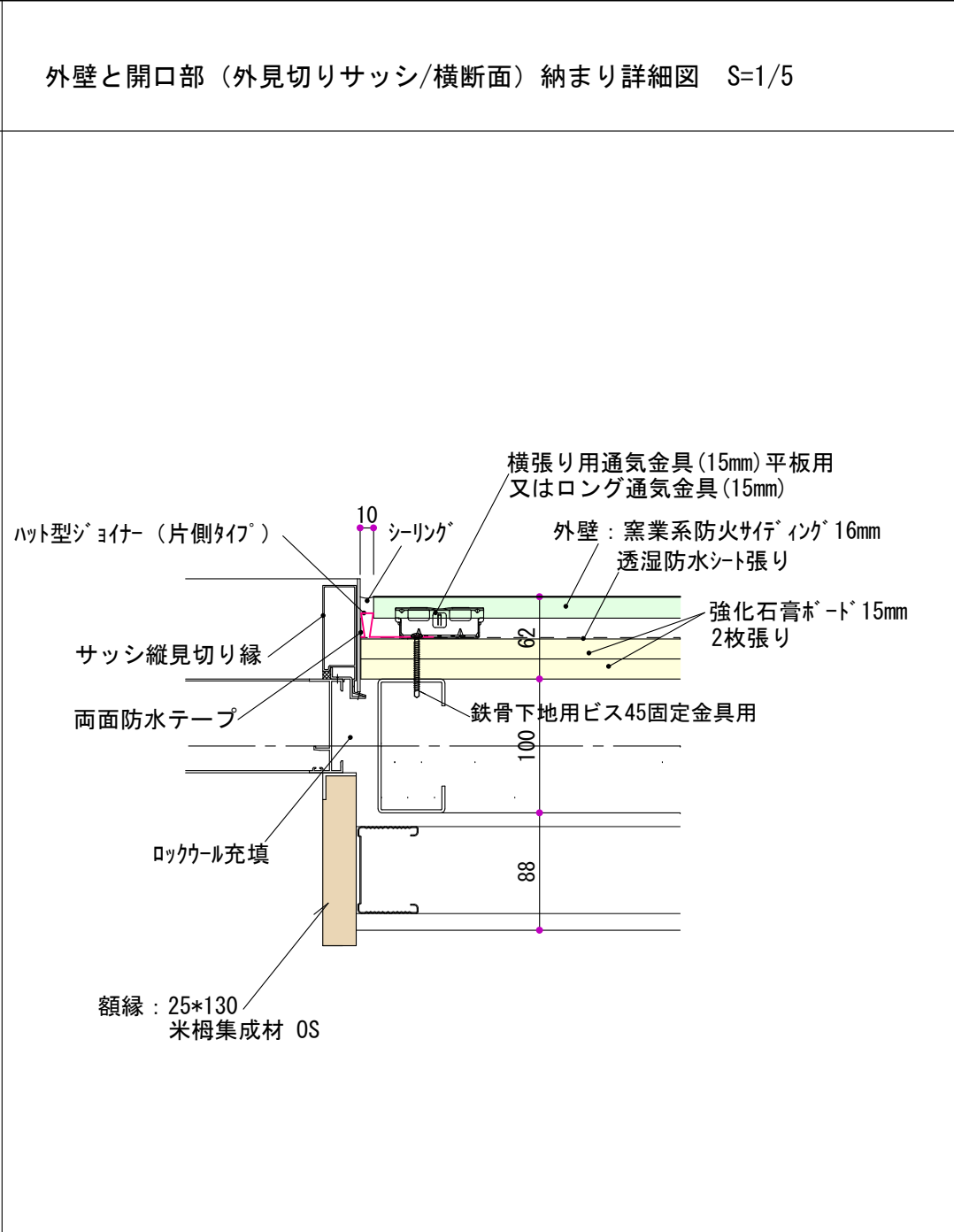
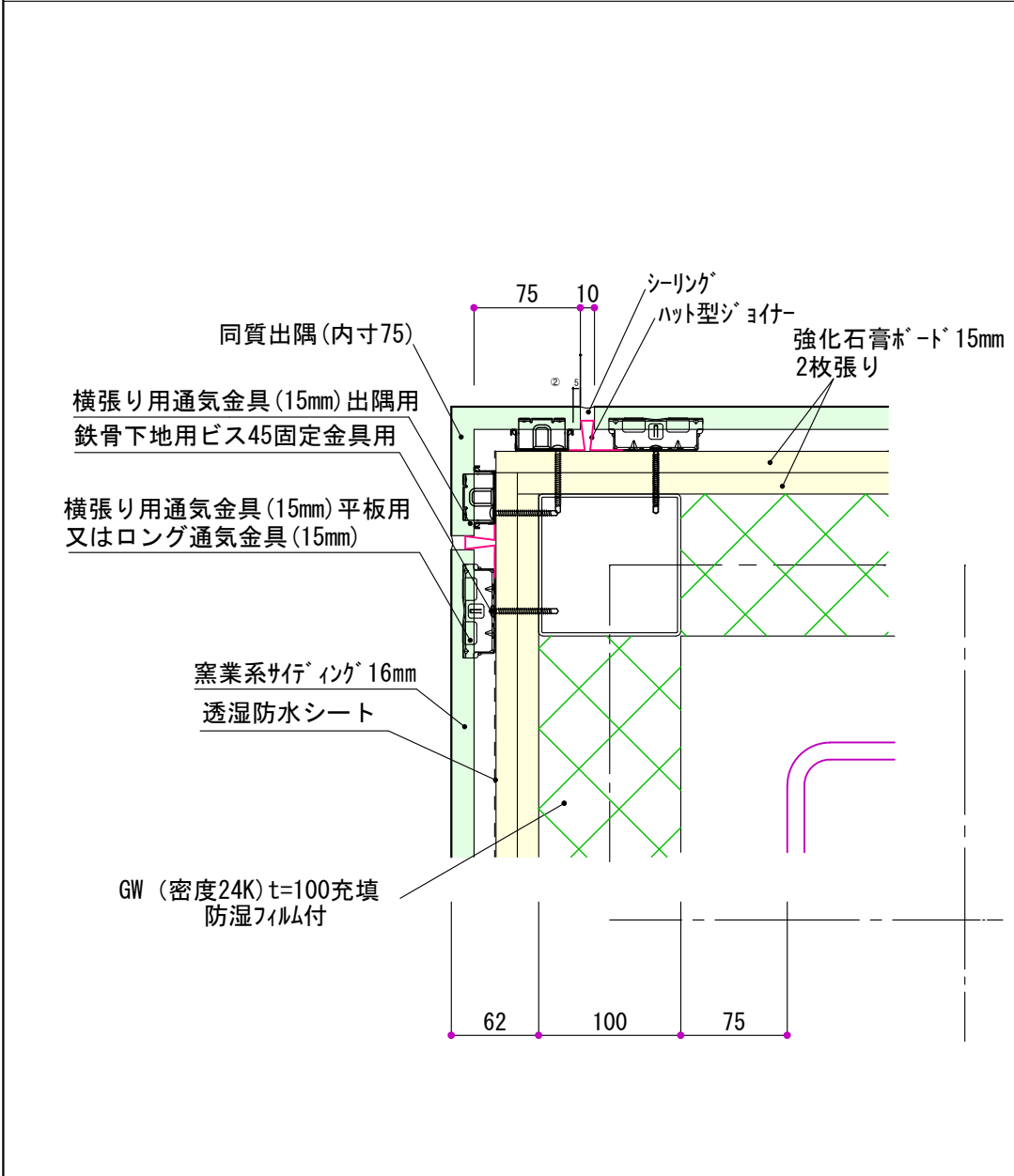
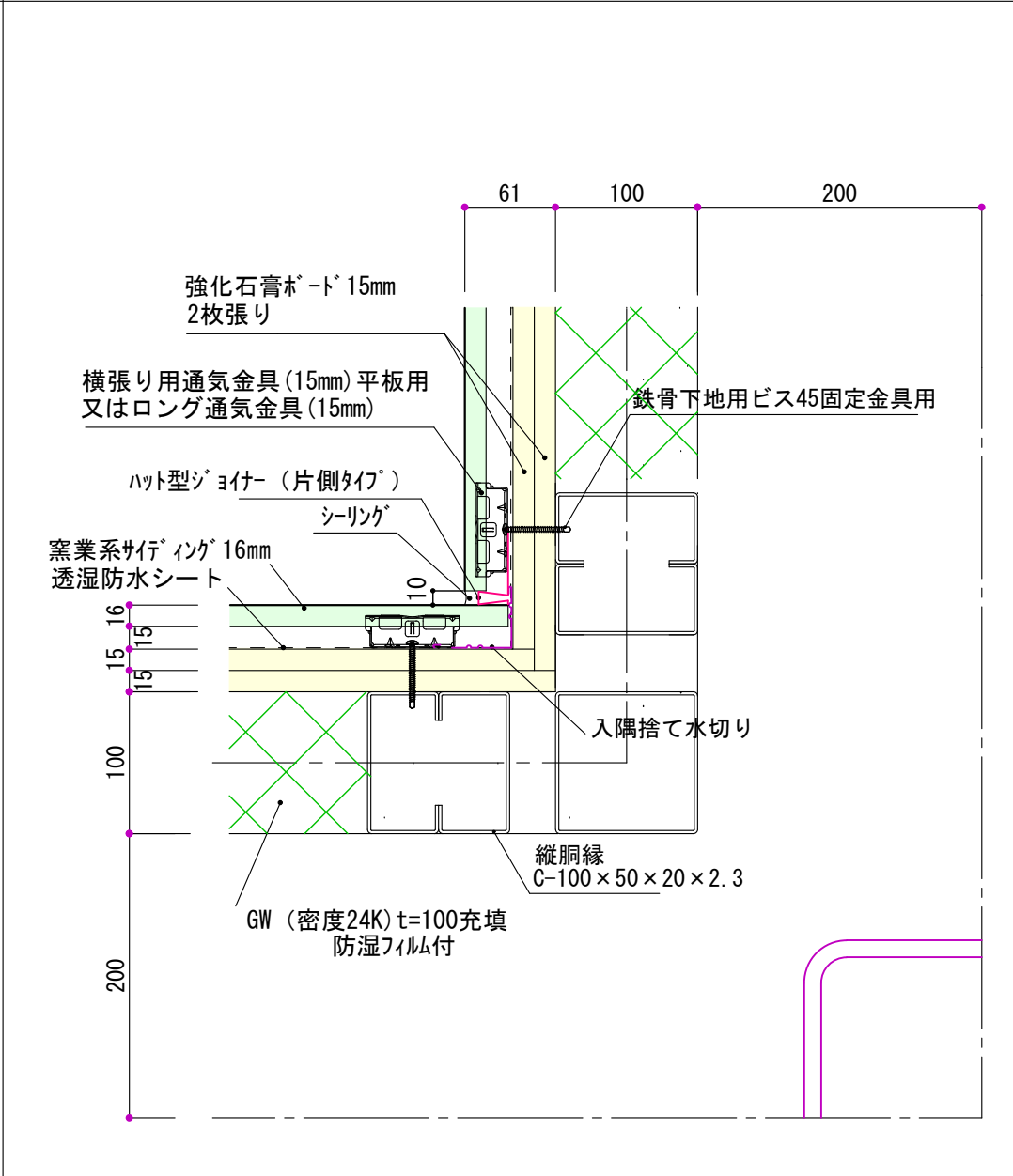
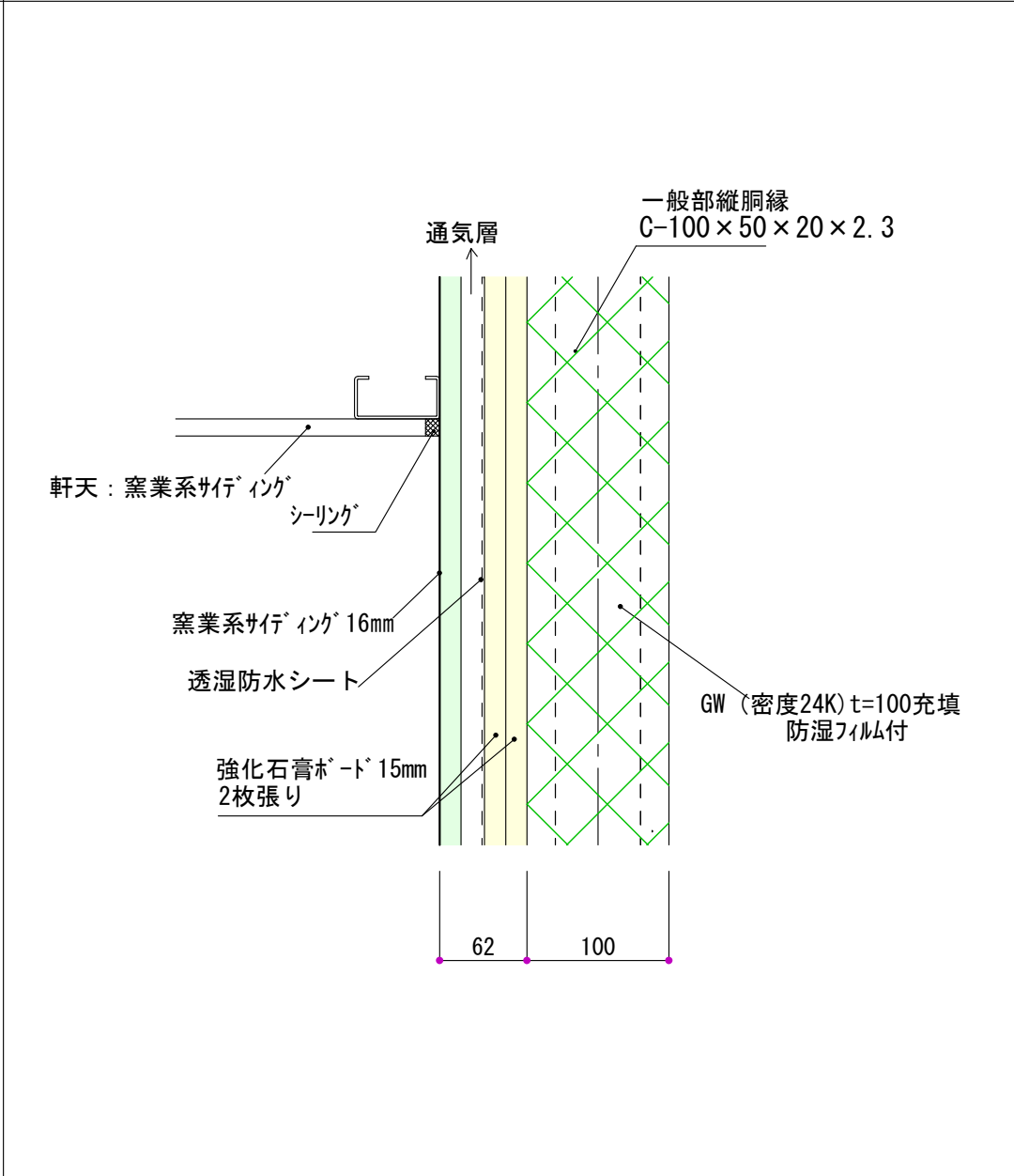


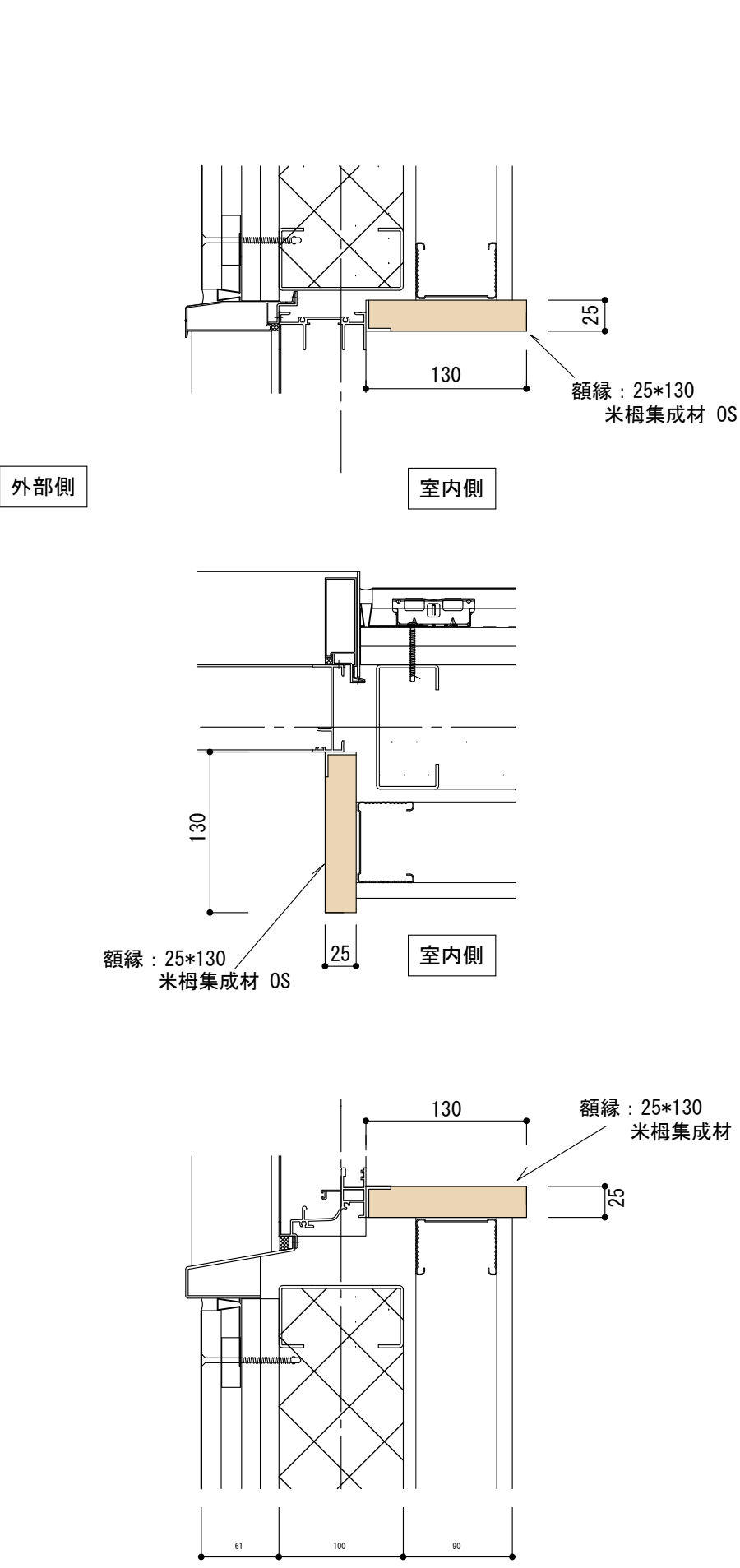
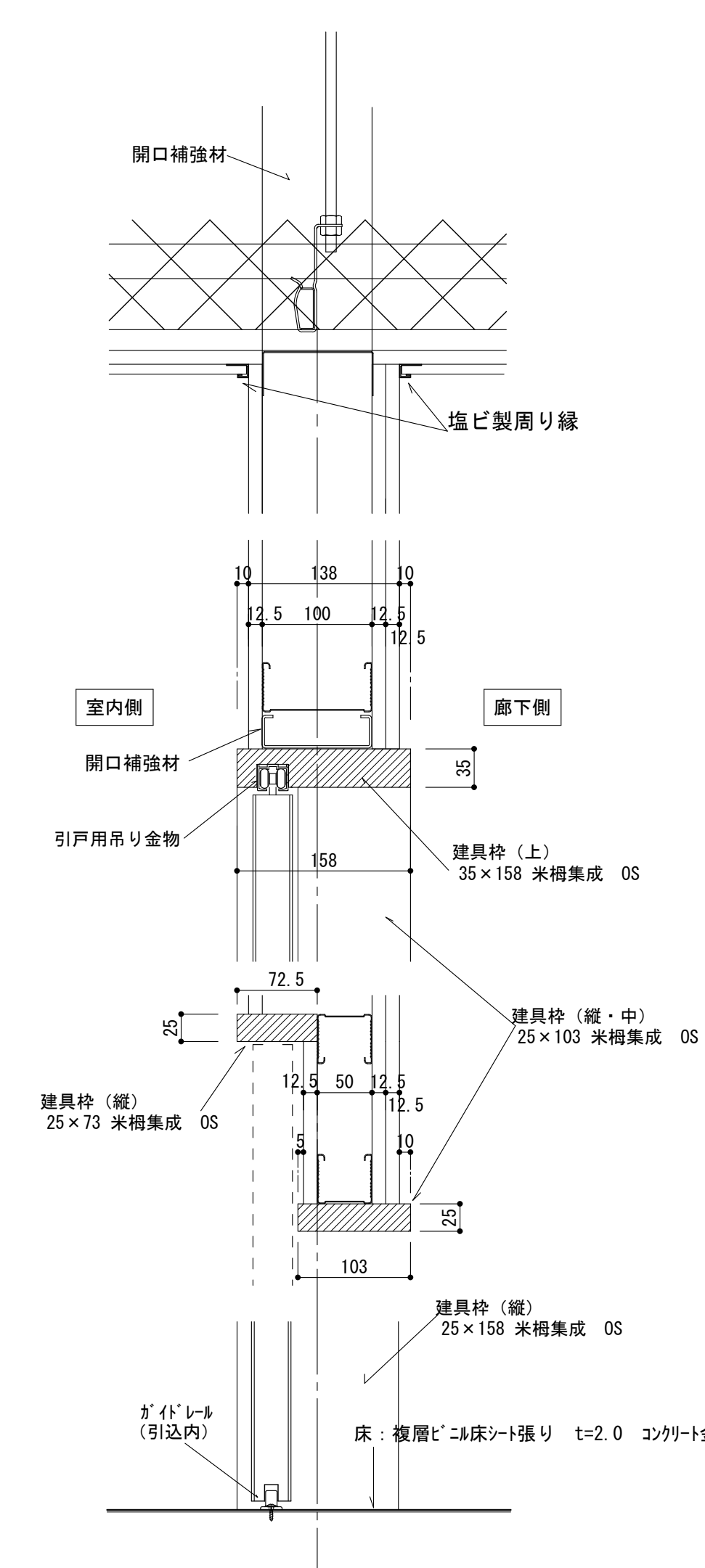
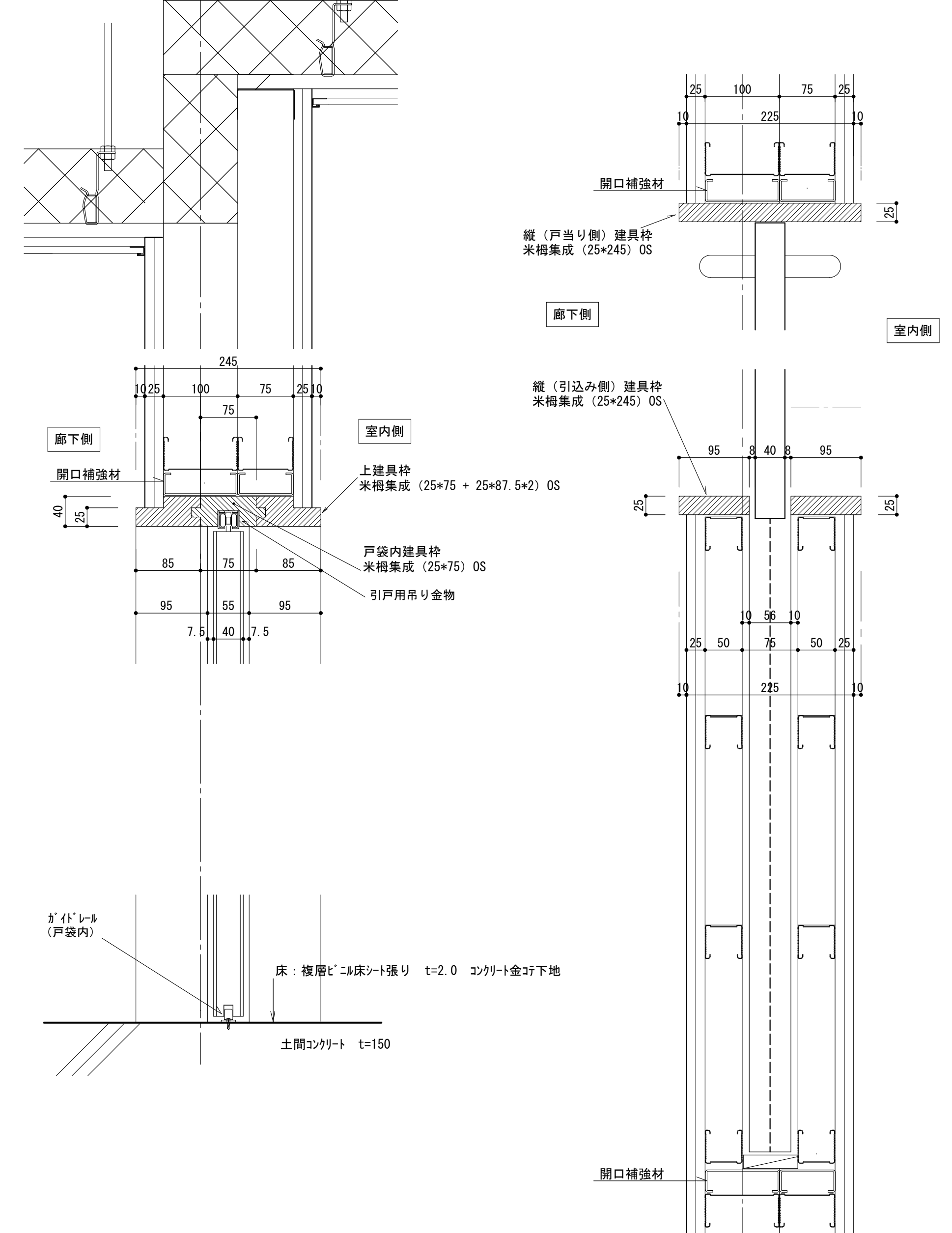
内壁上凡例				
記 号	使用ヶ所	仕 上	下 地	備考
①	外壁 間仕切	ビニル貼付 (準不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)	LGS 65×45-300@	LGS天井下地まで
①a	間仕切	ビニル貼付 (準不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)	LGS 100×45-300@ 一部 50×45-300@	LGS天井下地まで
①b	間仕切	ビニル貼付 (準不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)2重張り	LGS (100×75)*45-450@ 一部 50×45-300@ 一部 100×45-450@ 手摺補強合板 W150	(LGS75:天井下地まで) (LGS50:建具引込部) (LGS100:小屋裏下地まで)
①c	外壁 間仕切	ビニル貼付 (準不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)2重張り	LGS 65×45-300@ LGS 100×45-300@	手摺補強合板 W150 LGS天井下地まで
①d	外壁 間仕切	ビニル貼付 (準不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)	LGS 65×45-300@ 合板12mm捨張り	LGS天井下地まで
②	外壁 間仕切	ビニル貼付 (不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)	LGS 65×45-300@	LGS天井下地まで
②a	間仕切	ビニル貼付 (不燃) 石膏ボード t=12.5 (不燃)	LGS 100×45-300@ 一部 50×45-300@	LGS天井下地まで
③	外壁 間仕切	防火不燃化粧板 3mm張り (不燃) 防水石膏ボード t=12.5 (不燃)	LGS 65×45-300@	LGS天井下地まで

特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	 武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図 名 展開図.3（男性WC、女性WC、多機能WC、倉庫） A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小	縮 尺 S=1/50	作成日	図面番号 A-31
------	---------------------------	---	--	---------------	-----	--------------

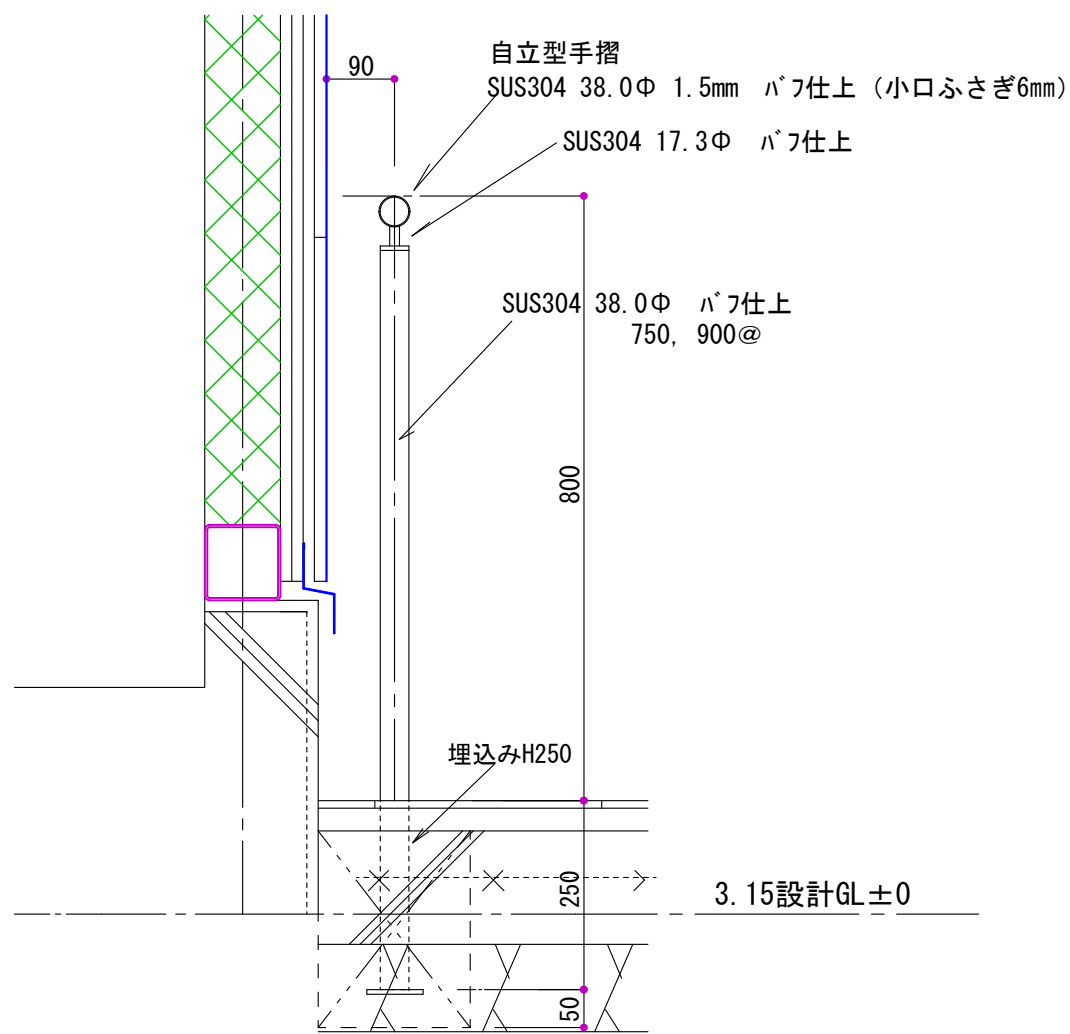


屋根片流れ棟包み周り詳細図 S=1/10  片流れ棟包み：SGLカー钢板 t=0.5加工 野地ビス止め 600@ 150 30 100 12.5 210 鼻隠し 防火サイディング t=14(塗装品) H210 軒裏：防火サイディング 12mm(木目) LGS下地	屋根ケラバ周り詳細図 S=1/10  A部詳細 S=1/5 ケラバ 折下げ唐草 カー-SGL钢板t=0.5加工 330 カー-SGL钢板t=0.5 嵌合葺き立平葺 (クイックルーフ) 破風板 防火サイディング t=14(塗装品) H210 軒裏：防火サイディング 12mm(木目) LGS下地	屋根軒先周り詳細図 S=1/10  カー-SGL钢板t=0.5 嵌合葺き立平葺 (クイックルーフ) ポリエチレンフォーム t=4敷込 改質アスファルトルーフィング 下地耐火野地板 t=18 野地ビス@600 鼻先キャップ 唐草 じょうご 軒樋：UST140(鉄スイ同等品) 取付下地：ZAM鋼板t=1.6 鼻隠し 防火サイディング t=14(塗装品) H210 軒裏：防火サイディング 12mm(木目) LGS下地 軒樋：Y60H (鉄スイ同等品)	77° 0-7屋根下屋詳細図 S=1/10  カー-SGL钢板t=0.5 嵌合葺き立平葺 (クイックルーフ) ポリエチレンフォーム t=4敷込 改質アスファルトルーフィング 下地耐火野地板 t=18 野地ビス@600 鼻先キャップ 唐草 軒樋：塩ビカー (鉄スイ Σ90) 同等品 取付下地：ZAM鋼板t=1.6 鼻隠し 防火サイディング t=14(塗装品) H150 軒樋：Y60H 同等品
外壁+柱 耐火構造 詳細図 S=1/10  柱：吹付ロックール t=25 (外壁との取合いメタルスの上、吹付ロックールt=25) 強化石膏ボード15mm 2枚張り 外壁：防火サイディング 16mm (30張り) (鉄骨金具止め)、防湿フィルム0.15mm張り 外壁GW t=100 (密度24k) 防湿フィルム付 外壁 (柱・1時間) 耐火構造FP060CN-0945 (2)	外壁+柱 (コーナー) 耐火構造 詳細図 S=1/10  柱：吹付ロックール t=25 (外壁との取合いメタルスの上、吹付ロックールt=25) 強化石膏ボード15mm 2枚張り 外壁：防火サイディング 16mm (30張り) (鉄骨金具止め)、防湿フィルム0.15mm張り 外壁GW t=100 (密度24k) 防湿フィルム付 外壁 (柱・1時間) 耐火構造FP060CN-0945 (2)	外壁+梁 耐火構造 詳細図 S=1/10  梁：吹付ロックール t=25 (外壁との取合いメタルスの上、吹付ロックールt=25) 強化石膏ボード15mm 2枚張り 外壁：防火サイディング 16mm (30張り) (鉄骨金具止め)、防湿フィルム0.15mm張り 外壁GW t=100 (密度24k) 防湿フィルム付 外壁 (梁・1時間) 耐火構造FP060BM-0693 (2)	外壁 耐火構造 詳細図 S=1/10  ビニールクロス貼り (準不燃、不燃) 石膏ボード 12.5mm 軽量スチット (JIS型) 65-300@ 110 12.5 65 12.5 100 61 外壁GW t=100 (密度24k) 防湿フィルム付 強化石膏ボード15mm 2枚張り 防火サイディング 16mm (30張り) (鉄骨金具止め)、防湿フィルム0.15mm張り 外壁 (非耐力壁・1時間) 耐火構造FP060NE-0271 (2)
特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事 (建築主体)	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 屋根周り、耐火被覆+柱梁 (耐火構造) 詳細図 縮尺 S=1/10 作成日 図面番号 A-33

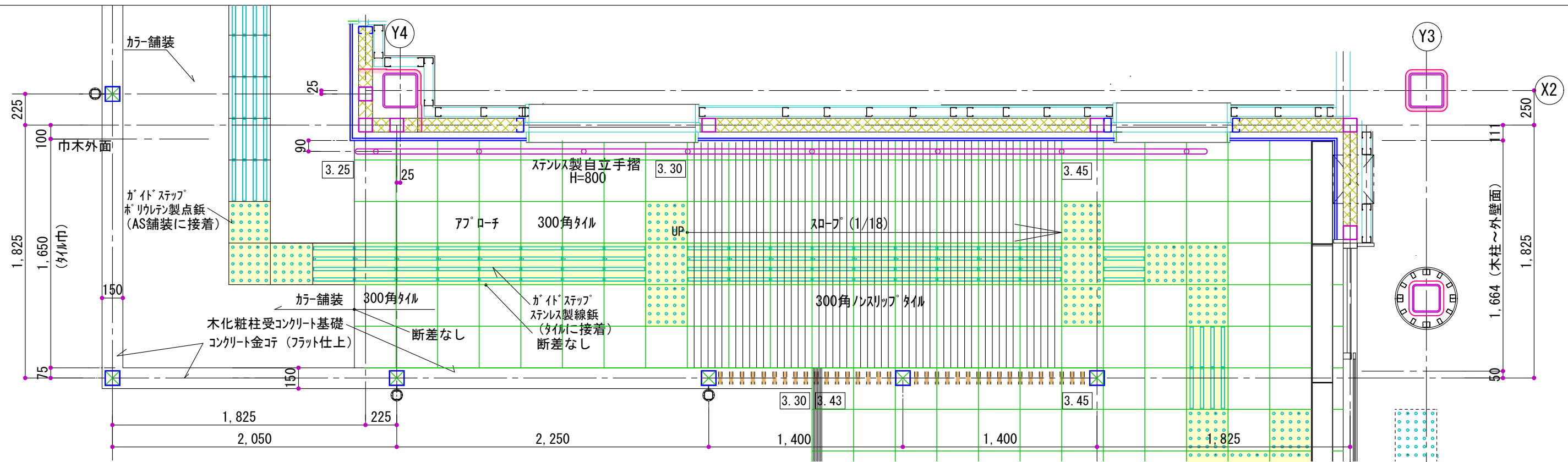
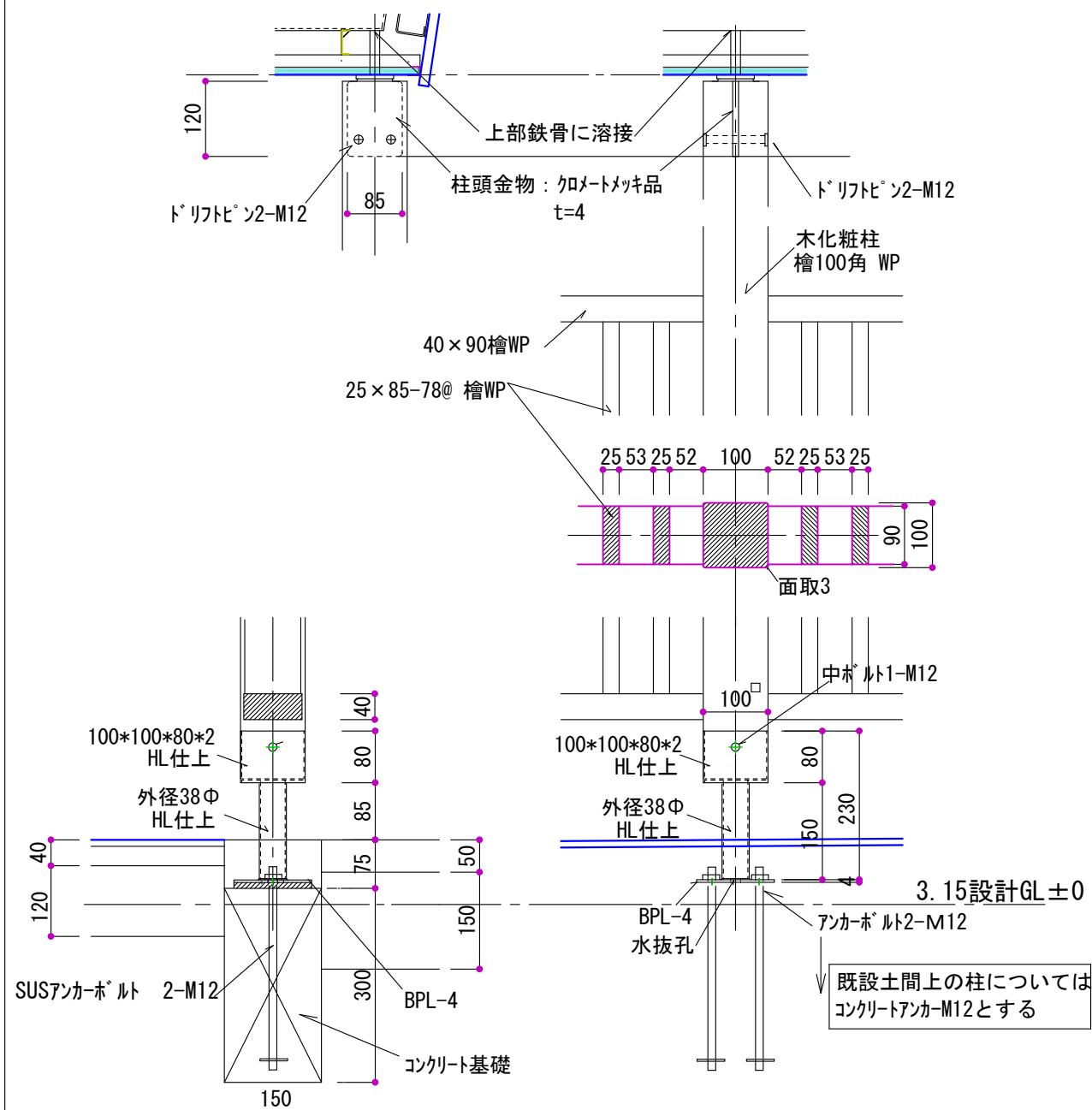
外壁巾木回り詳細図 S=1/5 	窯業系サイディング横張りジョイント部詳細図 S=1/5 	外壁と開口部（外見切りサッシ/縦断面）納まり詳細図 S=1/5 	外壁と開口部（外見切りサッシ/横断面）納まり詳細図 S=1/5 
外壁（窯業サイディング）出隅コーナー納まり詳細図 S=1/5	外壁（窯業サイディング）入隅コーナー納まり詳細図 S=1/5	軒天部と外壁納まり詳細図 S=1/5	
			
特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 外壁、窯業系サイディング納まり詳細図 縮尺 S=1/5 作成日 図面番号 A-34

サッシ周り額縁詳細図 S=1/5  外部側 室内側 額縁：25*130 米桐集成材 OS 130 25 130 25 額縁：25*130 米桐集成材 OS 130 25 61 100 90	片引戸周り入口枠詳細図 S=1/5  開口補強材 塩ビ製周リ縁 室内側 廊下側 開口補強材 引戸用吊り金物 建具枠（上） 35×158 米桐集成 OS 建具枠（縦・中） 25×103 米桐集成 OS 建具枠（縦） 25×73 米桐集成 OS 建具枠（縦） 25×158 米桐集成 OS ガイドレール（引込内） 床：複層ビニル床シート張り t=2.0 コンクリート金下地	引込建具戸周り入口枠詳細図 S=1/5  廊下側 室内側 開口補強材 上建具枠 米桐集成 (25*75 + 25*87.5*2) OS 戸袋内建具枠 米桐集成 (25*75) OS 引戸用吊り金物 縦（戸当り側）建具枠 米桐集成 (25*245) OS 縦（引込み側）建具枠 米桐集成 (25*245) OS 開口補強材 ガイドレール（戸袋内） 床：複層ビニル床シート張り t=2.0 コンクリート金下地 土間コンクリート t=150
特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	 武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二 図名 木製建具枠・額縁詳細図 縮尺 S=1/5 作成日 図面番号 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小 A-35

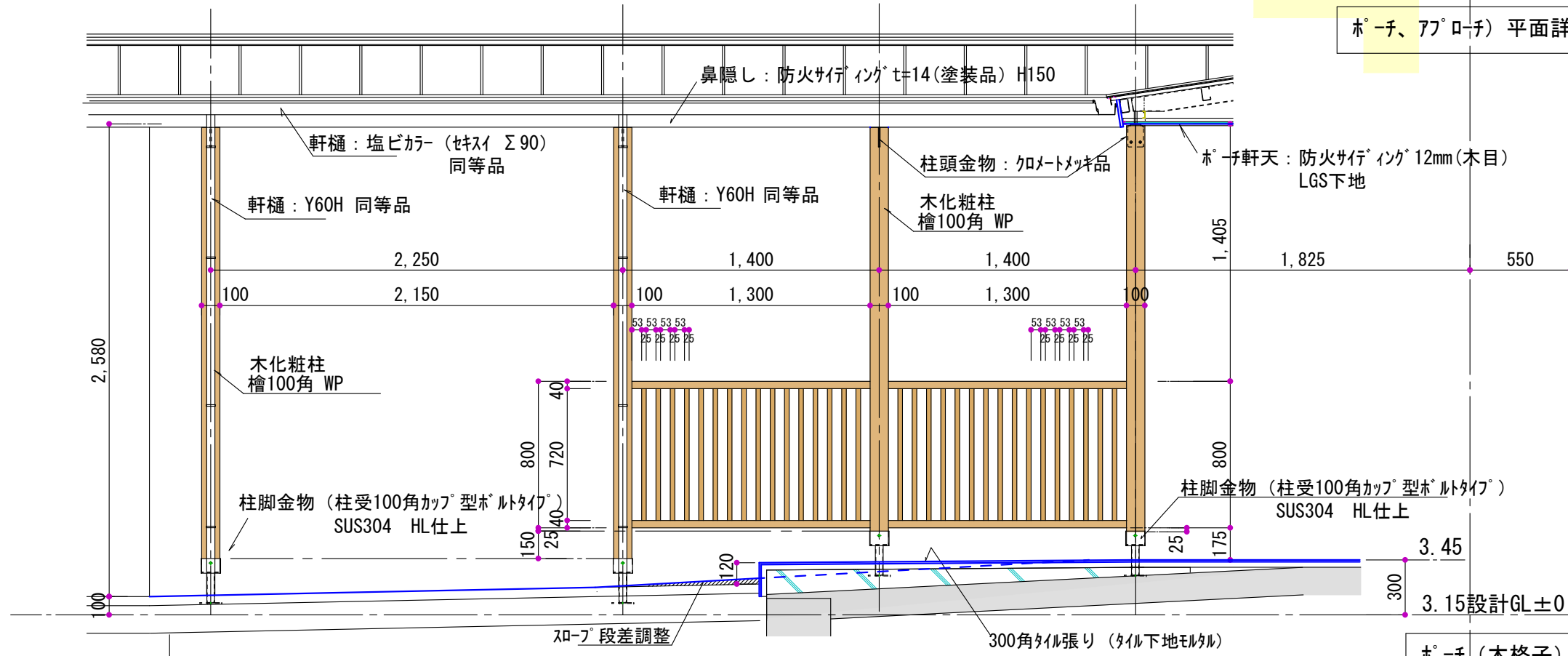
自立型手摺詳細図 S=1/10



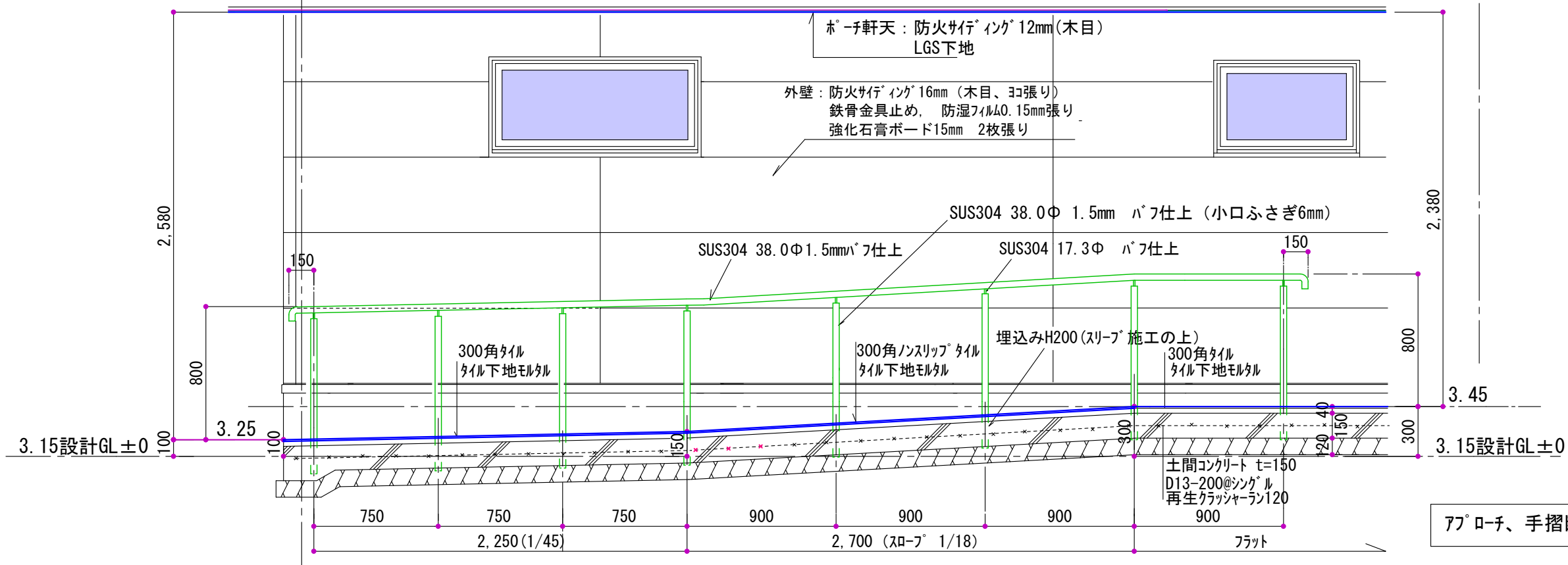
木化粧柱、柱頭、柱脚金物、木格子手摺詳細図 S=1/10



ホーチ、アプロチ 平面詳細図 S=1/30



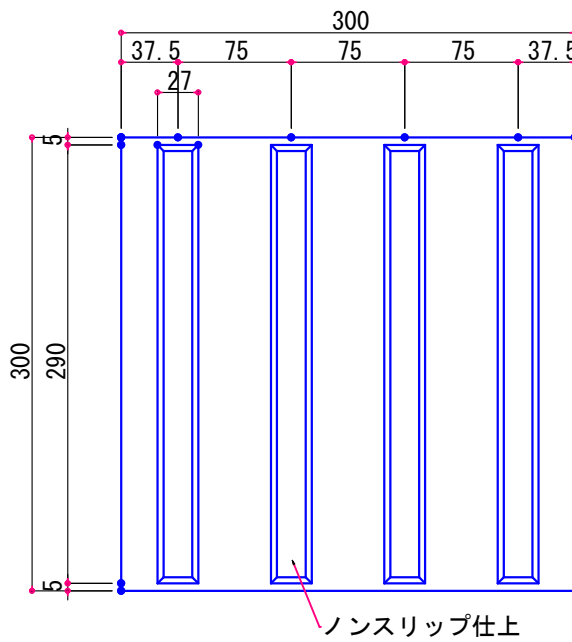
ホーチ (木格子) 断面詳細図 S=1/30



アプロチ、手摺断面詳細図 S=1/30

※カラーアスファルト舗装の上に接着張付

NPS-Y (イエロー) / NPS-G (グレー)
仕様 線鋏タイプ (誘導/すすめ)



ノンスリップ仕上

ポリウレタン樹脂成型

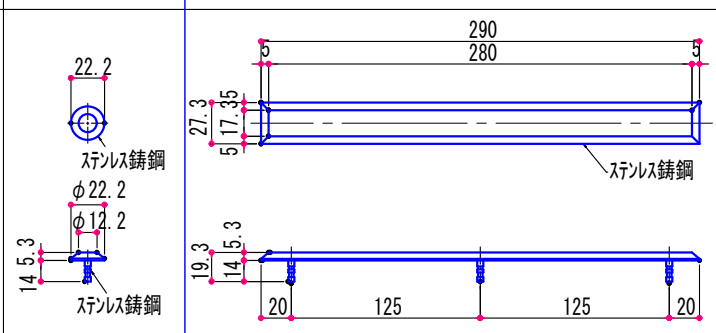
品 名	ガイドステップ (ホリクレン点字タイプライター)
形 式	Tタイプ

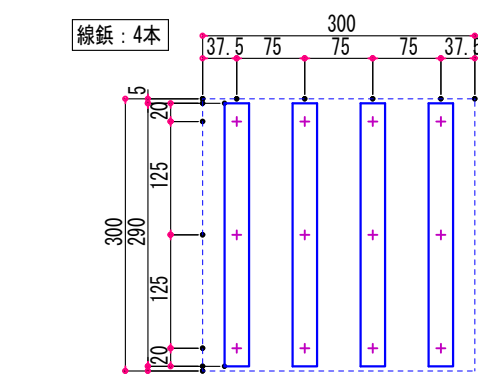
●材質 ポリウレタン
※配列はJIS規格配列です。

平面詳細図

サイズ :	File Name :
A3	GS-03

NSN316-22-Y / K (点板)		NSN316-290-Y / K (線板)		Y: チェス・イロ K: ホワイトラック		S=1/3	





品 名	カイトステップ (点字・線鋏タイプ)
形 式	SCS14

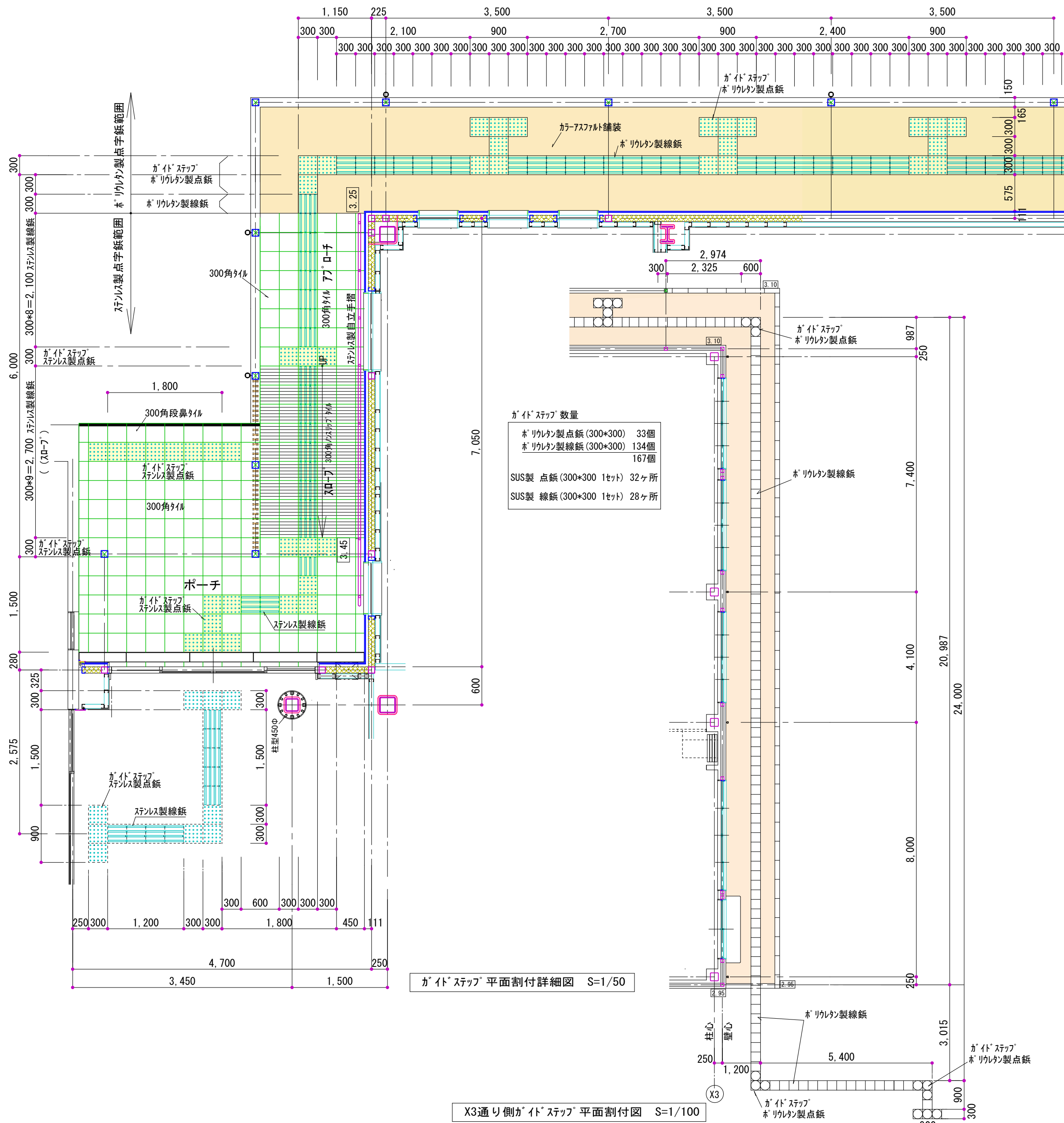
●材質 ステンレス鋼
ステンレス鋼+樹脂
樹脂色 (チーフ・イエロー/ソフト)

※配列はJIS規格配列です。

●点鋸タイプ：警告/とまめ
●線鋸タイプ：誘導/すすめ

平面・側面詳細図

サイズ	:	File Name
A3		GS-01-S C



ガイトステップ平面割付詳細図 S=1/50

X3通り側がイトステップ°平面割付図 S=1/100

作成日

A-37

工事名
福祉センター別館建設工事（建築主体）



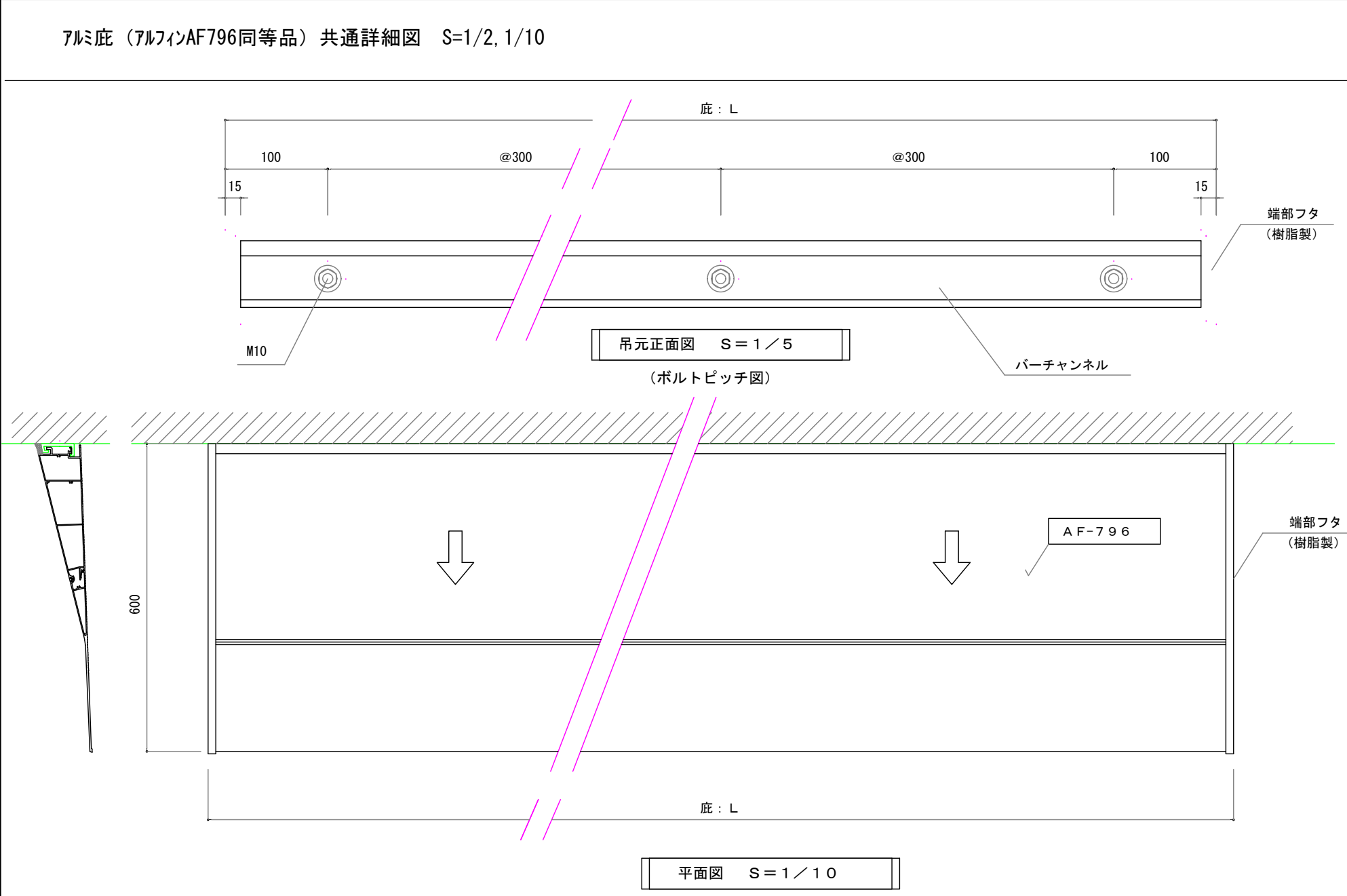
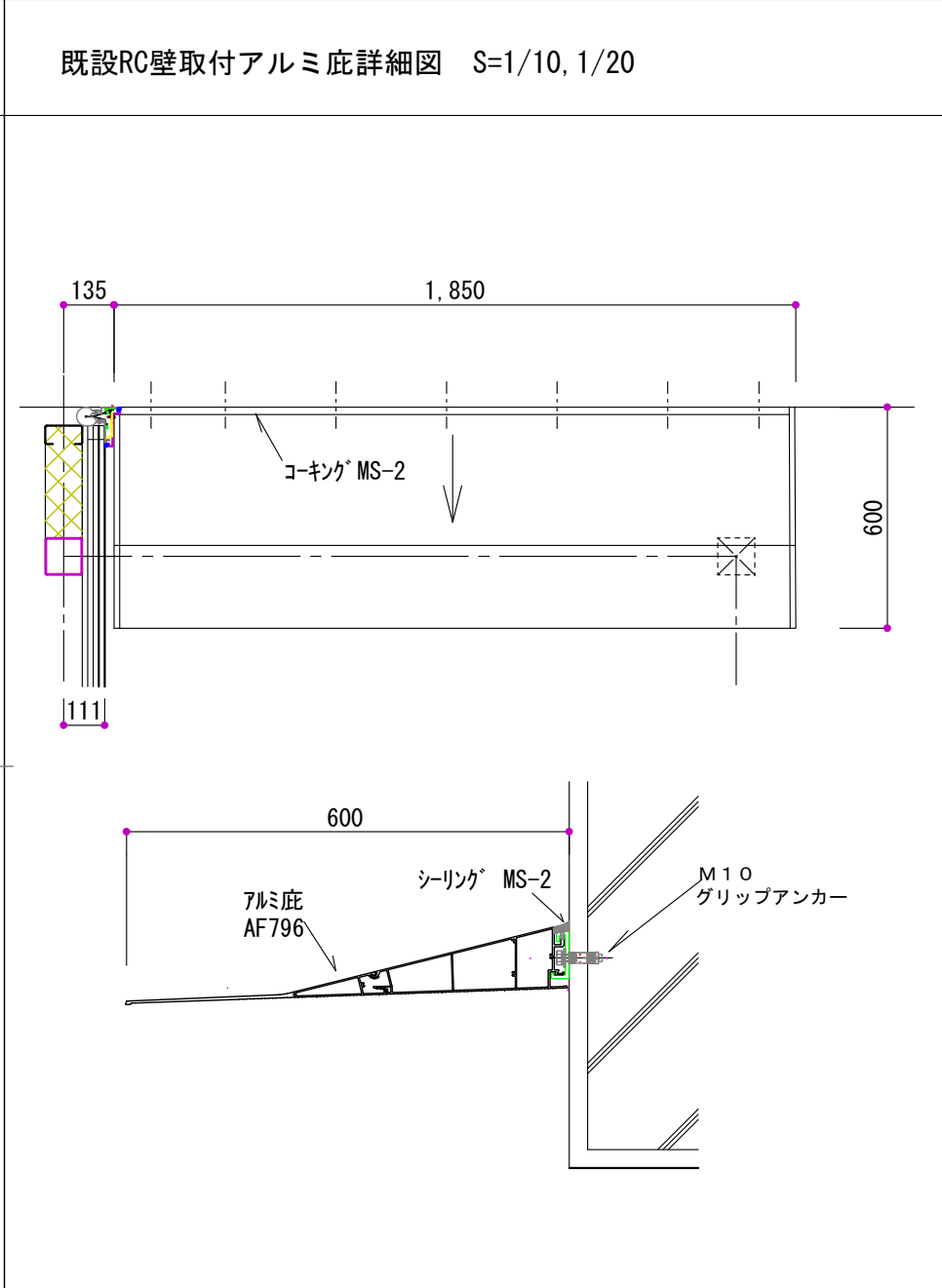
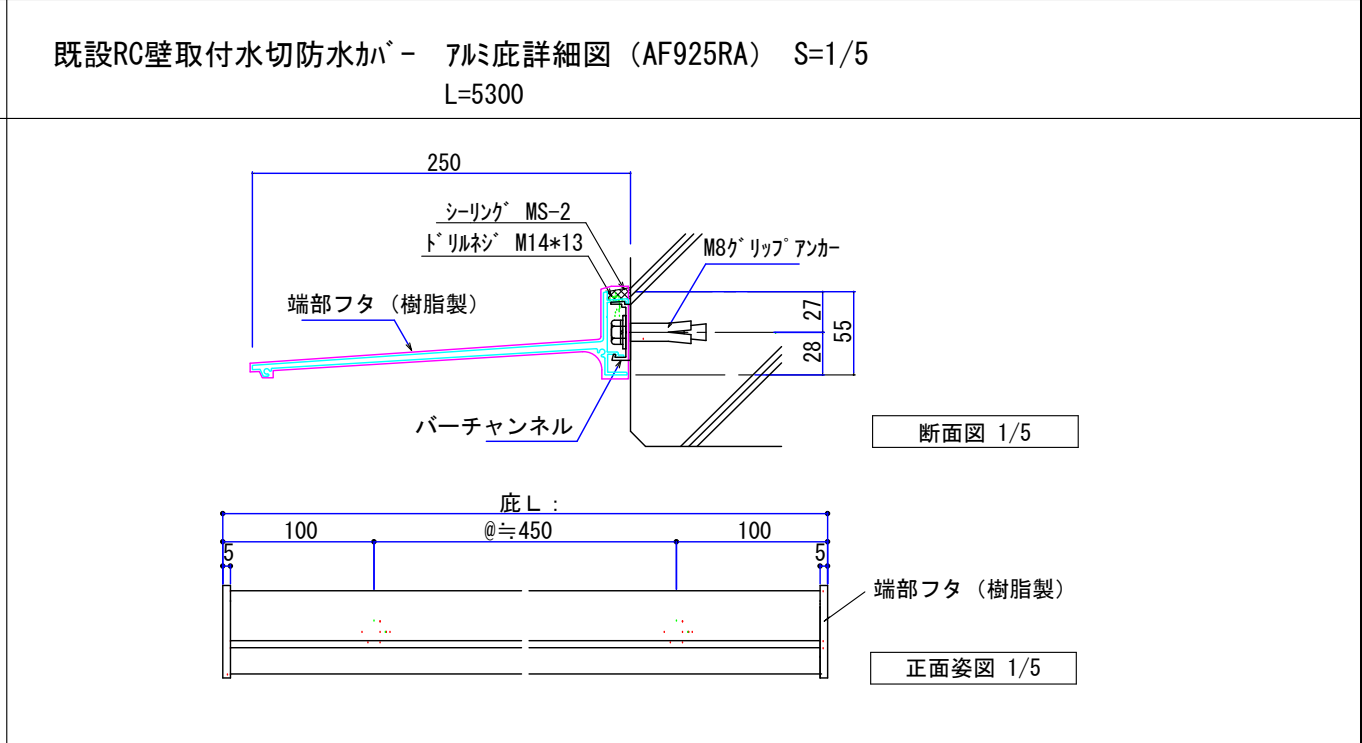
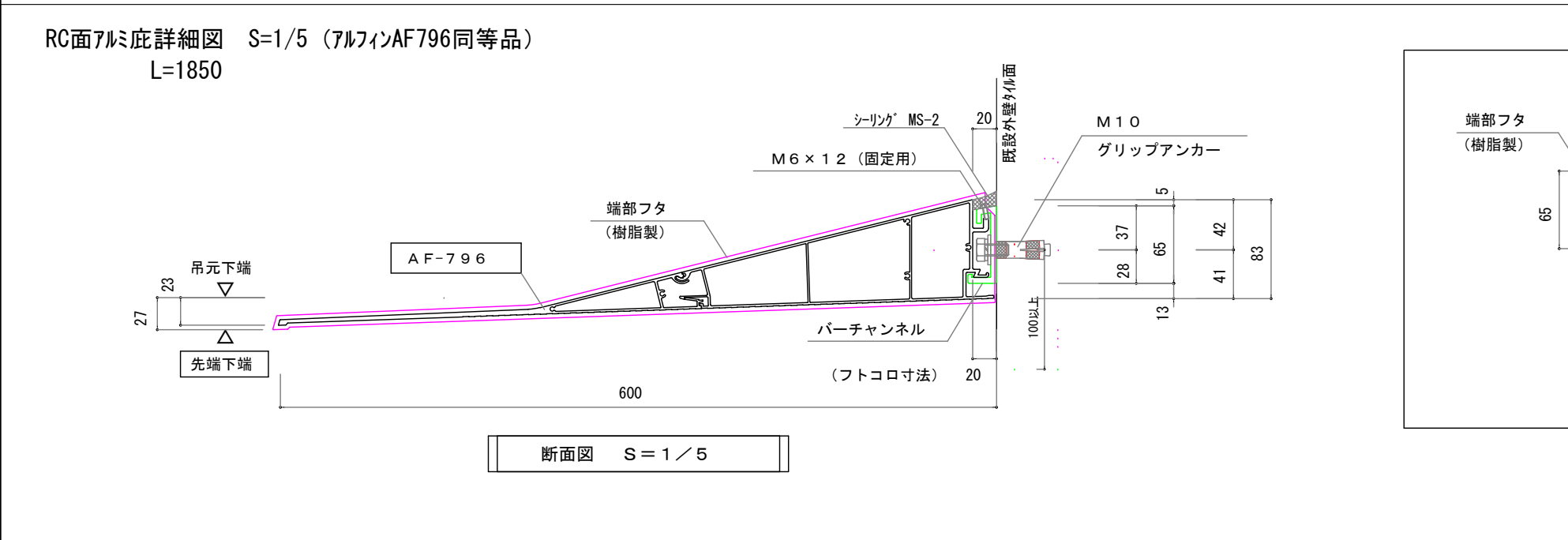
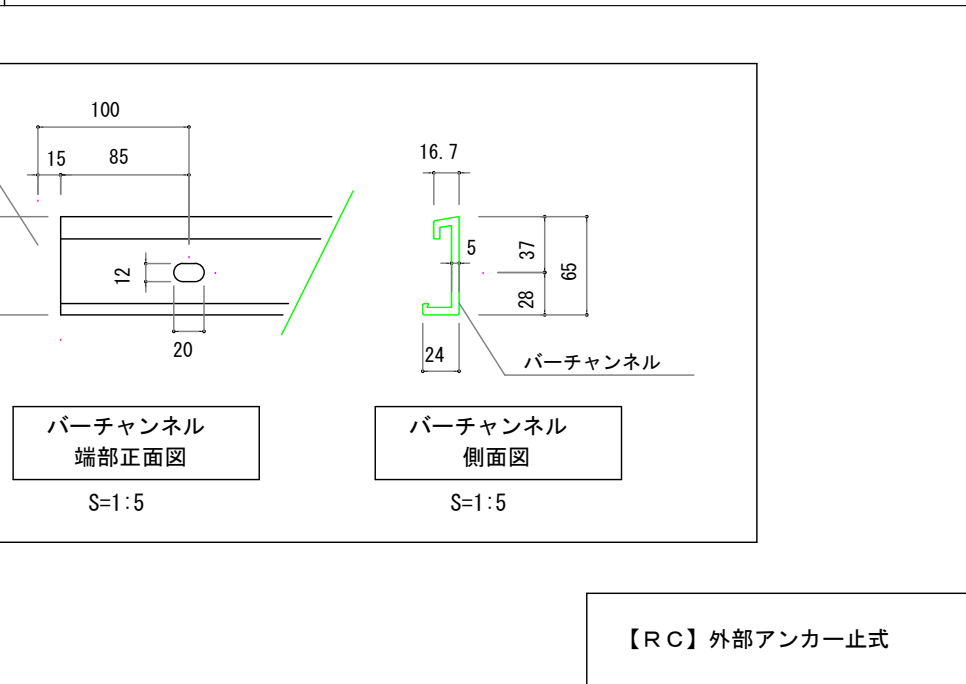
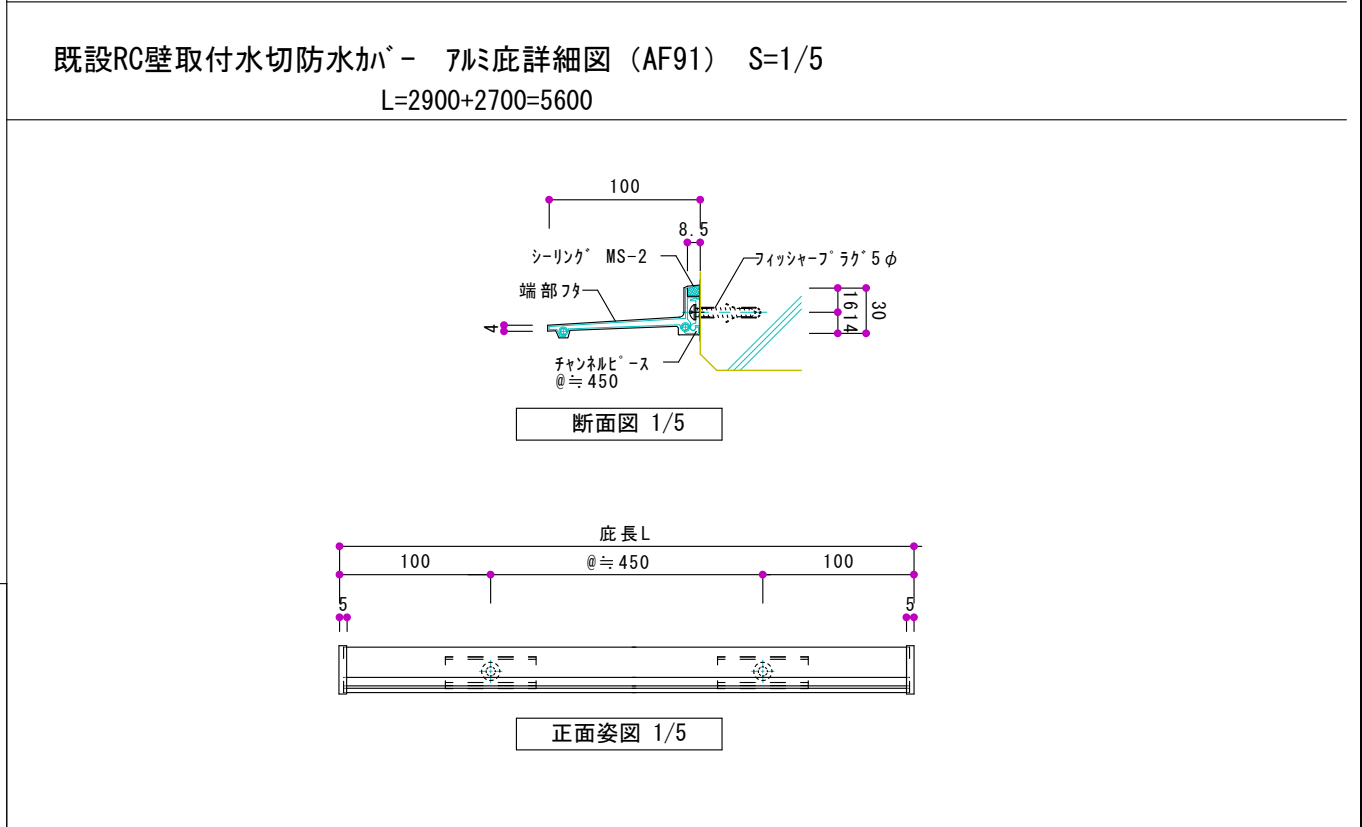
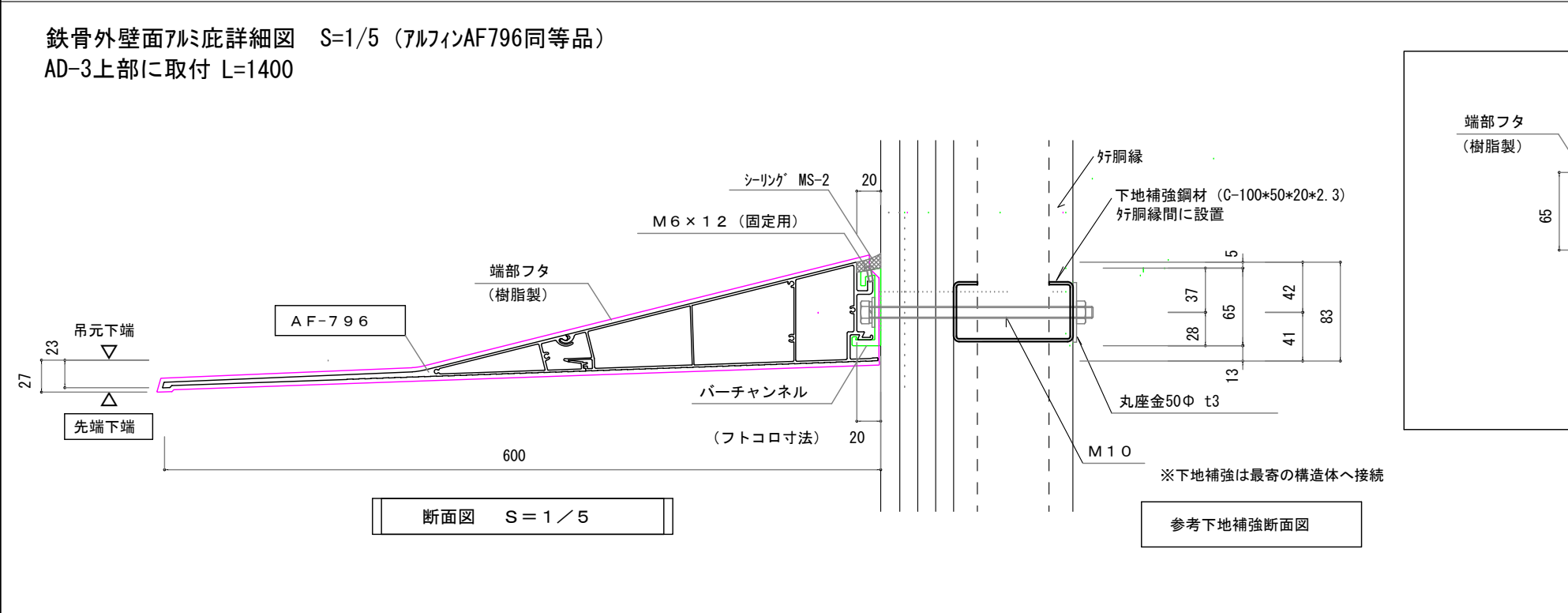
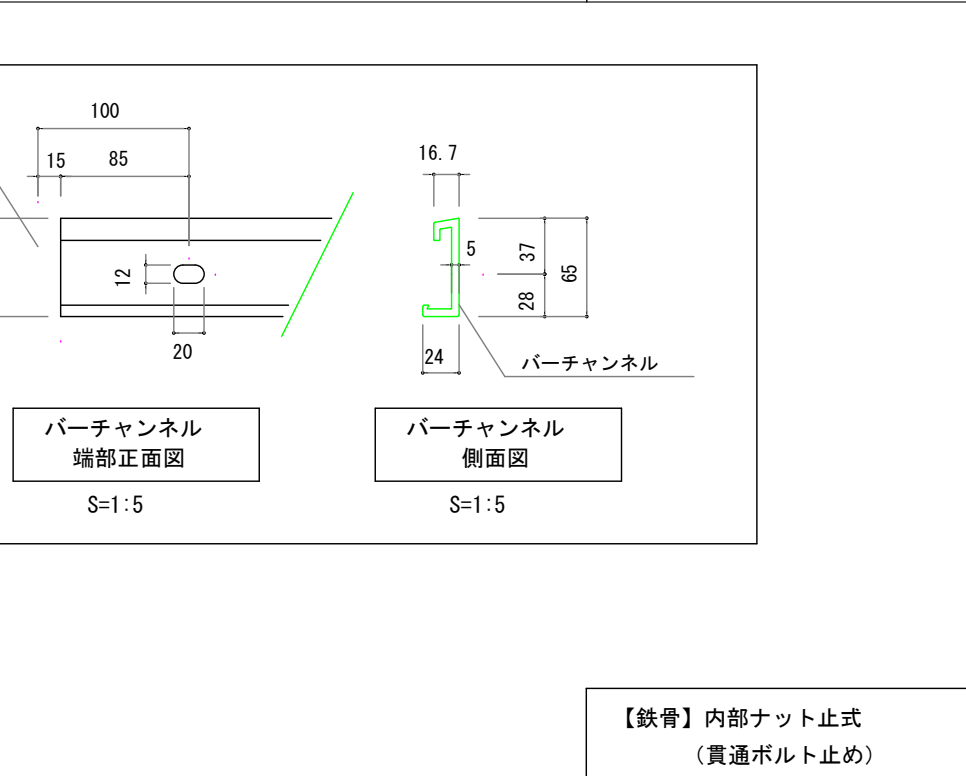
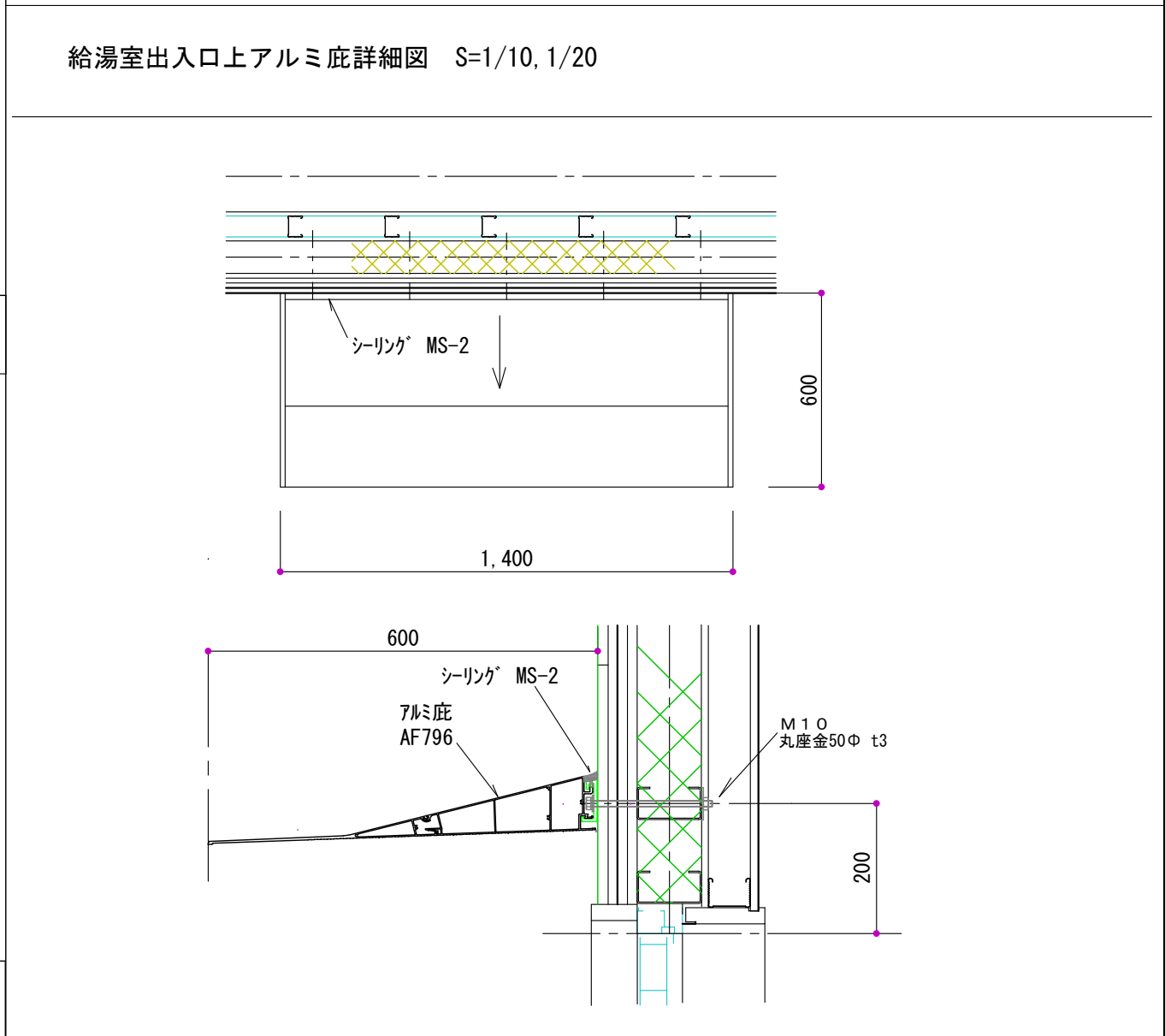
武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

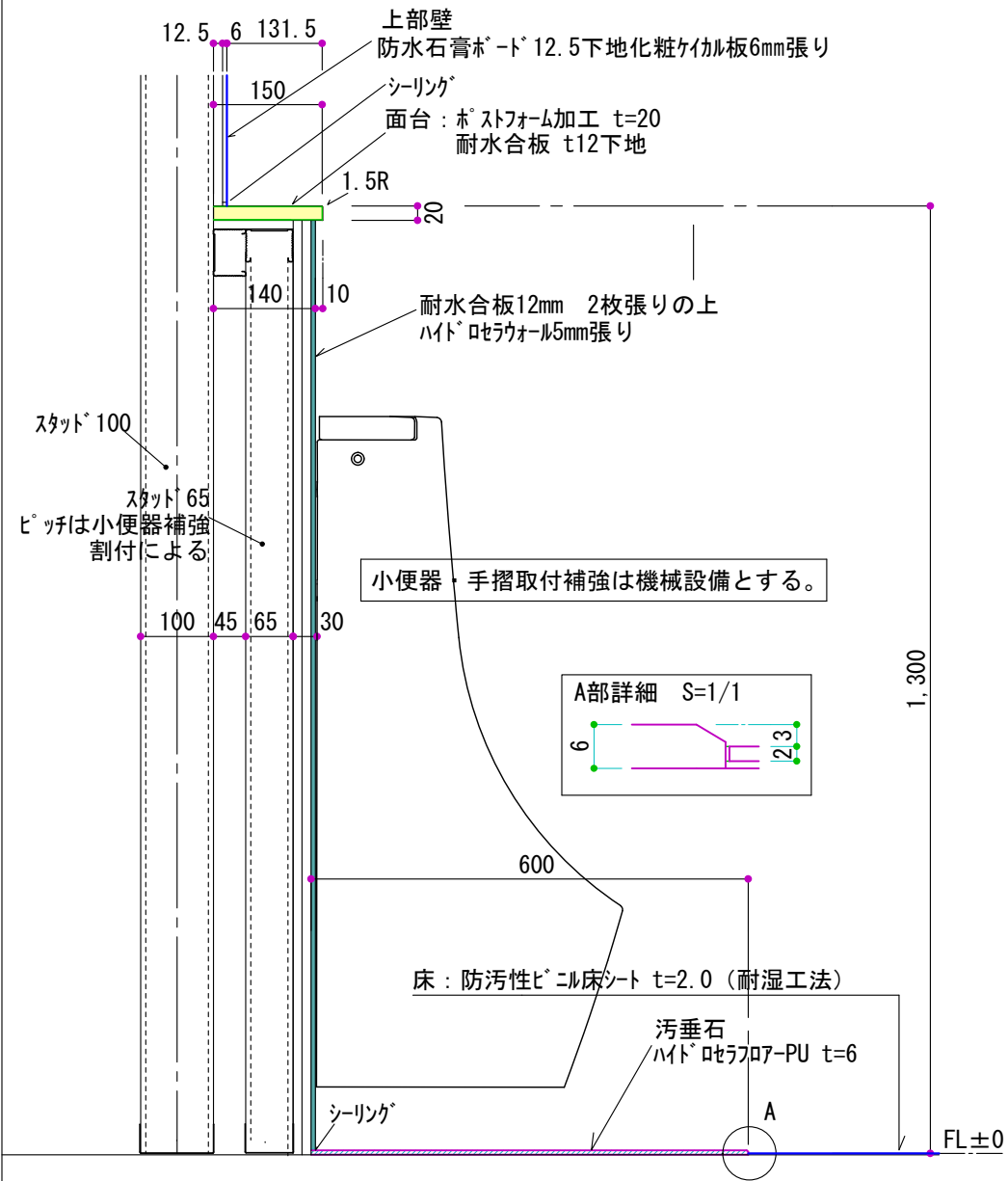
図 名

$S=1/50, 100$

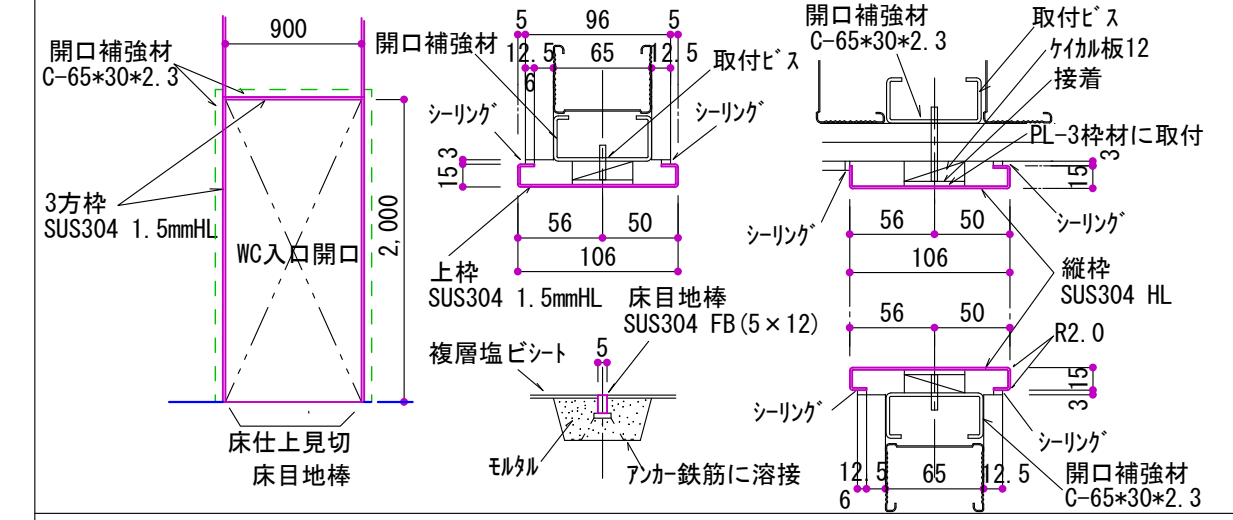
A-37

ｱﾙﾐ底 (ｱﾙﾌｨﾝAF796同等品) 共通詳細図 S=1/2, 1/10 		既設RC壁取付アルミ底詳細図 S=1/10, 1/20 		既設RC壁取付水切防水ｶﾊﾞｰ ｱﾙﾐ底詳細図 (AF925RA) S=1/5 L=5300 									
RC面ｱﾙﾐ底詳細図 S=1/5 (ｱﾙﾌｨﾝAF796同等品) L=1850  		既設RC壁取付水切防水ｶﾊﾞｰ ｱﾙﾐ底詳細図 (AF91) S=1/5 L=2900+2700=5600 											
鉄骨外壁面ｱﾙﾐ底詳細図 S=1/5 (ｱﾙﾌｨﾝAF796同等品) AD-3上部に取付 L=1400  		給湯室出入口上アルミ底詳細図 S=1/10, 1/20 											
特記事項		工事名 福祉センター別館建設工事 (建築主体)		武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二		図名 アルミ底詳細図		縮尺 S=1/5 S=1/10, 1/20 A2サイズ → 100% A3サイズ → 71%縮小		作成日		図面番号 A-38	

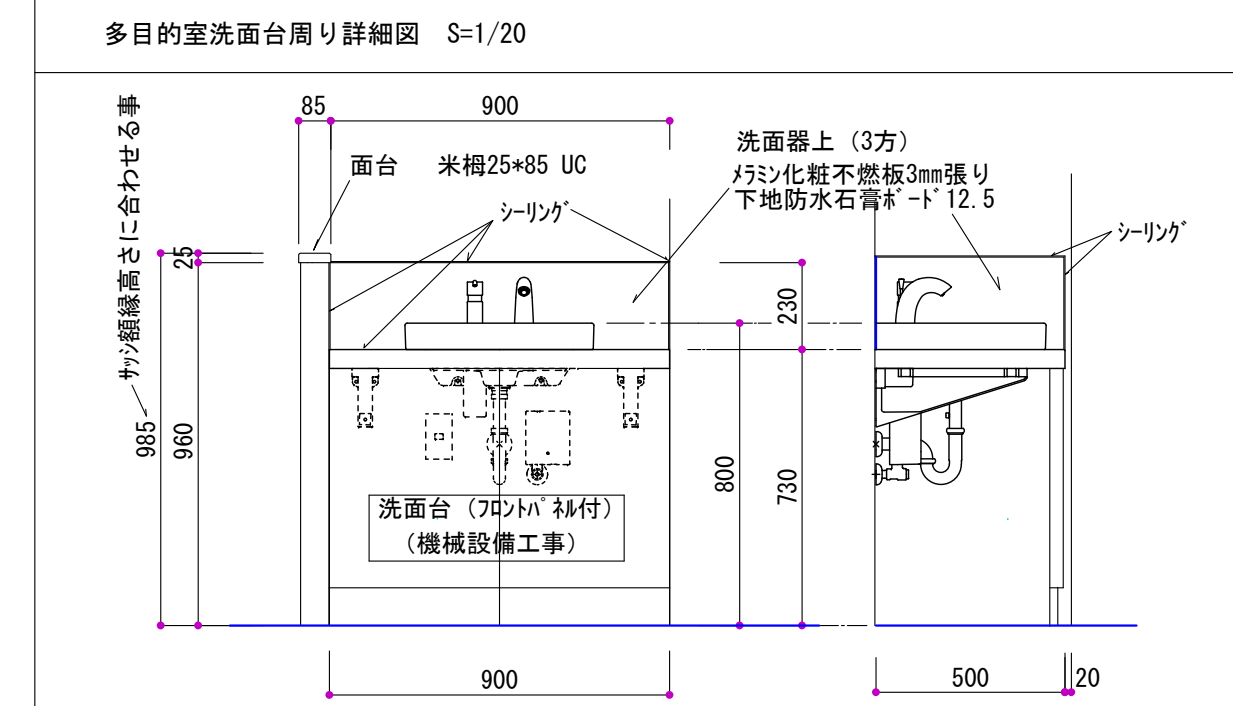
小便器周り詳細図 S=1/10



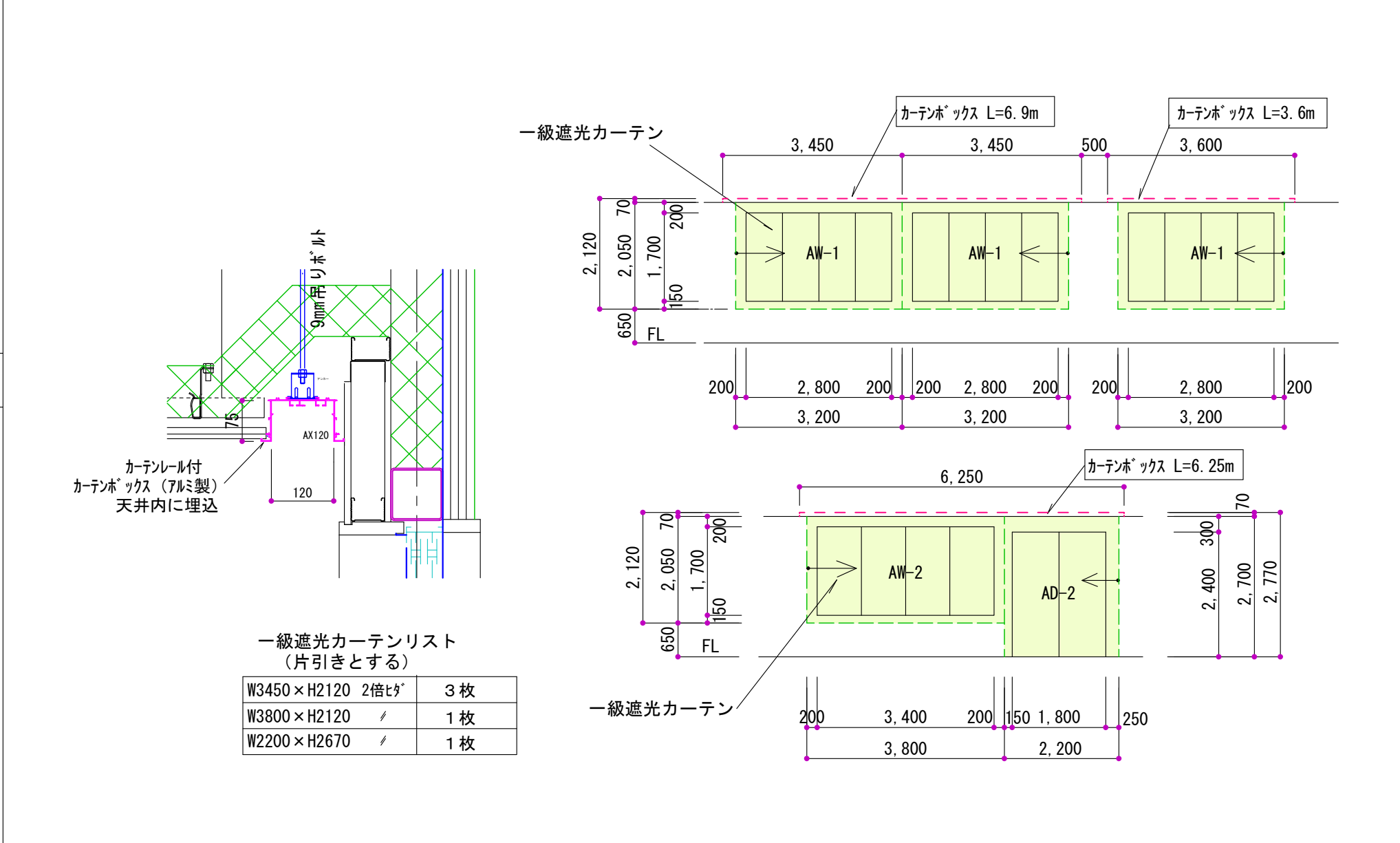
WC入口開口枠詳細図 S=1/50, 1/5



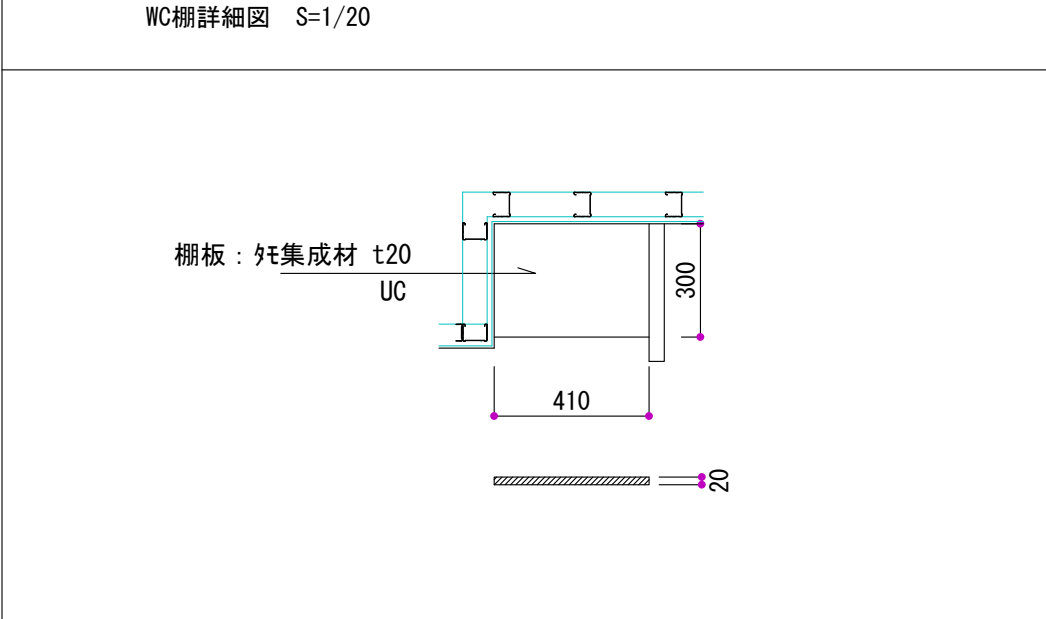
多目的室洗面台周り詳細図 S=1/20



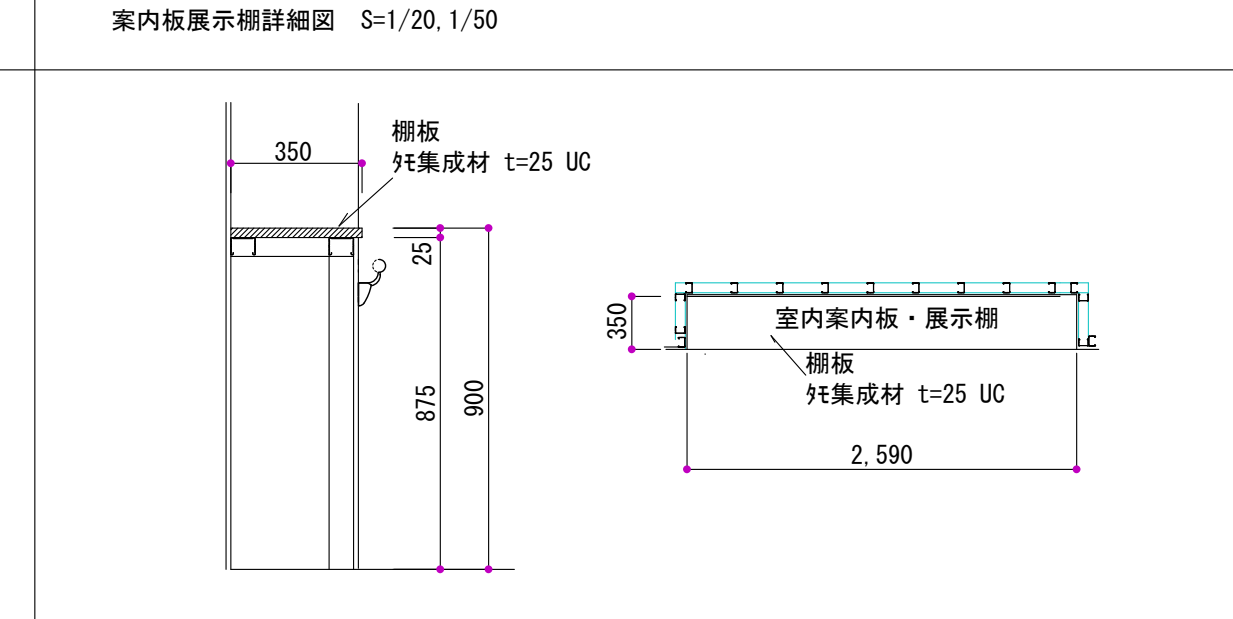
カーテンボックス・カーテン詳細図 S=1/100, 1/10



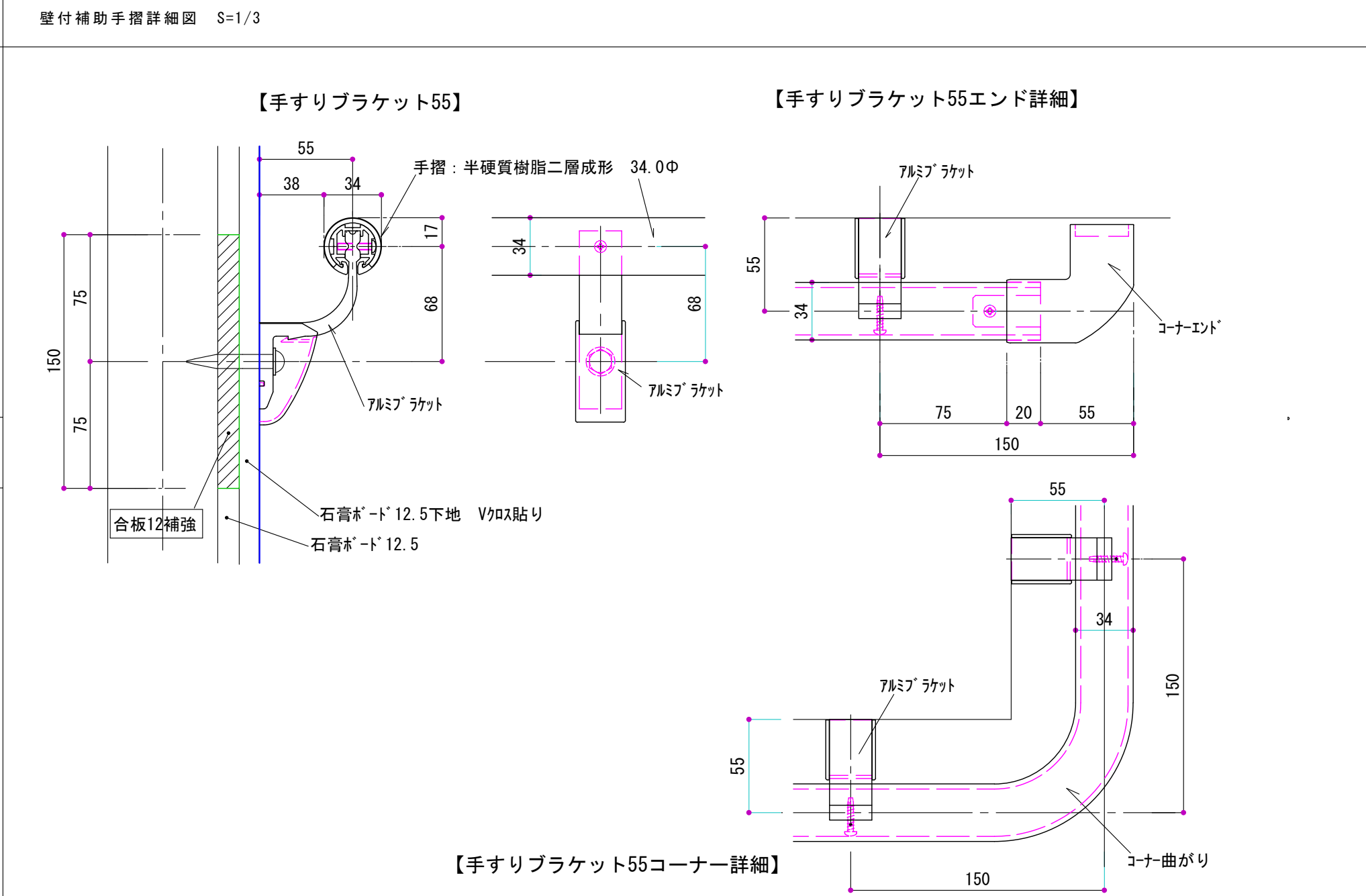
WC棚詳細図 S=1/20



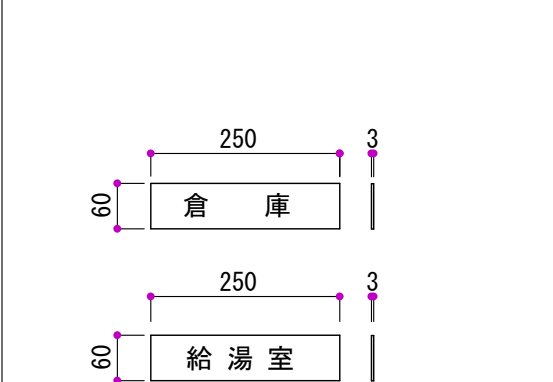
案内板展示棚詳細図 S=1/20, 1/50



壁付補助手摺詳細図 S=1/3

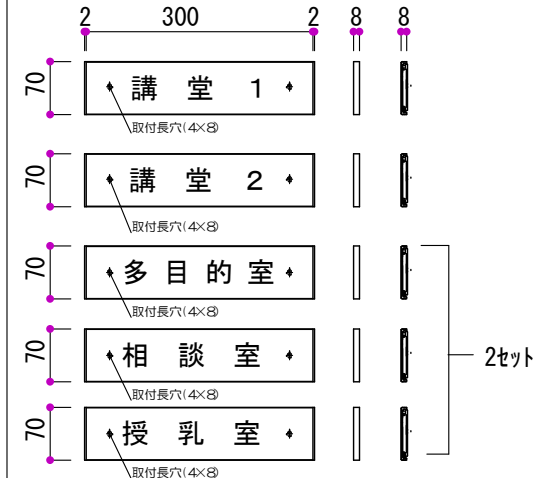


室名札（倉庫・給湯室） 2ヶ所 S=1/10 神楽川エイト同等品



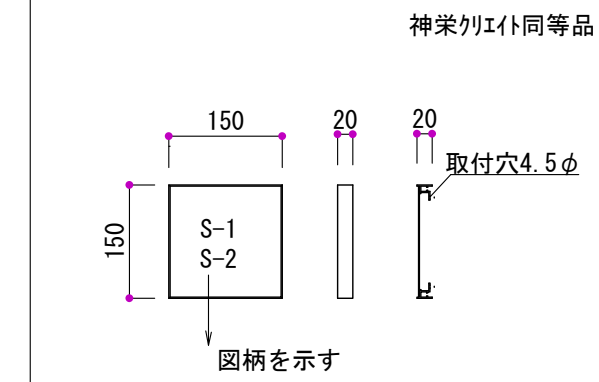
仕様	材質	色
両面テープ貼付	アクリル樹脂（乳白）3.0mm	文字：UV印刷

室名札（講堂 1.2 多目的室） 8ヶ所 S=1/10 神楽川エイト同等品



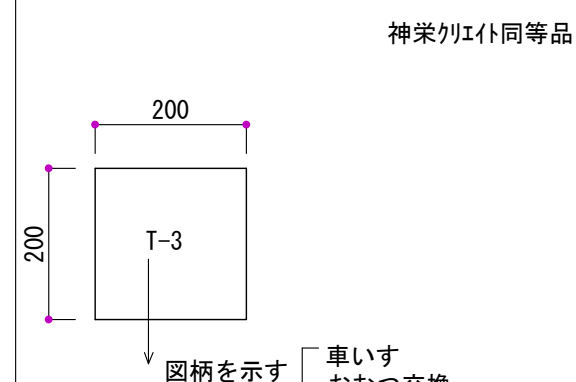
仕様	材質	色
平付型	本体：アルミ型材（シルバー） 表示板：ステンレス（SUS304）0.5mm	ヘアライン仕上 文字：UV印刷

ビクトサイン（男性、女性WC） S=1/10 SK-17F-150 アルミサイン（男性WC 平付型） 1ヶ所 SK-17F-150 アルミサイン（女性WC 突付型） 1ヶ所 神楽川エイト同等品



仕様	材質	仕上	色
平付型	アルミ1.0mm	本体：ヘアラインサイン：シート貼り	枠：ブロンズ プレート：シルバー

ビクトサイン（多機能WC） S=1/10 SK-AN-2LR アルミサイン（多機能WC 突付型） 1ヶ所 神楽川エイト同等品



仕様	材質	仕上	色
突付型	アルミ5.0mm	本体：ヘアラインサイン：シート貼り	プレート：シルバー

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

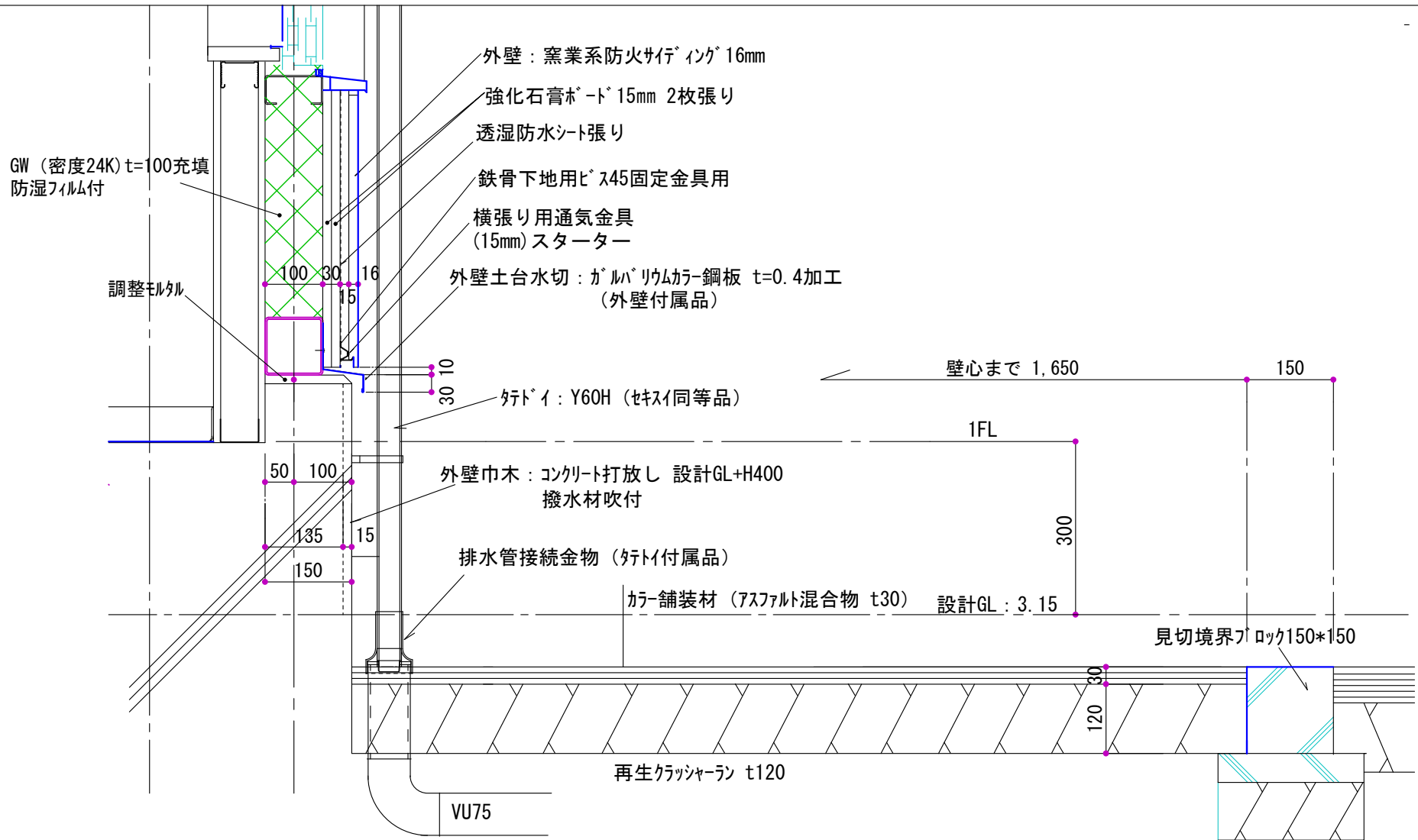
図名 部分詳細図. 1

縮尺 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小

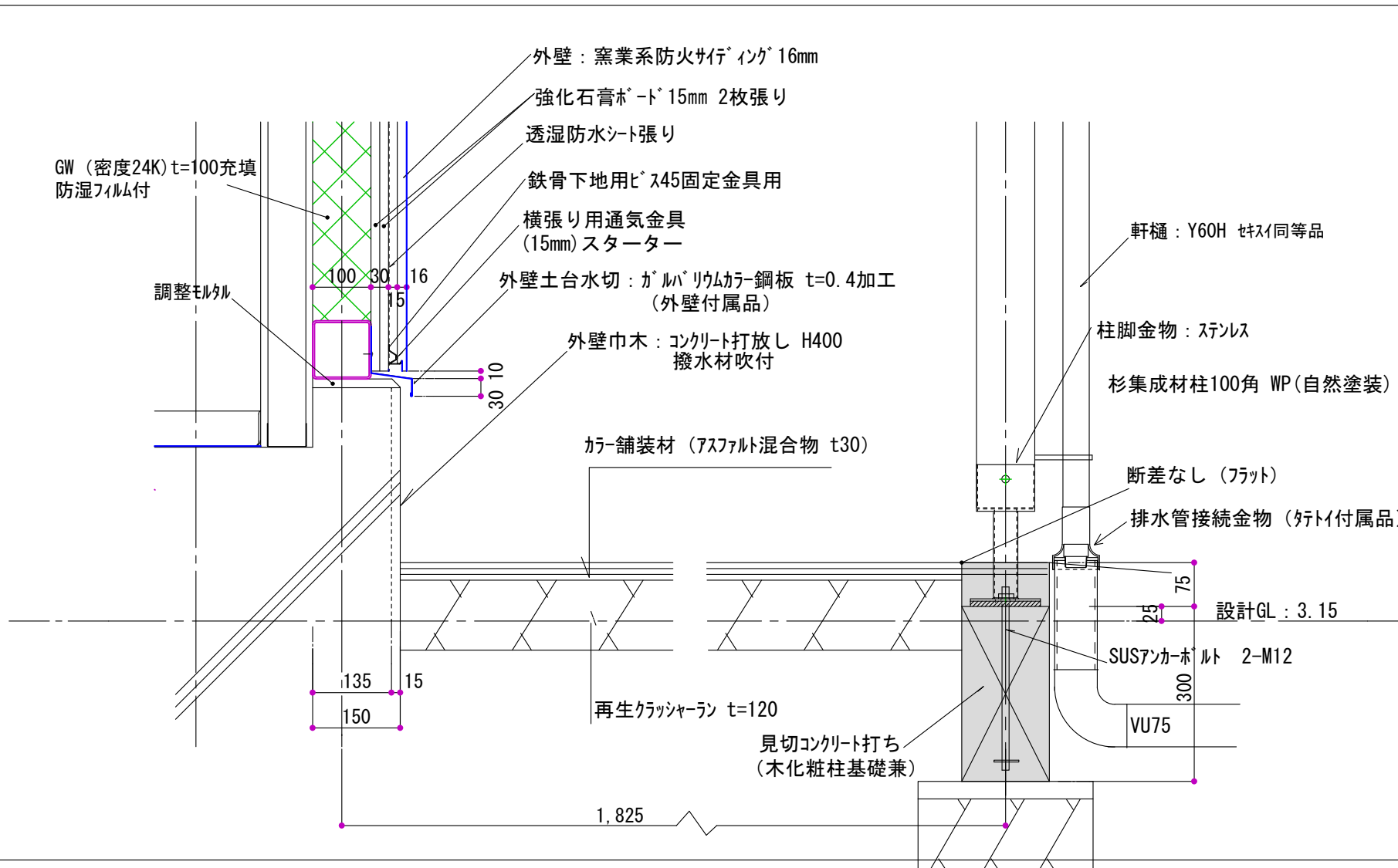
作成日

図面番号 A-39

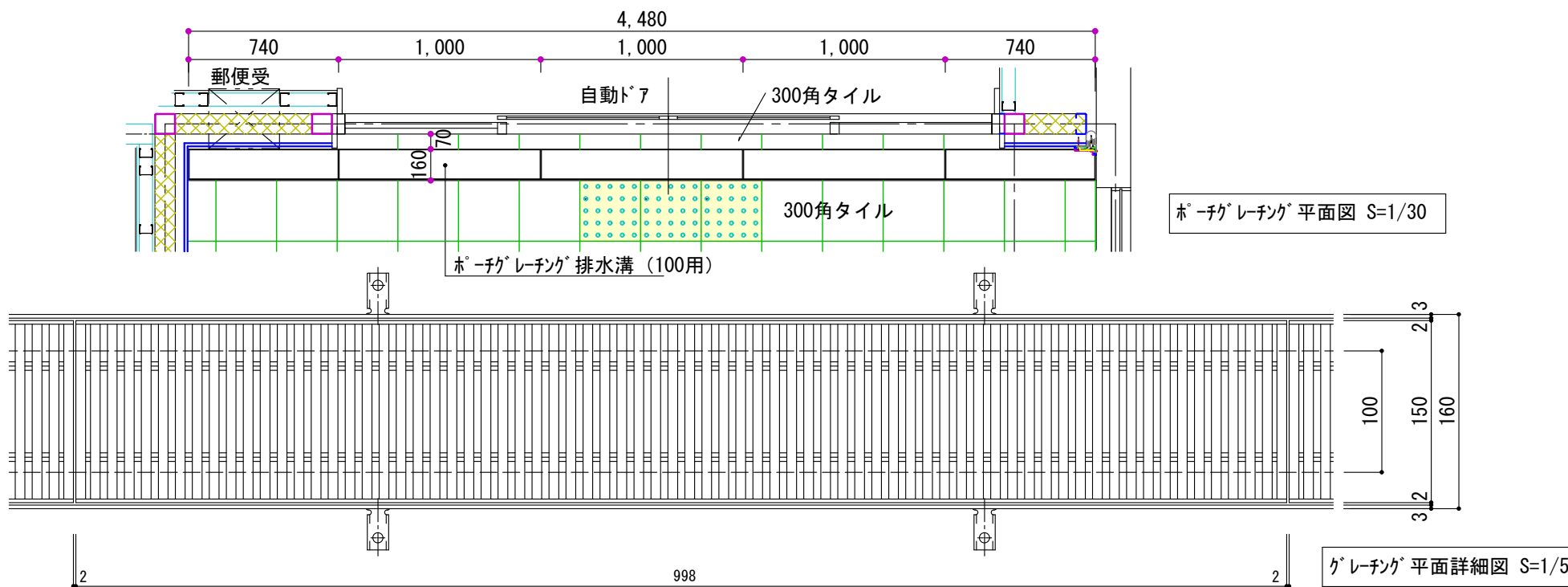
③ 通り側犬走り・外壁巾木詳細図 S=1/10



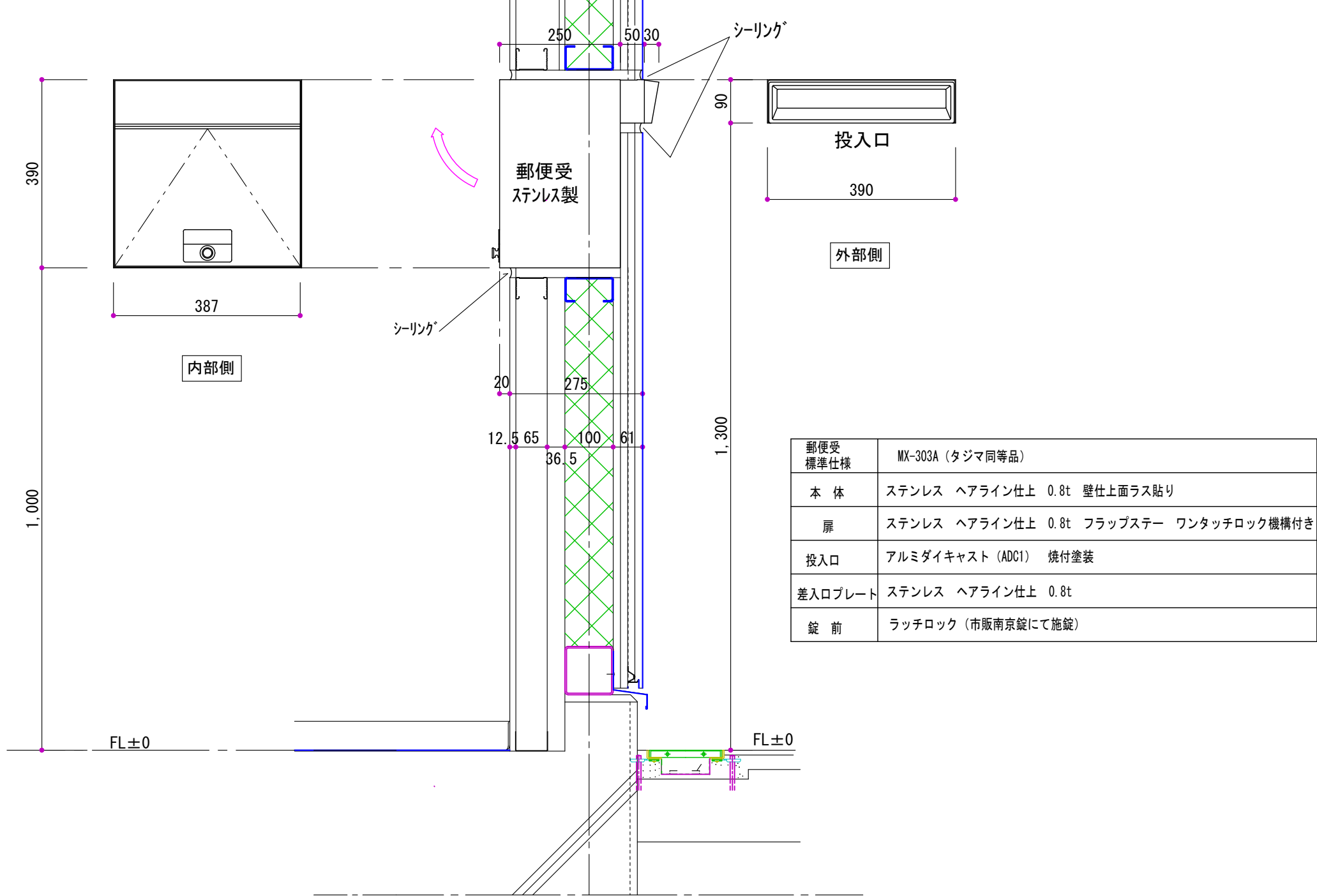
④ 通り側77°ロー床、外壁巾木詳細図 S=1/10



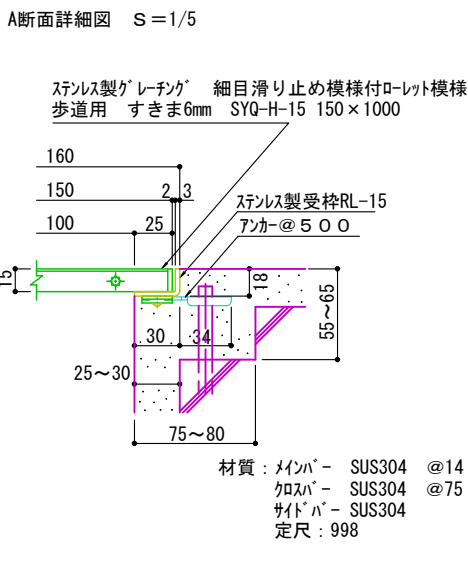
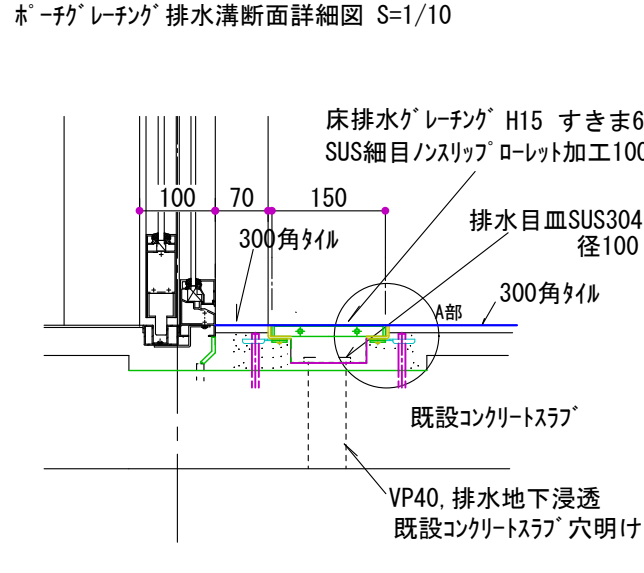
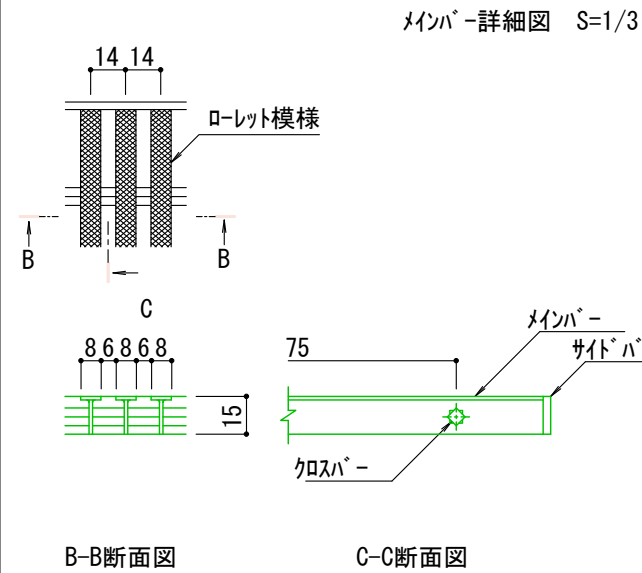
自動ドア前グレーチング排水溝詳細図 S=1/3, 1/5, 1/10, 1/30



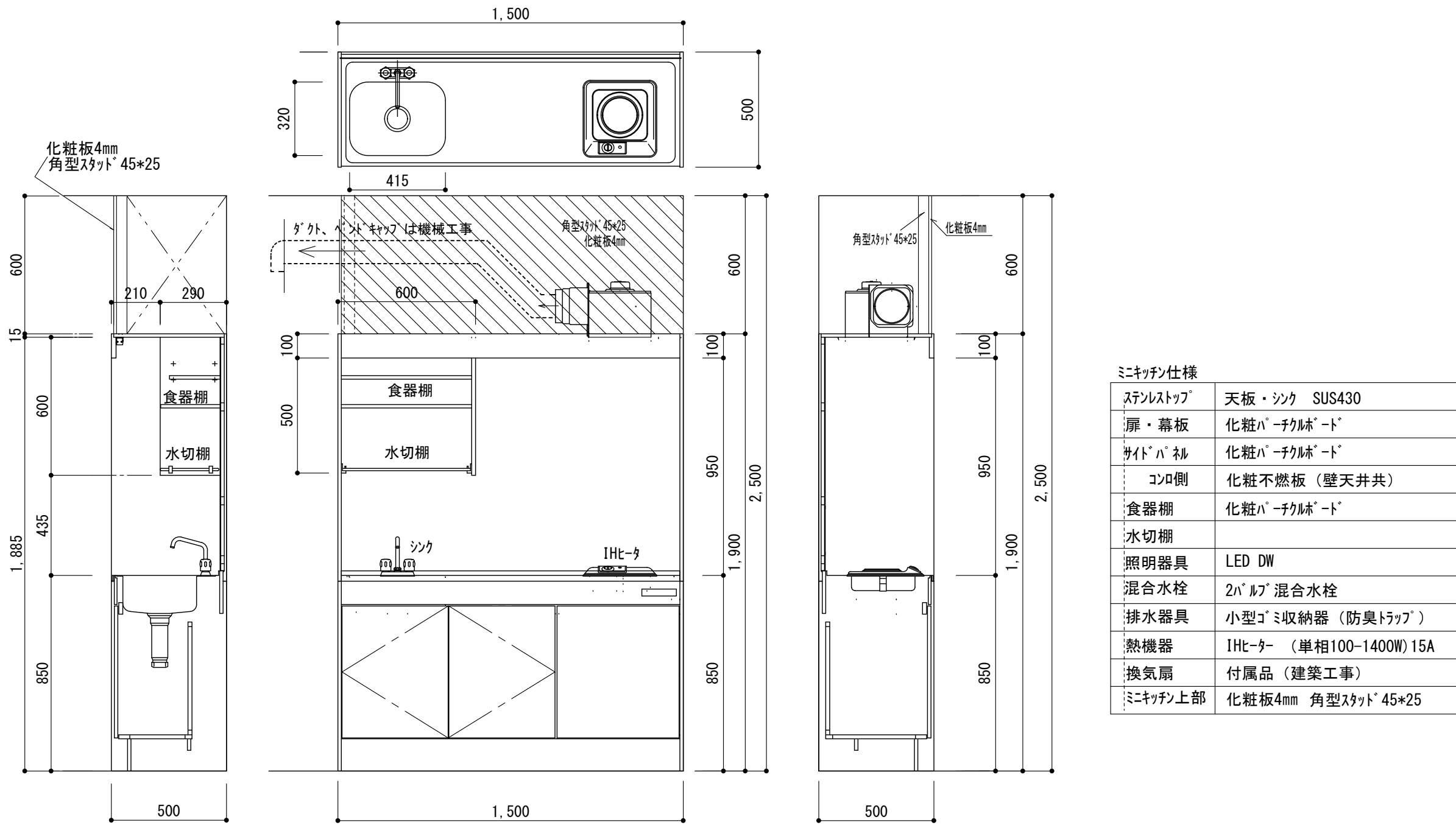
郵便受（壁埋込）詳細図 S=1/10



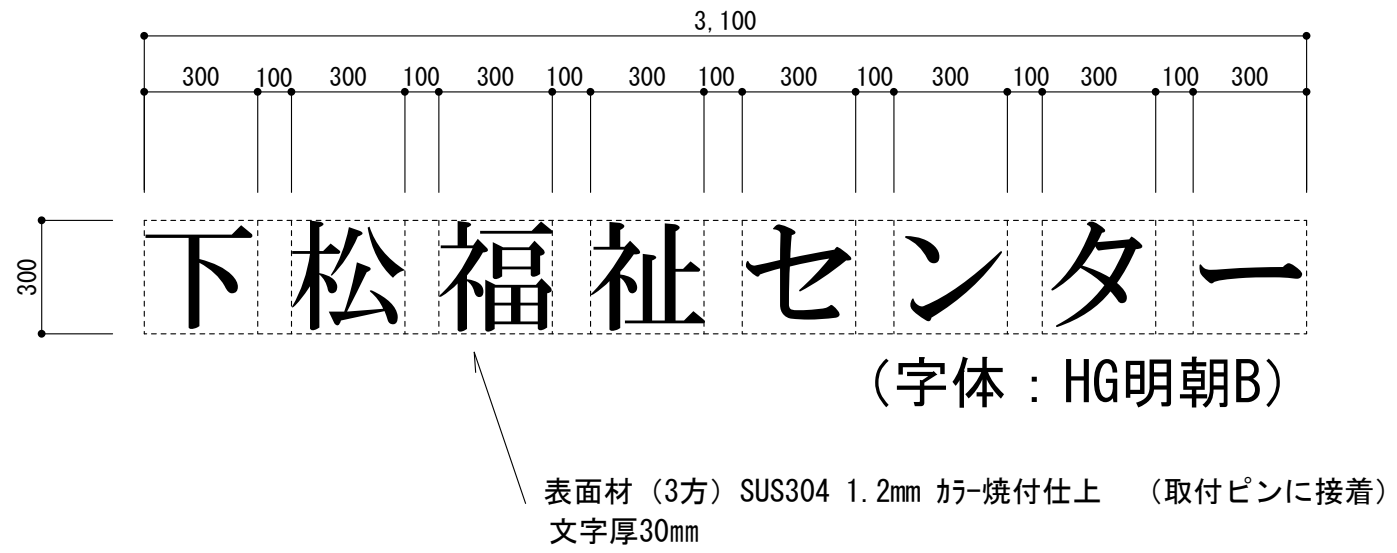
郵便受標準仕様	MX-303A (タジマ同等品)
本体	ステンレス ヘアライン仕上 0.8t 壁仕上面ラシ貼り
扉	ステンレス ヘアライン仕上 0.8t フラップステー ワンタッチロック機構付き
投入口	アルミダイキャスト (ADC1) 焼付塗装
差入口プレート	ステンレス ヘアライン仕上 0.8t
錠前	ラッチロック (市販南京錠にて施錠)



ミニキッチン1500詳細図 S=1/20

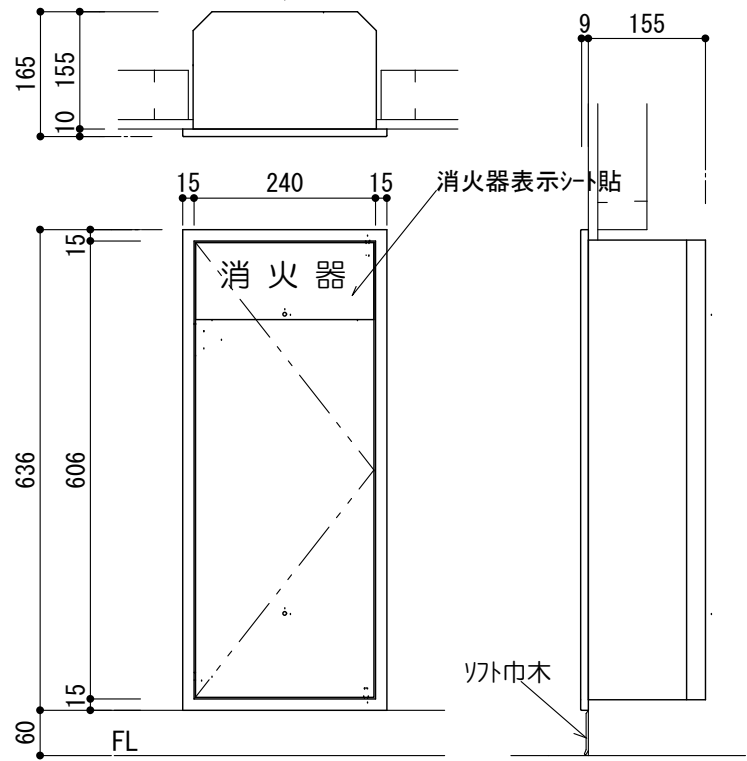


館名板（箱文字・外壁に取付）詳細図 S=1/20 2ヶ所

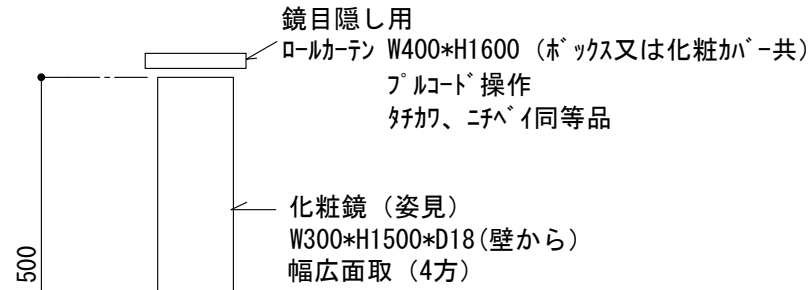


消火器ボックス詳細図 S=1/10

神栄ホームクリエイト㈱
SK-FEB-50 同等品

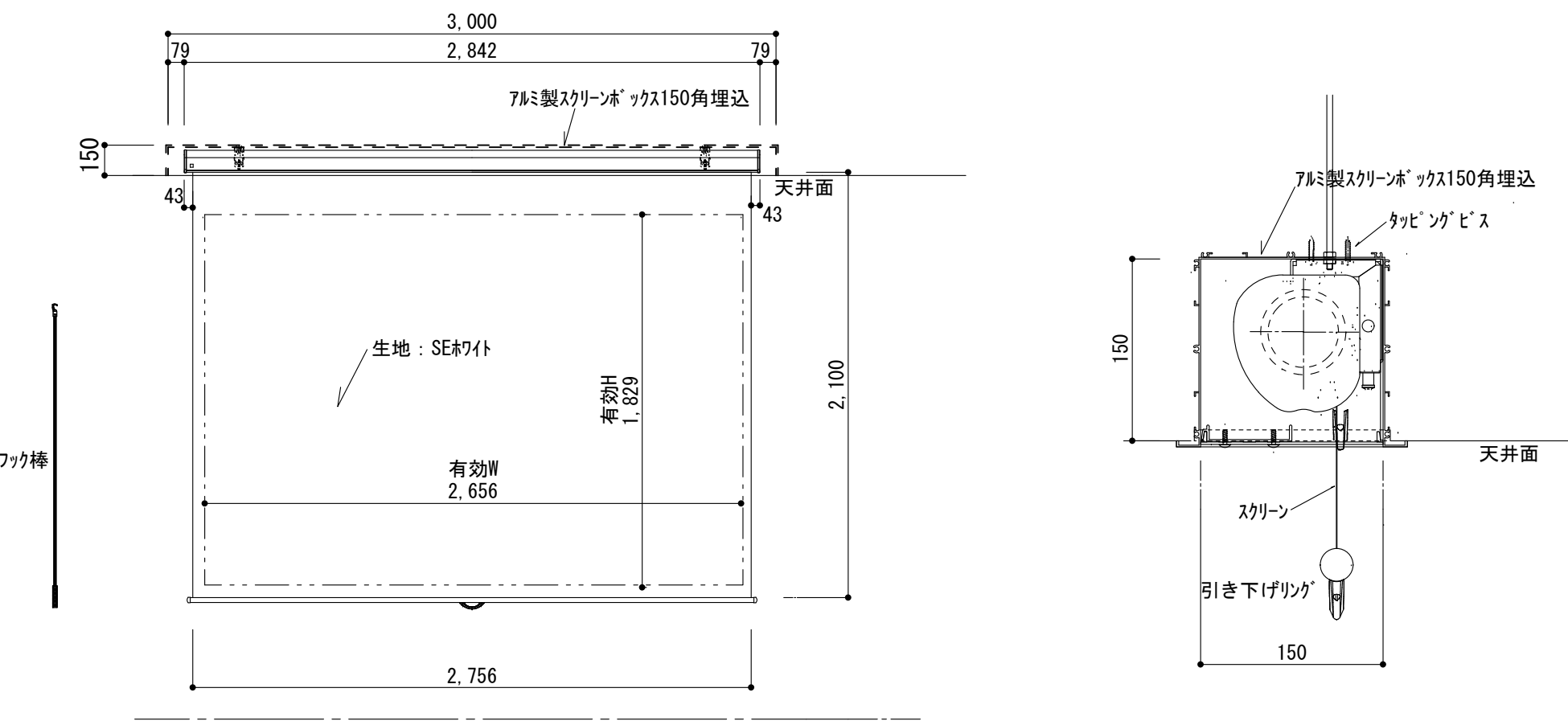


化粧鏡、ローカーテン詳細 S=1/30



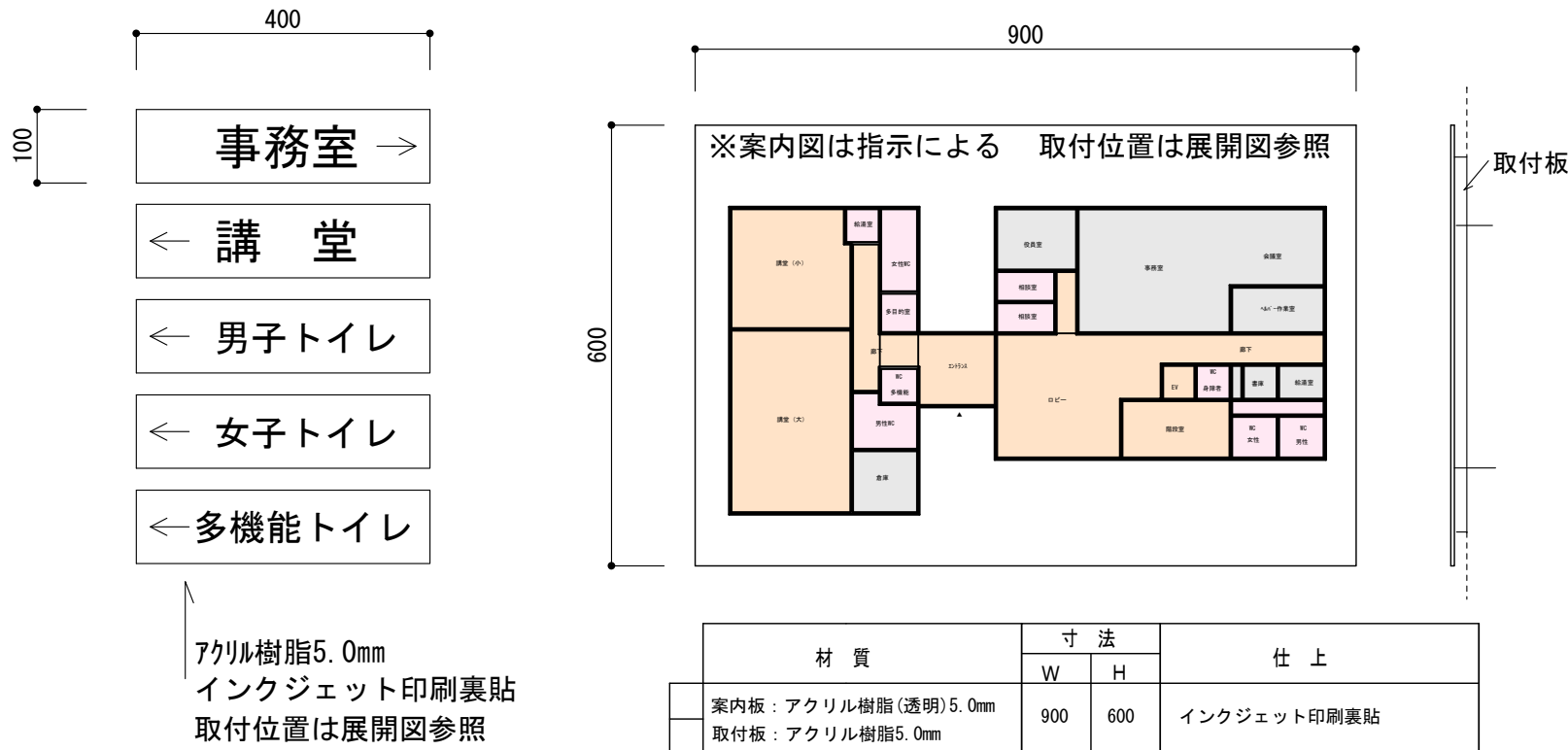
スクリーンボックス・スクリーン（手動式）詳細図 S=1/30, 1/10, 1/5

ケイアイシー・SKSⅡ-AF120W 手動巻上スクリーン同等品



屋内案内板 S=1/10

案内表示板 S=1/10



特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

部分詳細図. 3

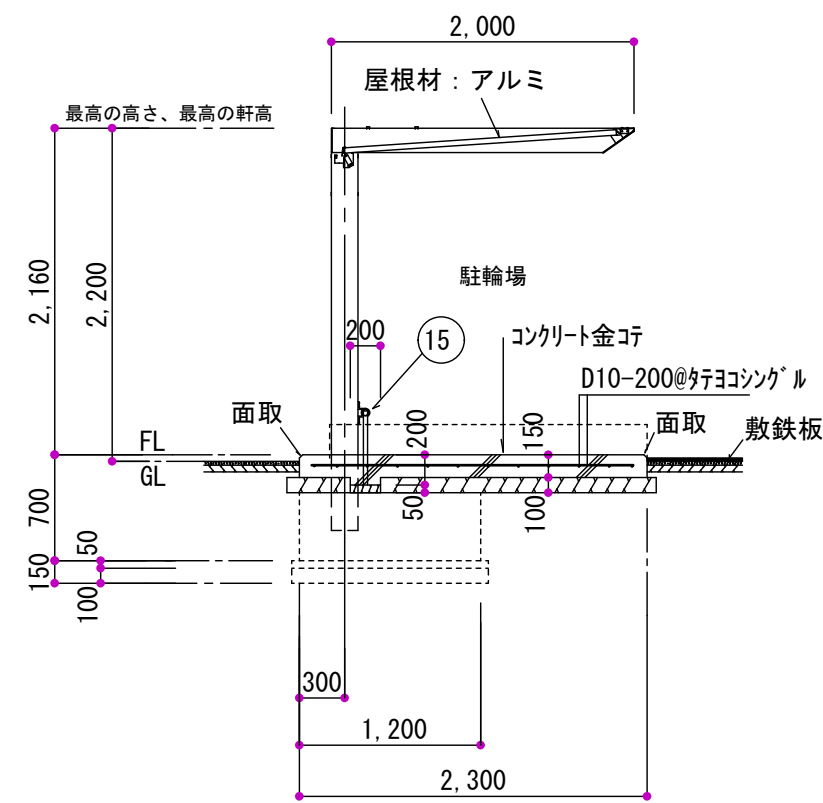
縮尺

S=1/30、1/20
S=1/10、1/5

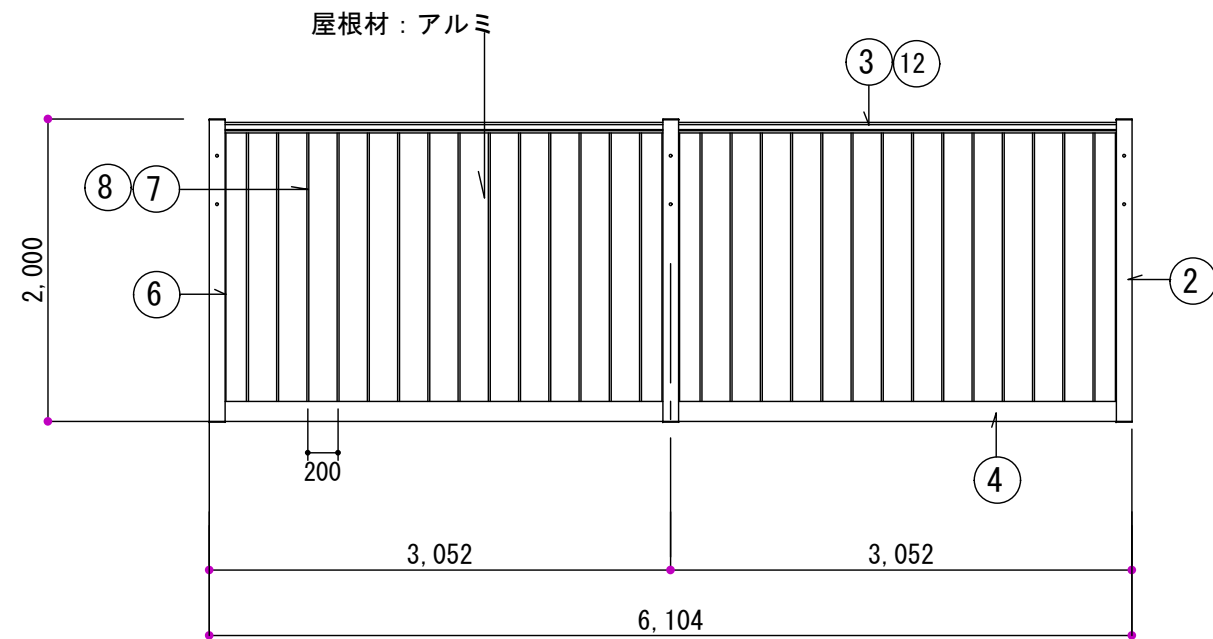
作成日

図面番号

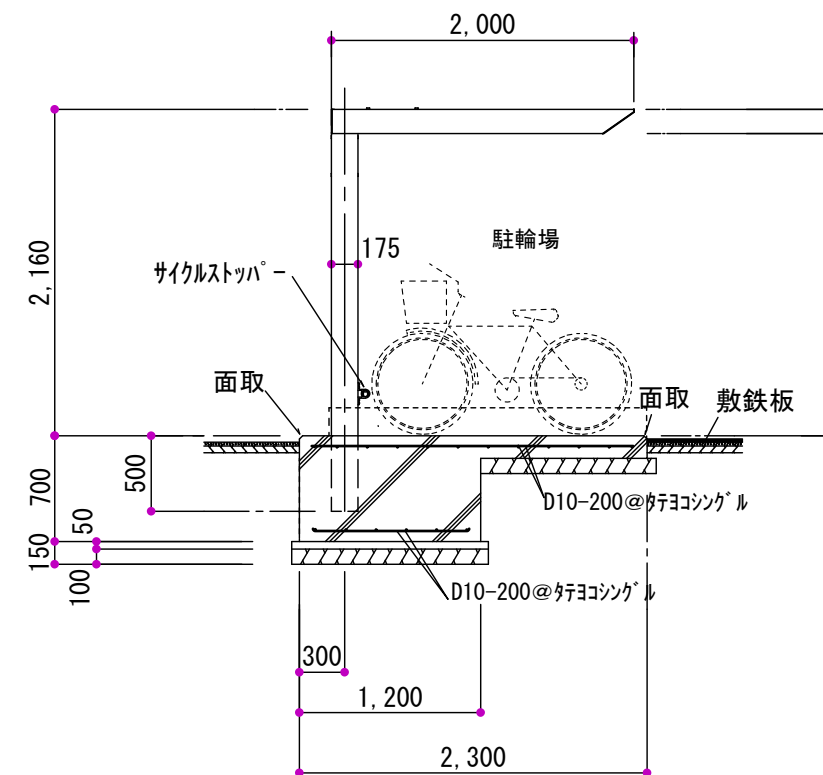
A-41



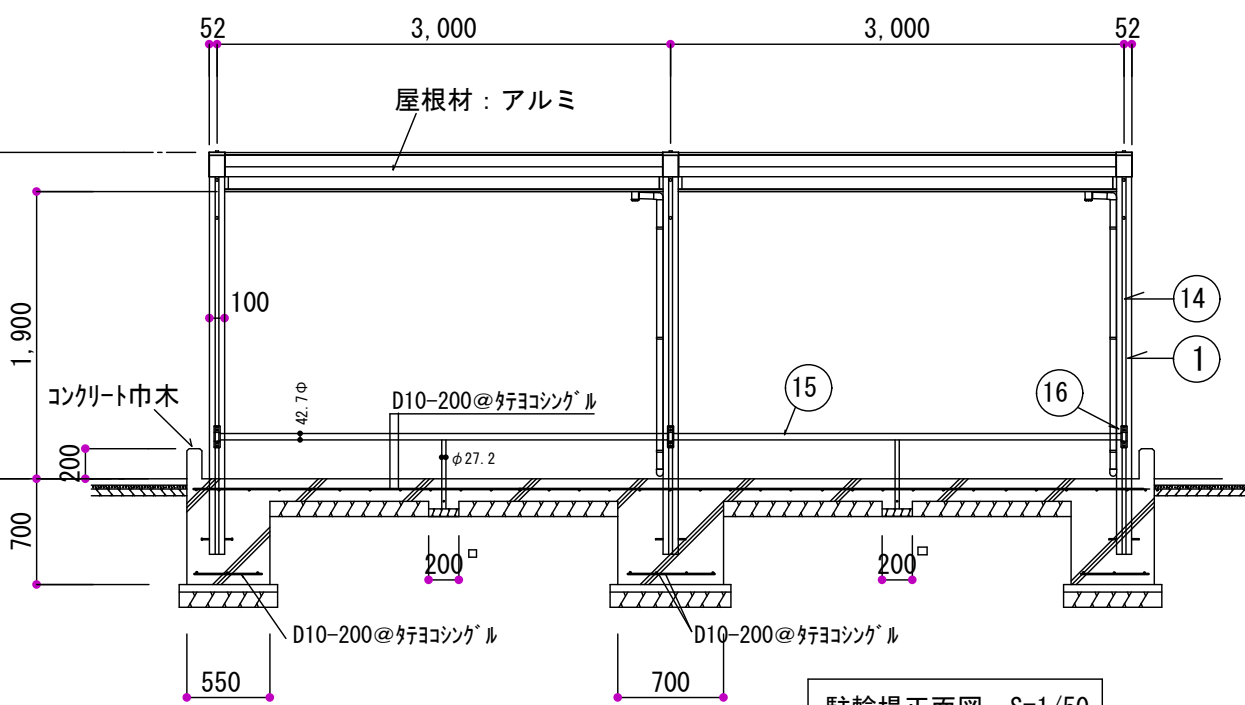
駐輪場断面図 S=1/50



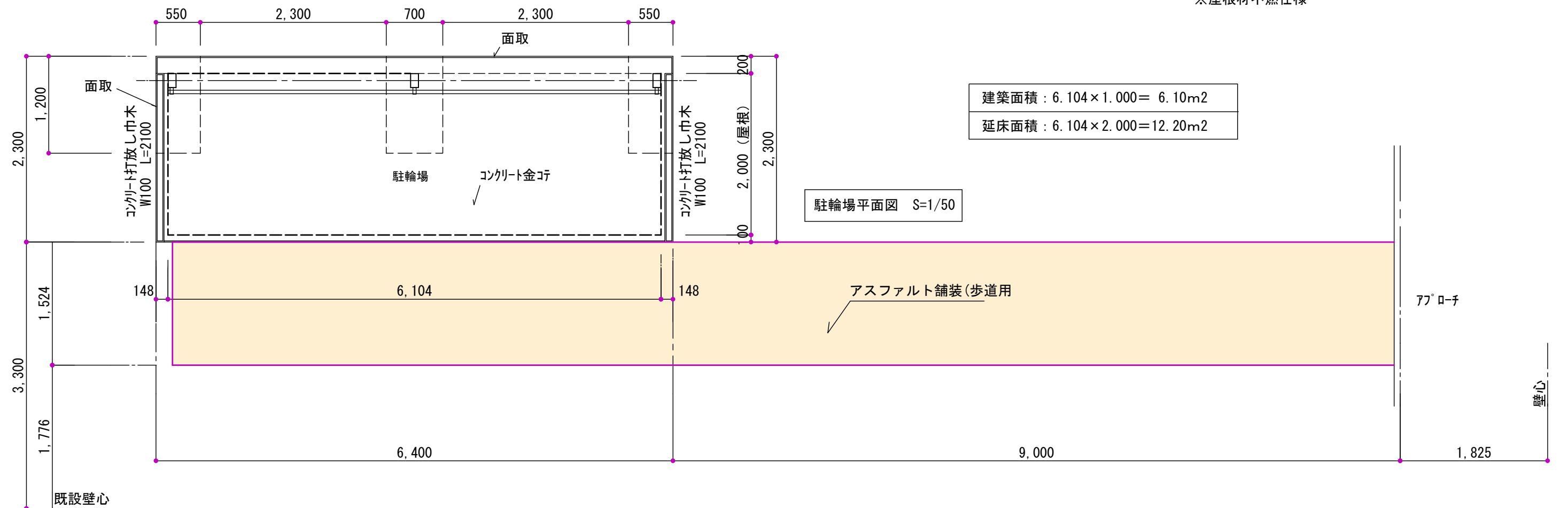
駐輪場屋根伏図 S=1/50



駐輪場側面図 S=1/50



駐輪場正面図 S=1/50

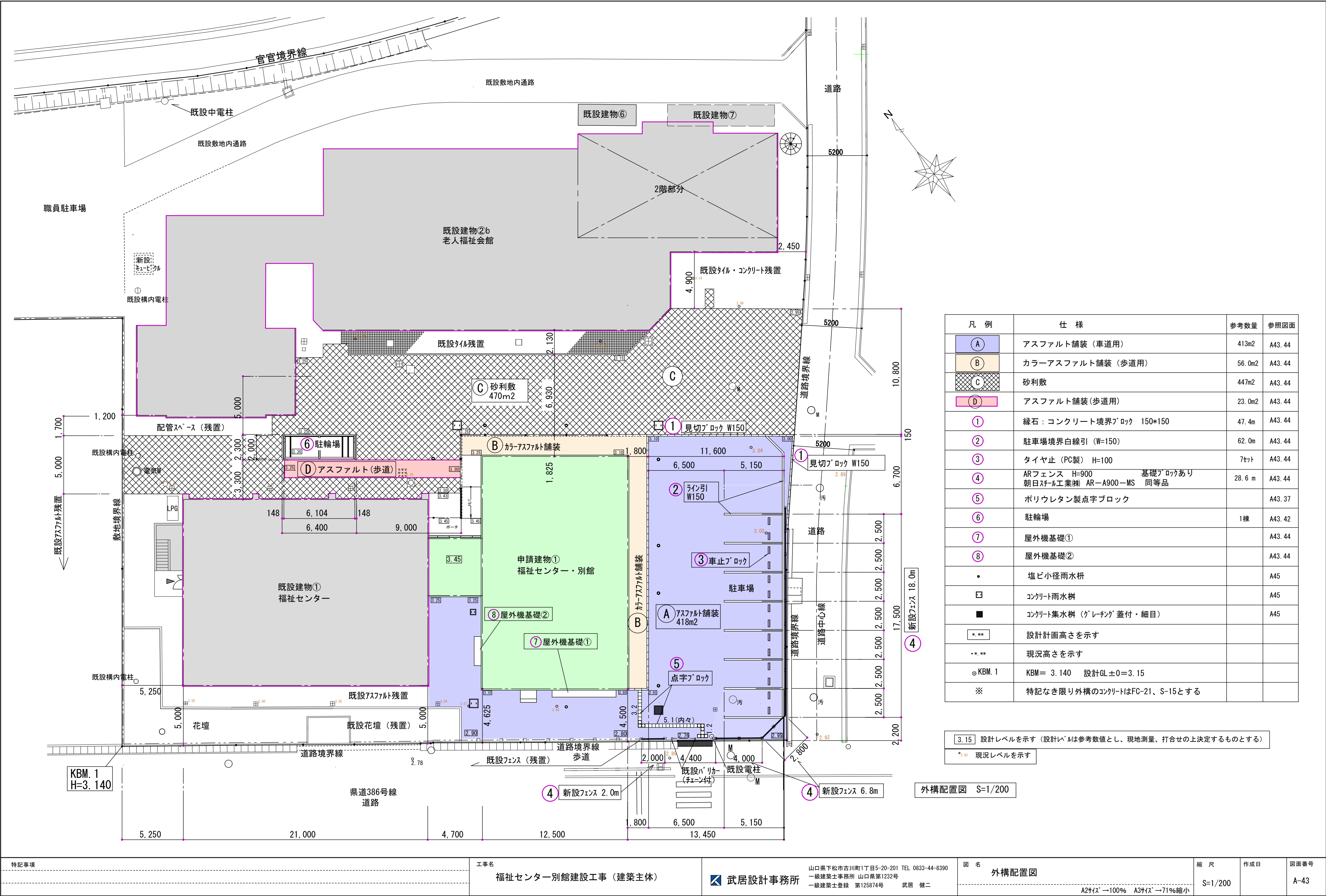


駐輪場平面図 S=1/50

主 要 部 材		仕 様 (材 質・塗 装)
① 支柱		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
② 梁	梁	陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
	梁カバー	陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
③ 桁	桁	陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
	桁カバー	陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
④ 正面水切		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
⑥ 中間梁		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
⑦ 屋根押え		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
⑧ 端部屋根取付材		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
⑫ 中間梁カバー		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
⑭ 縦樋		陽極酸化・塗装複合被膜 アルミ押出形材
キャップ類		ASA
ボルト・ナット・座金		ステンレス鋼線材
⑮ 車止めパイプ		ステンレス (SUS304) #400
⑯ 車止めブラケット		アルミダイカスト (ADC12) アクリル溶剤焼付塗装
ビス類		軟鋼線材

国土交通省告示408・409・410 (750) 号対応 製品
積雪荷重600N/m² ■品番
基準風速V0=34m/s ※四国化成：サイクルポートL I F Tタイプ同等品
※屋根材不燃仕様

建築面積：6.104×1.000＝ 6.10m ²
延床面積：6.104×2.000＝12.20m ²

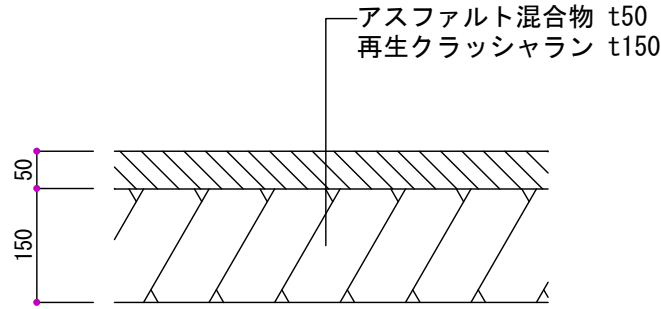
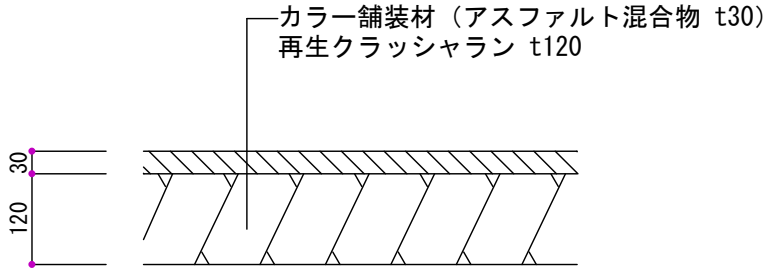
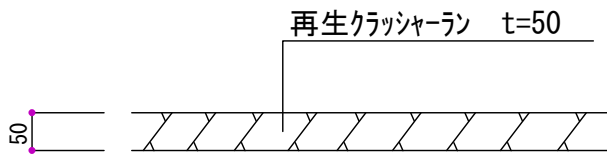
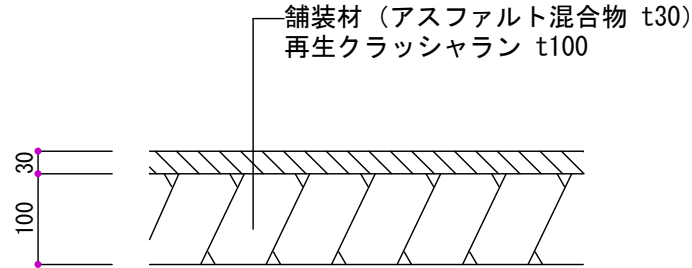
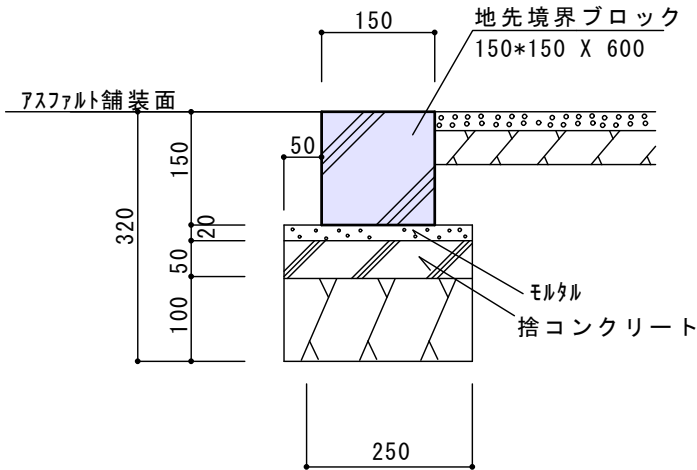
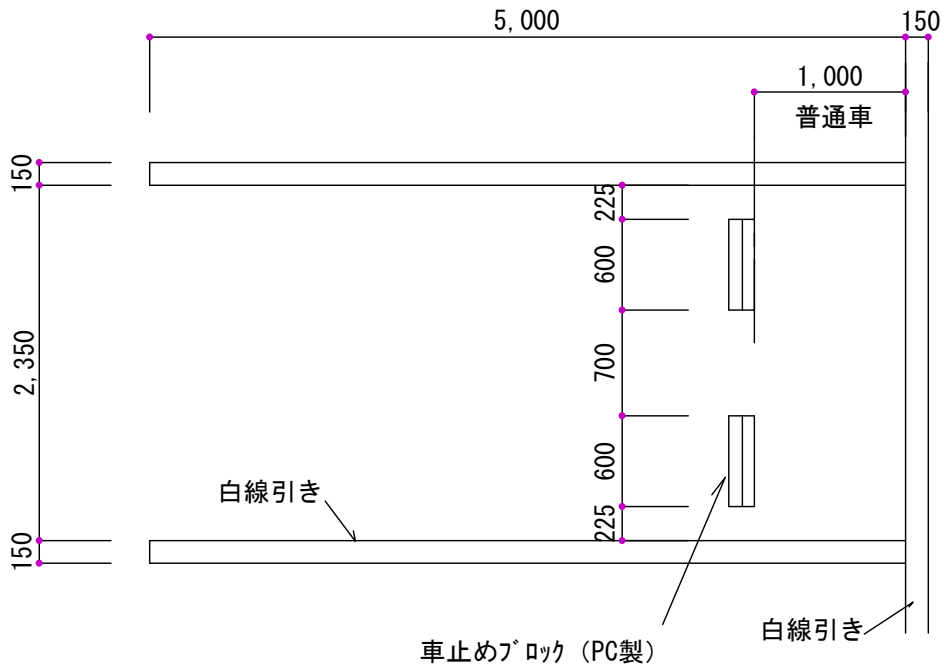
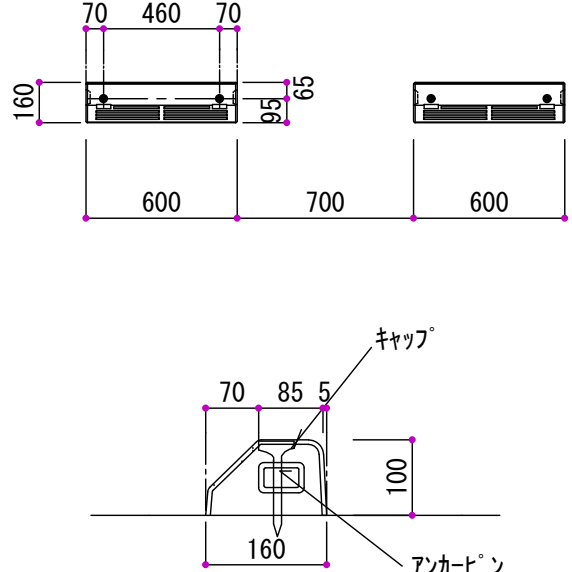
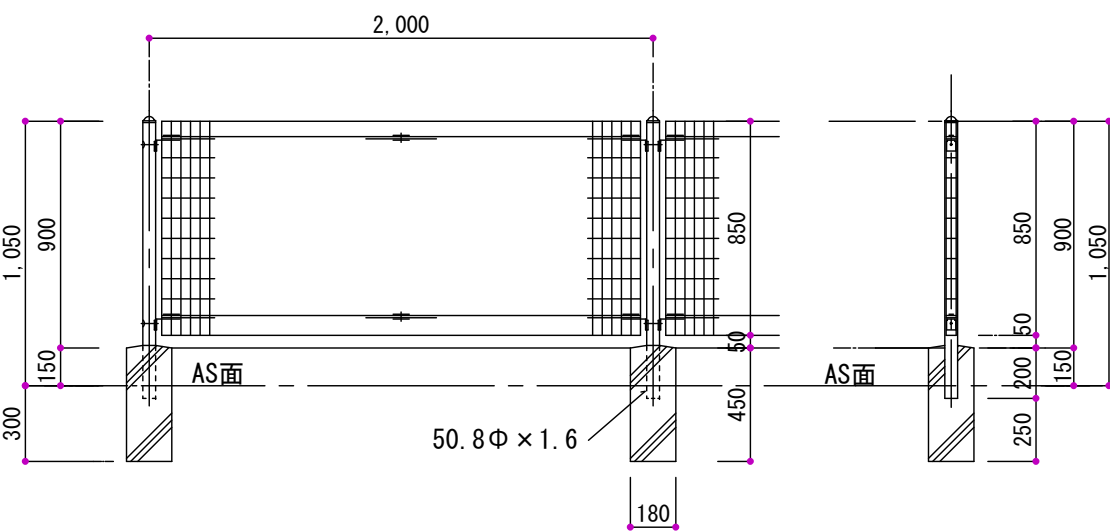
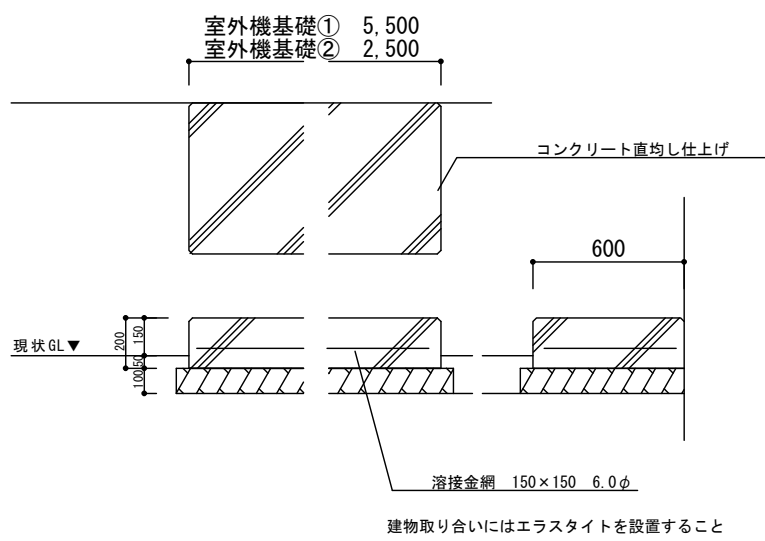


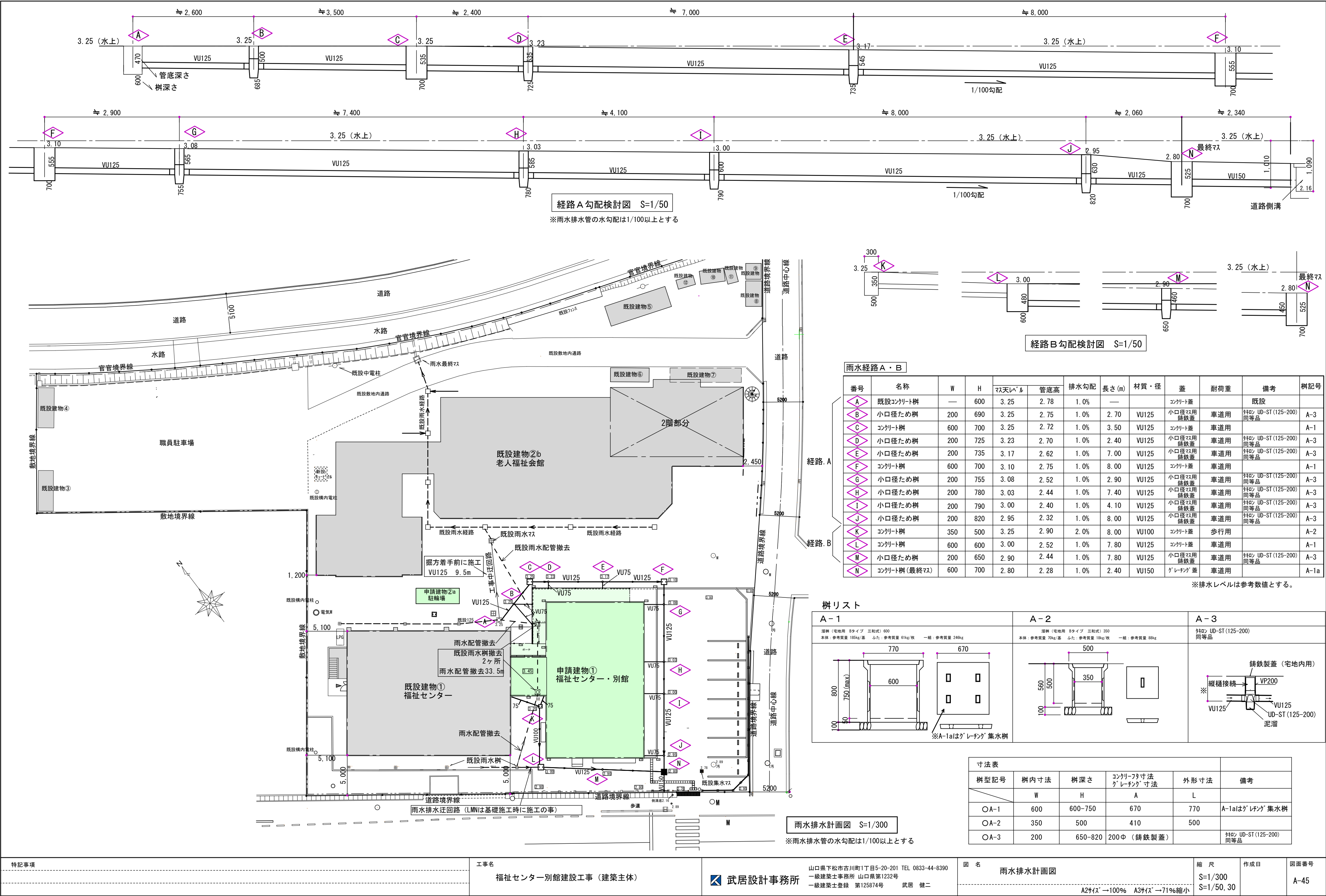
凡 例	仕 様	参考数量	参照図面
(A)	アスファルト舗装 (車道用)	413m2	A43. 44
(B)	カラーアスファルト舗装 (歩道用)	56. 0m2	A43. 44
(C)	砂利敷	447m2	A43. 44
(D)	アスファルト舗装 (歩道用)	23. 0m2	A43. 44
①	縁石：コンクリート境界ブロック 150*150	47. 4m	A43. 44
②	駐車場境界白線引 (W=150)	62. 0m	A43. 44
③	タイヤ止 (PC製) H=100	7セット	A43. 44
④	ARフェンス H=900 基礎ブロックあり 朝日スチール工業㈱ AR-A900-MS 同等品	28. 6 m	A43. 44
⑤	ポリウレタン製点字ブロック		A43. 37
⑥	駐輪場	1棟	A43. 42
⑦	屋外機基礎①		A43. 44
⑧	屋外機基礎②		A43. 44
・	塩ビ小径雨水枡		A45
□	コンクリート雨水枡		A45
■	コンクリート集水枡 (ケレチング 蓋付・細目)		A45
***	設計計画高さを示す		
***	現況高さを示す		
⊙ KBM. 1	KBM= 3. 140 設計GL±0=3. 15		
※	特記なき限り外構のコンクリートはFC-21、S-15とする		

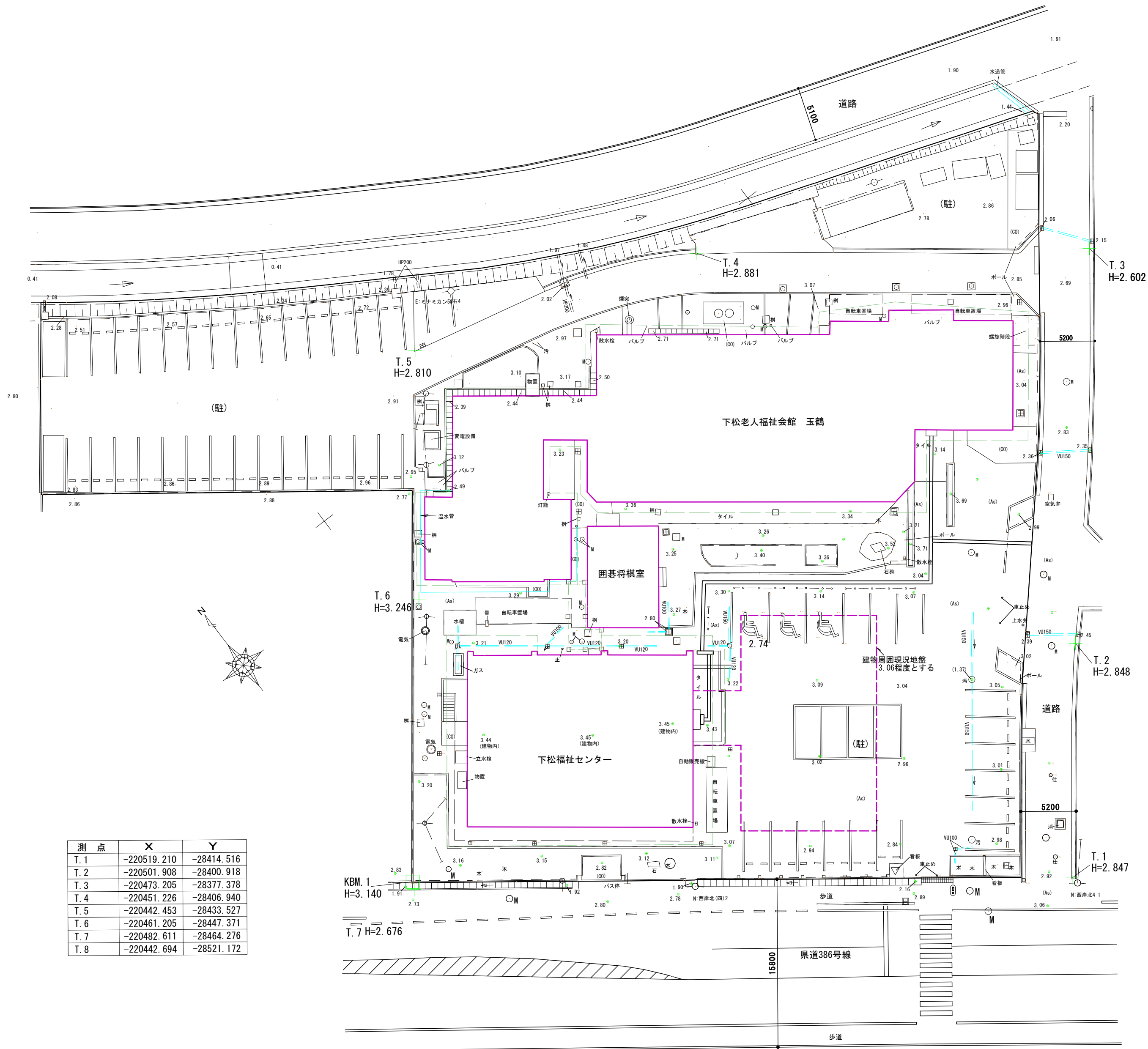
3. 15 設計レベルを示す (設計レベルは参考数値とし、現地測量、打合せの上決定するものとする)

2. 92 現況レベルを示す

外構配置図 S=1/200

A: アスファルト舗装（車道用） 詳細図 S=1/10		B: カラーアスファルト舗装（歩道用） 詳細図 S=1/10		C: 砂利敷 詳細図 S=1/10		D: アスファルト舗装（歩道用） 詳細図 S=1/10		1 見切コンクリート境界ブロック 詳細図 S=1/10	
									
2 駐車場ライン引き詳細 S=1/50		3: タイヤ止め詳細図 参考型番 NSP-100B S=1/30		4: ARフェンス H=900 基礎ブロック S=1/30 朝日スチール工業(株) 同等品 AR-A900-MS		7 8 コンクリート基礎図(建築) S= 1 /20			
									
特記事項		工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）		武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二		図 名 外構詳細図		縮 尺 S=1/10 S=1/30, 50	
						A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小		作成日 図面番号 A-44	





測点	X	Y
T. 1	-220519.210	-28414.516
T. 2	-220501.908	-28400.918
T. 3	-220473.205	-28377.378
T. 4	-220451.226	-28406.940
T. 5	-220442.453	-28433.527
T. 6	-220461.205	-28447.371
T. 7	-220482.611	-28464.276
T. 8	-220442.694	-28521.172

建物概要等

1. 構造概要

2. 構造設計条件等

構造概要

			備考
構造種別	地上()階～()階(鉄骨)造	()階～()階()造	
	()階～()階()造	()階～()階()造	
架構形式	X方向(ラーメン)構造	Y方向(ラーメン)構造	
耐震構造方式	○耐震構造・制振構造		
	・免震構造(免震層の位置・基礎下免震・中間階免震()階)		
基礎方式	○直接基礎(独立・連続・べた)		
	・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭・既製コンクリート杭・鋼管杭)		
耐震安全性の分類	・Ⅰ類(1.5)・Ⅱ類(1.25)・Ⅲ類(1.0)		
耐風に関する性能の分類	・Ⅰ類(1.3)・Ⅱ類(1.15)・Ⅲ類(1.0)		

計算方法

	X方向	Y方向	備考
許容応力度計算(令第82条各号+令第82条の4)【ルート1】	○	○	
許容応力度等計算【ルート2】	・	・	
保有水平耐力計算【ルート3】	・	・	X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する
限界耐力計算	・	・	
その他の計算法()	・	・	
構造計算適合性判定機関(・山口県建築住宅センター)			
特別な検証法(時刻歴応答解析による)		・	
大臣認定(認定番号)			
指定性能評価機関()			
評価・高層評価・免震評価・その他(評価番号)			

外力等

			備考
地震力	設計用一次固有周期	(0.153)秒	
	地震地域係数(Z)	Z=・1.0・0.9○0.8・0.7	
	地盤の種別	第(2)種地盤Tc=(0.6)秒	
	標準せん断力係数	X方向Y方向	
	一次設計	0.0-(0.30)0.0-(0.30)	
二次設計	0.0-(1.00)0.0-(1.00)		
風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分	基準風速(V0)速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ○Ⅲ・Ⅳ	(34)m/s	
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V0)平均速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ○Ⅲ・Ⅳ	(34)m/s	
積雪荷重	区域	・多雪区域○多雪区域以外(特定緩勾配屋根・有・無)	
	設計垂直積雪量	(30)cm	
	単位荷重	(20)N/m ²	
	垂直積雪量の低減	・低減する○低減しない	

3. 地盤調査資料

※当該敷地の既往調査報告書○構造図による

4. 液状化対策

・有り(範囲・工法・仕様・計測・試験等については構造図を参照)○無し構造計算(第1-1)においては150galで液状化の恐れがないとなっているが地盤改良選定にあたっては液状化対策に有利に働く柱状改良杭を採用した。

構造関係共通事項(共通事項)

1.1 適用範囲

(1)構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
(2)構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
(3)建築構造図に特記無き事項は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年度版による。

1.2 用語の定義

(1)構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。
(2)異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
(3)長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

1.3 優先順位

設計図書の間図のうち建築構造図に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 構造図及び構造関係共通事項(共通事項)
2. 構造関係共通事項(配筋標準図)、構造関係共通事項(鉄骨標準図)

1.4 記号等

図面で使用する記号等は表1～表4を標準とする。

表1 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		○	×	∅	○	○	⊙	⊗	⊛

表2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁(GB壁)		ボーリング位置
	耐力壁		
	片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁		
	土圧を受け、かつ耐力壁		

表3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築																

表4 スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管(薄肉管)	つば付き鋼管(黒管)
記号(建築用)	SP(白管)	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

構造関係共通事項(配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図(余長)	鉄筋の種類	折曲げ内法直径(D)		
		SD295、SD345	SD390		
		呼び名	D16以下	D19～D38	D19～D38
180°					
135°					
90°			3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90°(幅止め筋)					

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
(1) 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部

図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋(●印)

(2) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
(3) 杭基礎のベース筋
(4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(2) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度F _c (N/mm ²)	L1(フックなし)	L1Hフックあり
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	30d
	30、33、36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24、27	45d	35d
	30、33、36	40d	30d

(注) 1. L1、L1H重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL1は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(b) 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。
(2) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の直線定着長さは、40d以上(軽量コンクリートの場合は50d以上)とする。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度F _c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ			
		L1	L2	L1h	L2h	L3h	
SD295	18	45d	40d	35d	30d		
	21	40d	35d	30d	25d		
	24、27	35d	30d	25d	20d		
	30、33、36	35d	30d	25d	20d		
SD345	18	50d	40d	20d	35d	30d	
	21	45d	35d	150mm以上	30d	25d	
	24、27	40d	35d	10d	30d	25d	
	30、33、36	35d	30d	10d	25d	20d	
SD390	21	50d	40d	20d	35d	30d	
	24、27	45d	40d	10d	35d	30d	
	30、33、36	40d	35d	10d	30d	25d	

(注) 1. L1、L1h2. から4. までの直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L2、L2h割裂破壊のおそれのない面所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。
(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(ii) 余長は8d以上とする。
(iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さL_a及びL_bは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.3 折曲げ定着の方法

特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事(建築主体)

武居設計事務所

山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号
構造設計一級建築士登録 第2939号

図名

構造関係共通事項(1)

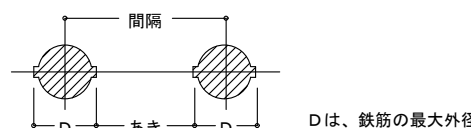
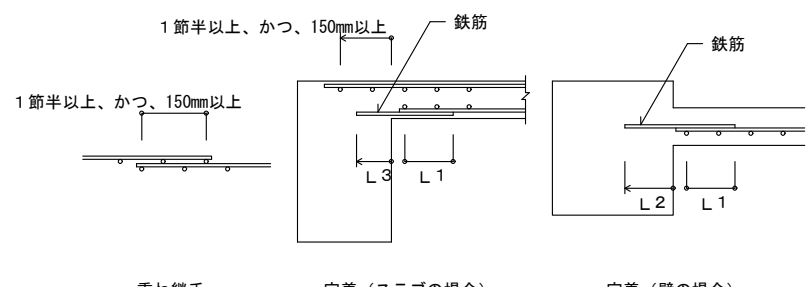
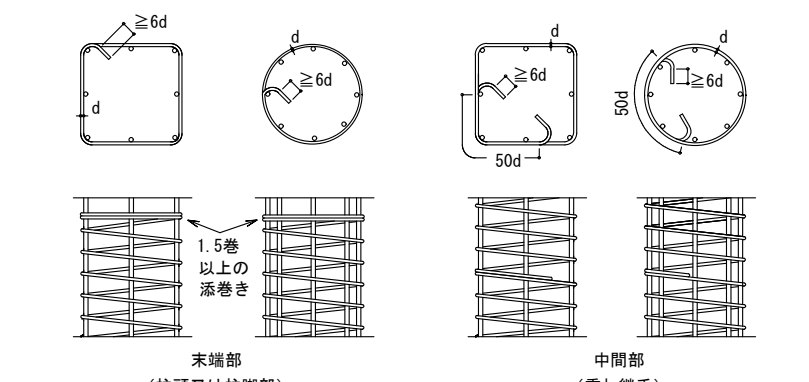
縮尺

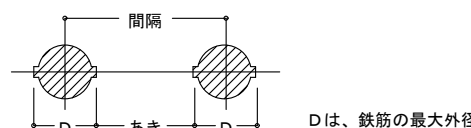
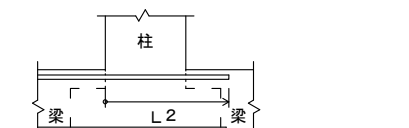
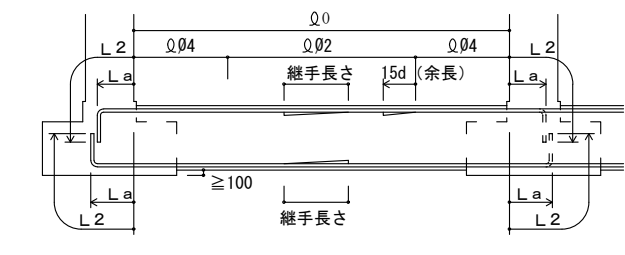
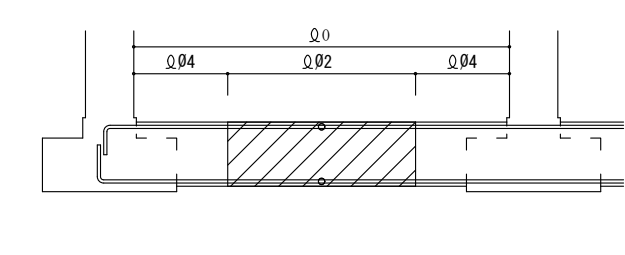
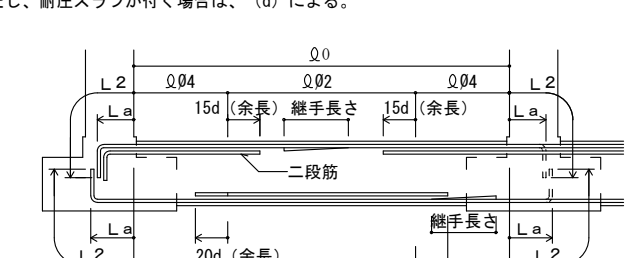
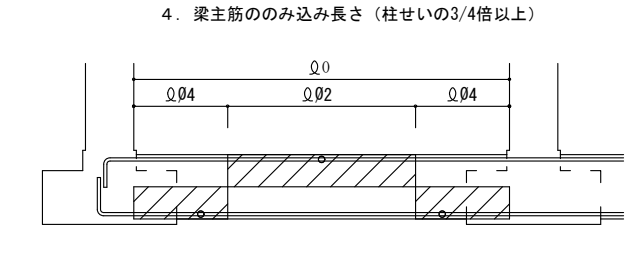
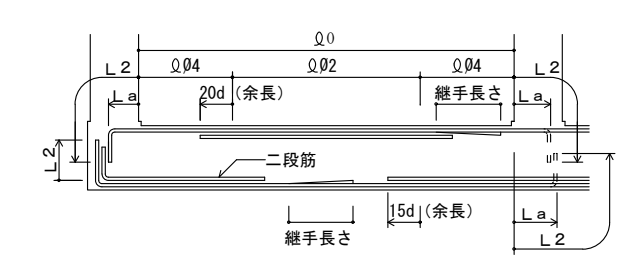
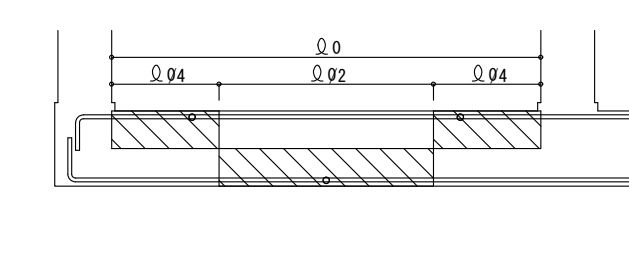
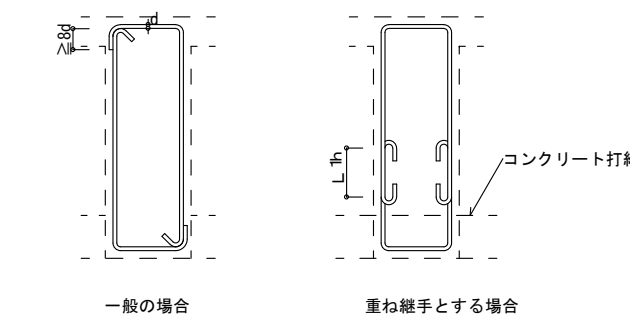
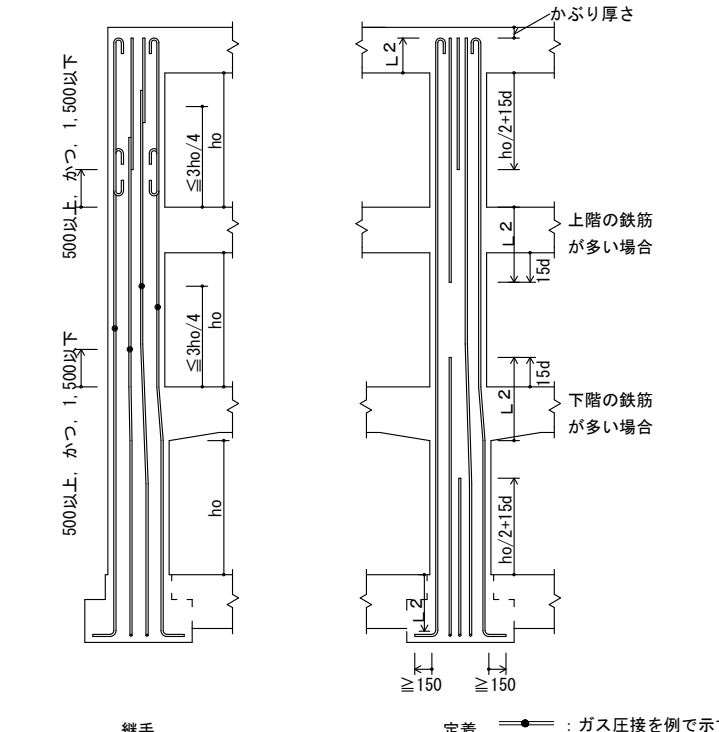
A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小

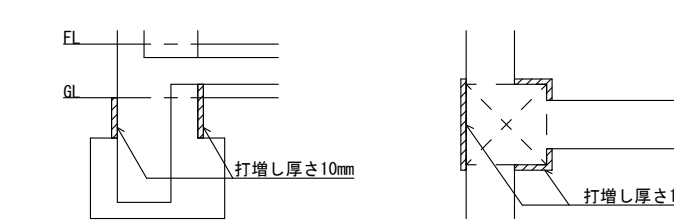
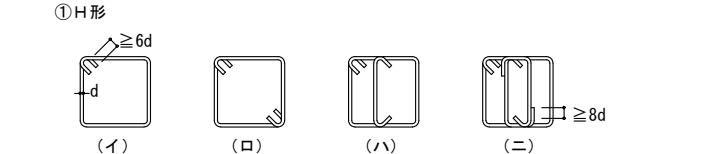
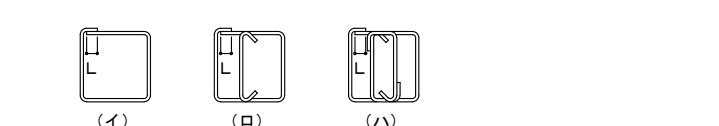
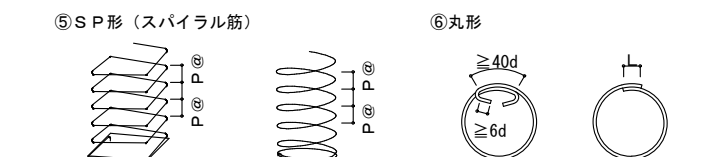
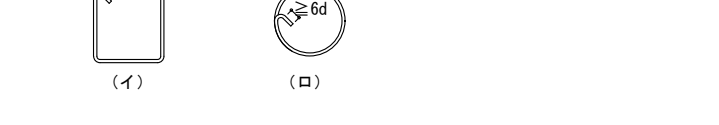
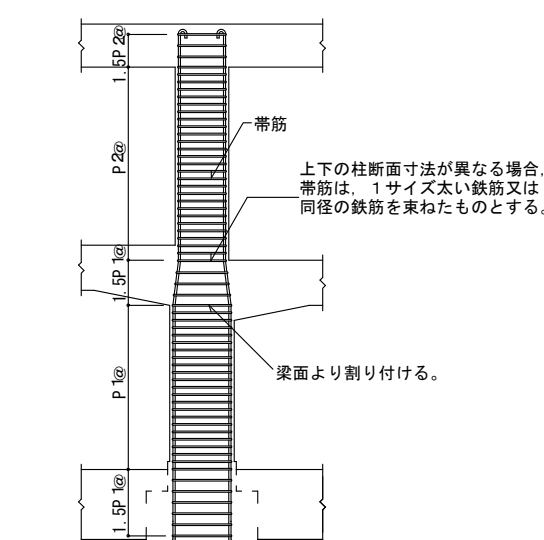
作成日

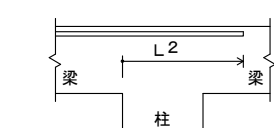
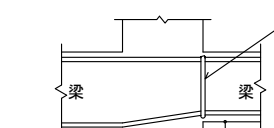
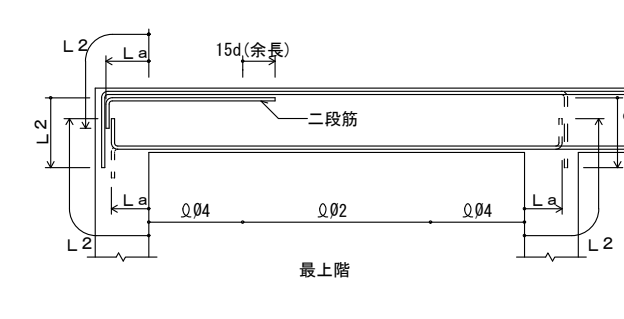
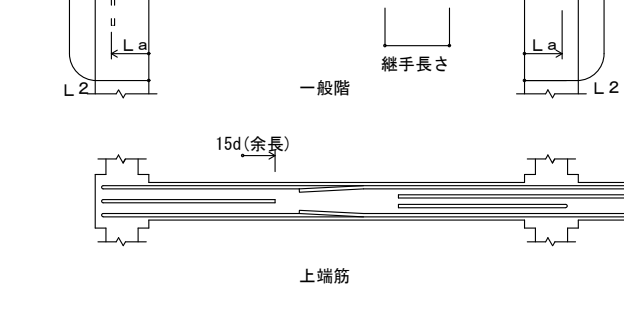
図面番号

S-01

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ				Dは、鉄筋の最大外径	
鉄筋の種 類		コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L a	L b	
SD295	18	20d	15d		
	21	15d	15d		
	24, 27	15d	15d		
	30, 33, 36	15d	15d		
SD345	18	20d	20d		
	21	20d	20d		
	24, 27	20d	15d		
	30, 33, 36	15d	15d		
SD390	21	20d	20d		
	24, 27	20d	20d		
	30, 33, 36	20d	15d		
(注) 1. L a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)					
2. L b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持小梁及び片持スラブを除く。)					
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。					
(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。 なお、L 1は表3.1に、L 2及びL 3は表3.3による。					
					
図3.4 溶接金網の継手及び定着					
(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による					
					
図3.5 スパイラル筋の継手及び定着					
4.1 最小かぶり厚さ					
(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。 ただし、柱及び梁の主筋にD 2 9以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。					
表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ					
構造部分の種類		最小かぶり厚さ (mm)			
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20		
		仕上げなし	30		
	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上げあり	30		
		屋内 仕上げなし	30		
		屋外 仕上げあり	30		
		屋外 仕上げなし	40		
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40			
	柱、梁、スラブ、壁	40			
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60			
煙突等高熱を受ける部分		60			
(注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。 また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。 2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。 3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。 4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。					
(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10 mmを加えた数値を標準とする。					
(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。					
(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のものの以上とする。 (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍 (2) 25 mm (3) 隣り合う鉄筋の径の平均（呼び名の数値）の1.5倍					

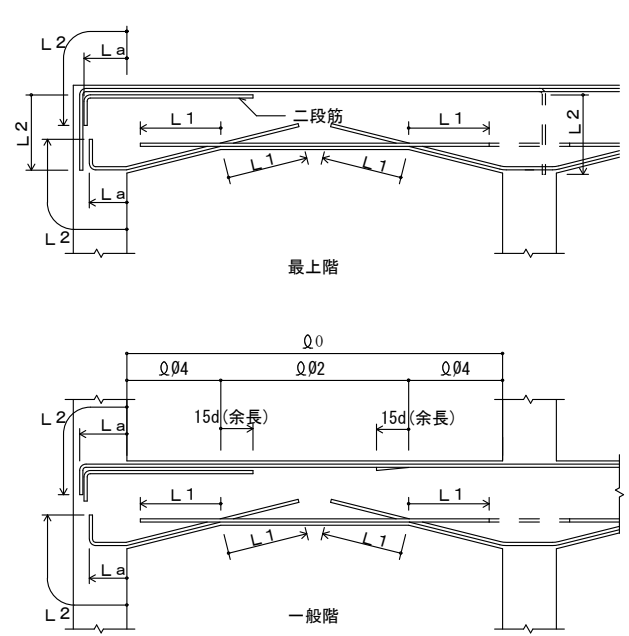
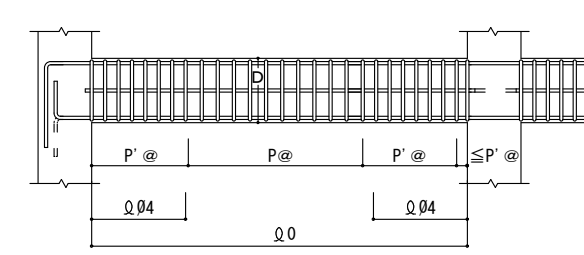
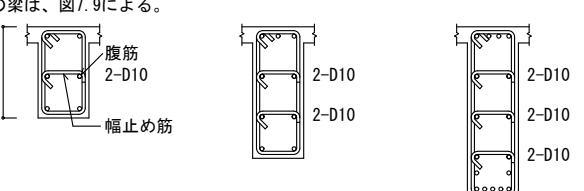
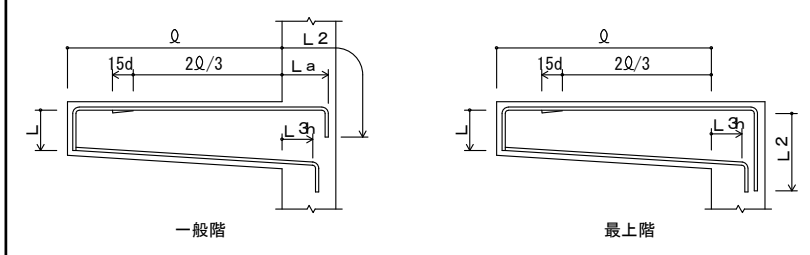
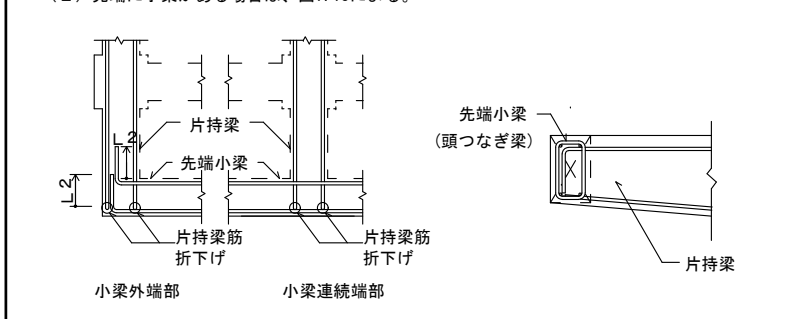
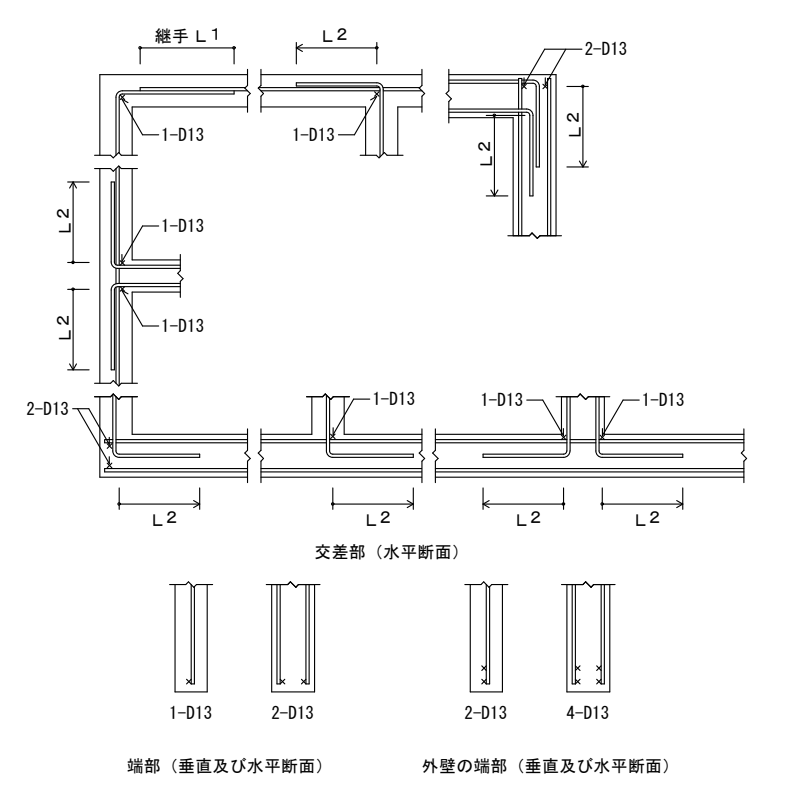
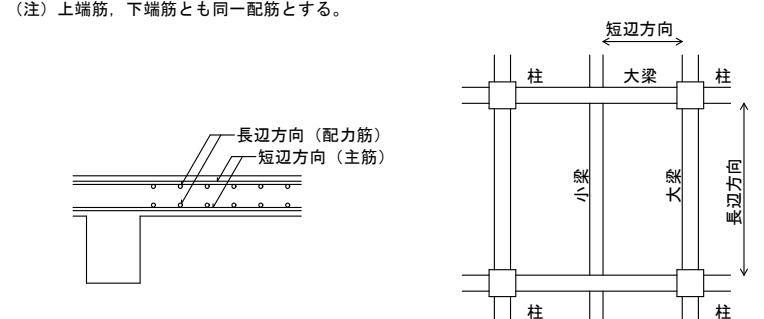
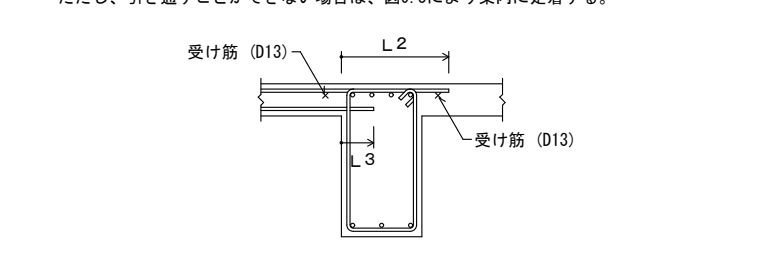
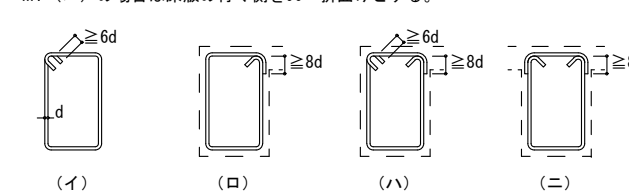
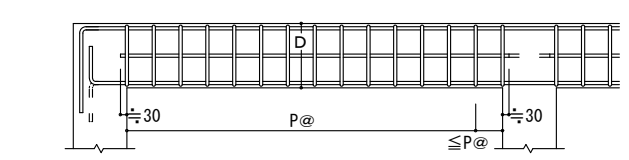
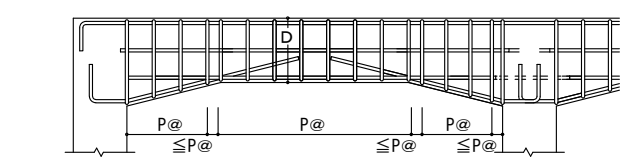
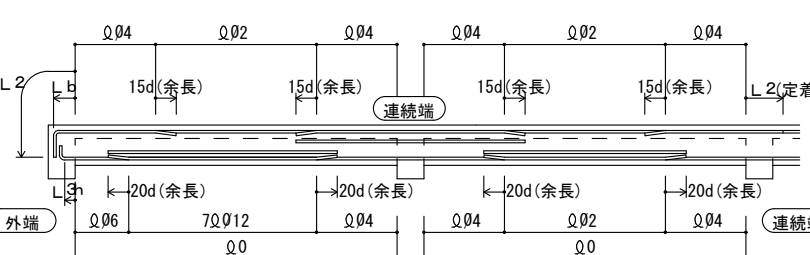
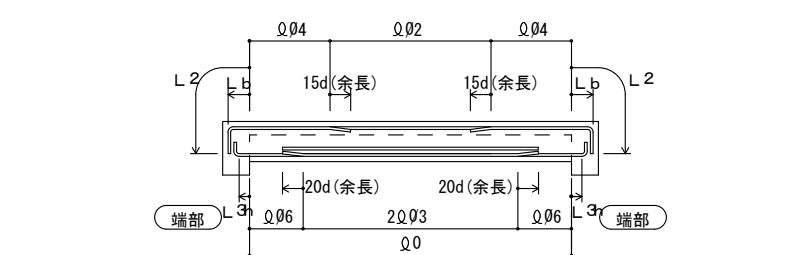
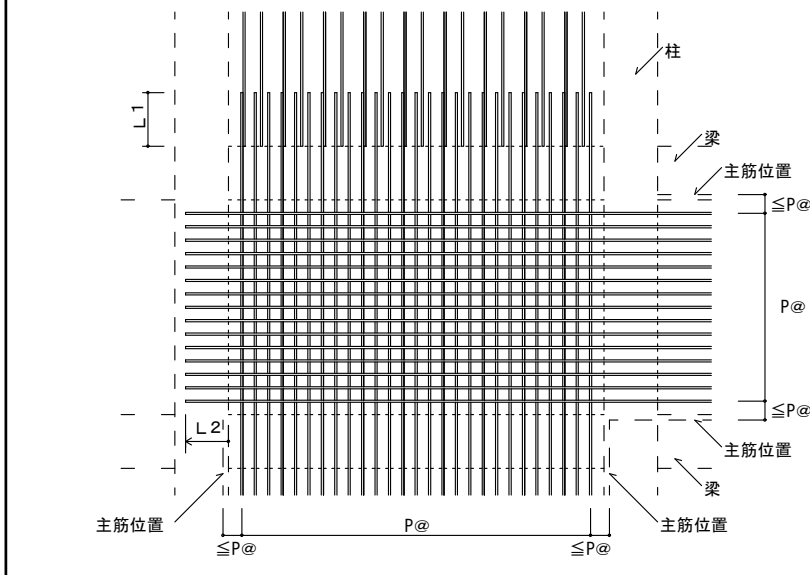
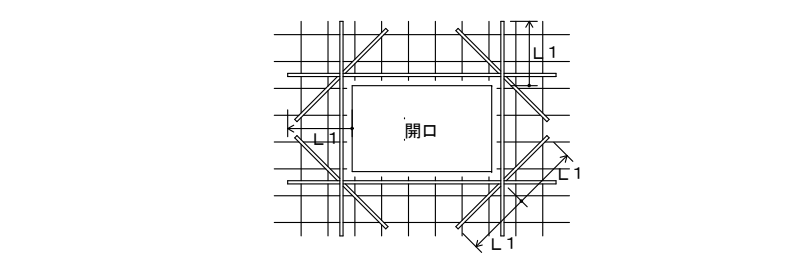
		Dは、鉄筋の最大外径	
図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔			
(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。			
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。			
5.1 基礎梁			
(a) 一般事項			
(1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。			
(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。			
			
図5.1 梁筋の基礎梁内への定着			
(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。			
			
図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）			
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）			
			
図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その2）			
(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。 ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。			
			
図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その3）			
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）			
			
図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その4）			
(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。			
			
図5.4 主筋の継手、定着及び余長			
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）			
			
図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）			
5.2 基礎梁のあばら筋等			
(a) 一般事項			
(1) あばら筋の径および間隔は、構造図による。			
(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。			
			
図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置			
(b) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。			
(c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。			
6.1 柱			
(a) 一般事項			
(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3h _o /4 (h _o は柱の内法高さ) 以下とする。			
(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。 ただし、柱頭定着長さL 2が確保できない場合は、構造図による。			
			
図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長			
(注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2 [隣り合う継手の位置] による。 3. 継手及び定着は、すべての隅に適用できる。			

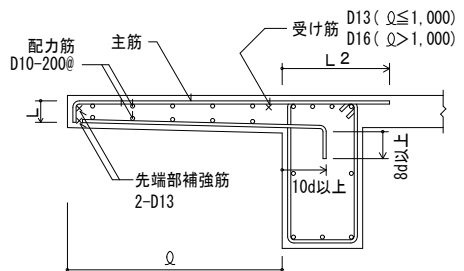
(b) 柱打増し部				図6.2 柱打増し部	
(1) 打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合の壁、梁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。		(2) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。			
6.2 帯筋		(a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。			
(b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。		(1) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。			
(2) 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5 d以上、片面フレア溶接の場合は10 d以上とする。		(3) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。			
① H形				(イ) (ロ) (ハ) (ニ)	
② W-1形				(イ) (ロ) (ハ)	
⑤ S P形（スパイラル筋）				(イ) (ロ)	
⑥ 丸形				(イ) (ロ)	
(注) 溶接は、鉄筋の組立前に行う。					
(c) フック及び継手の位置は交互とする。					
(d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は構造図による。					
		図6.4 帯筋の割付け			
(注) 1. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P _ⓐ または1.5P _ⓑ とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。 2. 図中のP _ⓐ 、P _ⓑ は、特記された帯筋の間隔を示す。					

7.1 大梁		(a) 一般事項		(1) 梁の上がり下がりには FLを基準とした寸法値とする。 (2) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は構造図による。 (3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付け付く場合のスラブ、壁、梁筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。	
(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項		(1) 継手中心位置は、次による。 上端筋：中央 $L_0/2$ 以内 下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $L_0/4$ を加えた範囲以内 (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。 (3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。			
		図7.1 梁主筋の梁内定着			
(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は3.1(b) (2)による。 上端筋：曲げ降ろす 下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。 下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。 (5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は構造図による。 (6) 段違い梁は、図7.2による。				図7.2 段違い梁	
(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。				図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長	
(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）				図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長	
(注) 1. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P _ⓐ または1.5P _ⓑ とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。 2. 図中のP _ⓐ 、P _ⓑ は、特記された帯筋の間隔を示す。					

特記事項	工事名	図 名	縮 尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）	構造関係共通事項（2）	A2サイズ →100% A3サイズ →71%縮小		S-02

山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二 印 構造設計一級建築士登録 第 2939号	図 名	縮 尺	作成日	図面番号
武居設計事務所	構造関係共通事項（2）	A2サイズ →100% A3サイズ →71%縮小		S-02

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。  (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝ ＝ のように引き通すことができる。 4. 破線は、柱内定着を示す。 5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せい3/4倍以上） 図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長		(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。  (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@、P' @は、構造図のあばら筋の間隔を示す。 図7.8 あばら筋の割付け（その3） (d) 腹筋及び幅止め筋 (1) 一般の梁は、図7.9による。  600≦D<900 900≦D<1,200 1,200≦D<1,500		7.4 片持梁 (a) 片持梁主筋の定着及び余長 (1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。  (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、余長位置を示す。 3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。 図7.12 片持梁主筋の定着及び余長 (2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。  (注) 1. 図示のない場合は、(1)による。 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。 図7.13 片持梁主筋の定着 (b) あばら筋は、7.2による。		(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。 <table border="1"><thead><tr><th>種別</th><th>縦筋及び横筋</th><th>断面図 (mm)</th><th>階段の配筋種別 (表10.1)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">KW1</td><td>縦筋 D13-200#ダブル</td><td rowspan="2">180</td><td rowspan="2">KA1 KA3</td></tr><tr><td>横筋 D10-200#ダブル</td></tr><tr><td rowspan="2">KW2</td><td>縦筋 D13-150#ダブル</td><td rowspan="2">200</td><td rowspan="2">KA2 KA4</td></tr><tr><td>横筋 D10-200#ダブル</td></tr></tbody></table> (注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。 (d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。 (e) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。  図8.2 壁の交差部及び端部の配筋		種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10.1)	KW1	縦筋 D13-200#ダブル	180	KA1 KA3	横筋 D10-200#ダブル	KW2	縦筋 D13-150#ダブル	200	KA2 KA4	横筋 D10-200#ダブル	9.1 スラブ (1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。 (2) 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は構造図による。 (3) 土間コンクリート補強筋(0.2%)の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。 (4) スラブの配筋（S形配筋）は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。 <table border="1"><caption>表9.1 S形配筋</caption><thead><tr><th>配筋種別</th><th>短辺方向（主筋） 全域</th><th>長辺方向（配力筋） 全域</th><th>配筋種別</th><th>短辺方向（主筋） 全域</th><th>長辺方向（配力筋） 全域</th></tr></thead><tbody><tr><td>S 1</td><td>D13-100#</td><td>D13-100#</td><td>S 8</td><td>D10, D13-150#</td><td>D10-150#</td></tr><tr><td>S 2</td><td>同 上</td><td>D13-150#</td><td>S 9</td><td>同 上</td><td>D10-200#</td></tr><tr><td>S 3</td><td>同 上</td><td>D10, D13-150#</td><td>S10</td><td>D10, D13-200#</td><td>D10, D13-200#</td></tr><tr><td>S 4</td><td>D13-150#</td><td>D13-150#</td><td>S11</td><td>同 上</td><td>D10-200#</td></tr><tr><td>S 5</td><td>同 上</td><td>D10, D13-150#</td><td>S12</td><td>同 上</td><td>D10-250#</td></tr><tr><td>S 6</td><td>同 上</td><td>D10-150#</td><td>S13</td><td>D10-200#</td><td>D10-200#</td></tr><tr><td>S 7</td><td>D10, D13-150#</td><td>D10, D13-150#</td><td>S14</td><td>同 上</td><td>D10-250#</td></tr></tbody></table> (注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。  図9.1 スラブの配筋 (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。 (6) 鉄筋の重ね継手長さは、L 1とする。 (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。 ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。  図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）		配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#	D10-150#	S 2	同 上	D13-150#	S 9	同 上	D10-200#	S 3	同 上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#	D10, D13-200#	S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同 上	D10-200#	S 5	同 上	D10, D13-150#	S12	同 上	D10-250#	S 6	同 上	D10-150#	S13	D10-200#	D10-200#	S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同 上	D10-250#	
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10.1)																																																																					
KW1	縦筋 D13-200#ダブル	180	KA1 KA3																																																																					
	横筋 D10-200#ダブル																																																																							
KW2	縦筋 D13-150#ダブル	200	KA2 KA4																																																																					
	横筋 D10-200#ダブル																																																																							
配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域																																																																			
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#	D10-150#																																																																			
S 2	同 上	D13-150#	S 9	同 上	D10-200#																																																																			
S 3	同 上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#	D10, D13-200#																																																																			
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同 上	D10-200#																																																																			
S 5	同 上	D10, D13-150#	S12	同 上	D10-250#																																																																			
S 6	同 上	D10-150#	S13	D10-200#	D10-200#																																																																			
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同 上	D10-250#																																																																			
7.2 あばら筋等 (a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項 (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。 (2) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。 ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。 (3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。 (b) あばら筋組立の形及びフックの位置 (1) 形は、図7.5（イ）とする。 ただし、L形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、T形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。 (2) フックの位置 i. （イ）の場合は交互とする。 ii. （ロ）の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。 iii. （ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。  図7.5 あばら筋組立の形 (c) あばら筋の割付け (1) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。  (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。 図7.6 あばら筋の割付け（その1） (2) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7.7による。  (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。 図7.7 あばら筋の割付け（その2）		7.3 小梁 (a) 小梁主筋の継手、定着及び余長 (1) 連続小梁の場合は、図7.10による。  (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。 2. 印は、余長位置を示す。 図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1） (b) 単独小梁の場合は、図7.11による。  (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。 2. 印は、余長位置を示す。 図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2） (c) あばら筋は、7.2による。		8.1 壁 (a) 一般事項 (1) 壁配筋の重ね継手の長さはL 1、定着の長さはL 2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。 ただし、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず4 0 d以上（軽量コンクリートの場合は5 0 d以上）又は表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。 (2) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。 (3) 打増し部分に、壁、スラブ等が取り付く場合の壁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。  (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。 図8.1 壁の配筋 (b) 壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。 <table border="1"><caption>表8.1 壁の配筋</caption><thead><tr><th>種別</th><th>縦筋及び横筋</th><th>断面図 (mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td>W12</td><td>D10-200#シングル</td><td>120</td></tr><tr><td>W15A</td><td>D10-150#シングル</td><td rowspan="2">150</td></tr><tr><td>W15B</td><td>D10-100#シングル</td></tr><tr><td>W18A</td><td>D10-200#ダブル</td><td rowspan="2">180</td></tr><tr><td>W18B</td><td>D10-150#ダブル</td></tr><tr><td>W20A</td><td>D10-200#ダブル</td><td rowspan="2">200</td></tr><tr><td>W20B</td><td>D10-150#ダブル</td></tr></tbody></table> (注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。		種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	W12	D10-200#シングル	120	W15A	D10-150#シングル	150	W15B	D10-100#シングル	W18A	D10-200#ダブル	180	W18B	D10-150#ダブル	W20A	D10-200#ダブル	200	W20B	D10-150#ダブル	8.2 壁の補強 (a) 壁開口部の補強 (1) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。 なお、耐力力の補強筋は、構造図による。 <table border="1"><caption>表8.3 壁開口部補強筋（A形）</caption><thead><tr><th rowspan="2">壁の種別</th><th colspan="2">補強筋</th></tr><tr><th>縦横</th><th>斜め</th></tr></thead><tbody><tr><td>W12, W15</td><td>1-D13</td><td>1-D13</td></tr><tr><td>W18, W20</td><td>2-D13</td><td>2-D13</td></tr></tbody></table> <table border="1"><caption>表8.4 壁開口部補強筋（B形）</caption><thead><tr><th rowspan="2">壁の種別</th><th colspan="2">補強筋</th></tr><tr><th>縦横</th><th>斜め</th></tr></thead><tbody><tr><td>W12, W15</td><td>2-D13</td><td>1-D13</td></tr><tr><td>W18, W20</td><td>4-D13</td><td>2-D13</td></tr></tbody></table> (2) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。  図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ (b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。		壁の種別	補強筋		縦横	斜め	W12, W15	1-D13	1-D13	W18, W20	2-D13	2-D13	壁の種別	補強筋		縦横	斜め	W12, W15	2-D13	1-D13	W18, W20	4-D13	2-D13	9.2 片持スラブ 片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。 プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、構造図による。 ただし、構造図になければ、片持ちスラブは現場打ちコンクリート部材とする。 片持スラブの配筋は、次による。 (1) 片持スラブの配筋（CS形配筋）は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。 <table border="1"><caption>表9.2 CS形配筋</caption><thead><tr><th rowspan="2">配筋種別</th><th rowspan="2">主筋</th><th rowspan="2">配筋種別</th><th colspan="2">主筋</th></tr><tr><th>上</th><th>下</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">CS1</td><td>上 D13-100# 下 D13-200#</td><td rowspan="2">CS5</td><td>上 D10-200# 下 D10-400#</td></tr><tr><td>上 D13-150# 下 D13-300#</td><td rowspan="2">CS6</td><td>上 D10, D13-200# 下 —</td></tr><tr><td rowspan="2">CS3</td><td>上 D10, D13-150# 下 D10, D13-300#</td><td rowspan="2">CS7</td><td>上 D10-200# 下 —</td></tr><tr><td>上 D10, D13-200# 下 D10-200#</td><td></td></tr></tbody></table>		配筋種別	主筋	配筋種別	主筋		上	下	CS1	上 D13-100# 下 D13-200#	CS5	上 D10-200# 下 D10-400#	上 D13-150# 下 D13-300#	CS6	上 D10, D13-200# 下 —	CS3	上 D10, D13-150# 下 D10, D13-300#	CS7	上 D10-200# 下 —	上 D10, D13-200# 下 D10-200#	
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)																																																																						
W12	D10-200#シングル	120																																																																						
W15A	D10-150#シングル	150																																																																						
W15B	D10-100#シングル																																																																							
W18A	D10-200#ダブル	180																																																																						
W18B	D10-150#ダブル																																																																							
W20A	D10-200#ダブル	200																																																																						
W20B	D10-150#ダブル																																																																							
壁の種別	補強筋																																																																							
	縦横	斜め																																																																						
W12, W15	1-D13	1-D13																																																																						
W18, W20	2-D13	2-D13																																																																						
壁の種別	補強筋																																																																							
	縦横	斜め																																																																						
W12, W15	2-D13	1-D13																																																																						
W18, W20	4-D13	2-D13																																																																						
配筋種別	主筋	配筋種別	主筋																																																																					
			上	下																																																																				
CS1	上 D13-100# 下 D13-200#	CS5	上 D10-200# 下 D10-400#																																																																					
	上 D13-150# 下 D13-300#		CS6	上 D10, D13-200# 下 —																																																																				
CS3	上 D10, D13-150# 下 D10, D13-300#	CS7		上 D10-200# 下 —																																																																				
	上 D10, D13-200# 下 D10-200#																																																																							
特記事項		工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）		武居設計事務所		山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二 印 構造設計一級建築士登録 第 2939号		図 名 構造関係共通事項（3）		縮 尺 作成日		図面番号 S-03																																																												



構造関係共通図（鉄骨標準図）

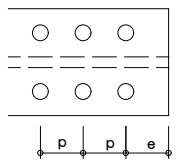
1 縁端距離及びボルト間隔等

(1) 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1. 1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図があれば、ボルト軸径の2.5倍以上とする。また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1. 1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

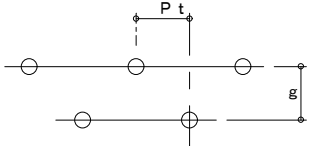


(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1. 2による。

表1. 2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 P・t ねじの呼び			
	M12	M16	M20	M24
35	50	65		
40	45	60		
45	40	55		
50	35	50		
55	25	45		
60	—	40		



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1. 3による。

表1. 3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又はB				B				B			
g ¹	g ²	最大軸径		g ¹	g ²	最大軸径		g ¹	g ²	最大軸径	
45	25	12	100	56	16	50	30	12			
50	28	16	125	75	16	65	35	20			
60	35	16	150	90	22	70	40	20			
65	35	20	175	105	22	75	40	22			
70	40	20	200	120	24	80	45	22			
75	40	22	250	150	24	90	50	24			
80	45	22	300	150	24	100	55	24			
90	50	24	350	140	24						
100	55	24	400	140	24						
125	50	35	24								
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

※1 千鳥打ちとした場合

(4) ボルト記号

表1. 4 高力ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト (F10T、S10T)		●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)		／	／	／	／	／

表1. 5 普通ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト		○	○	○	○	○

2 溶接記号

設計図中で使用する記号は、表2. 1、表2. 2、図2. 1を標準とする。

表2. 1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号

溶 接 方 法	分 類		記 号
	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接	H	
溶 接 継 手	サブマージアーク自動溶接	A	B T型継手 L F P FL 1 2
	エレクトロスラグ溶接	E	
	完全溶込み溶接	B	
	突合わせ継手	B	
溶 接 面	T型継手	T	F P FL 1 2
	かど継手	L	
	隅肉溶接	F	
	部分溶込み溶接	P	
溶 接 面	フラア溶接	FL	1 2
	片面溶接	1	
溶 接 面	両面溶接	2	1 2
	断面溶接	2	

表2. 2 溶接の補助記号

区 分	補 助 記 号
現 場 溶 接	▶
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	◉
断続溶接の長さ及び間隔	L-P

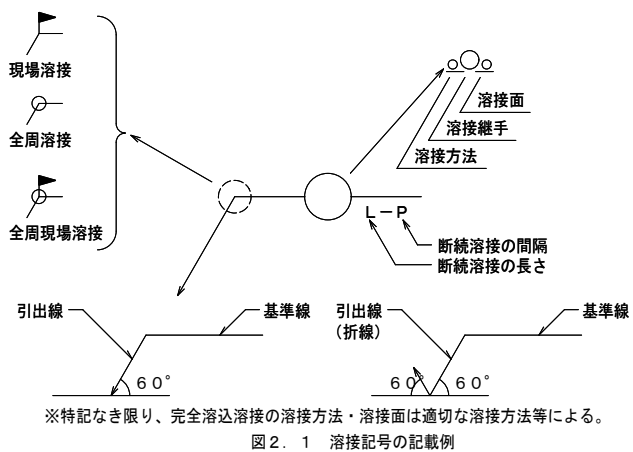


図2. 1 溶接記号の記載例

3 溶接継手の種類別開先標準

突合わせ継手の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

T型継手の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

部材が直交しない場合の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$		$6 < t \leq 19$	
$1/4 \quad t \leq S \leq 10$		$1/4 \quad t \leq S \leq 10$	

かど継手の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	

隅肉溶接の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 16$		$t \leq 16$	
$16 < t \leq 40$		$16 < t \leq 40$	

隅肉溶接のサイズ

(単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$		$16 \leq t \leq 40$	
$1/4 \quad t \leq S \leq 10$		$1/4 \quad t \leq S \leq 10$	

フラア溶接の開先標準

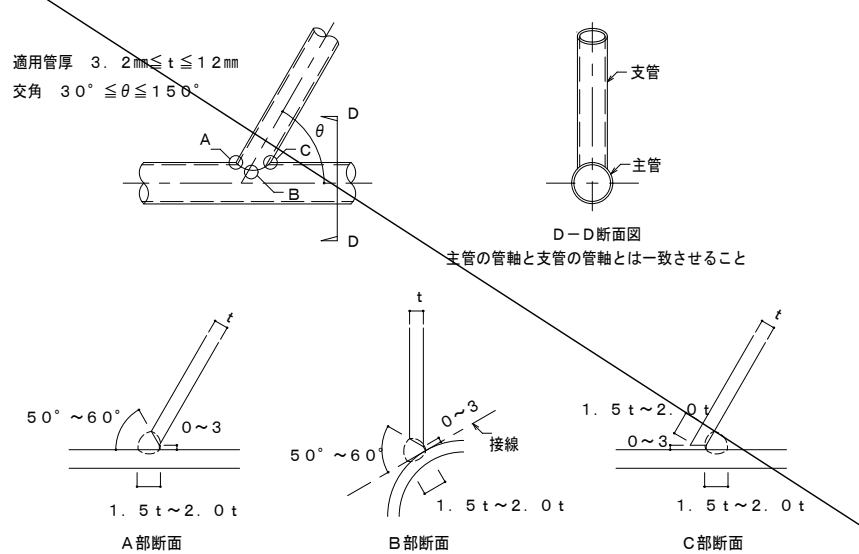
(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$		$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$	

4 鋼管分岐継手

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。

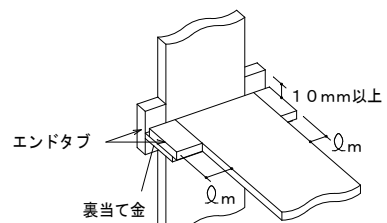
(単位: mm)



5 鉄骨溶接施工

(1) エンドタブ等

①エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



エンドタブの長さ (単位: mm)

溶接方法	Q _m
手溶接	35以上
半自動溶接	35以上
自動溶接	70以上

(2) 裏当て金

②裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。

③スプライスプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。

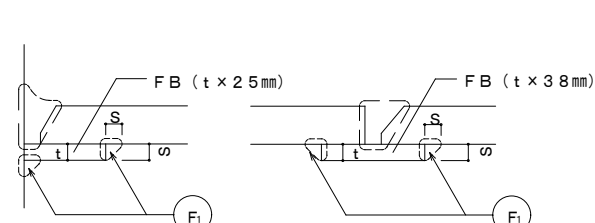
④フィラープレートの材質は、SS400とする。

(2) 裏当て金

①裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。

②完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内部に設置する。

裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



裏当て金の厚さ (単位: mm)

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)

裏当て金の厚さ	S
$t \leq 9$	5
$t > 9$	9

特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390

一級建築士事務所 山口県第1232号

一級建築士登録 第125874号

構造設計一級建築士登録 第2939号 武居 健二 印

図 名

構造関係共通事項 (5)

縮 尺

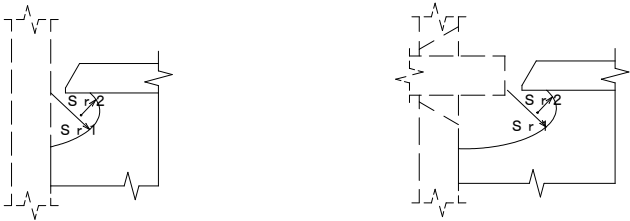
作成日

図面番号

S-05

A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小

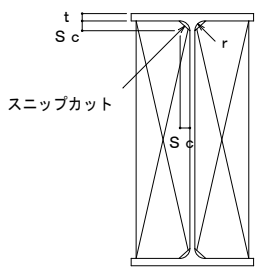
- (3) スカラップ
改良型スカラップ
①スカラップ半径S rは35mmとする。S r 2は10mmとする。
②スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、接合円は滑らかに仕上げる。



- 従来型スカラップ
①スカラップ半径S rは35mmとする。



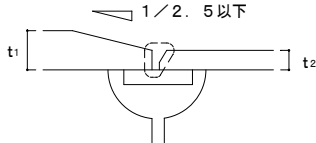
- (4) スニップカット
①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



スニップカットの寸法 (単位: mm)					
t	6	9	12	16以上	
S c	10	12	14	15	

※ ただし、既製形鋼のスニップカットについては、
S c = r + 2により求めるものとする。

- (5) 溶接部分の段差
①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合

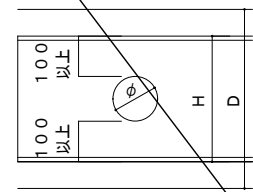


- (6) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM-11, 15 YGM-18, 19	40以下 30以下	350以下 450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
		引張強さ570N/mm ² 以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM-11, 15 YGM-18, 19	40以下	250以下 350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
			40以下	350以下
		引張強さ570N/mm ² 以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGM-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
400N級STKR, BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGM-11, 15 YGM-18, 19	30以下 40以下	250以下 350以下
		T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下 40以下	250以下 350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
			40以下	350以下
490N級STKR, 及びBCP	JIS Z 3312	YGM-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下

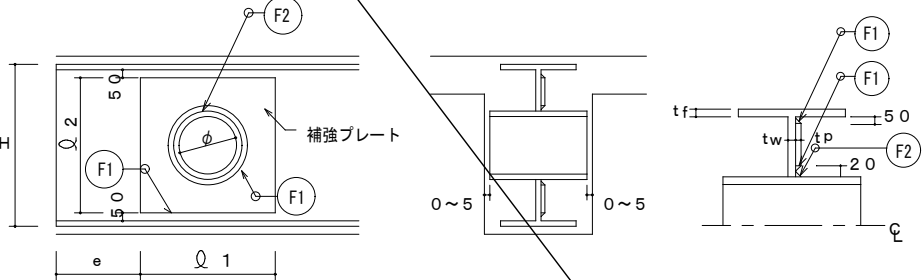
7 梁貫通孔補強

- (1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。
(2) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい $\times$ の1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(3) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。
(4) 梁貫通孔位置の限度は以下による。



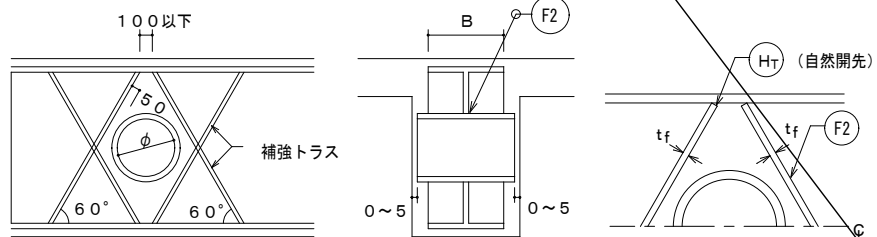
梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)

補強プレート法



$\phi 1$ は3φまたは $\phi 2$ のうち小さい方とする。 ($e \geq H$ とする)
e: 材端と補強プレートとの間隔

補強トラス法



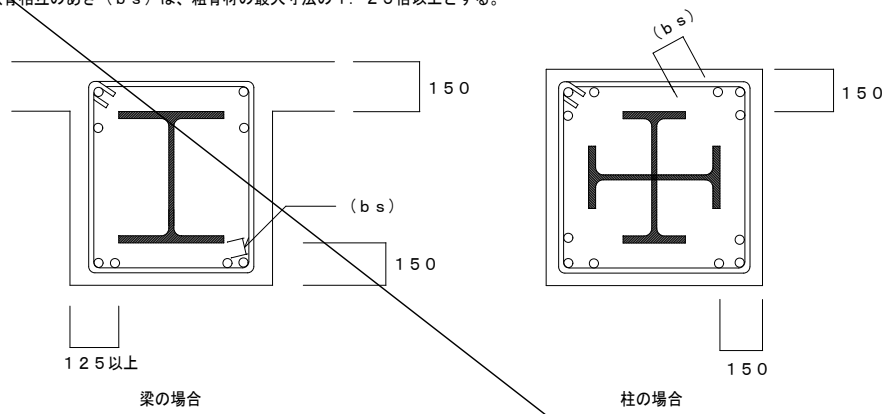
8 広幅平鋼の取り扱い

- (1) B H材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、P L表記であっても F B又はP Lとする。
(2) B H材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ											
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40	
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

9 鉄骨と鉄筋コンクリート部分の取合い

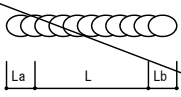
- (1) 鉄骨のかぶり厚さ
鉄筋と鉄骨相互のあき (b a) は、組骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。



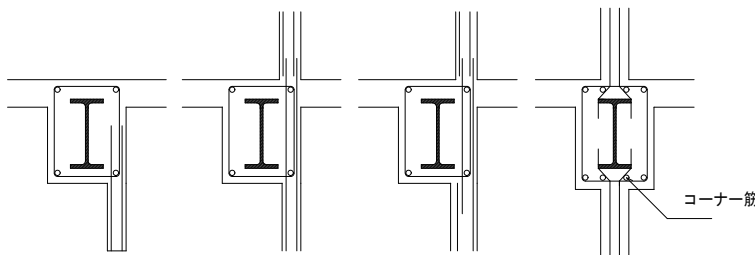
6 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

- (1) 鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下記による。
(2) 有効溶接長さ (L) は、ビードの始点 (L a) 及びクレーター (L b) を除いた部分の長さとする。

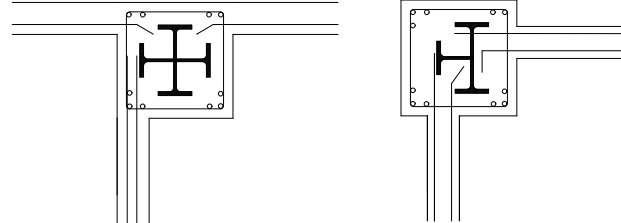
L: 片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
L a及びL b=1 S (鉄筋については1d) 以上
d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S: 溶接のサイズ



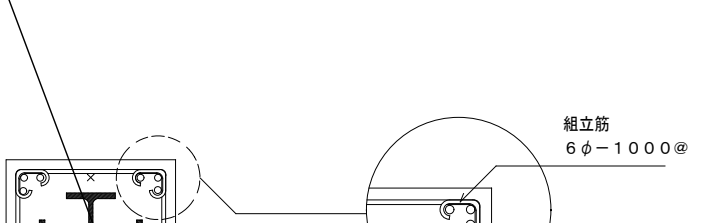
- (2) 壁筋の周辺部材への定着
鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線で定着後、緩やかに折り曲げる。



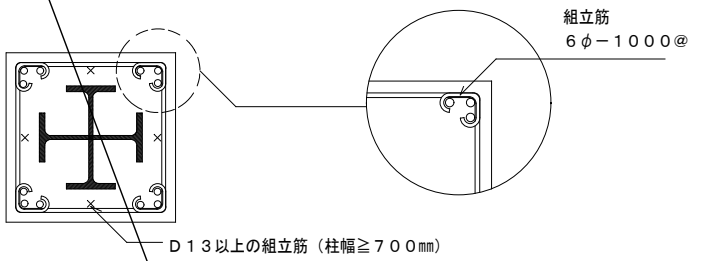
梁への定着方法



柱への定着方法

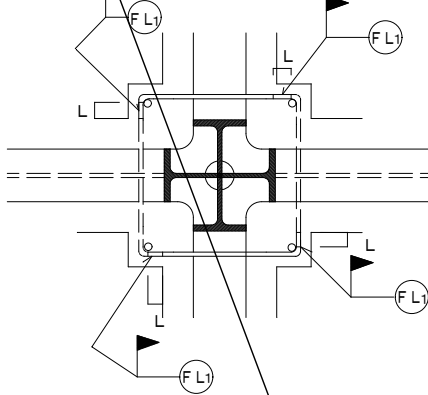


- (3) 柱組立筋



- (4) 仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。

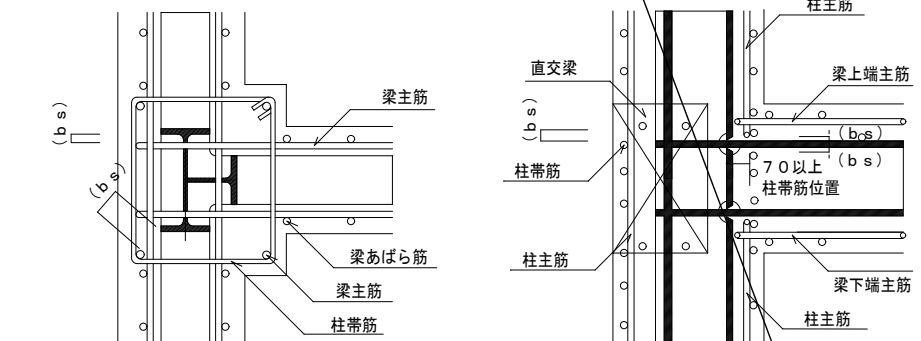


- (5) 鉄筋貫通孔の径及び位置

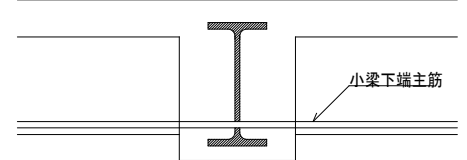
- 鉄筋貫通孔の径
①主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。
②鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

(単位: mm)									
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46	

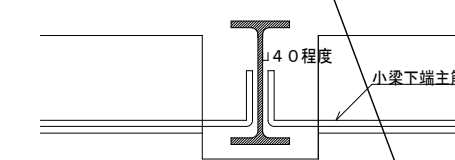
鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)



特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事 (建築主体)

武居設計事務所

山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二 印
構造設計一級建築士登録 第 2939号

図 名

構造関係共通事項 (6)

縮 尺

作成日

図面番号

S-06

A2サイズ → 100% A3サイズ → 71%縮小

鉄 骨 工 作 標 準 図 （ 1 ）																																																																							
1-1 基 本 事 項	§ 1 一般事項																																																																						
	1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4, 5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。 3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。 5) 溶接精度や使用材料が平成12建告1464号の規定に適合すること。																																																																						
1-2 そ の 他																																																																							
2-1 略 号	§ 2 共通事項																																																																						
	・ AB-----アンカーボルト ・ BPL-----ベースプレート ・ DFPL-----ダイアフラム ・ FPL-----フランジプレート ・ HTB-----高力ボルト ・ SPL-----スプライスプレート ・ WPL-----ウェブプレート ・ BH-----組立てH形鋼 ・ CHPL-----チッカープレート ・ FB-----フラットバー ・ GPL-----ガセットプレート ・ RPL-----リブプレート ・ TB-----ターンバックル ・ W1～W9-----溶接記号（§4参照）																																																																						
3-1 高力ボルト	§ 3 ボルト接合																																																																						
	ボルトの長さ <table><tr><td>ボルトの呼び径</td><td>締付け長さに加える長さ</td><td></td></tr><tr><td>M16</td><td>30</td><td>25</td></tr><tr><td>M20</td><td>35</td><td>30</td></tr><tr><td>M22</td><td>40</td><td>35</td></tr><tr><td>M24</td><td>45</td><td>40</td></tr></table> 1. 特記以外はすべてS10T（トルシア形高力ボルト、上図）又はF10Tとする。 2. 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。 3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グライNDER掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行なった場合はこの限りでない。締め付けは1次締め付け後、マーキングを入れてから本締めをする。 4. 垂鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。 <table><tr><td>呼び径</td><td>M16</td><td>M20</td><td>M22</td><td>M24</td></tr><tr><td>孔 径</td><td>18</td><td>22</td><td>24</td><td>26</td></tr><tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td>標準</td><td>60</td><td>60</td><td>70</td></tr><tr><td>最小</td><td>40</td><td>50</td><td>55</td><td>60</td></tr><tr><td>は し あ き</td><td>e</td><td>40</td><td>40 (50)</td><td>40 (55)</td><td>45 (60)</td></tr><tr><td rowspan="2">最小縁端距離</td><td>せん断、手動がス切断線</td><td>28</td><td>34</td><td>38</td><td>44</td></tr><tr><td>圧延線、自動がス切断線</td><td>22</td><td>26</td><td>28</td><td>32</td></tr></table> () 内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。 <table><tr><td rowspan="2">ゲージ</td><td colspan="2">千鳥打ちのピッチ b</td></tr><tr><td>M16, 20, 22</td><td>M24</td></tr><tr><td>g2</td><td>50</td><td>65</td></tr><tr><td>35</td><td>45</td><td>60</td></tr><tr><td>40</td><td>25</td><td>45</td></tr><tr><td>55</td><td></td><td></td></tr></table> 3-2 高力ボルトのピッチ 3-3 形鋼のゲージ			ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ		M16	30	25	M20	35	30	M22	40	35	M24	45	40	呼び径	M16	M20	M22	M24	孔 径	18	22	24	26	ピッチ	標準	60	60	70	最小	40	50	55	60	は し あ き	e	40	40 (50)	40 (55)	45 (60)	最小縁端距離	せん断、手動がス切断線	28	34	38	44	圧延線、自動がス切断線	22	26	28	32	ゲージ	千鳥打ちのピッチ b		M16, 20, 22	M24	g2	50	65	35	45	60	40	25	45	55	
ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ																																																																						
M16	30	25																																																																					
M20	35	30																																																																					
M22	40	35																																																																					
M24	45	40																																																																					
呼び径	M16	M20	M22	M24																																																																			
孔 径	18	22	24	26																																																																			
ピッチ	標準	60	60	70																																																																			
	最小	40	50	55	60																																																																		
は し あ き	e	40	40 (50)	40 (55)	45 (60)																																																																		
最小縁端距離	せん断、手動がス切断線	28	34	38	44																																																																		
	圧延線、自動がス切断線	22	26	28	32																																																																		
ゲージ	千鳥打ちのピッチ b																																																																						
	M16, 20, 22	M24																																																																					
g2	50	65																																																																					
35	45	60																																																																					
40	25	45																																																																					
55																																																																							
4-1 隅 肉 溶 接	§ 4 溶接接合																																																																						
	1) 板厚の異なる場合 2) エンドタブ 3) 開先加工（下図は参考とする。） 4) 開先形状																																																																						
4-2 完全溶込み溶接 (突合せ溶接)	5-1 継手リスト 設計図による <table><tr><th rowspan="2">材 種</th><th rowspan="2">主 材</th><th rowspan="2">高力ボルト</th><th colspan="2">フ ラ ン ジ</th><th colspan="2">ウ ェ ブ</th></tr><tr><th>ボルト 総 本数</th><th>外 側 添 板 2PL- t21 × a1 × L1</th><th>内 側 添 板 4PL- t22 × a2 × L1</th><th>ボルト 総 本数</th><th>添 板 2PL- t11 × a3 × L2</th><th>ピ ッ チ</th></tr><tr><td></td><td>H- A × B × t1 × t2</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr><tr><td></td><td>BH- A × B × t1 × t2</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr><tr><td></td><td>H- × × ×</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr><tr><td></td><td>H- × × ×</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr></table> 1. フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。 2. a3は原則として梁成の2/3以上確保すること。 5-2 小 梁 仕 口 ピン 接 合 Aタイプ			材 種	主 材	高力ボルト	フ ラ ン ジ		ウ ェ ブ		ボルト 総 本数	外 側 添 板 2PL- t21 × a1 × L1	内 側 添 板 4PL- t22 × a2 × L1	ボルト 総 本数	添 板 2PL- t11 × a3 × L2	ピ ッ チ		H- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×			BH- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×			H- × × ×			×	×	×	×	×			H- × × ×			×	×	×	×	×																
	材 種	主 材	高力ボルト				フ ラ ン ジ		ウ ェ ブ																																																														
ボルト 総 本数				外 側 添 板 2PL- t21 × a1 × L1	内 側 添 板 4PL- t22 × a2 × L1	ボルト 総 本数	添 板 2PL- t11 × a3 × L2	ピ ッ チ																																																															
	H- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×																																																															
	BH- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×																																																															
	H- × × ×			×	×	×	×	×																																																															
	H- × × ×			×	×	×	×	×																																																															
4-3 部分溶込み溶接	§ 5 継 手																																																																						
	5-1 継手リスト 設計図による <table><tr><th rowspan="2">材 種</th><th rowspan="2">主 材</th><th rowspan="2">高力ボルト</th><th colspan="2">フ ラ ン ジ</th><th colspan="2">ウ ェ ブ</th></tr><tr><th>ボルト 総 本数</th><th>外 側 添 板 2PL- t21 × a1 × L1</th><th>内 側 添 板 4PL- t22 × a2 × L1</th><th>ボルト 総 本数</th><th>添 板 2PL- t11 × a3 × L2</th><th>ピ ッ チ</th></tr><tr><td></td><td>H- A × B × t1 × t2</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr><tr><td></td><td>BH- A × B × t1 × t2</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr><tr><td></td><td>H- × × ×</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr><tr><td></td><td>H- × × ×</td><td></td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr></table> 1. フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。 2. a3は原則として梁成の2/3以上確保すること。 5-2 小 梁 仕 口 ピン 接 合 Aタイプ			材 種	主 材	高力ボルト	フ ラ ン ジ		ウ ェ ブ		ボルト 総 本数	外 側 添 板 2PL- t21 × a1 × L1	内 側 添 板 4PL- t22 × a2 × L1	ボルト 総 本数	添 板 2PL- t11 × a3 × L2	ピ ッ チ		H- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×			BH- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×			H- × × ×			×	×	×	×	×			H- × × ×			×	×	×	×	×																
材 種	主 材	高力ボルト	フ ラ ン ジ				ウ ェ ブ																																																																
			ボルト 総 本数	外 側 添 板 2PL- t21 × a1 × L1	内 側 添 板 4PL- t22 × a2 × L1	ボルト 総 本数	添 板 2PL- t11 × a3 × L2	ピ ッ チ																																																															
	H- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×																																																															
	BH- A × B × t1 × t2			×	×	×	×	×																																																															
	H- × × ×			×	×	×	×	×																																																															
	H- × × ×			×	×	×	×	×																																																															
4-4 フレア溶接	§ 6 柱梁接合部及び継手																																																																						
	6-3 仕口と継手																																																																						
4-5 そ の 他	§ 7 柱 脚																																																																						
	7-1 一 般 柱 脚																																																																						
特記事項		工事名	図 名																																																																				
福祉センター別館建設工事（建築主体）		武居設計事務所	鉄骨工作標準図																																																																				
山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 構造設計一級建築士登録 第 2939号 武居 健二 印		縮 尺	作成日																																																																				
A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小		図面番号	S-07																																																																				

ハイベースNEO工法設計施工標準

(ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/3

大臣認定	MSTL-0566, 0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)	本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。
BCJ評定	MDLT-0042~0044, 0046, 0231 (アンカー用ボルトセット)	
	BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ)	

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

コタイプ（E B型式、E M型式、E H型式）、高強度柱適用タイプ（KB型式）							
	ベースプレート		アンカーボルト	エコナット※2	ナット※2	座 金※2	定着板
	エコタイプ	高強度柱適用タイプ					
規 格	JIS G3136 又は TMCP鋼※4	TMCP鋼※4	H A B (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備 考	板厚40mm以下の場合 SN490B		TMCP385B, C	降伏比 70 %以下	—	強度区分5	SS400
	板厚40mm超の場合 TMCP325B, C						

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

タイプ (GB型式、GM型式、GH型式)						
	※1 ベースプレート	※2 アンカーボルト	※2 ナット	※2 座 金	※2 定着板	
規 格	HCW490 b HCW490 st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)	
ねじの種類	—	メートル並目 ^{※3}	メートル並目 ^{※3}	—	— 圧 鋼 材	
備 考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分 (二重ナット用) 強度区分 (一重ナット用)	SM490A	SS400	

1

国土交通大臣認定 (MSTL-0566,0404,0180)

2

M72はねじ目

※2

国土交通大臣認定 (MBLT-0042-0044,0046,0231)

※4

建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566, 0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MDLT-0042~0044, 0046, 0231)

※3 M7.2は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後 詰 め モ ル タ ル	ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※	※ センクシアが供給するものに限る
中 心 塗 部分モルタル	〇無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)	
	〇強度はこれに接するコンクリートの強度以上	

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	〇日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート 〇設計基準強度は、 $F_c=18\sim36\text{N/mm}^2$
--------	--

鉄 筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱 形	ヘリあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品	
▽コンクリートスラブ天端	
エコナット	▽ボルト上端
	▽ボルト上端
座金	▽ボルト上端
	▽ボルト上端
ベースプレート	▽ボルト上端
	▽ボルト上端
▽モルタル上端	▽ボルト上端
	▽ボルト上端
アンボンドスリーブ	▽ボルト上端
	▽ボルト上端
アンカーボルト	▽ボルト上端
	▽ボルト上端
定着板	▽ボルト上端
	▽ボルト上端

	ねじの呼び	アンカーボルト			アンボンドスリーブ	エコナット			ナット			座金		
		軸径	ねじピッチ	長さ		軸径	長さ	全長	軸径	長さ	全長	軸径	長さ	全長
エコタイプ※3	M24	24	3	95	10	400	550	29	22	46	53	19	36	42
		24	3	105	10	480	645	35	27	50	58	24	46	53
高強度柱適用タイプ	M30	30	3.5	110	13	400	580	35	27	50	58	24	46	53
		30	3.5	130	13	480	680	41	33	55	64	29	55	64
高強度柱適用タイプ	M36	36	4	130	16	480	720	41	33	55	64	29	55	64
		36	4	155	16	560	810	48	38	65	75	34	65	75
高強度柱適用タイプ	M42	42	4.5	155	18	640	1080	48	38	65	75	34	65	75
		42	4.5	165	18	840	1110	48	38	65	75	34	65	75

※1 t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。

※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。

施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。

※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、エコタイプ下段はGB、GM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

注意	・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。 ・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。 ・アンカーボルト上端には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。	

センクシア株式会社

本社	TEL 03-4214-1932	関東	TEL 027-322-9411
札幌	TEL 011-708-1177	中部	TEL 052-582-3356
東北	TEL 022-213-5595	北陸	TEL 076-233-5260

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

関西	TEL 06-6395-2133
中四国	TEL 082-240-1630
九州	TEL 092-452-0341

工場加工

1. 溶接材料	
被覆アーク溶接	JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212)に従い選定する (低水素系)
ガスシールドアーク溶接	JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する
※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。	

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接	
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる	
※開先形状は参考	

ベースプレート形状		開先形状
角形鋼管柱用 (EB型式)	円形鋼管柱用 (EM型式)	
高強度角形鋼管柱用 (KB型式)	H形柱用 (EH型式)	
ベースプレート形状		開先形状
角形鋼管柱用 (GB型式)	円形鋼管柱用 (GM型式)	
高強度角形鋼管柱用 (KB型式)	H形柱用 (GH型式)	

3. 組立溶接			4. 本溶接の手順		
角形鋼管	円形鋼管	H形	角形鋼管	円形鋼管	H形

5. 溶接施工一般

予 熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
-----	----------------------------

余 盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
-----	--

H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接
--------	-----------------------

注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱室によって曲がる場合があります。	
---	--

6. 検 査

方 法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はかり取り再溶接する。

注意	1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。) 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。 3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。 4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。	

現場施工

(#): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (#)
4. アンカーボルト据付 (#)

アンカーボルト設置	アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。	
-----------	-------------------------------------	--

アンカーボルト設置精度の目標値	平 面	レ ベ ル

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工

ベースプレート	中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※ 注入方法はヘッド圧工法による。 ※ センクシアが供給するものに限る
(イ)	□ 250以下、φ267.4以下、H250以下の場合 100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D 以下
(ロ)	□ 300以上□700以下、φ300以上φ711.2以下、および H250以上の場合 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D 以下
(ハ)	□ 750~□1200、φ750~φ1016の場合 300mm ≤ a ≤ 500mm

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
--------------------------	------

8. 鉄骨建方	8. 鉄骨建方
アンカーボルト締付	9. モルタル注入枠設置 (#)
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	後詰めモルタル充填 (#)

9~10. モルタル注入枠設置 (#)	10. アンカーボルト締付 (#)
後詰めモルタル充填 (#)	予備締め
アンカーボルト締付確認 (#)	マーキング
ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	ナット回転法による本締め (30° 回転、許容差: $\pm 10^{\circ}$)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

特記事項	工事名	山口市下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二 印	図 名	縮 尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事 (建築主体)	武居設計事務所	ハイベースNEO工法設計施工標準		2024/09/05	S-08
				A3サイズ→100%		

ハイベースNE0工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合)
 〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
(ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定
BCJ評定

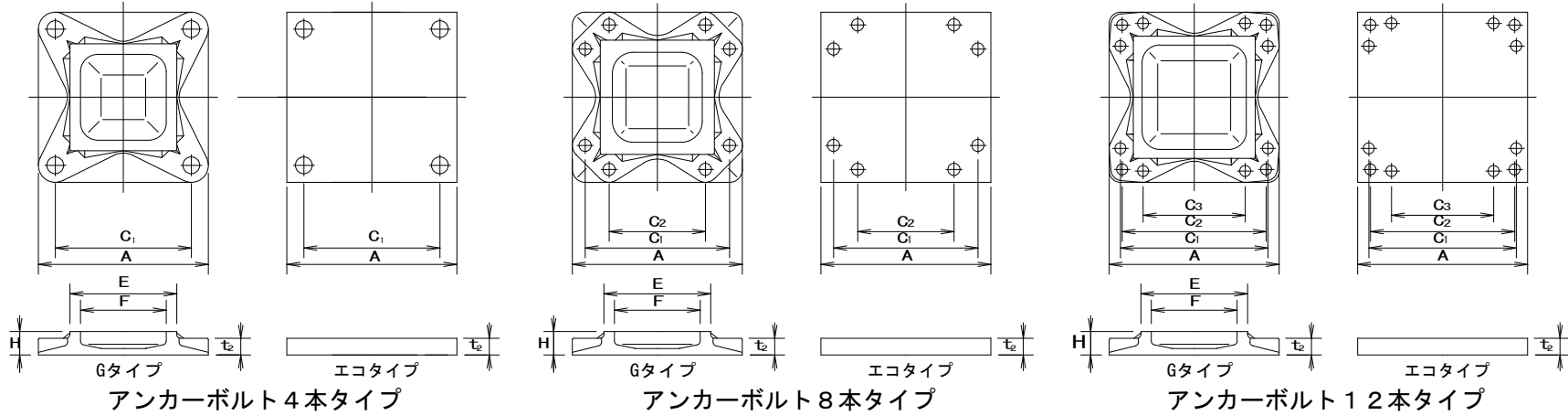
MSTL-0566, 0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)		20
MBL T-0042→0044, 0046, 0231 (アンカーボルト)		
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)	本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書	
BCJ評定-ST0059 (Eタイプ)	同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。	

型式表示例

エコタイプ： EB350—8—36
Gタイプ： GB500—8—42

アンカーボルト径
アンカーボルト本数
— 柱外形寸法
— 角形鋼管柱用

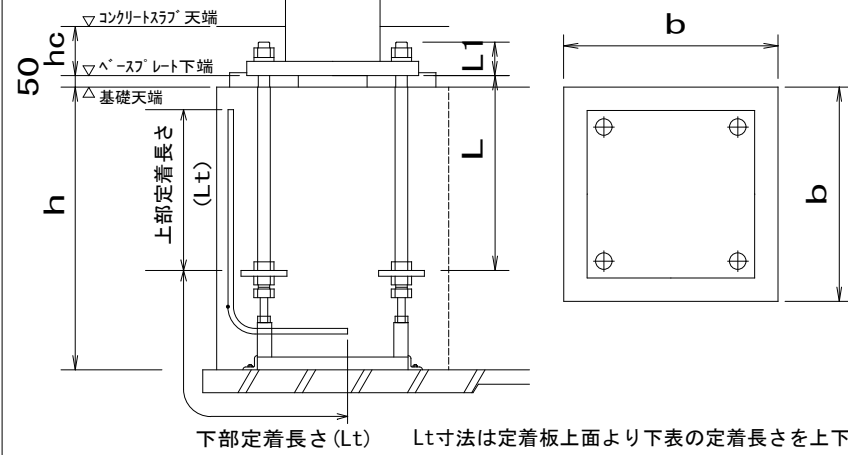
ベースプレート形状



- ・ハイベースNEO工法

(角形鋼管柱用□150～□550)

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ (Lt)



エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
 Gタイプはダブルナット仕様（露出が標準）
 注）表中のh寸法は杭がない場合です。
 杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
 Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚（hc寸法）は
 “L寸法÷最低40mm以上のかぶり”となる寸法を確保してください。

採用		適用柱		ハイベースNE0型式		アンカ ボルト	回転バネ 定数 X10 ³ KN・m/rad	寸法 (mm)							質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎埋め・ 接合コンクリート		基礎柱形の設計例 (Fc21) < 側・隅柱用 >		基礎柱形の設計例 (Fc21) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。) >												
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t ₂	ベアプレート	部品			セツ質量	h (mm)	hc (mm)	Ⅰゾーン			Ⅱゾーン			鉄板の定着長さ	Ⅰゾーン				Ⅱゾーン		
		□150	4. 5～12	EB150-4-24		4-M24	14. 0	290	210	-	-	-	-	25	17	14	31	400	80	550以上	120	500	8-D16	D13φ150	500	16-D16	D13φ150	210	500	8-D16	D13φ150	500	16-D16	D13φ150	210	
		□175	4. 5～12	EB175-4-24		4-M24	17. 9	310	230	-	-	-	-	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13φ150	520	16-D16	D13φ150	210	520	8-D16	D13φ150	520	16-D16	D13φ150	210	
101. 2	8	□200	6～12	EB200-4	-24	4-M24	21. 9	340	260	-	-	-	-	25	23	14	37	400	80	600以上	120	550	8-D16	D13φ150	550	16-D16	D13φ150	200	550	8-D16	D13φ150	550	16-D16	D13φ150	200	
					-30	4-M30	35. 4	360	270	-	-	-	-	32	33	23	56	400	102	600以上	150	570	8-D19	D13φ150	570	16-D19	D13φ150	300	570	8-D19	D13φ150	570	16-D19	D13φ150	300	
					-36	4-M36	41. 4	360	270	-	-	-	-	40	41	36	77	480	117	700以上	160	580	12-D19	D13φ150	580	20-D19	D13φ150	350	580	12-D19	D13φ150	580	20-D19	D13φ150	350	
					-24	4-M24	32. 2	390	310	-	-	-	-	25	30	15	45	400	80	600以上	120	600	8-D19	D13φ150	600	12-D19	D13φ150	200	600	8-D19	D13φ150	600	12-D19	D13φ150	200	
					-30	4-M30	51. 3	410	320	-	-	-	-	32	43	23	66	400	102	600以上	150	610	8-D19	D13φ150	610	16-D19	D13φ150	300	610	8-D19	D13φ150	610	16-D19	D13φ150	300	
					-36	4-M36	59. 7	410	320	-	-	-	-	40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13φ150	610	20-D19	D13φ100	350	610	12-D19	D13φ150	610	20-D19	D13φ100	350	
		□250	6～16	EB250-4	-30	4-M30	51. 1	450	360	190	-	-	-	-	40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13φ150	640	20-D22	D13φ100	470	640	12-D22	D13φ150	640	20-D22	D13φ100	470
					-36	4-M30	70. 1	460	370	-	-	-	-	32	54	24	78	400	102	600以上	150	660	8-D19	D13φ150	660	16-D19	D13φ150	280	660	8-D19	D13φ150	660	16-D19	D13φ150	280	
					-36	4-M36	82. 9	460	370	-	-	-	-	40	67	37	104	480	117	700以上	160	660	12-D19	D13φ100	660	20-D19	D13φ100	350	660	12-D19	D13φ100	660	20-D19	D13φ100	350	
					-30	8-M30	69. 4	500	410	240	-	-	-	36	71	51	122	600	106	800以上	150	700	16-D22	D13φ150	700	20-D22	D13φ100	440	700	16-D22	D13φ150	700	20-D22	D13φ100	440	
					-36	8-M36	84. 0	510	420	220	-	-	-	44	90	82	172	720	121	900以上	170	720	16-D25	D13φ150	720	24-D25	D13φ100	610	720	16-D25	D13φ150	720	24-D25	D13φ100	610	
					-36	EB350-4-30	4-M30	93. 1	510	420	-	-	-	32	66	24	90	400	102	600以上																

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411
中部 TEL 052-582-3356
北陸 TEL 076-233-5260

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

関西 TEL 06-6395-2133
中四国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

特記事項	工事名	図名	縮尺	作成日	図面番号
	福祉センター別館建設工事（建築主体）	 武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二 印	ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc21の場合） A3サイズ→100%	2024/09/05	S-09

◎適用範囲

1、一般事項

- 1) 本仕様書は、MAXリンブレンK型の標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 2) 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2018年版、「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2014年改定、「建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）」2022年改定、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2021年改定、「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2005年改定、日本建築センター「建築物の構造関係技術基準解説書」2020年版、公共建築協会「建築構造設計基準」令和3年版及び、「公共建築工事標準仕様書」令和4年版による。

2、適用範囲

1) 適用対応梁の構造

- ・梁の構造種別 ： 鉄筋コンクリート造及び、鉄骨鉄筋コンクリート造 ・梁せい (D) ： D≧450 (mm)
- ・コンクリートの設計基準強度 (F_c)
- a) あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 18≦F_c≦60N/mm² b) あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 21≦F_c≦100N/mm²
- ただし、コンクリートの設計基準強度が60N/mm²を超えた場合は、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している高強度コンクリートとする。
- ・鉄筋
- a) 主筋 JIS・G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している 590・685N/mm²級鋼の高強度鉄筋
- ただし、主筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。
- b) あばら筋 JIS・G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している 685・785・1275N/mm²級鋼の高強度鉄筋
- ただし、開孔上下部補強筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。
- ・引張鉄筋比 (p_t) ： p_t≦2.5 (%) ただし、下限値は0.4%または、存在応力（長期荷重による応力）による必要量の4/3倍のうち小さい方の数値以上とする。
- SRC造の場合の下限値は、「SRC規準」に準拠する。
- ・あばら筋比 (p_w) ： 0.2≦p_w≦1.2 (%) ただし、SRC造の場合は0.1%以上とする。（非充複型鉄骨を用いた場合は0.2%以上）

2) 開孔径及び、開孔位置

- ・開孔径 (H) ： H≦D/3 ただし、Hは外径とし H≦750 (mm)
- ・開孔の水平方向中心間距離 (A) ： A≧3H （隣り合う開孔径の平均値の3倍以上）
- ・開孔の垂直方向中心間距離 (G) ： G≧3H （隣り合う開孔径の平均値の3倍以上） ただし、ΣH≦D/3 且つ、基礎梁に2開孔までとする。
- ・柱際から開孔中心までの距離 (B) ： B≧D (mm)
- ただし、あばら筋に普通鉄筋を使用した梁端部に塑性ヒンジが生じない基礎梁で、18≦F_c≦51N/mm²であり、
- 1.00≦M/Qd≦1.55 且つ、H/D≦0.25の場合 B≧max (0.4D , C/2) (mm)
- ・梁上下端からのへりあき距離 (H_e) ： 開孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とする。
- ただし、梁上下端からのへりあき距離については、MAXリンブレンK型があばら筋の内側に納まる距離を確保する。

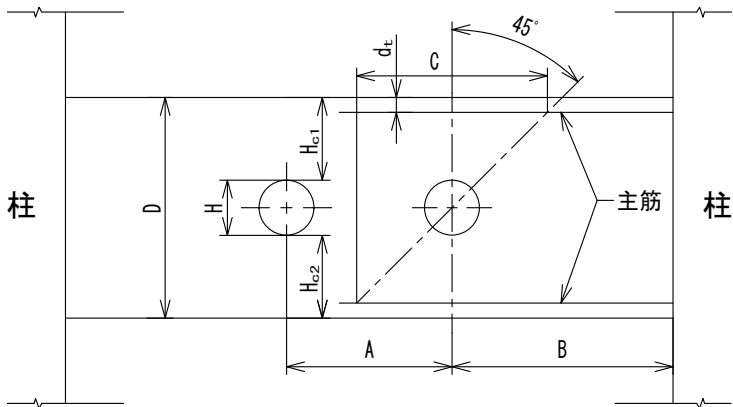


図1 貫通孔の適用開孔位置

3) 補強量の範囲

- ・MAXリンブレンK型の補強筋比 (p_r)
- あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 p_r≦1.0 (%)
- あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 p_r≦1.2 (%)
- 基礎梁で開孔位置Bをmax (0.4D , C/2) ≦B<Dとした梁 p_r≦0.38 (%)
- ・有効補強範囲内のあばら筋比 (p_a)
- あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 p_a≦1.2 (%)
- あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 p_a≦1.0 (%)
- ・有効補強範囲内のせん断補強筋比 (Σp_{wo}=p_r+p_a)
- あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 0.2≦Σp_{wo}≦1.8 (%)
- あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 0.2≦Σp_{wo}≦2.2 (%)

3、補強筋比の算定方法

開孔周囲補強に有効な有効補強範囲 (C) は開孔中心部より45度方向に発生するせん断ひび割れを想定して、図2に示す様に開孔中心部から45度に引いた線と上下の主筋重心位置の交点の水平距離とし、C=C₁+C₂とする。

また、基礎梁の梁端部に開孔を設け、有効補強範囲 (C) が梁内に確保できない開孔位置の場合の有効補強範囲内のあばら筋比 (p_a) は、図3に示す様に、梁内の有効補強範囲内に配置される開孔際補強あばら筋と一般部あばら筋の補強筋比とする。

MAXリンブレンK型の有効断面積 (a_r) の算定については、MAXリンブレンK型の開孔中心部から45度方向に対して所在する鉄筋が、せん断抵抗するものを仮定する。

また、広沢式の扱いによって有効断面積は公称断面積の√2倍とする。

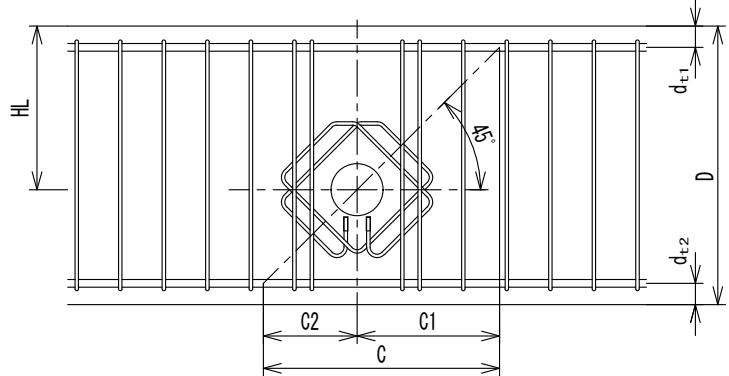


図2 有効補強範囲

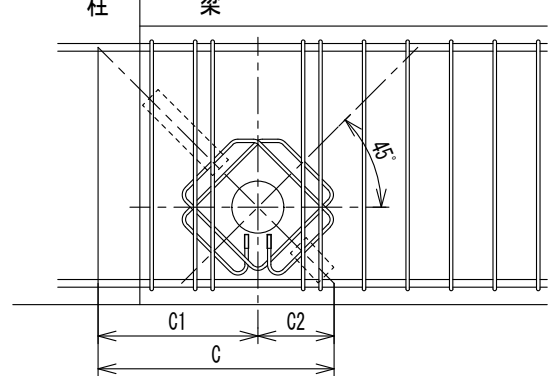


図3 (C) が梁内に確保できない開孔位置とした場合

◎補強算定式

MAXリンブレンK型補強の有孔梁のせん断終局強度式（修正広沢式）

$$Q_{su1} = \alpha \left\{ \frac{0.053p_t^{0.23}(18+F_c)}{M/Qd+0.12} \left(1-1.61 \frac{H}{D} \right) + 0.85 \sqrt{p_r \cdot r \sigma_y + p_s \cdot s \sigma_y} \right\} b j$$

α：低減係数 α=1.00 p_t：引張鉄筋比 F_c：コンクリートの設計基準強度 (N/mm²) M/Qd：せん断スパン比で、3以上のときは3とする。 H：開孔径 (mm)

D：梁せい (mm) p_r：MAXリンブレンK型の補強筋比 rσ_y：MAXリンブレンK型の規格降伏点 (785N/mm²) ただし、rσ_y=min(785, 25F_c) p_a：有効補強範囲内のあばら筋比

sσ_y：有効補強範囲内のあばら筋の規格降伏点 (N/mm²) ただし、sσ_y=min(wσ_y, 25F_c) b：梁幅 (mm) j：応力中心間距離で、j=7d/8 (mm) とする。 d：梁の有効せい (mm)

◎施工管理要領

- 1、施工に先立ち、設計図書又は、配筋図に基づき有孔梁の補強計算を行ない、補強筋量及び開孔位置を確認する。次にMAXリンブレンK型の枚数及び、必要あばら筋組数を確認する。
- 2、MAXリンブレンK型には製品の型式が記載されたラベルが取付けてあるので、 適当な製品であるか又、変形や傷がないか、スペーサー部にキャップが付いているか必ず確認する。
- キャップは使用鉄筋径別に色分けし、適用開孔径を表示している。
- 3、MAXリンブレンK型を直接地面に置くことは避け、各サイズ毎に整理し、雨・泥・油等で汚さないように保管する。

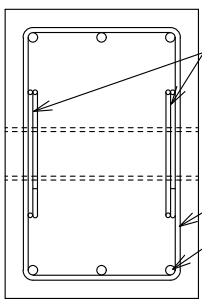
◎標準配筋図

1、MAXリンブレンK型の取付け

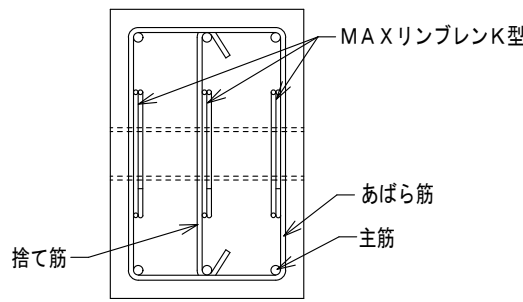
- 1) MAXリンブレンK型の取付けは、開孔部1ヶ所に対して2枚以上用いて必ずあばら筋の内側へ取り付ける。MAXリンブレンK型を3枚以上必要とする場合は、図4に示すように捨て筋を取付け、MAXリンブレンK型を捨て筋に結束線等で取付け保持する。MAXリンブレンK型の配置は、コンクリートが十分に回る空きを確保することとし、バランスよく配置する。

2、MAXリンブレンK型の取付け向き

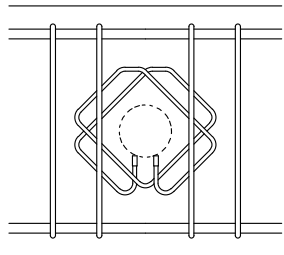
- 1) MAXリンブレンK型は、必ずつめ部が上下方向になるように取り付ける。（図5）



2枚の配筋例



3枚以上の配筋例



適正な取付け向き

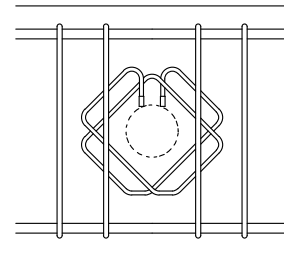
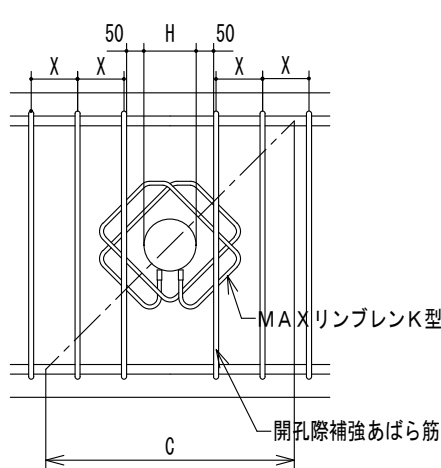


図5 MAXリンブレンK型の取付け向き

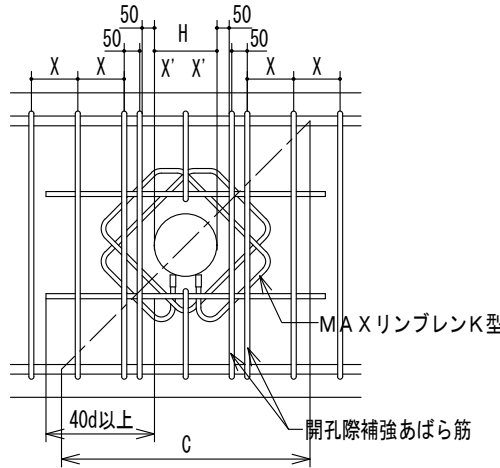
図4 MAXリンブレンK型の取付け

3、開孔際補強あばら筋の基本配筋（図3参照）

- 1) 開孔際補強あばら筋は、一般部あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、H<250のとき開孔際に1組、250≦Hのとき開孔際に2組とする。
- 2) 開孔際補強あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚さとし、2組目以降は50mmピッチとする。



■ H<250 基本組数 1組



■ 250≦H 基本組数 2組

図6 開孔径別のあばら筋基本配筋図

K-07-20240417-J

特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図 名 MAXリンブレンK型 設計・施工標準仕様書 (1/2)	縮 尺 A2サイズ →100% A3サイズ →71%縮小	作成日	図面番号 S-10
------	---------------------------	--	------------------------------------	---------------------------------	-----	--------------

◎標準配筋図

- 3) 垂直方向に並列する2開孔が異径の場合、図7に示す様に、小開孔の開孔縁から開孔際補強あばら筋までの距離が100mmを超える場合は、大開孔の小開孔側となる直上または直下に横筋を配置し、小開孔の開孔際から50mmのかぶり厚さを確保した位置に開孔際補強筋を配筋する。開孔際補強筋は大開孔の開孔縁から50mm以上のかぶり厚さを確保することとし、形状は図9を参考に決定する。開孔際補強筋は一般部あばら筋と同径とする。ただし、開孔際補強筋に丸鋼およびインデントの鉄筋は用いないこととする。横筋は一般部あばら筋と同径以上とし、定着長さは大開孔の開孔際から40d以上または、開孔中心から45度の線との交点から「RC配筋指針」6章に規定されるL2又はL2h以上とする。

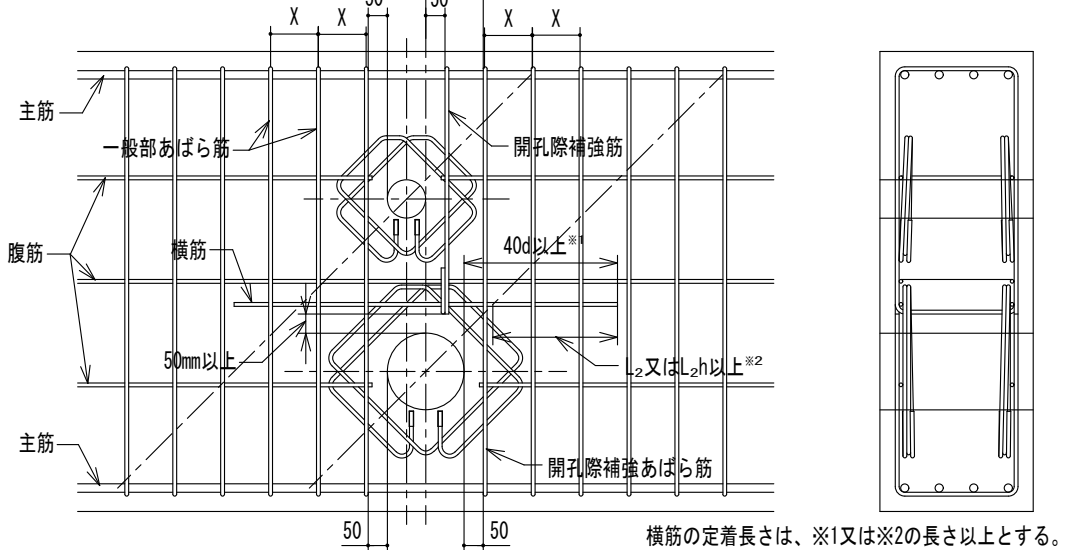


図7 開孔際補強筋の配筋例

4、開孔上下部の補強 (図8、9参照)

- 1) 開孔径が250≦Hのときは開孔上下部補強を設計ピッチ以内 (X') で設ける。
- 2) 開孔上下部補強筋は一般部あばら筋と同径とする。ただし、丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。横筋は一般部あばら筋径と同径以上とし、定着長さは開孔際から40d以上または、開孔中心から45度の線との交点から「RC配筋指針」6章に規定されるL2又はL2h以上とする。
- 3) 開孔上下部補強筋は開孔の上下縁から50mm以上のかぶりを確保し、形状は図9を参考に決定する。Hcが300mm未満の場合、(d)の形状としてもよい。また、(c)のように梁の両側からコの字形の補強筋を配筋する場合の重ね長さは、「JASS5」の直線重ね継手長さ以上を確保することとする。
- 4) 垂直方向に開孔径が250mm以上の同径の2開孔が並列する場合、開孔間についても広範囲にわたって無筋状態となることを避けるため、開孔上下補強筋と同様の配筋を行うこととする。
- 5) 垂直方向に並列する2開孔が異径で大開孔の開孔径が250mm以上の場合、小開孔の開孔径にかかわらず小開孔の上下部に開孔上下部補強筋を配筋することとし、小開孔の開孔際から開孔際補強あばら筋までの距離が100mmを超える場合は開孔際補強筋を配筋することとする。

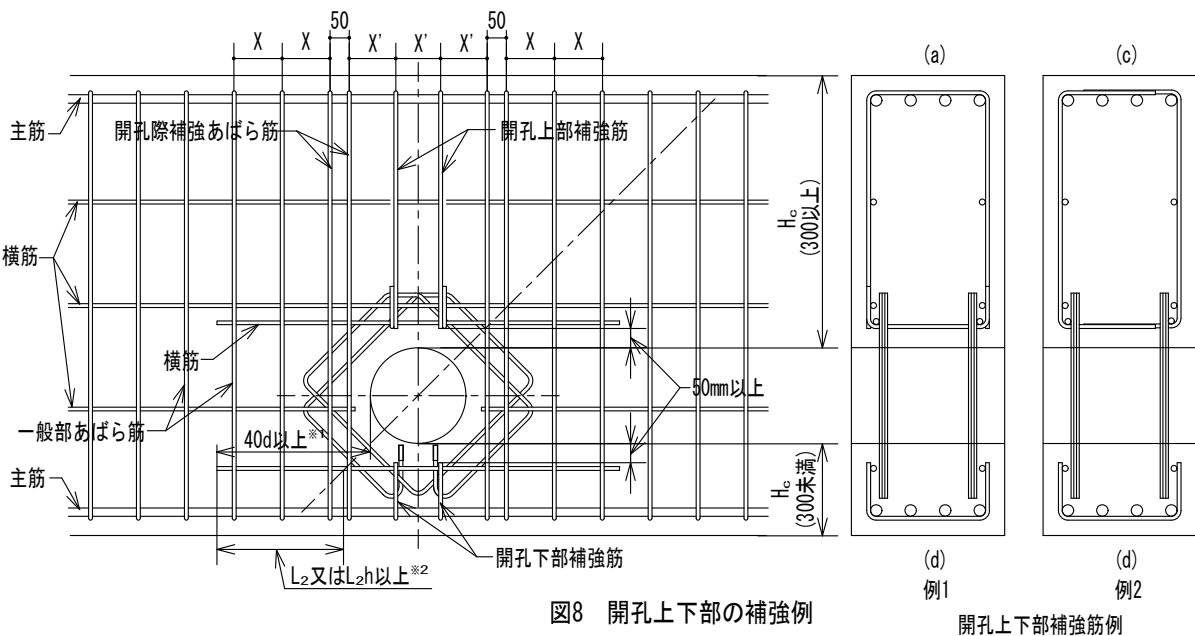


図8 開孔上下部の補強例

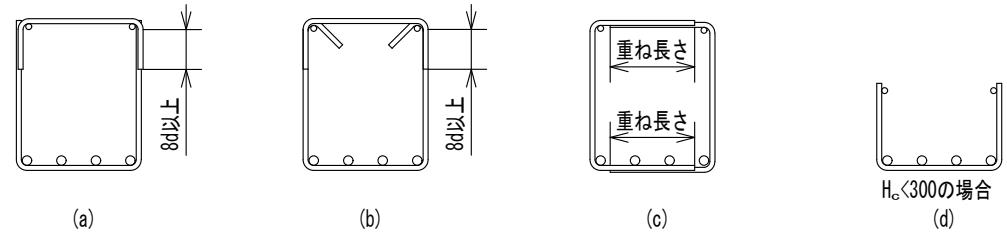
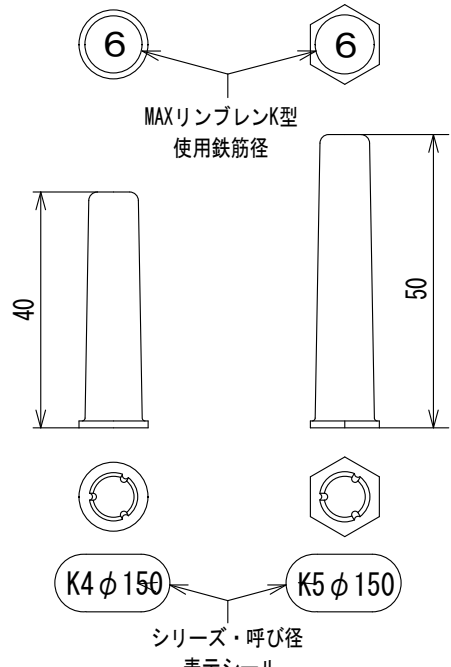
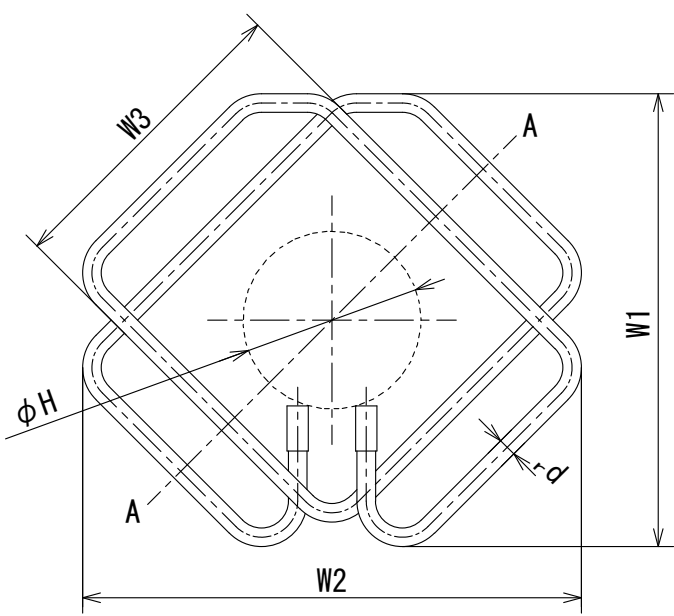


図9 開孔上下部補強筋の形状例

◎仕様
〈K4シリーズ〉

型 式	呼び径	適用 開孔径 H	寸 法 (mm)			使用鉄筋 r,d	かぶり 厚さ (mm)	有効断面積 a _r (mm ²)	重量 (kg)	キャップ 色別
			W1	W2	W3					
K4-0806	80	≦ 90	251	290	182	S6	40	179.2	0.41	黒
K4-0808			257	296	186	S8		280.1	0.66	赤
K4-0810			285	315	190	S10		403.5	1.01	緑
K4-0813			311	337	196	S13		716.7	1.93	黄
K4-1006	100	≦ 115	282	325	207	S6	40	179.2	0.46	黒
K4-1008			287	332	211	S8		280.1	0.73	赤
K4-1010			316	350	215	S10		403.5	1.12	緑
K4-1013			341	372	221	S13		716.7	2.12	黄
K4-1016	125	≦ 140	367	394	227	S16	40	1123.5	3.52	白
K4-1206			312	360	232	S6		179.2	0.51	黒
K4-1208			318	367	236	S8		280.1	0.81	赤
K4-1210			346	385	240	S10		403.5	1.23	緑
K4-1213	150	≦ 166	371	408	246	S13	40	716.7	2.31	黄
K4-1216			397	430	252	S16		1123.5	3.82	白
K4-1506			344	397	258	S6		179.2	0.56	黒
K4-1508			349	404	262	S8		280.1	0.89	赤
K4-1510	175	≦ 191	378	422	266	S10	40	403.5	1.34	緑
K4-1513			403	444	272	S13		716.7	2.51	黄
K4-1516			429	467	278	S16		1123.5	4.14	白
K4-1706			374	432	283	S6		179.2	0.61	黒
K4-1708	200	≦ 217	380	439	287	S8	40	280.1	0.96	赤
K4-1710			408	457	291	S10		403.5	1.45	緑
K4-1713			434	480	297	S13		716.7	2.71	黄
K4-1716			459	502	303	S16		1123.5	4.44	白
K4-2006	250	≦ 268	406	469	309	S6	40	179.2	0.66	黒
K4-2008			412	476	313	S8		280.1	1.04	赤
K4-2010			440	494	317	S10		403.5	1.57	緑
K4-2013			465	516	323	S13		716.7	2.91	黄
K4-2016	300	≦ 319	491	539	329	S16	40	1123.5	4.76	白
K4-2506			463	541	360	S6		179.2	0.75	黒
K4-2508			469	548	364	S8		280.1	1.19	赤
K4-2510			497	566	368	S10		403.5	1.78	緑
K4-2513	350	≦ 370	522	589	374	S13	40	716.7	3.29	黄
K4-2516			548	611	380	S16		1123.5	5.36	白
K4-3006			525	613	411	S6		179.2	0.85	黒
K4-3008			531	620	415	S8		280.1	1.34	赤
K4-3010	400	≦ 420	559	638	419	S10	40	403.5	2.00	緑
K4-3013			585	661	425	S13		716.7	3.69	黄
K4-3016			610	683	431	S16		1123.5	5.98	白
K4-3508			588	692	466	S8		280.1	1.49	赤
K4-3510	450	≦ 470	616	711	470	S10	40	403.5	2.21	緑
K4-3513			642	733	476	S13		716.7	4.07	黄
K4-3516			667	755	482	S16		1123.5	6.57	白



〈 K4シリーズ 〉 〈 K5シリーズ 〉

キャップ

〈K5シリーズ〉

型 式	呼び径	適用 開孔径 H	寸 法 (mm)			使用鉄筋 r,d	かぶり 厚さ (mm)	有効断面積 a _r (mm ²)	重量 (kg)	キャップ 色別
			W1	W2	W3					
K5-0806	80	≦ 90	280	318	202	S6	50	179.2	0.46	黒
K5-0808			285	325	202	S8		280.1	0.73	赤
K5-0810			314	343	210	S10		403.5	1.12	緑
K5-0813			339	365	216	S13		716.7	2.11	黄
K5-1006	100	≦ 115	310	353	227	S6	50	179.2	0.51	黒
K5-1008			316	360	231	S8		280.1	0.80	赤
K5-1010			344	378	235	S10		403.5	1.23	緑
K5-1013			369	400	241	S13		716.7	2.31	黄
K5-1016	125	≦ 140	395	423	247	S16	50	1123.5	3.81	白
K5-1206			340	389	252	S6		179.2	0.56	黒
K5-1208			346	395	256	S8		280.1	0.88	赤
K5-1210			374	414	260	S10		403.5	1.34	緑
K5-1213		400	436	266	S13	716.7	2.50	黄		
K5-1216		425	458	272	S16	1123.5	4.12	白		
K5-1506		150	≦ 166	372	425	278	S6	179.2	0.61	黒
K5-1508				378	432	282	S8	280.1	0.96	赤
K5-1510	406			450	286	S10	403.5	1.45	緑	
K5-1513	431			473	292	S13	716.7	2.70	黄	
K5-1516	175	≦ 191	457	495	298	S16	50	1123.5	4.43	白
K5-1706			402	461	303	S6		179.2	0.66	黒
K5-1708			408	468	307	S8		280.1	1.03	赤
K5-1710			436	486	311	S10		403.5	1.56	緑
K5-1713		462	508	317	S13	716.7	2.90	黄		
K5-1716		487	530	323	S16	1123.5	4.74	白		
K5-2006		200	≦ 217	434	497	329	S6	179.2	0.71	黒
K5-2008				440	504	333	S8	280.1	1.11	赤
K5-2010	468			522	337	S10	403.5	1.67	緑	
K5-2013	494			545	343	S13	716.7	3.10	黄	
K5-2016	250	≦ 268	519	567	349	S16	50	1123.5	5.05	白
K5-2506			491	570	380	S6		179.2	0.80	黒
K5-2508			497	576	384	S8		280.1	1.26	赤
K5-2510			525	595	388	S10		403.5	1.89	緑
K5-2513	300	≦ 319	551	617	394	S13	50	716.7	3.48	黄
K5-2516			576	639	400	S16		1123.5	5.65	白
K5-3006			553	642	431	S6		179.2	0.90	黒
K5-3008			559	649	435	S8		280.1	1.41	赤
K5-3010	350	≦ 370	587	667	439	S10	50	403.5	2.11	緑
K5-3013			613	689	445	S13		716.7	3.87	黄
K5-3016			638	711	451	S16		1123.5	6.27	白
K5-3508			616	721	486	S8		280.1	1.56	赤
K5-3510	400	≦ 420	645	739	490	S10	50	403.5	2.32	緑
K5-3513			670	761	496	S13		716.7	4.25	黄
K5-3516			695	783	502	S16		1123.5	6.87	白
K5-4010			705	810	540	S10		403.5	2.53	緑
K5-4013	450	≦ 470	731	832	546	S13	50	716.7	4.64	黄
K5-4016			756	854	552	S16		1123.5	7.47	白
K5-4510			766	880	590	S10		403.5	2.75	緑
K5-4513			791	902	596	S13		716.7	5.03	黄
K5-4516	500	≦ 520	817	925	602	S16	50	1123.5	8.08	白
K5-5010			827	951	640	S10		403.5	2.96	緑
K5-5013			852	973	646	S13		716.7	5.40	黄
K5-5016			878	995	652	S16		1123.5	8.69	白
K5-5510	550	≦ 570	882	1,022	690	S10	50	403.5	3.17	緑
K5-5513			908	1,044	696	S13		716.7	5.77	黄
K5-5516			933	1,066	702	S16		1123.5	9.27	白
K5-6010			957	1,107	750	S10		403.5	3.43	緑
K5-6013	600	≦ 630	983	1,129	756	S13	50	716.7	6.24	黄
K5-6016			1,008	1,151	762	S16		1123.5	9.99	白
K5-6510			1,004	1,163	790	S10		403.5	3.60	緑
K5-6513			1,029	1,185	796	S13		716.7	6.54	黄
K5-6516	700	≦ 720	1,055	1,208	802	S16	50	1123.5	10.46	白
K5-7010			1,065	1,234	840	S10		403.5	3.82	緑
K5-7013			1,090	1,256	846	S13		716.7	6.92	黄
K5-7016			1,115	1,278	852	S16		1123.5	11.06	白
K5-7510	750	≦ 750	1,097	1,276	870	S10	50	403.5	3.94	緑
K5-7513			1,122	1,298	876	S13		716.7	7.14	黄
K5-7516			1,148	1,321	882	S16		1123.5	11.40	白

Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準

合成スラブ工業会仕様

Q Lデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、Q Lデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

耐火仕様①

JFE 建材 株式会社

[耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用]

設 計

材料/デッキプレート [ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類	板厚(mm)	表 面 処 理
■QL99-50 □QL99-75	端部加工 □むね有り □無し	□表面防錆処理(一次塗装) QLプライマー(P) [*] ■1.2 ■亜鉛めっき [■Z12 □Z27] □1.6 □JFEエコー(高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他() □無し
材 質	JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP2, SDP2G	*1 現場搬入までの一次防錆 (JIS K 5621 2種または3種相当)

材料/コンクリート

種 類	普通コンクリート	軽量コンクリート [□1種 □2種]
設計基準強度	□18 ■21	□24 () N/mm ²
厚さ(Q Lデッキ山)	■60 □70 □80 □85 □90 □95 □100 □ () mm	

材料/溶接金網・異形鉄筋

■溶接金網	JIS G 3551	φ6-75×75 ■φ6-150×150 □φ6-100×100 ()
□異形鉄筋	JIS G 3112, 3117	□D10-150×150 □D10-200×200 ()
耐火補強筋	JIS G 3112, 3117	D13-@300

接 合	条件	規格
梁 と の 接 合	□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による [*])
	■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鉄	接合箇所は特記による
	□その他	

*3 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

耐 火

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50 QL99-75	床1時間 床2時間	単純 連続	普通/軽量	要 要	□FP060FL-9101 □FP060FL-9095
		単純 連続		要 要	□FP120FL-9113 □FP120FL-9107

(注) 床2時間は床1時間耐火を含む

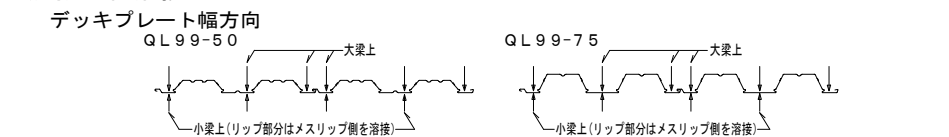
その他	□指定なし	()	()
-----	-------	-----	-----

特 記

支保工有無	その他:
■無 □有	

上欄内の採用項目に□を記して下さい。

焼抜き栓溶接



デッキプレートスパン方向

「QLデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

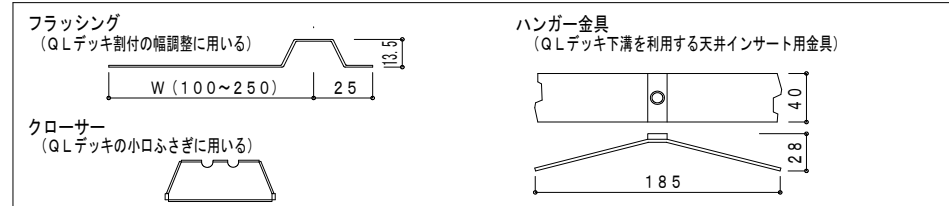
$$A_w = \frac{1.5Q_d}{Q_0} \times 1000\text{mm} \text{ かつ } 600\text{mm} \text{ 以下}$$

Q_d: 焼抜き栓溶接1個当たりの長期許容せん断力 (N)
Q₀: 設計最大せん断力 (N/mm)
A_w: 焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Q _d (N)
1.2	4,900
1.6	7,350 (SPW)・6,860 (A.P.W)

A_w = (300) mm
(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要

アクセサリ



施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)

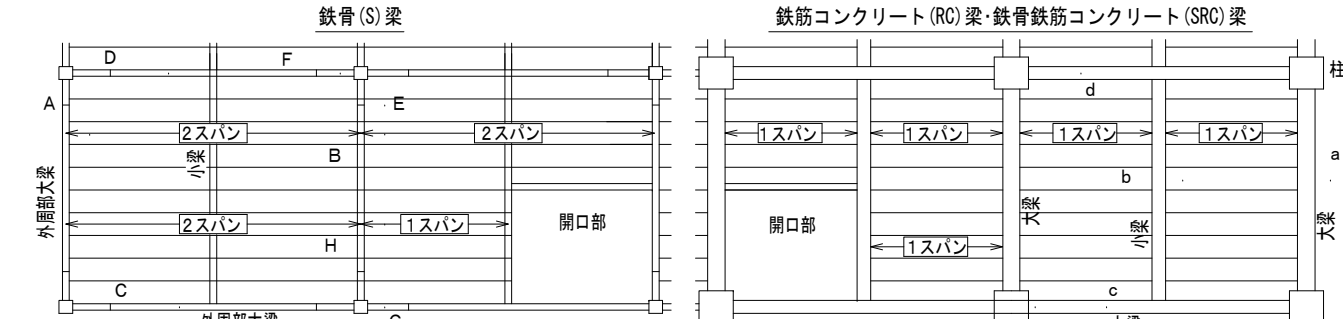
注1: 普通コンクリート (単位体積重量24.0kN/m³)、表面処理が亜鉛めっきの場合
注2: () 数値は表面処理がめっきまたは塗装品の許容スパンを示す。
注3: 表を超える場合は、別途支保工が必要。

QL99-50		(単位: m)											
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100			
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6		
支持条件	単純(内法)	2.52	2.75	2.47	2.69	2.42	2.64	2.372	2.59	2.332	2.54		
	2連続	3.38	3.67	3.31	3.61	3.24	3.54	3.183	3.47	3.123	3.41		
	3連続	3.12	3.40	3.05	3.33	2.99	3.26	2.933	3.20	2.883	3.15		
	4連続	3.12	3.40	3.05	3.33	2.99	3.26	2.933	3.20	2.883	3.15		

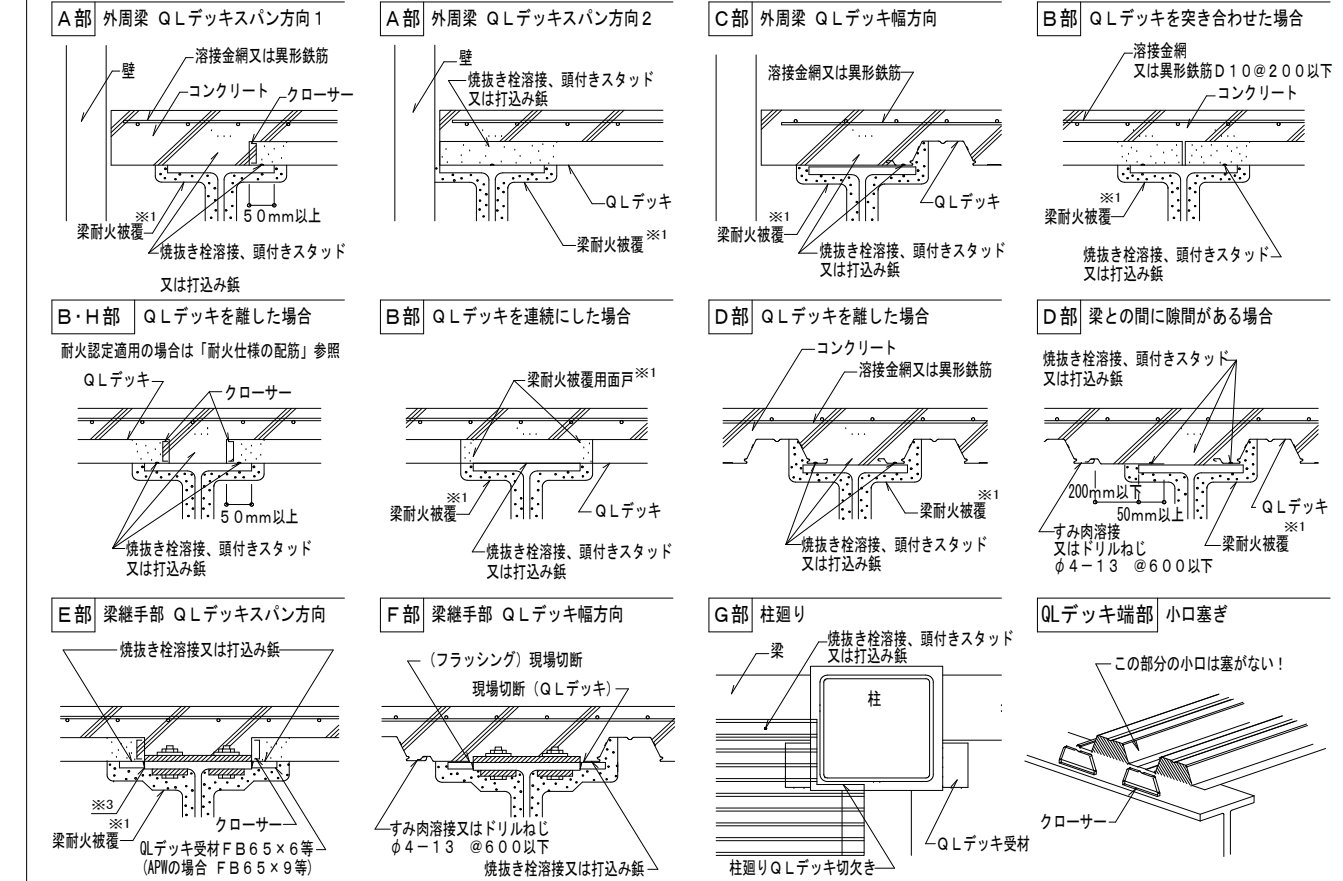
QL99-75		(単位: m)									
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
支持条件	板厚(mm)	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
	単純(内法)	3.31	3.61	3.24	3.55	3.18	3.48	3.13	3.42	3.07	3.37
		(3.31)	(3.61)	(3.24)	(3.55)	(3.18)	(3.48)	(3.13)	(3.42)	(3.07)	(3.37)
	2連続	4.02	4.30	3.96	4.24	3.91	4.18	3.84	4.13	3.74	4.07
		(3.89)	(4.30)	(3.78)	(4.24)	(3.67)	(4.18)	(3.58)	(4.13)	(3.49)	(4.07)
3連続	3.78	4.05	3.73	3.99	3.68	3.93	3.63	3.88	3.58	3.83	
		(3.78)	(4.05)	(3.73)	(3.99)	(3.68)	(3.93)	(3.63)	(3.88)	(3.58)	(3.83)

標 準 納 ま り

図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。 ※2はQLデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※3 溶接方法等は別途検討が必要。(合成スラブ工業会Q&A参照)

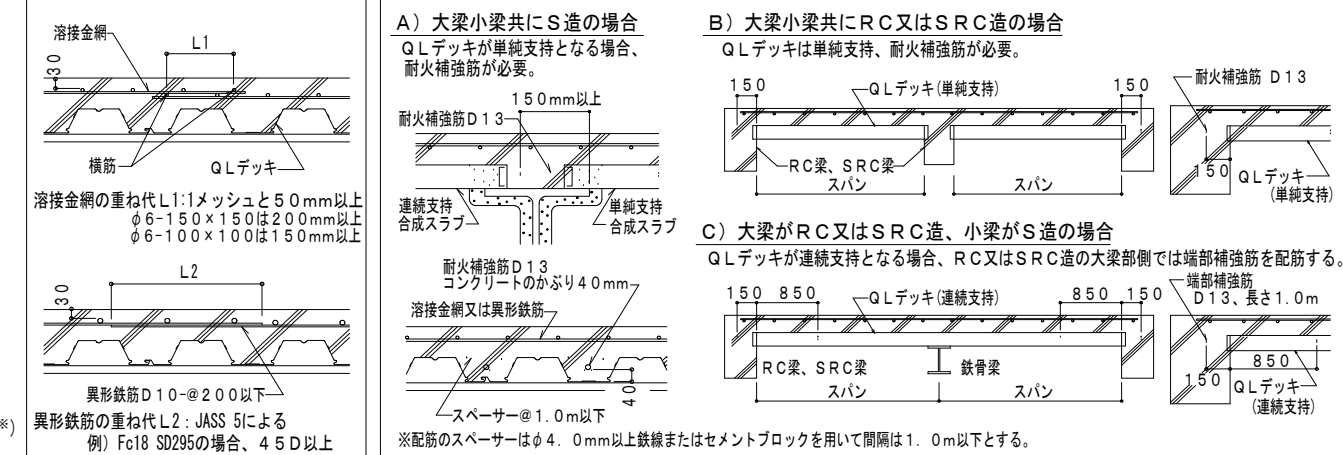


デッキプレートと梁の納まり [S梁]



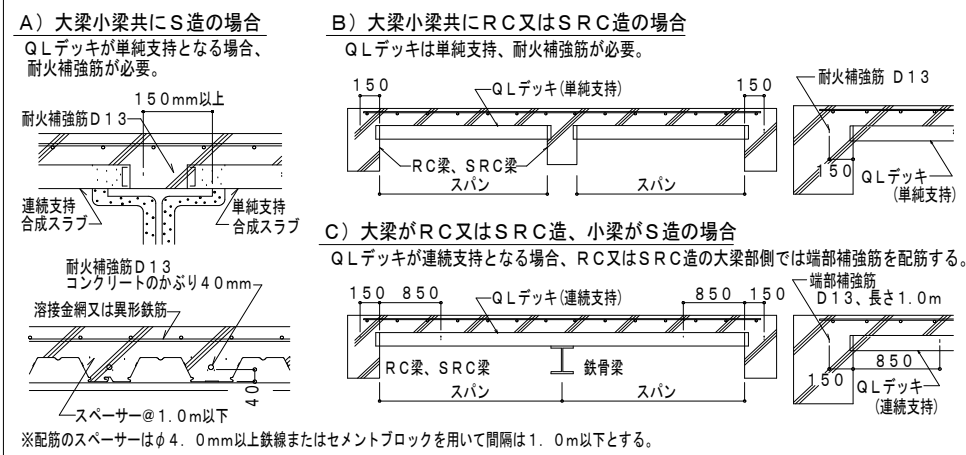
スラブの配筋

コンクリート表面よりかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

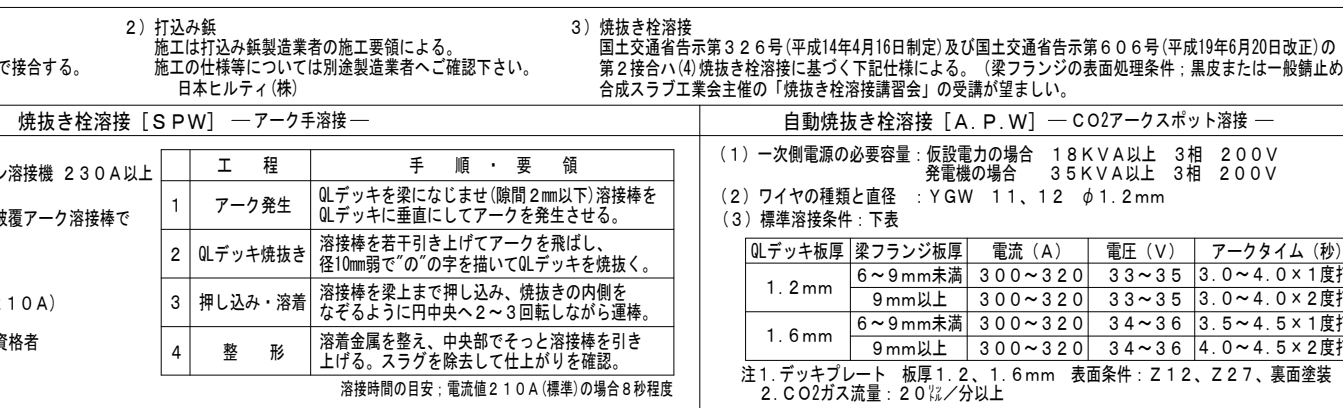


耐火仕様の配筋

QLデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はJASS5鉄筋コンクリート工事による。



デッキプレートと梁との接合



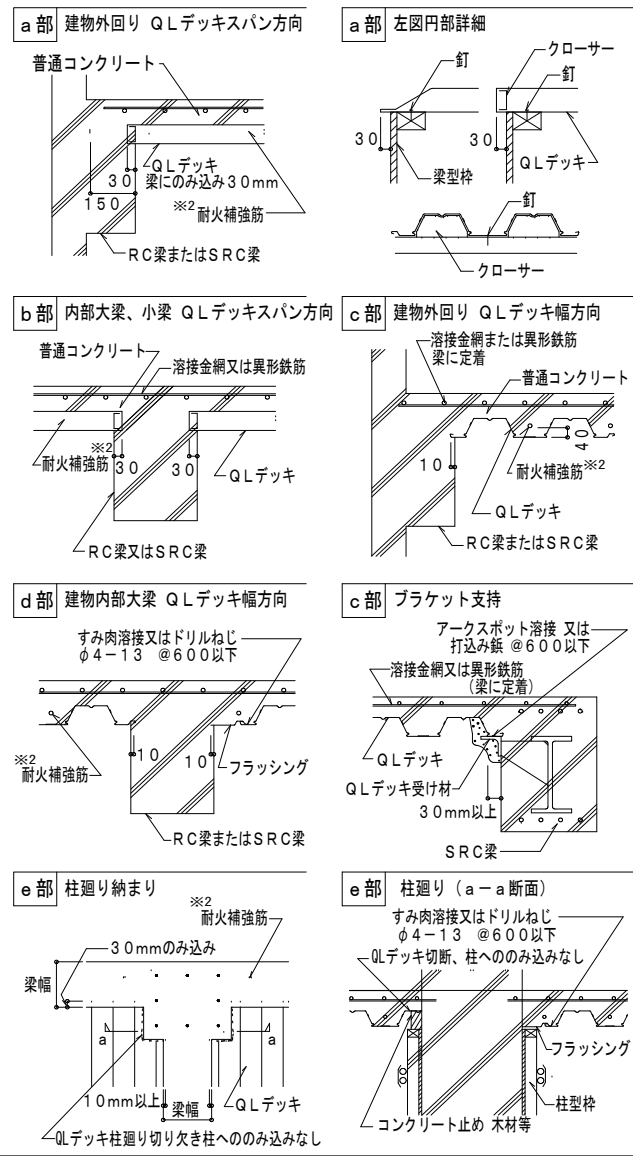
S・造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】

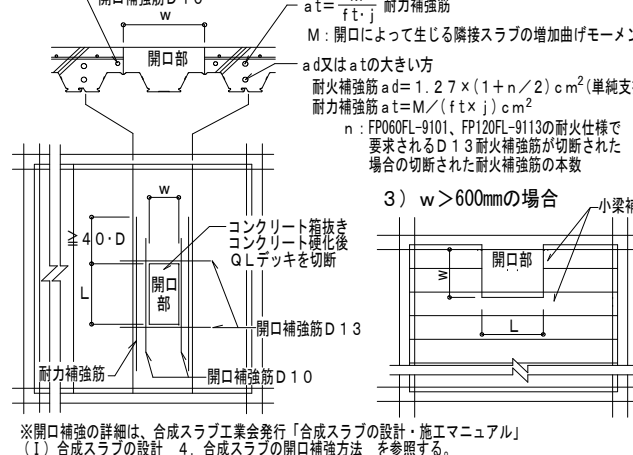
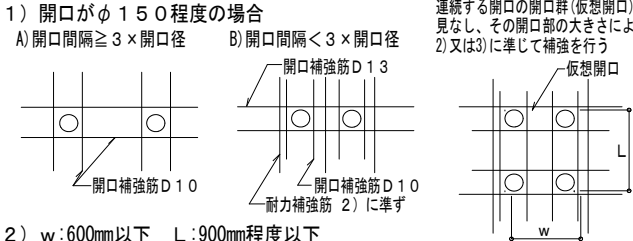
【連続支持】

その他の納まり・参考例等については、QLデッキ施工マニュアルまたは別途「納まり図」(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

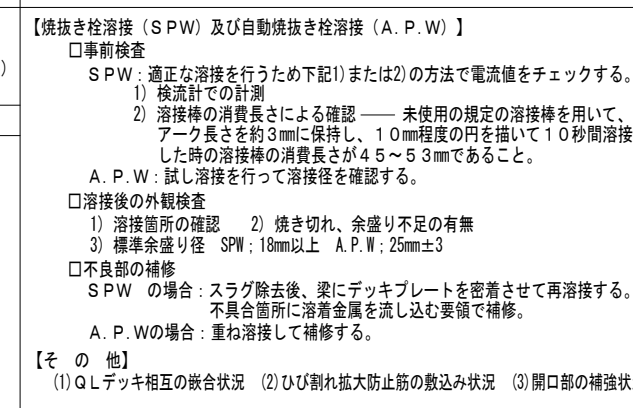
デッキプレートと梁の納まり [RC・SRC梁]



開口部補強案



検 査



テノコラム地業特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、テノコラム工法による地盤改良地業である。テノコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）および「建築工事標準仕様書・同解説 JASS4 杭・地業および基礎工事」（日本建築学会）による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度は $F_c = \underline{1000} \text{ kN/m}^2$ （ $\underline{1.0} \text{ N/mm}^2$ ）とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- (4) 本工事は、技術審査証明取得工法とする。又、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

4. 施工計画

- (1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム協会に所属する会員とする。
- (2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- ① 工事件名及び工事場所

② コラム仕様及び数量
〔コラム径・掘削深度（設計コラム長＋空掘長）・本数・設計基準強度〕

③ 工事期間及び工程

④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者）

⑤ 施工手順
- ⑥ 施工機械

⑦ 固化材配合条件

⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録）

⑨ 品質検査

⑩ 安全衛生対策

⑪ 地盤概要（土質柱状図）

⑫ コラム伏図

⑬ 技術審査証明書（写）

5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。

a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。

b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。

c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。

d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。

e. 先端練り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引上げ攪拌混合する。
- (3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
- (4) 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

$Xf = \alpha \times F_c$ 〔 α ：割り増し係数、 Xf ：配合強度〕

- (3) 室内配合試験
固化材液の配合（W／C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

暫定添加量 250kg/mm3 水固化材 80% （室内配合試験結果により決定する）

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

- ① 形状・寸法

② 固化材

③ 攪拌混合度

④ 支持地盤
- ：鉛直性

：材料計量

：攪拌混合回数

：仕事量
- 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する

水、固化材の重量

スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する

スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する

（施工1本目に施工深度と土質柱状図（地層、地盤N値）、仕事量値を対比させて、支持層着底時最終仕事量を決定し、管理する。）

・支持層深度については2箇所のボ-リング位置と近似した場所で試験杭を行い、各3ヵ位置の想定深度と抵抗値を照査し、監理者と協議して抵抗値を決定すること。

- (2) コラムの芯ズレ
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- (3) 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数

- ① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
- ② 検査対象層は 砂 , 砂礫 , _____ , であり、設計対象層を 砂 とする。
ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より、小さい場合は、最も小さい低い平均強度の層を設計対象層とする。

- ③ 調査箇所数
頭部コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所
深度コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所

- (2) コア採取率による調査

コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。

コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。

- (3) 合否の判定

- ① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
- ③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。
- ④ 検査手法Aによる品質検査

合否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$XN \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma$$

$$XN: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値(N/mm2, kN/m2)$$

$$XL: 合格判定値(N/mm2, kN/m2)$$

$$F_c: 設計基準強度(N/mm2, kN/m2)$$

$$k_a: 合格判定係数$$

$$\sigma: 標準偏差(N/mm2, kN/m2)$$

$$= v \sqrt{q_{ud}} \left(\begin{array}{l} v: 変動係数、品質確認書により想定する \\ q_{ud}: 想定した平均一軸圧縮強さ(N/mm2, kN/m2) \end{array} \right)$$

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4～6	7～8	9
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- ① コラムの伏図及び番号

② コラムの施工日

③ コラムの径及び実施コラム長

④ 掘削深度

⑤ 攪拌混合回数
- ⑥ 仕事量

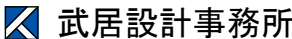
⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量

⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いたコア採取率

⑨ 合否判定結果

11. その他

施工に当たっては、セメント系固化材からの六価クロムの溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値を満足するよう必要な措置を講じること。試験方法、試験個数等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）の一部変更について」による。

特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	山口県下松市北斗町8-23 TEL 0833-44-8390  武居設計事務所 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 構造設計一級建築士登録 第 2939号 武居 健二 印	図 名 テノコラム地業特記仕様書	縮 尺 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小	作成日	図面番号 S-13
------	---------------------------	---	---------------------	-------------------------------	-----	--------------

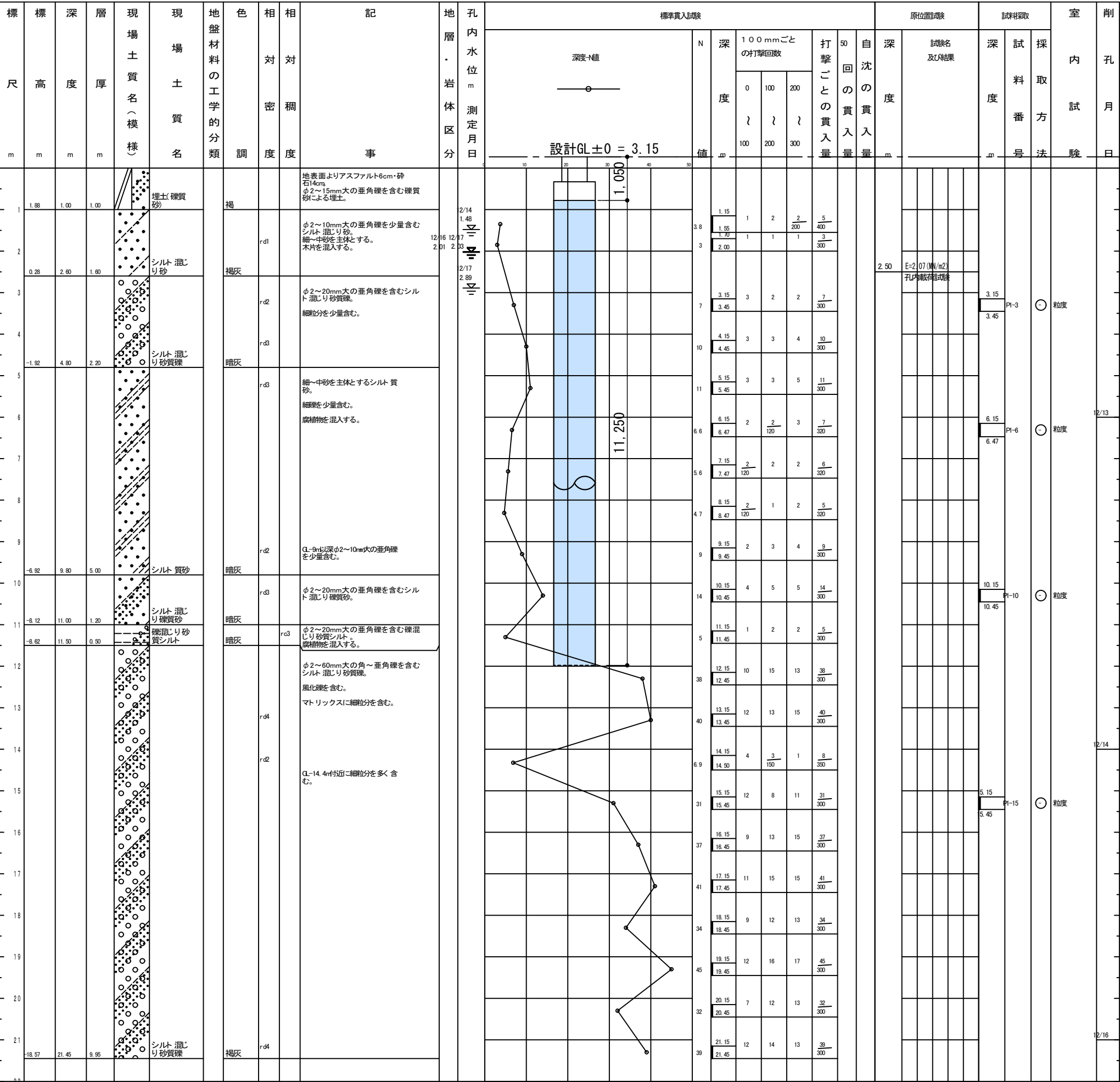
土質ボーリング柱状図

調査名 福祉センター別館建設工事基本実施設計業務委託

事業名または工事名

調査目的及び対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No. 1	調査位置	下松市西市二丁目10番16号	北緯	34° 00′ 42.5680″
発注機関	下松市	調査期間	令和6年12月13日～令和6年12月16日	東経	131° 51′ 32.0461″
調査業者名	武居設計事務所 TEL 0833-44-8390	主任技師		現場代理人	西弘 泰之 地質調査技士 登録番号 24279
孔口標高	2.88 m	角		方位	東
総削孔長	21.00 m	度		位置	東
地盤勾配	鉛直	水平		使用機種	東邦DI-C48
エンジン	ヤンマーTF120M	ポンプ	東邦BG-3CR		



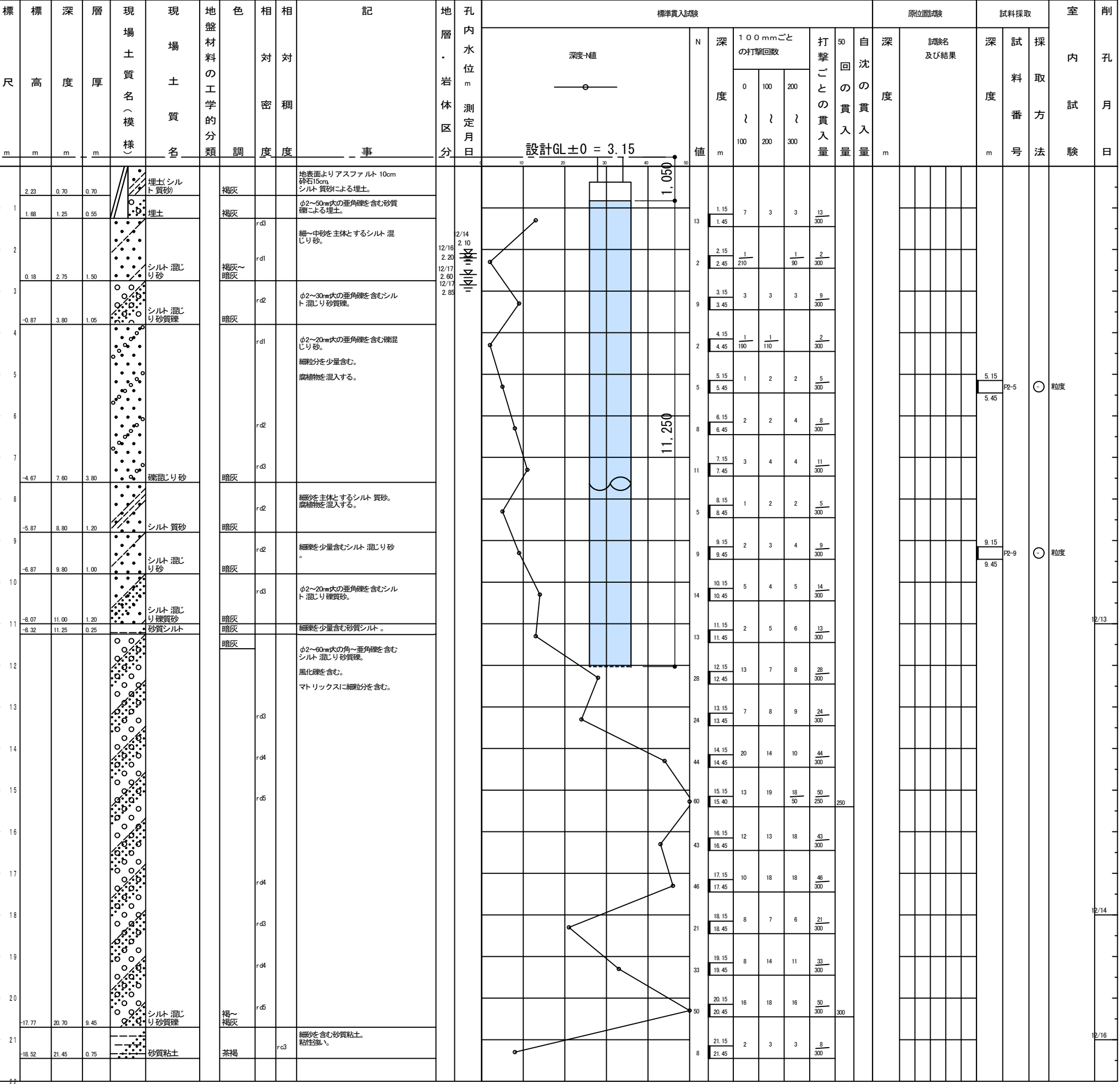
土質ボーリング柱状図

調査名 福祉センター別館建設工事基本実施設計業務委託

事業名または工事名

調査目的及び対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No. 2	調査位置	下松市西市二丁目10番16号	北緯	34° 00′ 42.5680″
発注機関	下松市	調査期間	令和6年12月13日～令和6年12月16日	東経	131° 51′ 32.0461″
調査業者名	武居設計事務所 TEL 0833-44-8390	主任技師		現場代理人	西弘 泰之 地質調査技士 登録番号 24279
孔口標高	2.93 m	角		方位	東
総削孔長	21.00 m	度		位置	東
地盤勾配	鉛直	水平		使用機種	東邦DI-C48
エンジン	ヤンマーTF120M	ボ	東邦BG-3CR		



特記事項

工事名

福祉センター別館建設工事（建築主体）

武居設計事務所

山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390
一級建築士事務所 山口県第1232号
一級建築士登録 第125874号 武居 健二

図名

ボーリング柱状図

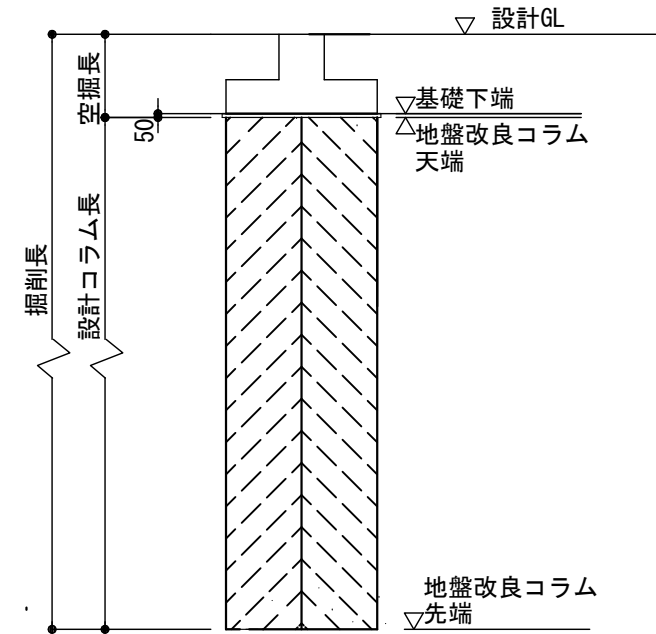
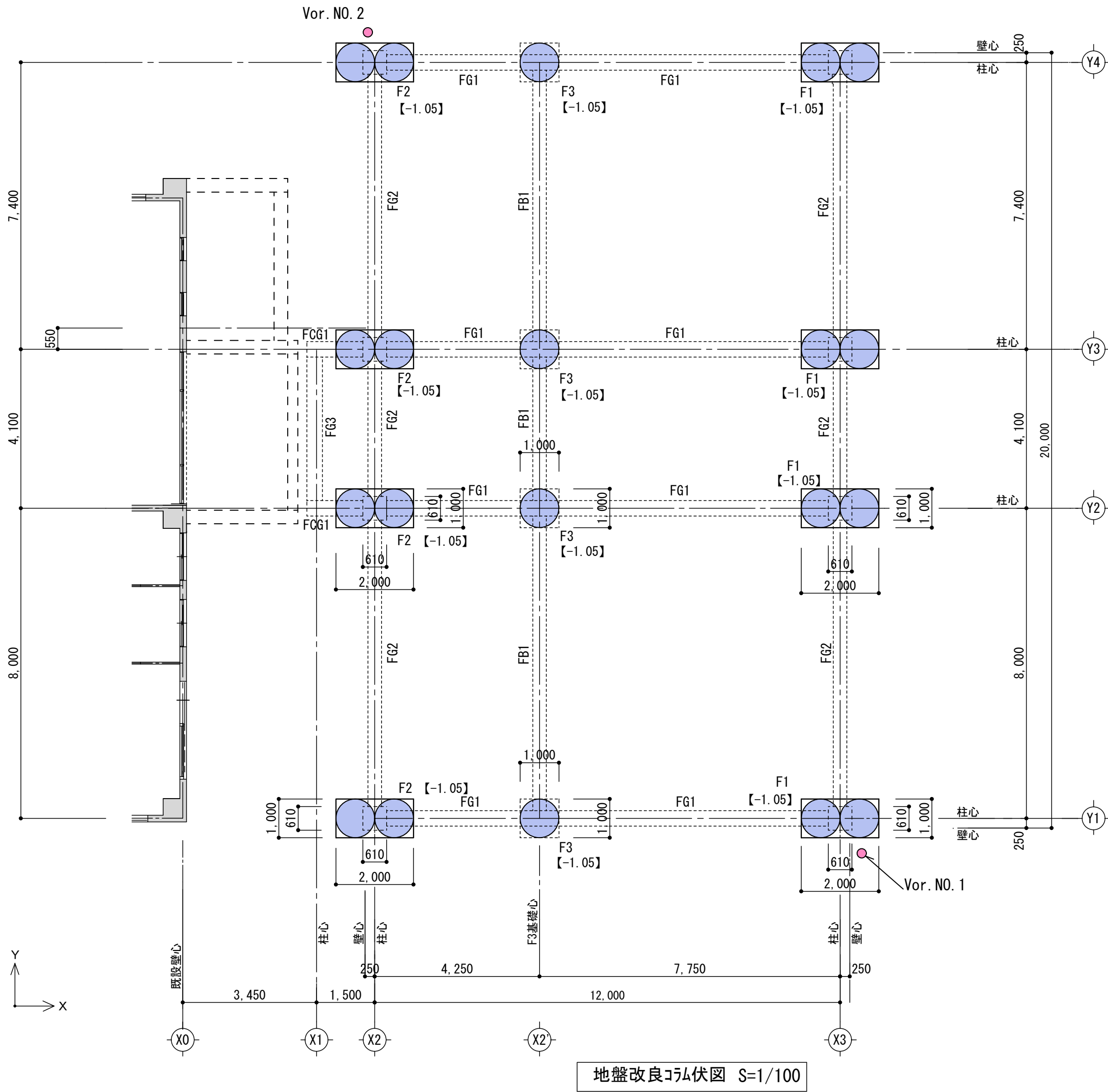
A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小

縮尺

作成日

図面番号

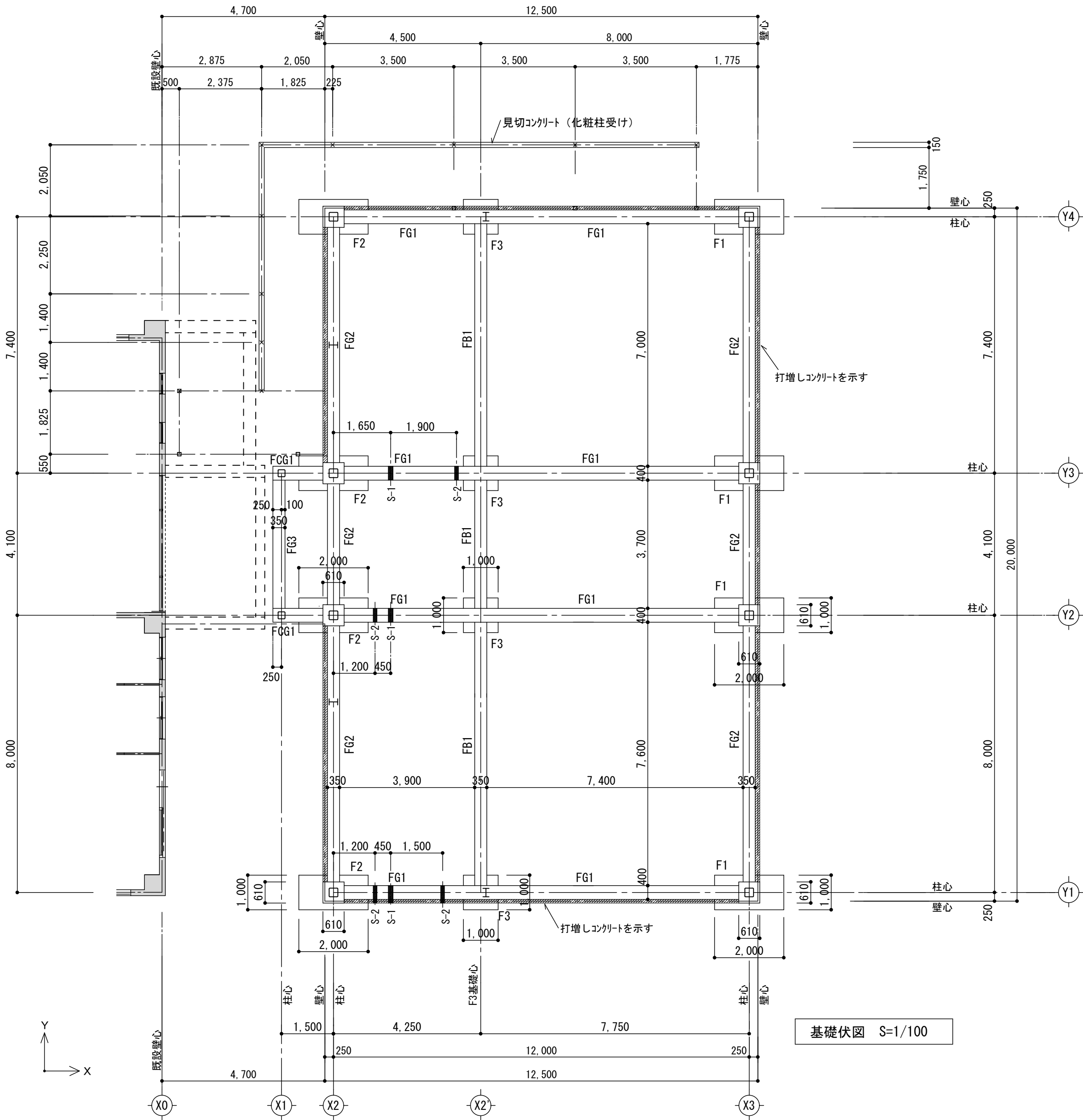
S-14



設計基準強度 $F_c=800\text{KN/m}^2$ 改良径 $\phi 1000$			
基礎下端レベル (m)	平均掘削長 (m)	空掘長 (m)	本数 (本)
設計GL-1.05	11.25	1.05	20
改良コラム長 計			225m
11.25m x 20 = 225m			

※設計図に示された支持地盤に着底する
長さを設計コラム長という
支持地盤: 沙土混じり礫質砂 (設計GL-12.30m)
先端平均N値=20

特記外は下記による			
・地盤改良はテノコラム工法 ($\phi 1000$) とする	・地盤改良深さは、沙土混じり礫質層を支持地盤とし、実状と異なる場合は、 監理者と協議の上、改良深さを調整すること		
・基礎下端=GL-1050とする	・支持層深度については2箇所のホーリング位置と近似した場所で試験杭を行い、 各コラム位置の想定深度と抵抗値を照査し、監理者と協議して抵抗値を決定すること。		
・コラム設計基準強度 1000KN/m ²	・地盤の長期許容支持力 (基礎底) 200kN/m ²		
・コラム径 $\phi 1000\text{mm}$	・柱状改良体の長期許容支持力 392kN/m ²		
・[]内は平均GLから基礎下端レベルを示す			
・改良体天端レベルは、基礎底-50mm (捨てコン厚) とする			



基礎伏図 S=1/100

基礎梁スリーブリスト (スリーブ位置は施工図による)

記号	スリーブ 径	梁種別	FG梁天からの高さ	用途	備考	型番 ()内は枚数	箇所
S-1	125Φ	FG1	規定の範囲内 施工図による	排水管	MAXリンパレン	K4-1206 (2)	3
S-2	100Φ	FG1	規定の範囲内 施工図による	排水管	MAXリンパレン	K4-1006 (2)	4

EB250-4-30

ベースプレート詳細図

柱脚詳細例 (Fc21の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □250 (板厚範囲: 6~16mm)					
アンカーボルト	4-M30					
	Ⅰゾーン			Ⅱゾーン		
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
＜側・隅柱用＞	610	8-D19 (SD345)	D13#150 (SD295)	610	16-D19 (SD345)	D13#150 (SD295)
＜中柱用＞	610	8-D19 (SD345)	D13#150 (SD295)	610	16-D19 (SD345)	D13#150 (SD295)

注1) Ⅰ、Ⅱゾーン分けについてはハイペースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りの鉄筋量 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイペースNEO設計ハンドブック第4章に記し、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc21の場合)

柱形外面基礎はりタイプ	はり主筋本数
はり主筋	2 3 4 5
D19	280~500 340~500 400~500 460~500
D22	280~500 340~500 400~500 460~500
D25	280~500 350~500 420~500 490~500

柱形中心基礎はりタイプ	はり主筋本数
はり主筋	2 3 4 5
D19	240~390 300~390 360~390
D22	240~390 300~390 360~390
D25	250~390 320~390 390

注1) 上記柱主筋について、柱主筋○はⅠゾーンの場合の配筋量です。
設計上、Ⅱゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。

■普通コンクリート設計基準強度

適用箇所	設計基準強度 (FC)	スランプ (S)
基礎・地中梁 コンクリート	2 1 (N/mm2)	1 5 (cm)
土間コンクリート	2 1 (N/mm2)	1 5 (cm)
調合はJIS A 5308 規定による		

■無筋コンクリート設計基準強度

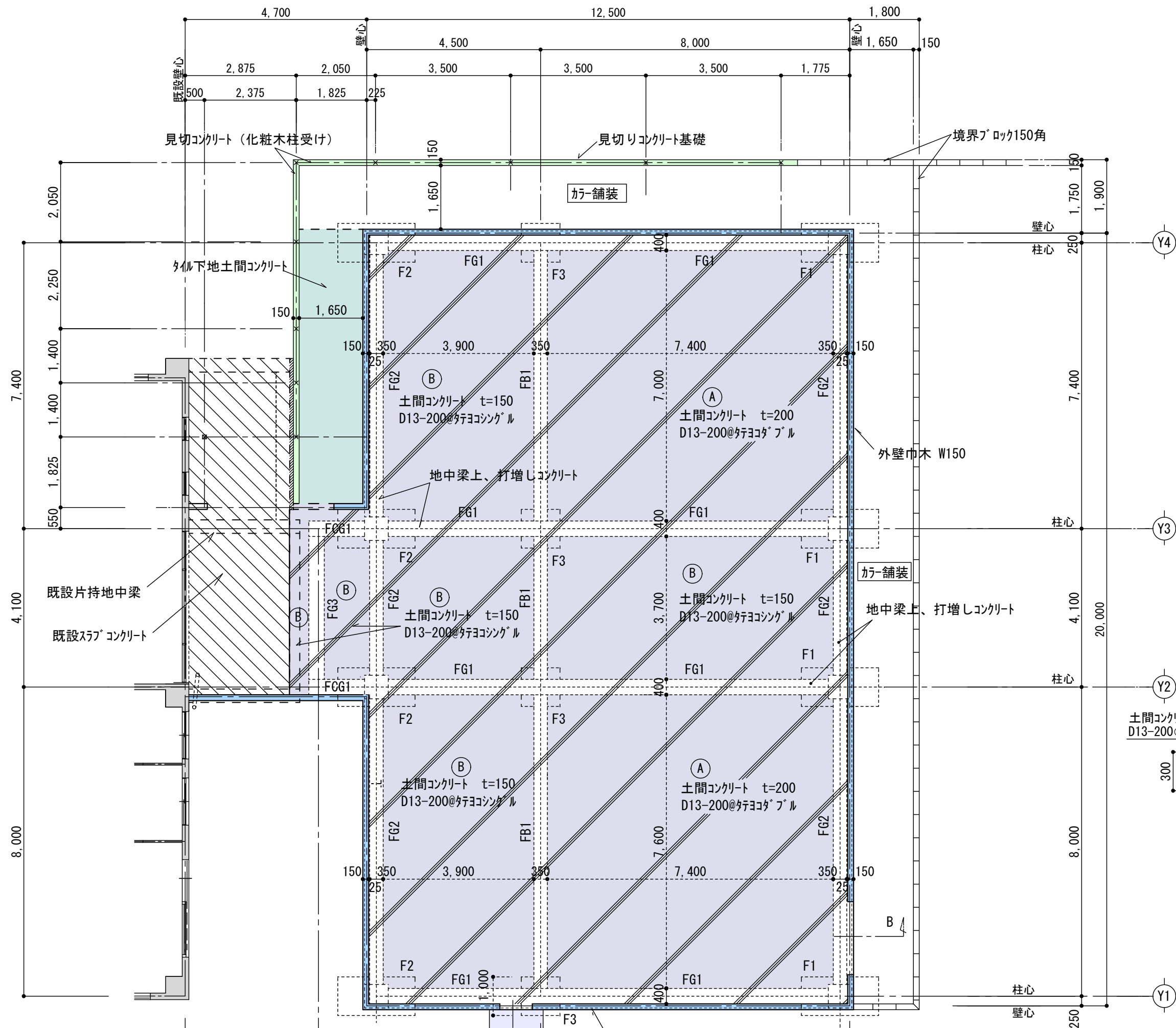
適用箇所	設計基準強度 (FC)	スランプ (S)
捨 コンクリート	1 8 (N/mm2)	1 5 (cm)

■鉄筋基準強度

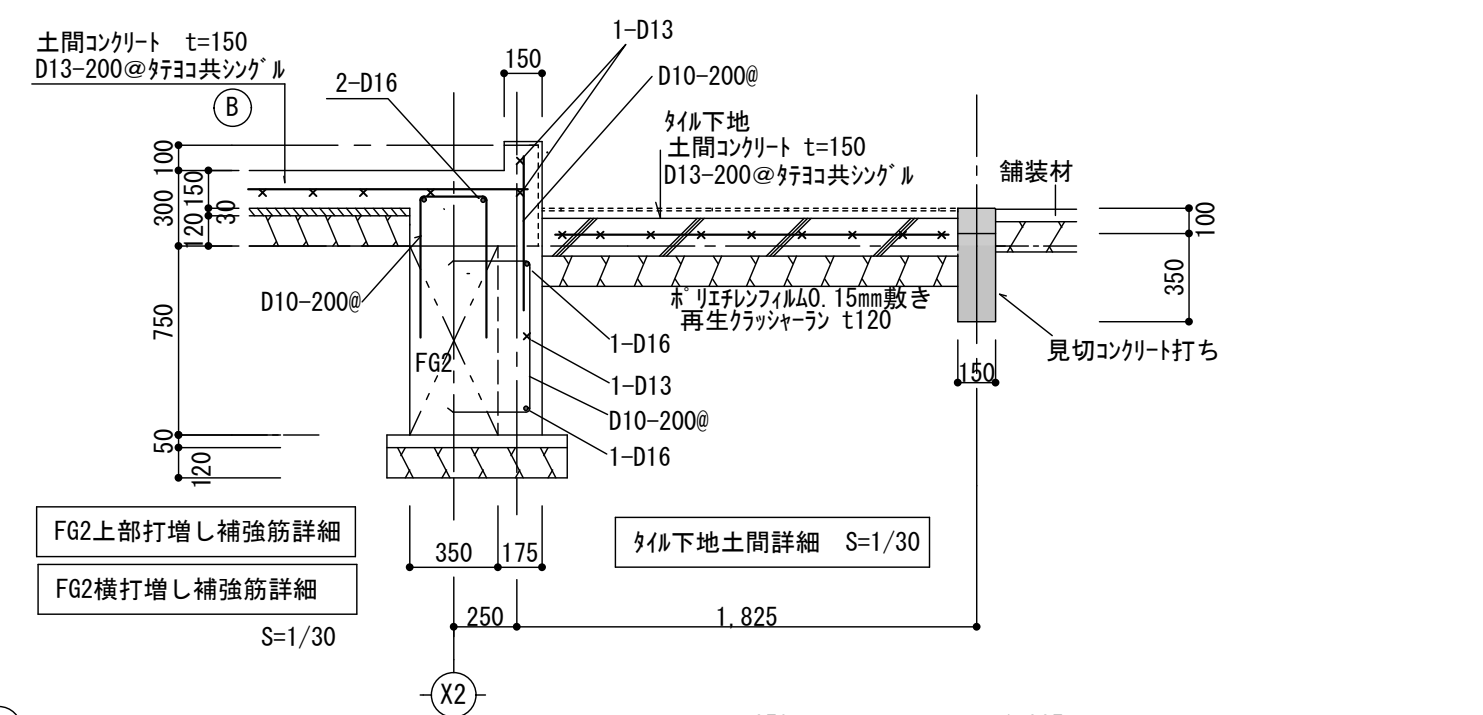
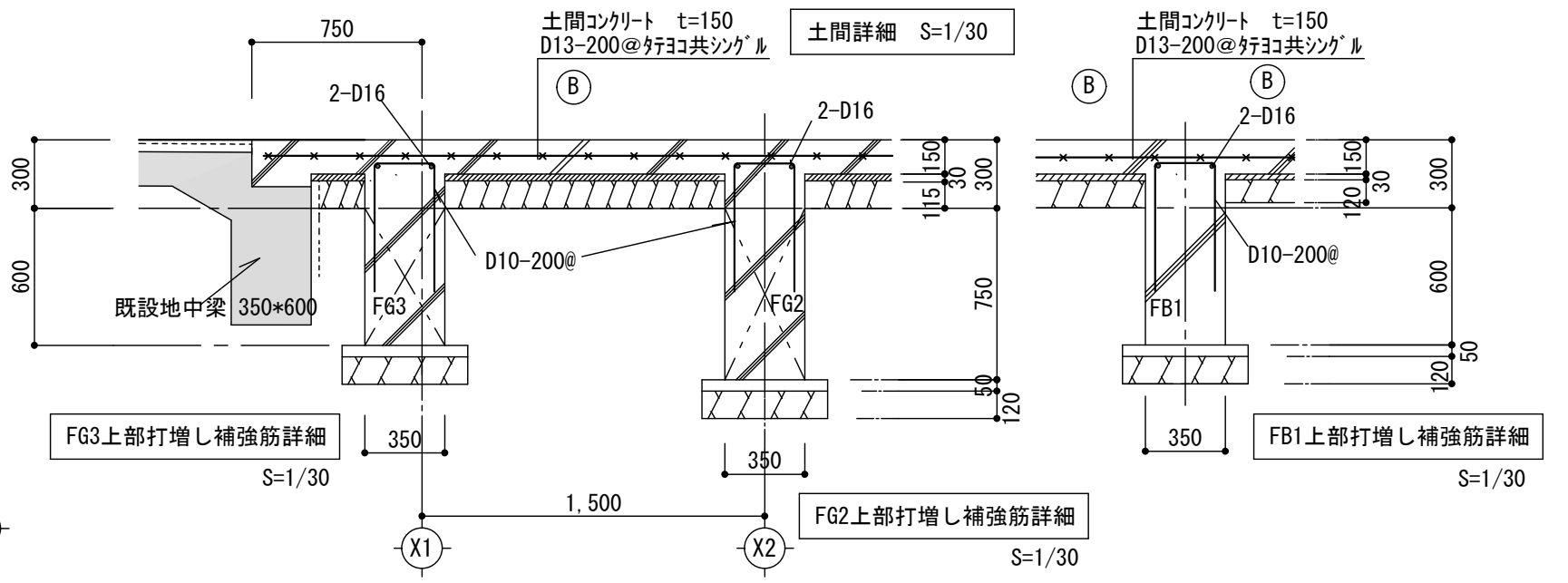
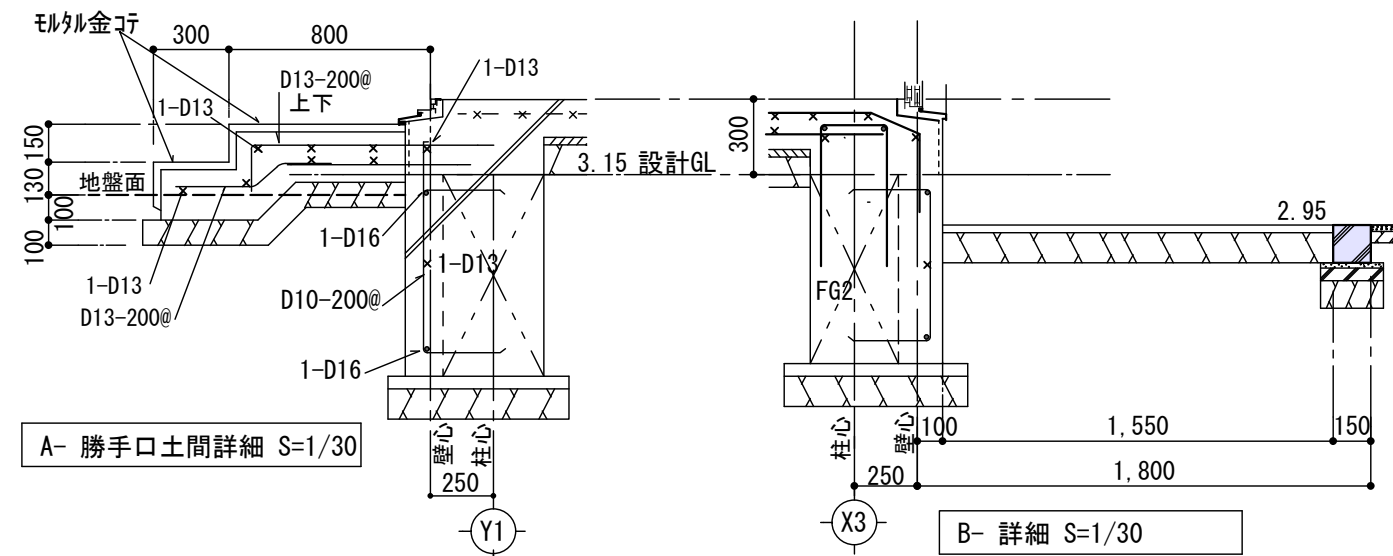
鉄 筋	
・ D10~D16	SD295
・ D19以上	SD345

■地盤の許容応力度

設計地耐力 (地盤改良後)	長期 200 KN/m2
---------------	--------------

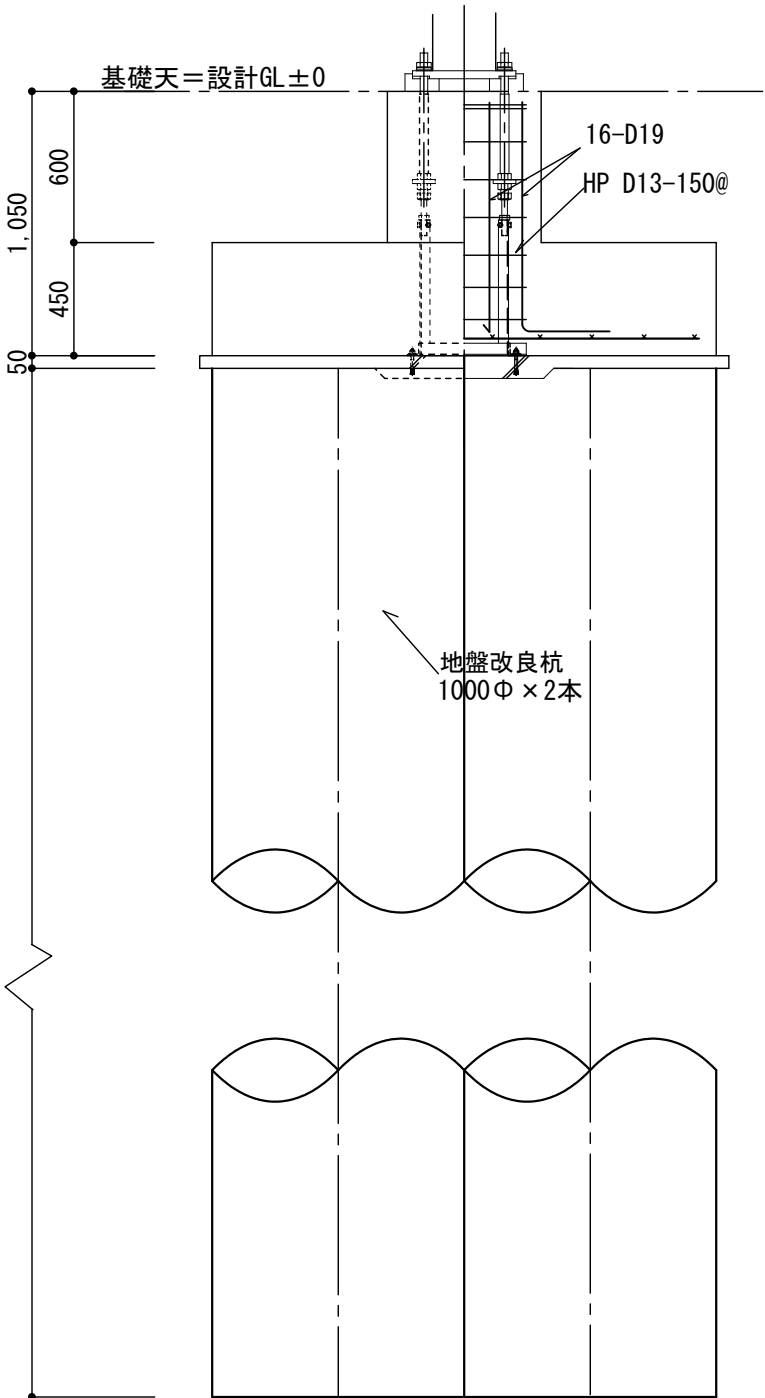
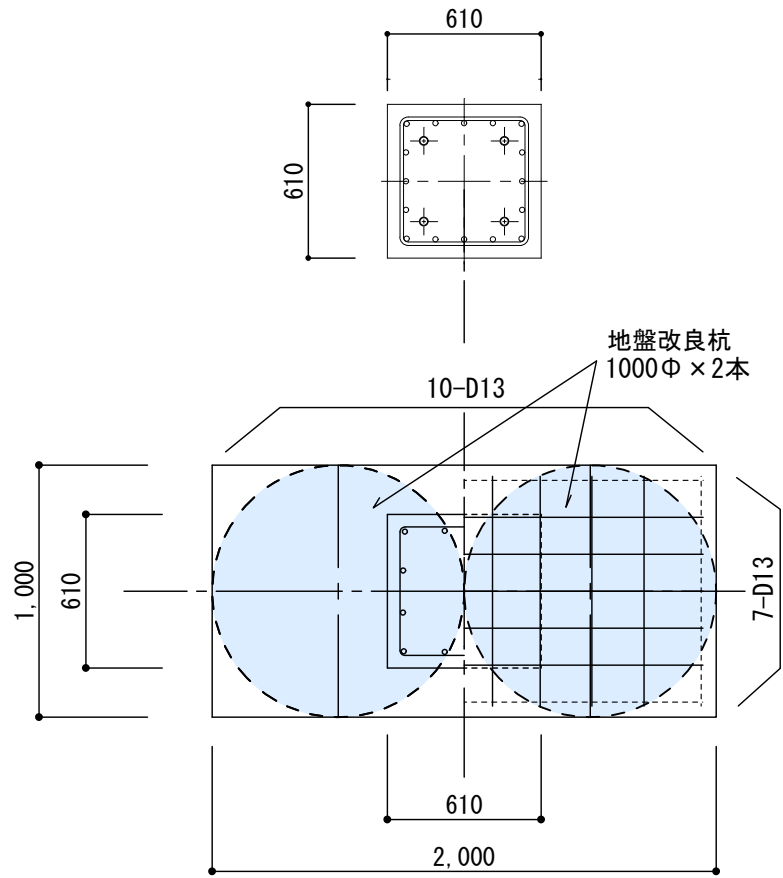


土間伏図 S=1/100

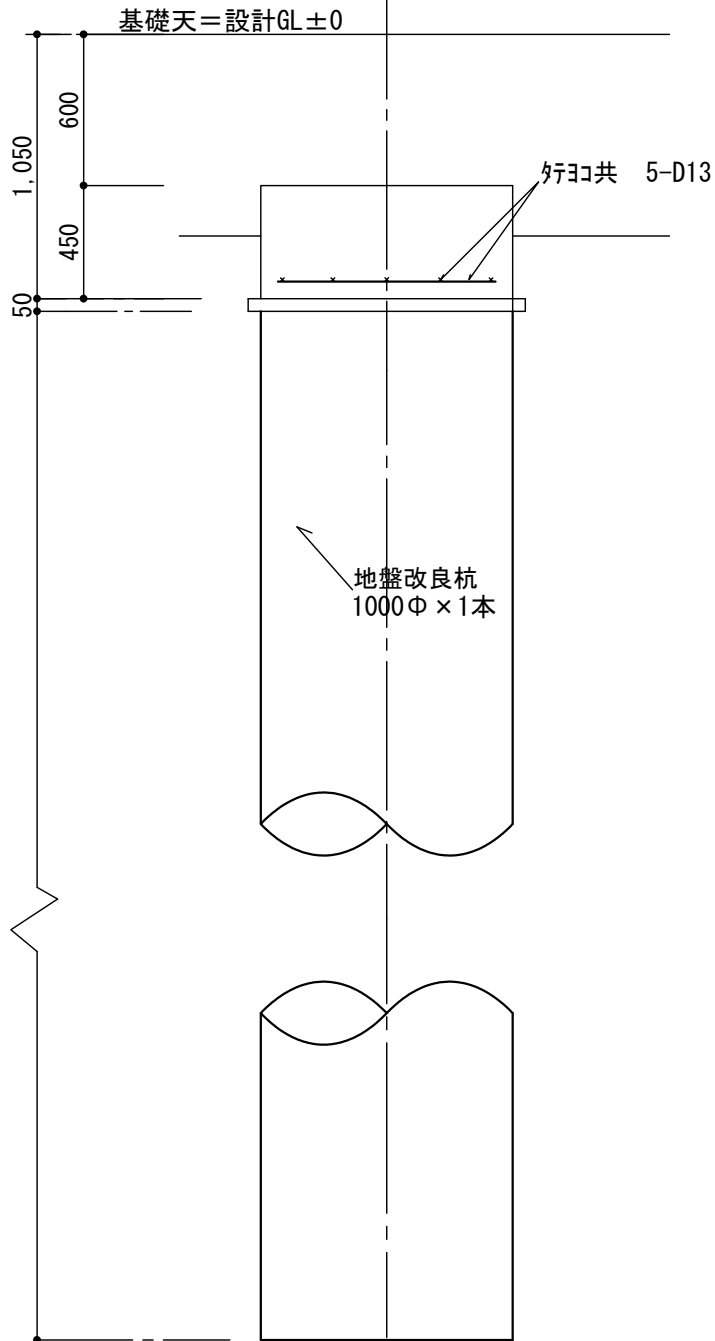
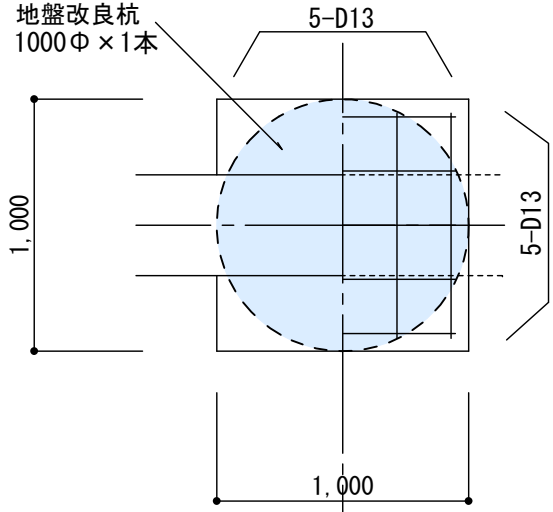


凡 例			
	土間コンクリート t=200 D13-200@タテヨコダブル		土間コンクリート t=150 D13-200@タテヨコシングル
..... 地中梁上打増し補強コンクリート (H300) を示す			
タイル下地コンクリート t=150 D13-200@タテヨコシングル			
外壁巾木 (土間上) t=150 (仕上共)			
7' ローチ見切基礎 (化粧木柱受兼用)			
外部犬走りを示す			

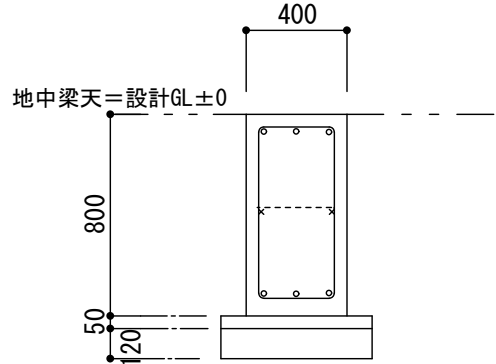
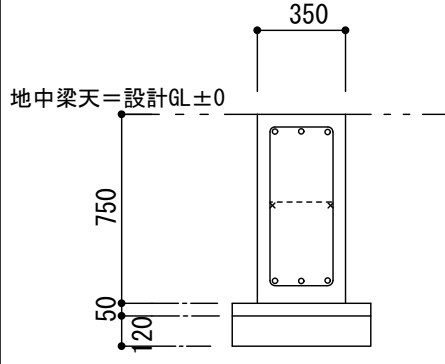
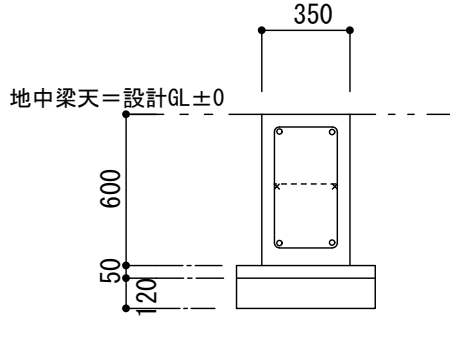
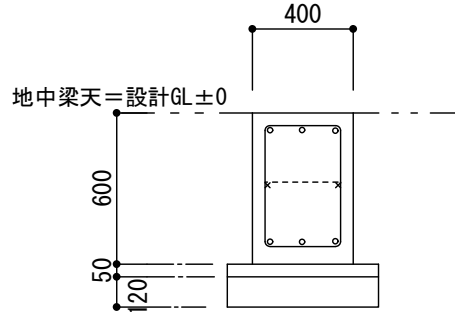
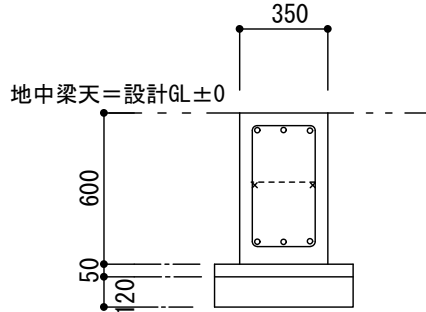
共通
※埋戻し土：購入土 (D種) 転圧
再生クワッシャー t=120 転圧
※' リフレク防湿シート敷込の上
押出法※' リフレクフォームA3種bA t30敷込

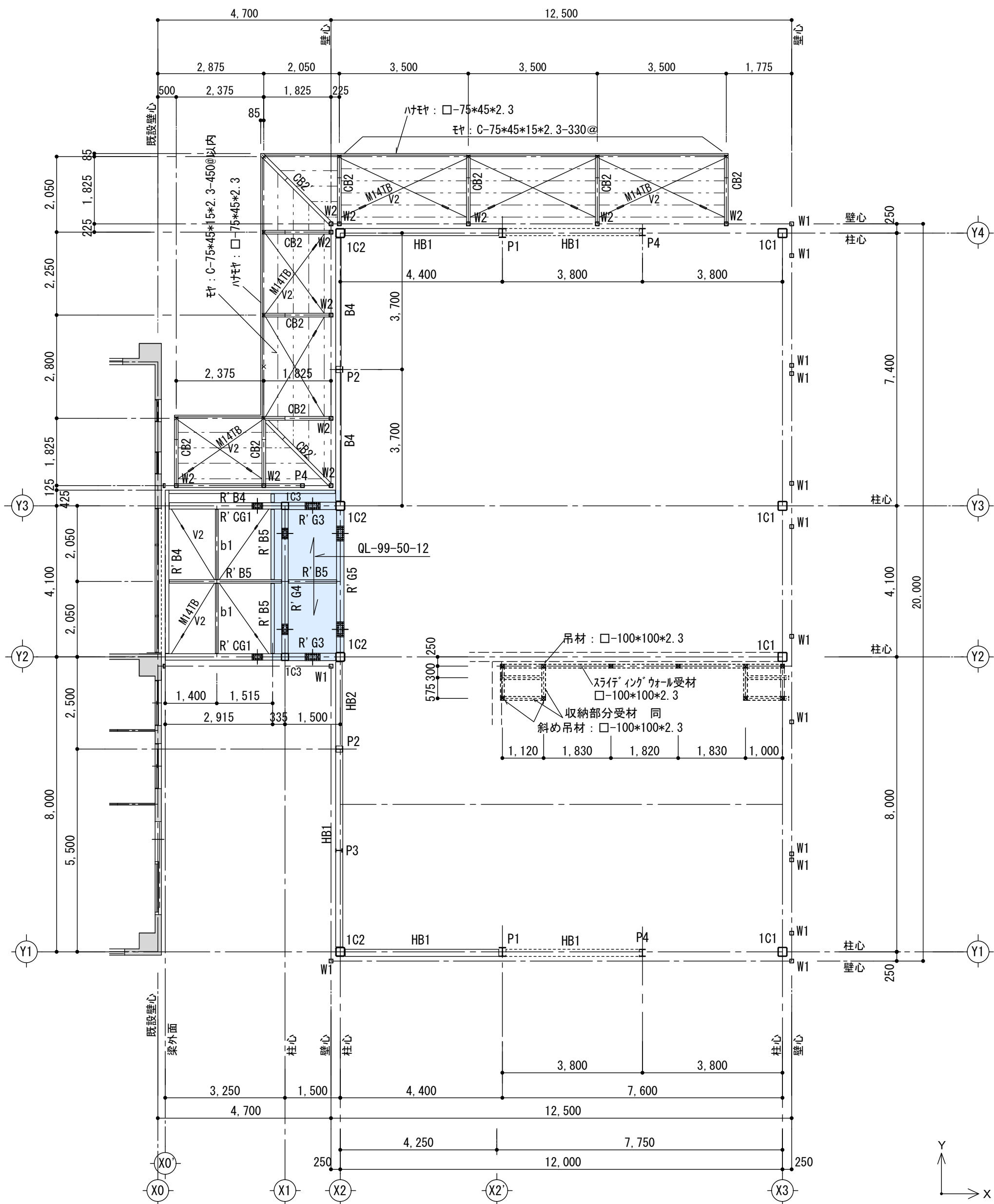


F1, F2 基礎詳細図 S=1/30

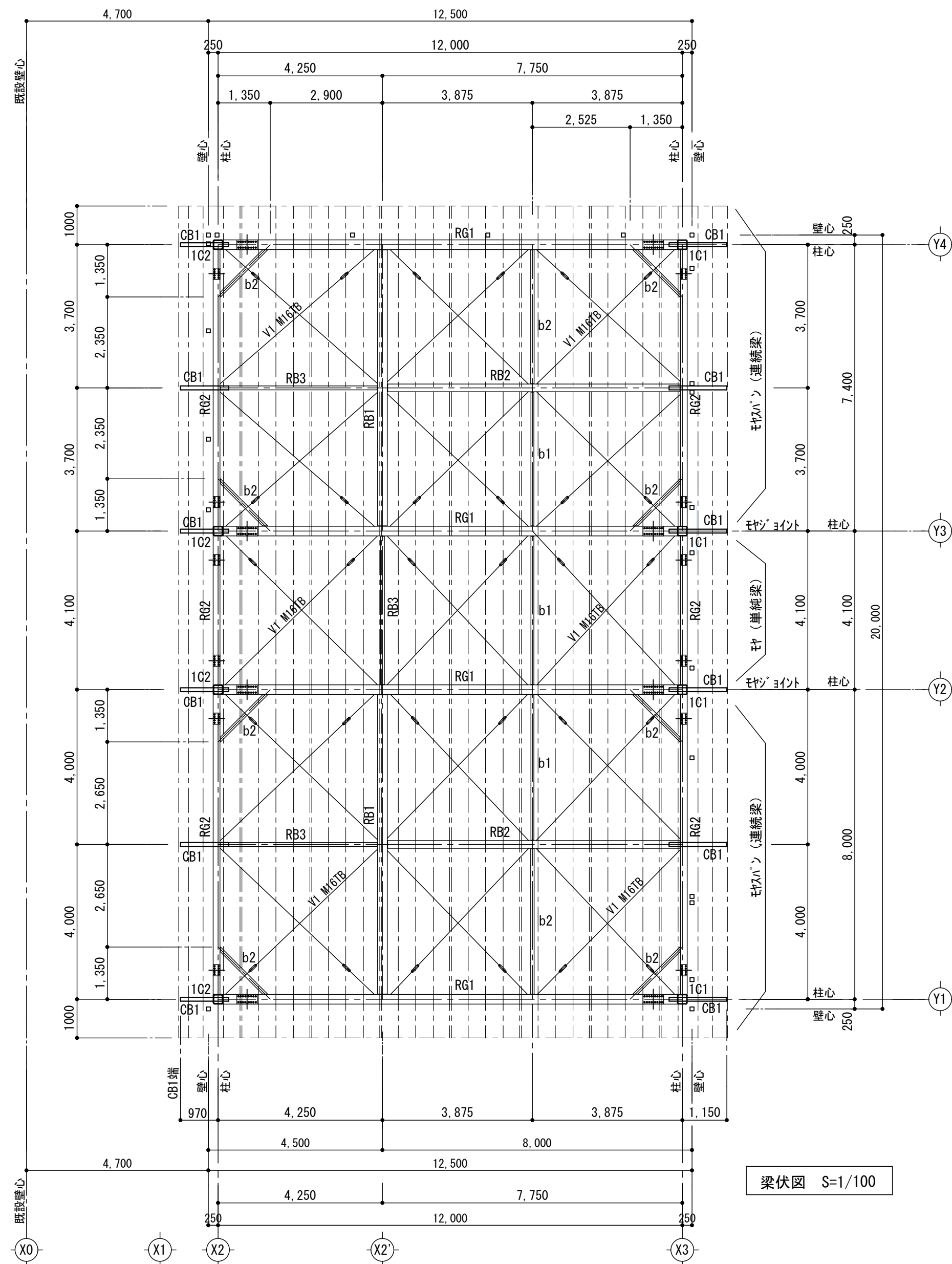


F3 基礎詳細図 S=1/30

符 号		FG1	FG2	FG3	
位 置		全域	全域	全域	
断 面					
	B × D		400 × 800	350 × 750	350 × 600
	主 筋	上端筋	3-D22	3-D22	2-D22
		下端筋	3-D22	3-D22	2-D22
スタ-ラップ		 — 2D13-@200	 — 2D10-@200	 — 2D10-@200	
腹 筋		2-D13	2-D13	2-D13	
符 号		FCG1	FB1		
位 置		全域	全域		
断 面					
	B × D		400 × 600	350 × 600	
	主 筋	上端筋	3-D22	3-D19	
		下端筋	3-D22	3-D19	
スタ-ラップ		 — 2D13-@150	 — 2D10-@200		
腹 筋		2-D13	2-D13		

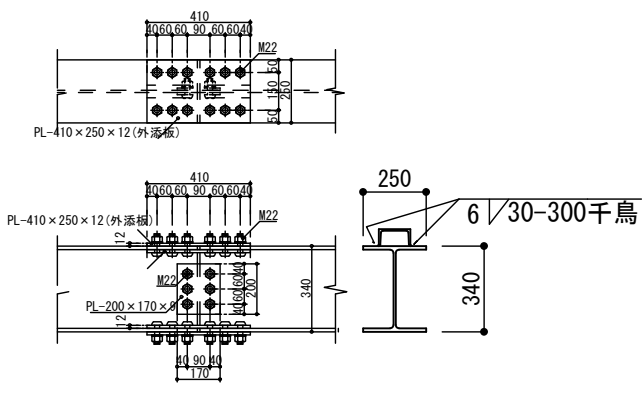
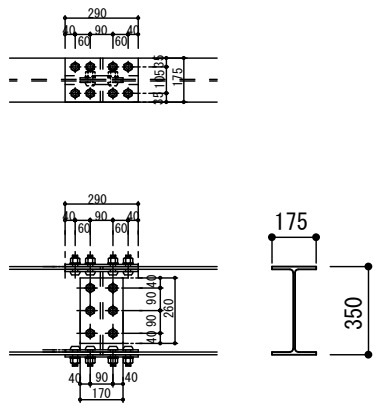
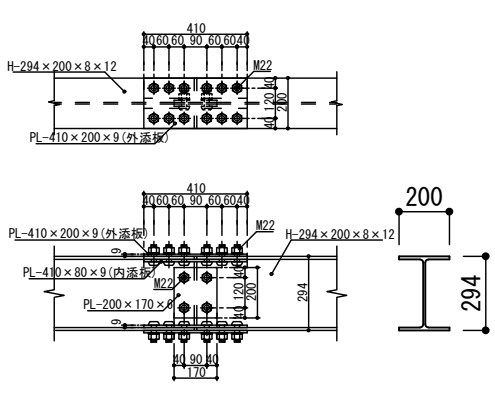
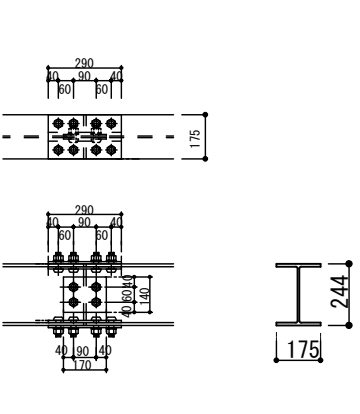
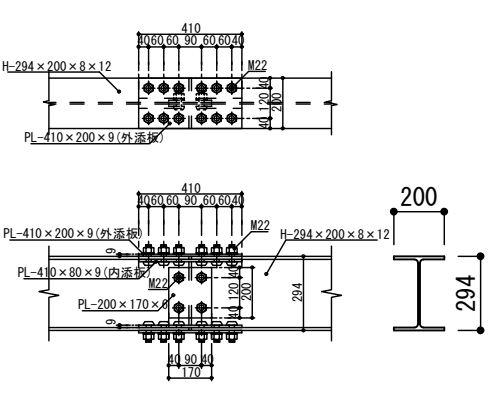
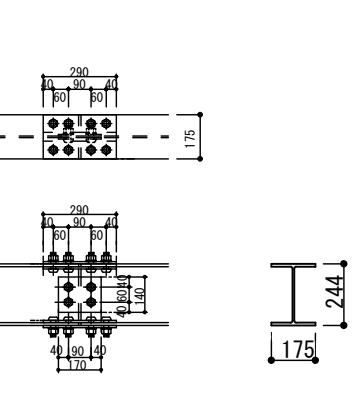
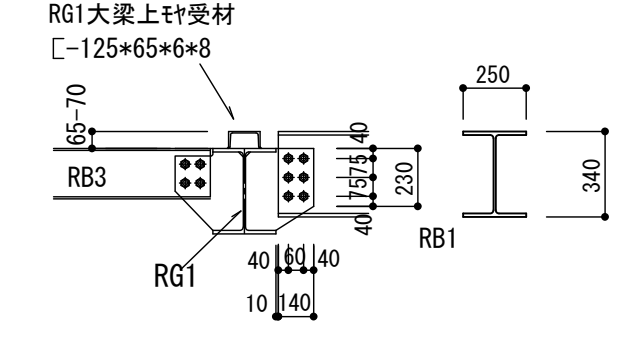
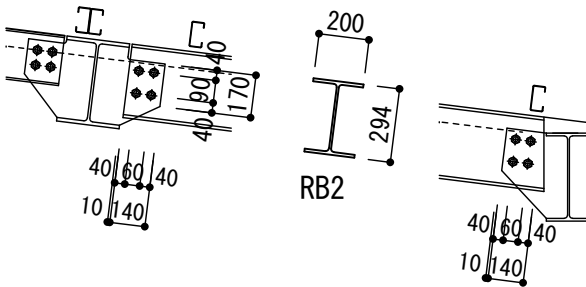
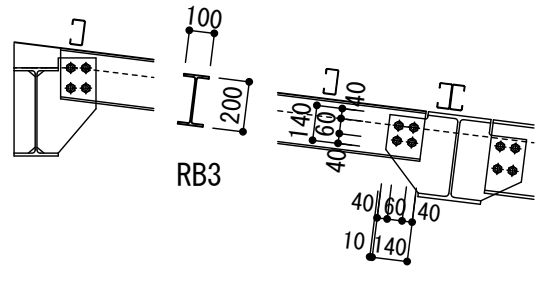
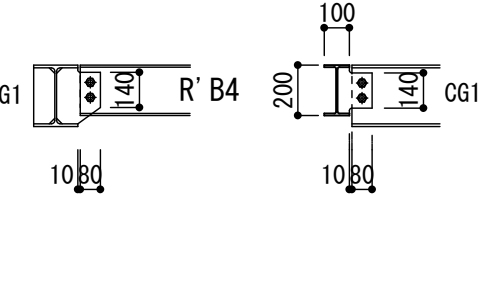
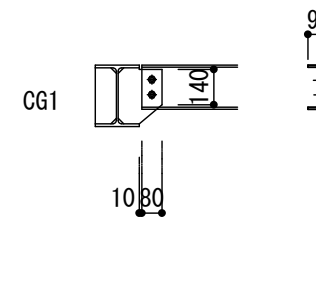
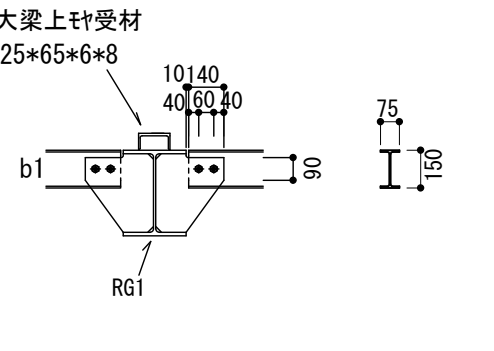
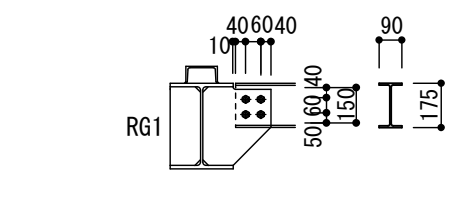
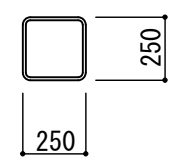
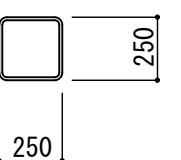
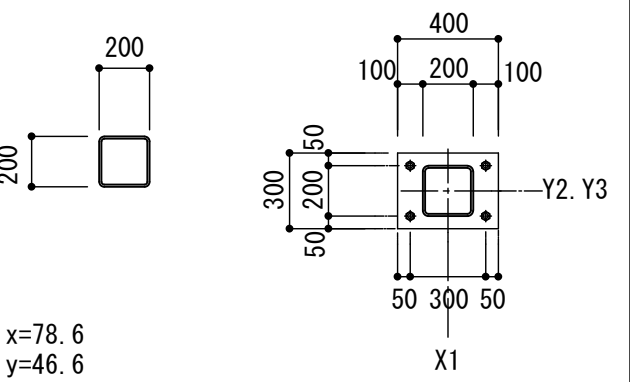
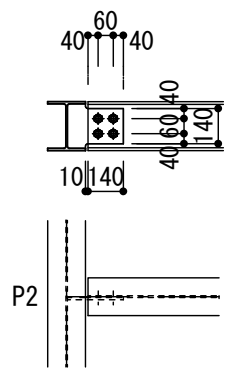
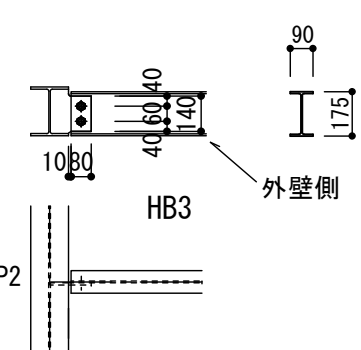


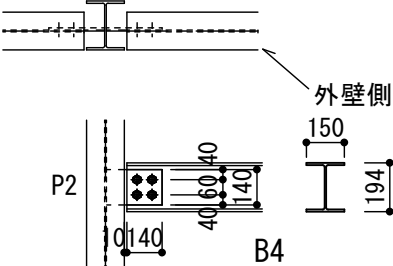
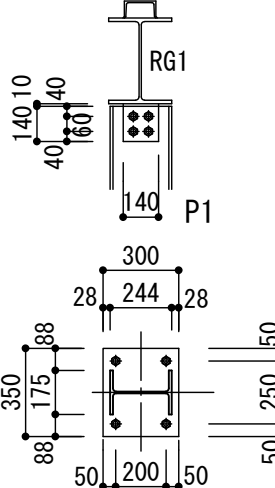
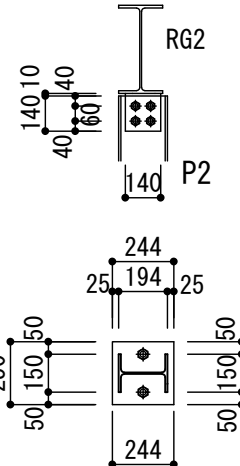
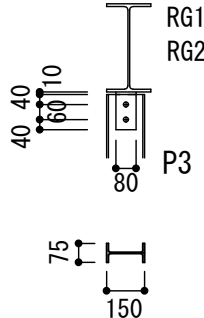
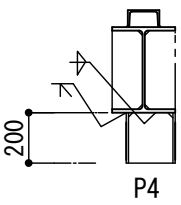
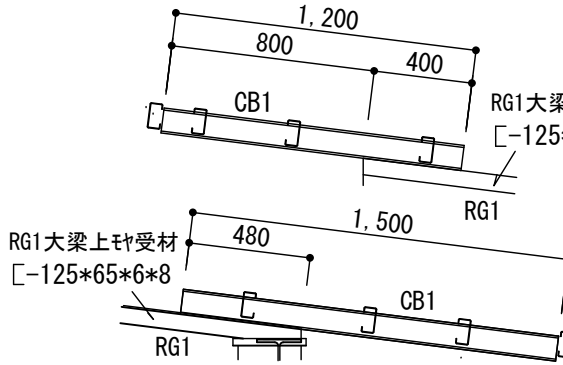
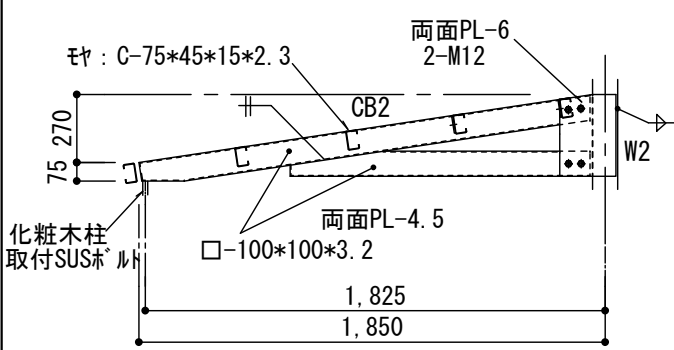
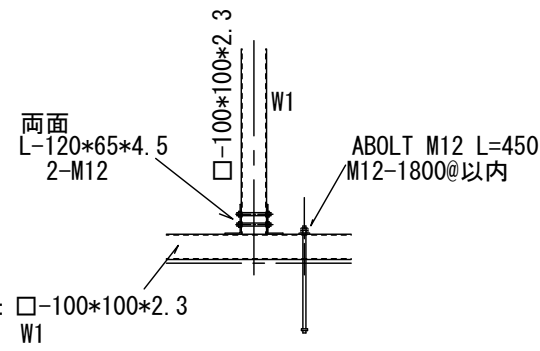
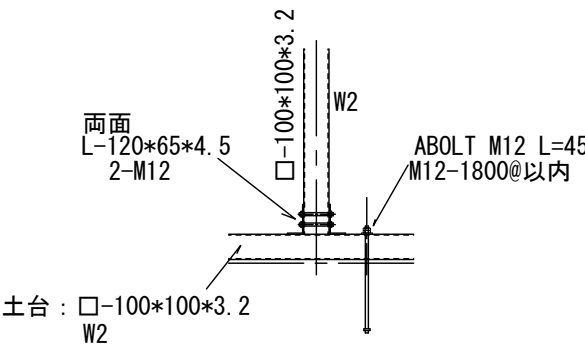
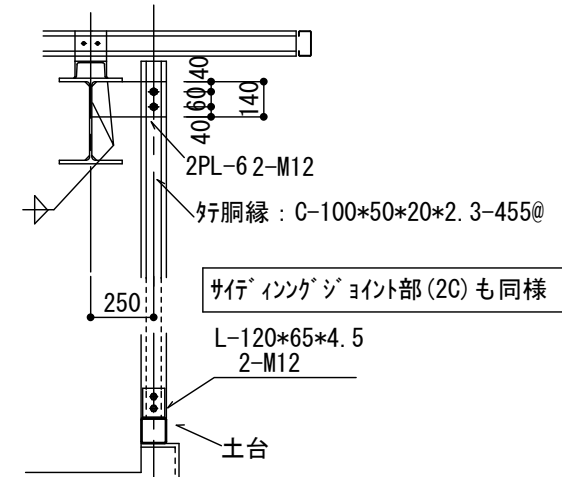
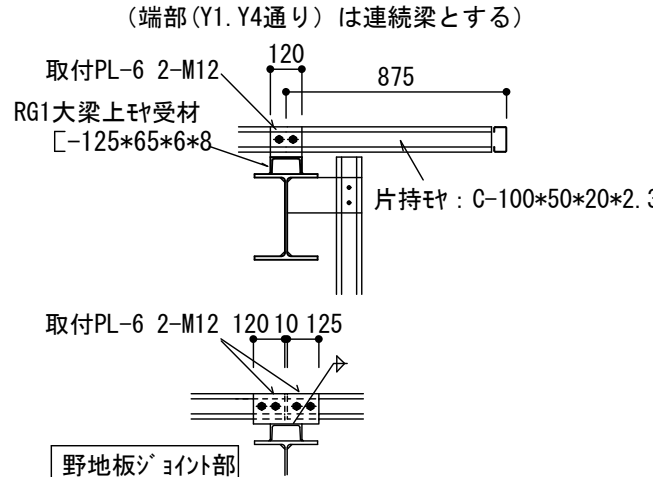
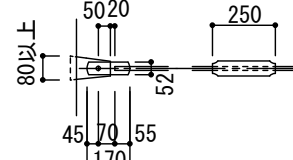
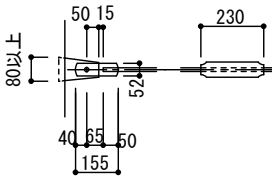
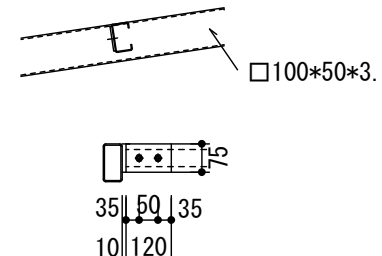
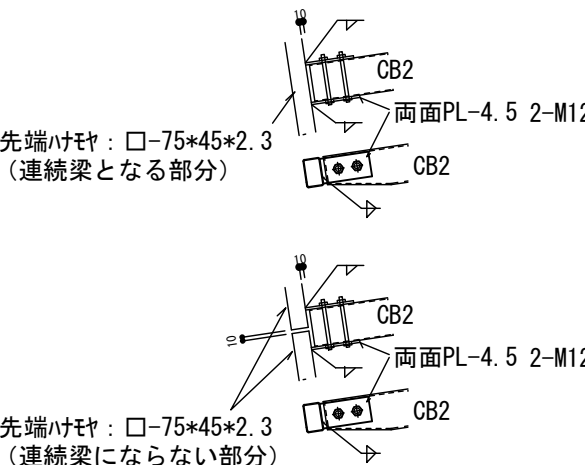
BPL+3250梁伏図、77°φ-7屋根根梁伏図 S=1/100



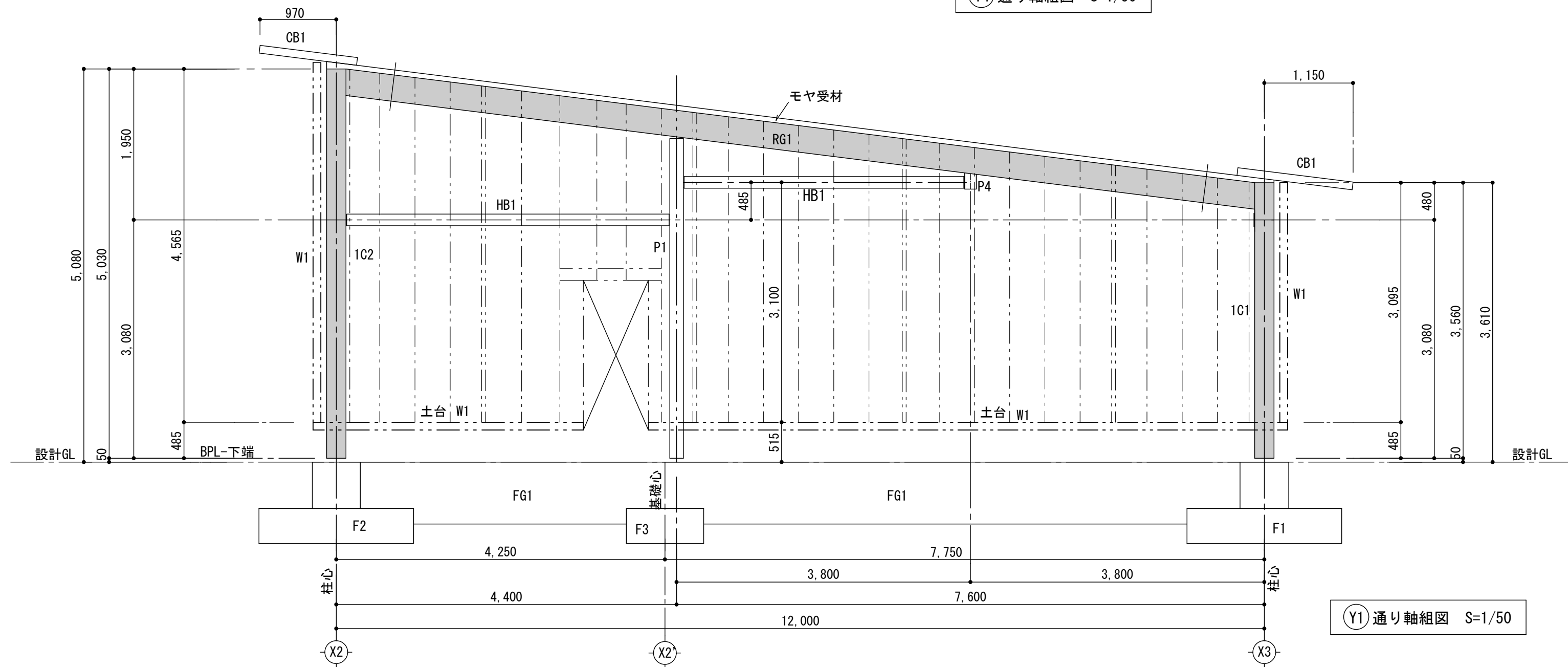
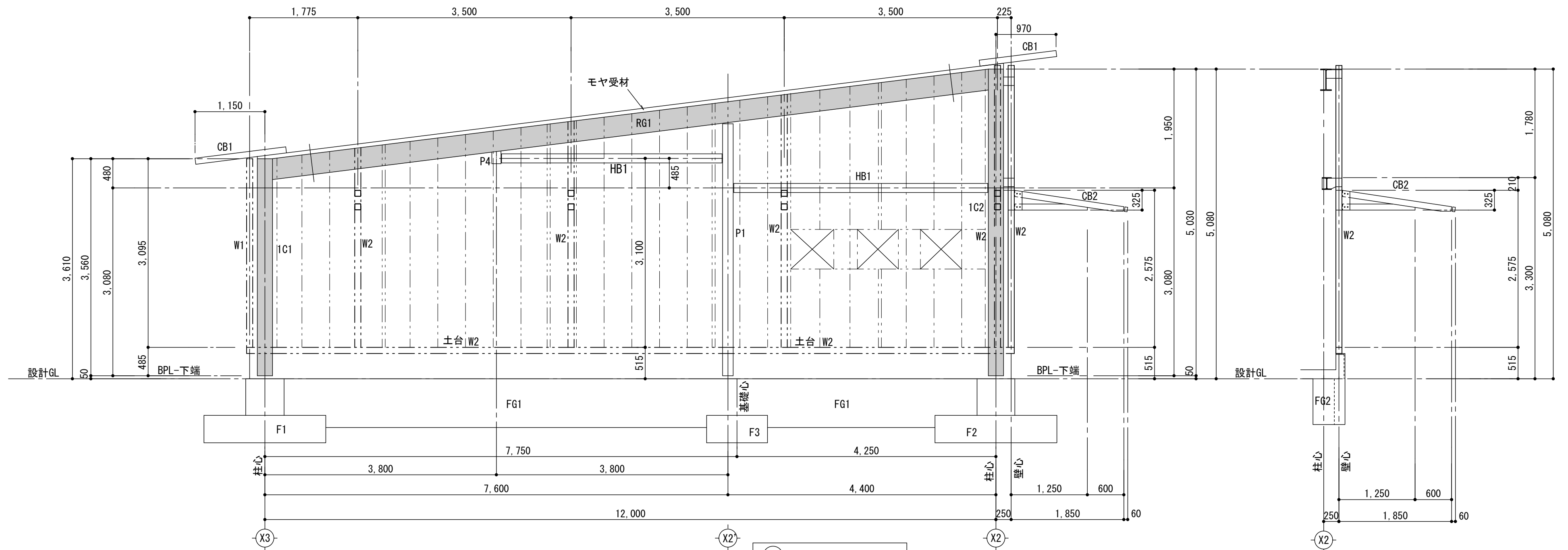
梁伏図 S=1/100

※特記なき限り大梁継ぎ手位置は柱心より750とする

RG1	RG2	R' G3	R' G4	R' G5	R' CG1
H-340×250×9×14 モヤ受材 : [-125*65*6*8	H-350*175*7*11	H-294*200*8*12	H-244*175*7*11	H-294*200*8*12	H-244*175*7*11
					
フランジ 2PL-12*250*410 4PL-12*100*410	ウェブ 2PL-9*170*200	フランジ 2PL-9*200*410 4PL-9* 80*410	フランジ 2PL-9*175*290 4PL-9* 70*290	フランジ 2PL-9*200*410 4PL-9* 80*410	1C3に溶接 フランジ 2PL-9*175*290 4PL-9* 70*290
HTB 24-M22	HTB 6-M22	HTB 16-M20	HTB 6-M20	HTB 16-M20	HTB 4-M20
RB1	RB2	RB3	R' B4	R' B5	b1
H-340×250×9×14	H-294*200*8*12	H-200*100*5. 5*8	H-200*100*5. 5*8	H-175*90*5*8	H-150*75*5*7
					
ウェブ PL-12	ウェブ PL-12	ウェブ PL-12	PL-9	PL-9	PL-12
HTB 6-M20	HTB 4-M20	HTB 4-M20	HTB 2-M20	HTB 2-M20	2-M20
b2	1C1	1C2	1C3	HB1	HB2
H-175*90*5*8	□-250*250*12	□-250*250*16	□-200*200*9	H-194*150*6*9（横使い）	H-175*90*5*8（横使い）
					
ウェブ PL-12	BCR295 柱脚ハイベ-ス材 EB250-4-30	BCR295 柱脚ハイベ-ス材 EB250-4-30	BCR295	ウェブ PL-9	ウェブ PL-9
HTB 4-M20			柱脚 BPL-30*400*300 (SN400B) 2重ナット フック付 ABOLT 4-M20 ABR400 (SNR400B) L=500 平座金は溶接止めとする	HTB 4-M20	HTB 2-M20

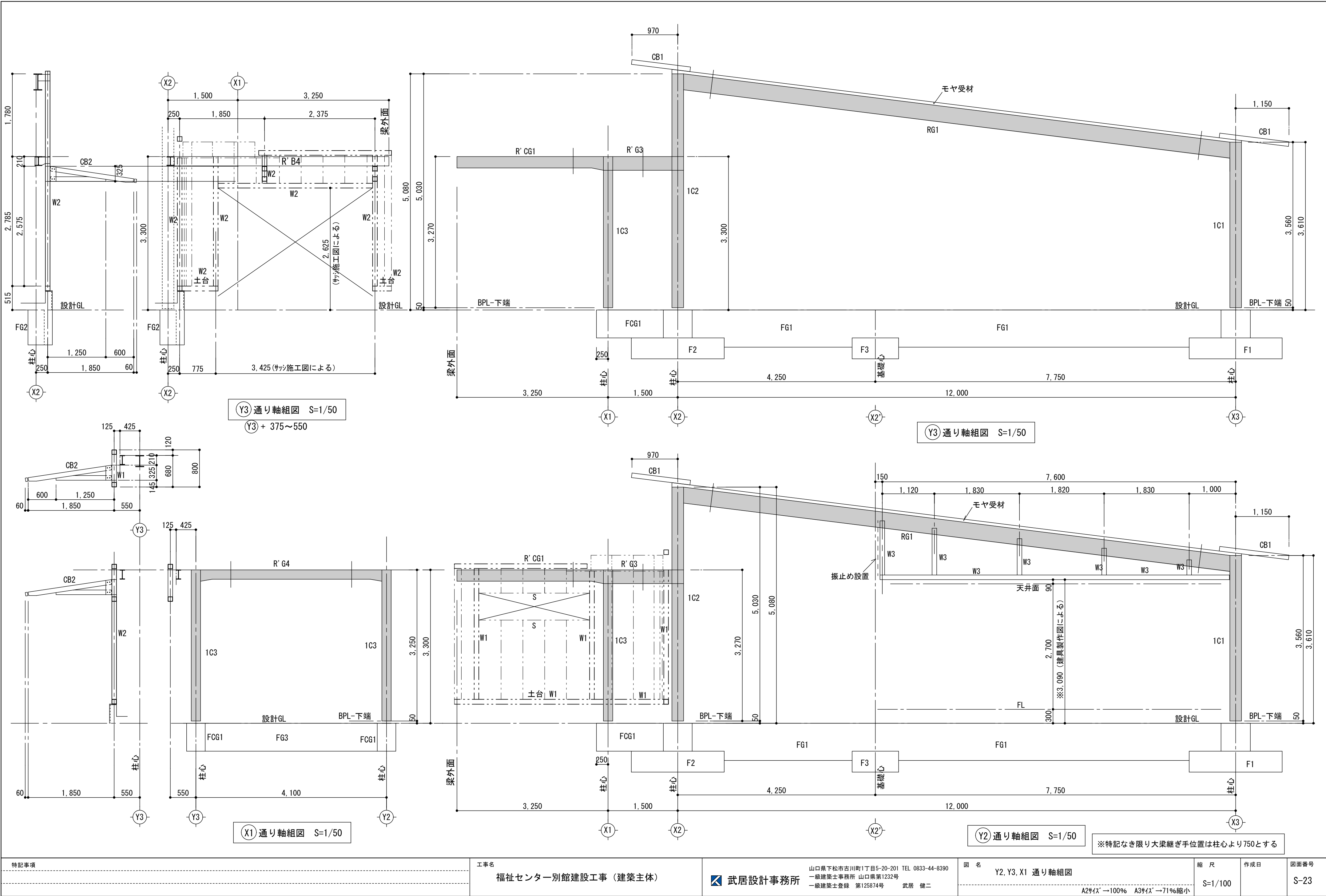
B4		P1		P2		P3		P4		CB1	
H-194*150*6*9		H-244*175*7*11		H-194*150*6*9		H-150*75*5*7		H-194*150*6*9（吊間柱）		H-100*100*6*8	
											
ウェブ PL-9		ウェブ PL-9		ウェブ PL-9		ウェブ PL-9		溶接接合		溶接（溶接長は詳細図による）	
HTB 4-M20		HTB 4-M20		HTB 4-M20		HTB 2-M16					
CB2		W1 土台 W1		W2 土台 W2		桁胴縁		モヤ		V1 水平ブレース	
□-100*100*3.2		□-100*100*2.3		□-100*100*3.2		C-100*50*20*2.3-455@ Y2 上下 通り開口枠 S:C-100*50*20*3.2		C-100*50*20*2.3-455@		M16ターンバックル締め（SNR400B）	
											
詳細図による		L-120*65*4.5 中ボルト2-M12		L-120*65*4.5 中ボルト2-M12		上部 取付PL-6 中ボルト2-M12 下部 L-120*65*4.5 2-M12		取付PL-6 中ボルト2-M12		GPL-6（溶接長80以上） 羽子板 PL-6（SN400B）JIS規格品	
										HTB 1-M16 ターンバックル締め フルブレース（JIS A 5540）同等品	
V2 77°ローチ屋根水平ブレース M14ターンバックル締め（SNR400B）		77°ローチ屋根モヤ C-75*45*5*2.3-455@ C-75*45*5*2.3-330@（CB2スパン3.5m間）		77°ローチ屋根ハナモヤ □-75*45*2.3				名 称		仕 様	
		S=1/20		S=1/20				Q L デッキ		QL-99-50-12（Q L デッキ仕様書による）	
								柱 脚		ハイベース材 103は露出型柱脚	
								サビ止め		JIS K5674 （耐火被覆面もサビ止めを行う）	
								H T B		S10T（認定品）	
								H 形 鋼		SS400	
								溝 形 鋼		SS400	
								軽 量 形 鋼		SSC400	
								角 形 鋼 管 （ 柱 ）		BCR295（認定品）	
								角 ハ イ		STKR400	
								タイフラム		SN490C	
GPL-6（溶接長80以上） 羽子板 PL-6（SN400B）JIS規格品		PL-4.5 中ボルト2-M12		両面 PL-4.5 中ボルト2-M12				鋼 板		SS400	
HTB 1-M16 ターンバックル締め フルブレース（JIS A 5540）同等品											

特記事項		工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）		武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二		図 名 部材リスト.2		縮 尺 S=1/30 S=1/20		作成日		図面番号 S-21	
						A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小							

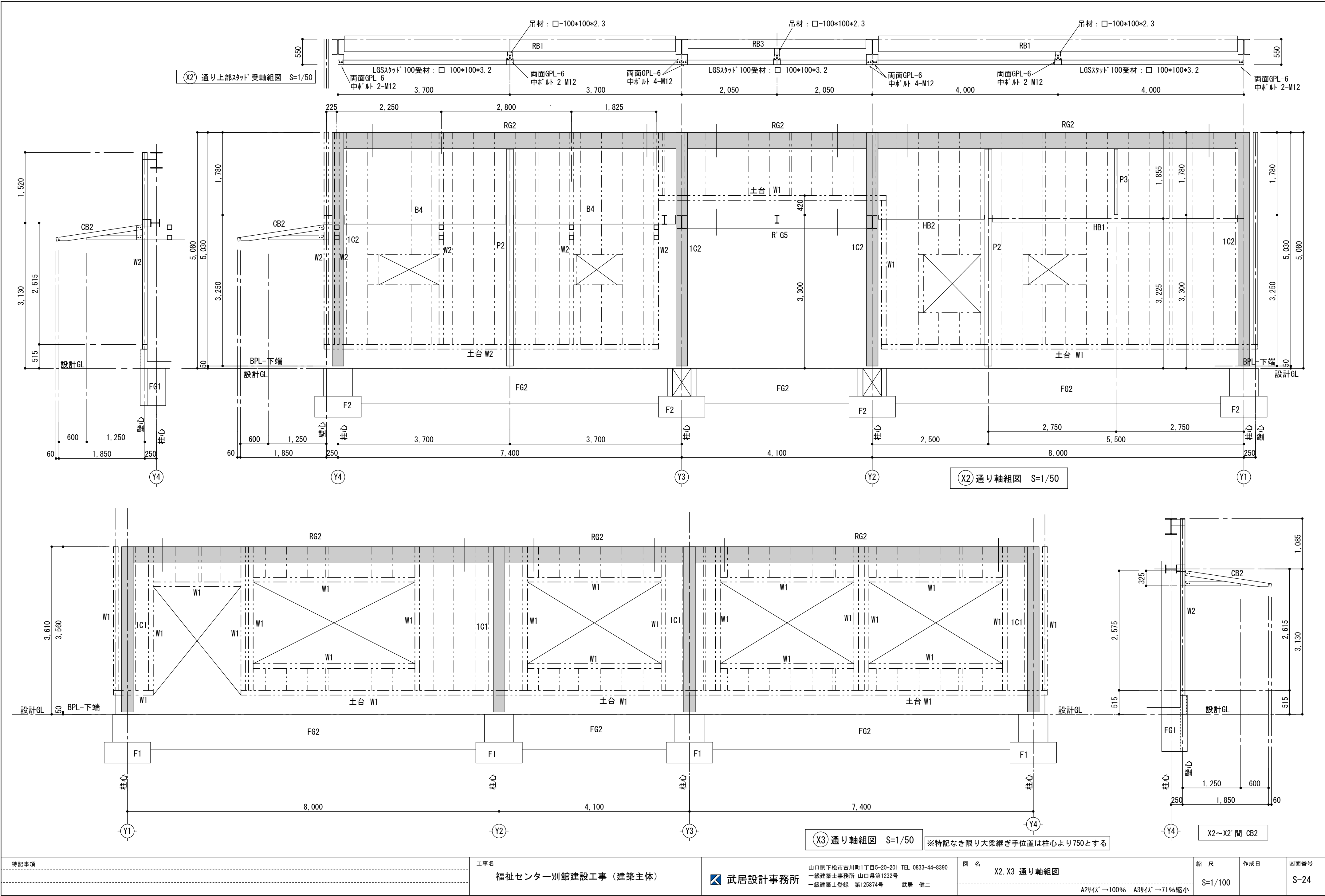


※特記なき限り大梁継ぎ手位置は柱心より750とする

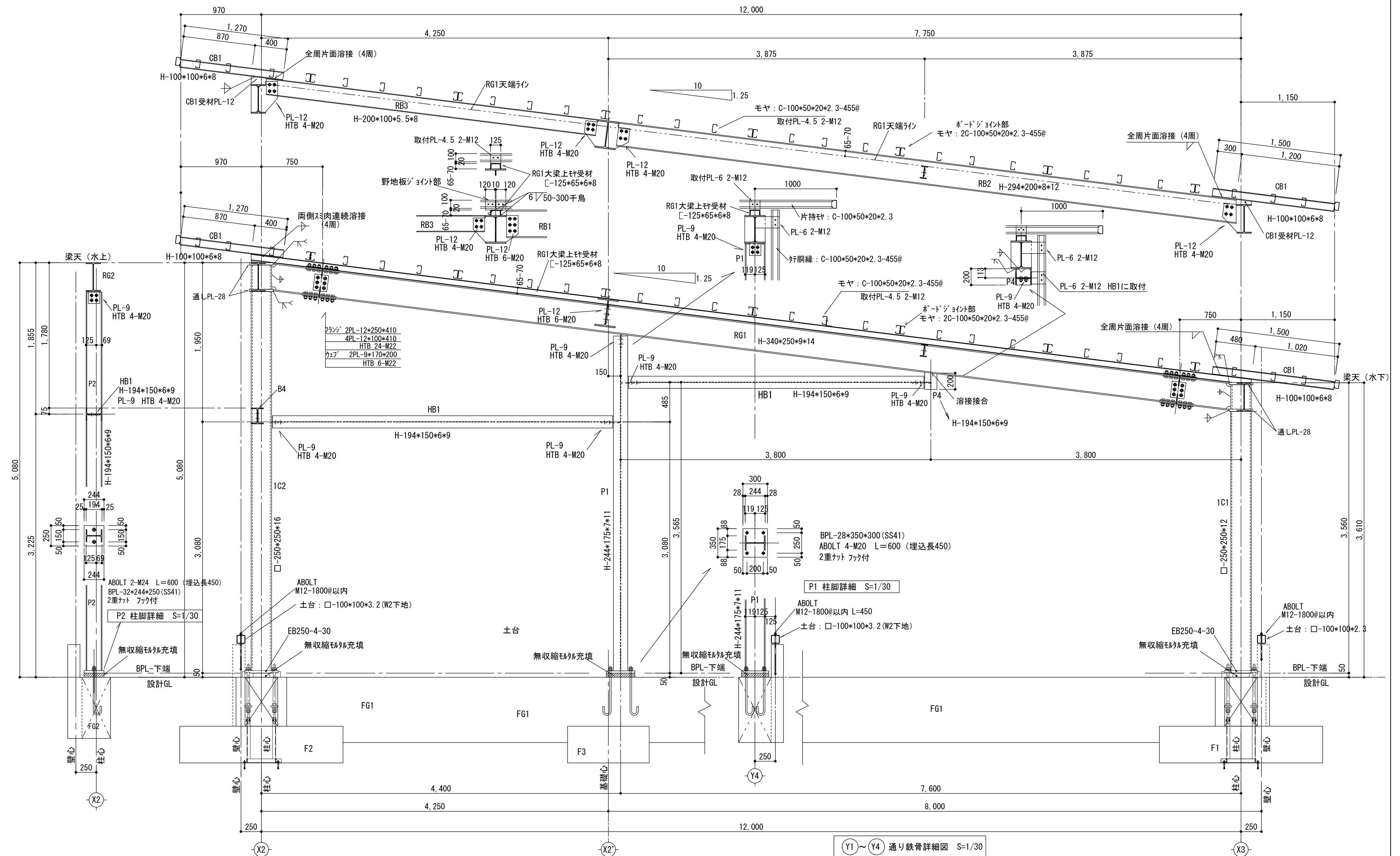
特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 Y1, Y4通り軸組図	縮尺 S=1/100	作成日	図面番号 S-22
				A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小		



特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 Y2, Y3, X1 通り軸組図 A2サイズ→100% A3サイズ→71%縮小	縮尺 S=1/100	作成日	図面番号 S-23
------	---------------------------	--	--	---------------	-----	--------------



特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図名 X2, X3 通り軸組図	縮尺 S=1/100	作成日	図面番号 S-24
-----------------	--	---	---------------------------------------	----------------------------------	----------------	---------------------------------



特記事項	工事名 福祉センター別館建設工事（建築主体）	 武居設計事務所 山口県下松市古川町1丁目5-20-201 TEL 0833-44-8390 一級建築士事務所 山口県第1232号 一級建築士登録 第125874号 武居 健二	図 名 Y1～Y4 通り鉄骨詳図 A2#1X' →100% A3#1X' →71%縮小	縮 尺 S=1/30	作成日	図面番号 S-25
------	---------------------------	---	---	---------------	-----	--------------

